

門迄持參、外題申入候、則出來、祝着々々、次詩歌三枚、申入候了、○西專庵へ罷向一盃候了、

十一日、天晴、戊子、○自老母方白瓜十、な送給了、祝着々々、○從中御門不苦之間可來之由被申候間、罷向暫雜談、干飯瓜等賞翫候了、○西專庵へ罷候、弟子小喝食始て來とて、一盃候了、

十二日、天晴、己丑、○亡父忌日之間、本誓寺之僧統全來時、予相伴候了、老母も爲燒香來候了、終日此方之事也、○暮々誓願寺へ參詣候了、

十三日、天晴、庚寅、○今日外祖母月忌初之間、僧阿彌陀無齋時也、予相伴候了、今日も老母此方之事也、○薄妻未之阿茶、方よりこくり、瓜十送、祝着々々、○暮々誓願寺へ參詣候了、中御門同道、歸路中御門にて瓜にて一盃候了、阿彌陀光云々、夜半時分歸宅、○勸修寺訪に來儀候了、

十四日、天晴、辛卯、○老母今日も此方之事也、○東坊城予直垂昨日借用、今日被返候了、○暮々誓願寺へ參詣候了、

願寺へ參詣候了、○去十五日、河内飯守山之城へ取懸候三好遠江守以下、三千許打死、云々、一族悉蜂起故也、云々、

十八日、天晴、乙未、○予腰刀誂宗春、三千疋質物に置候了、三月限也、利平五文子也、云々、○外祖母五七日之間、佛陀寺之僧壽算招請、無菜之時相伴候了、同老母來候了、○暮々誓願寺へ參詣候了、○今朝早旦大澤長門守使にて、外祖母經下へ送遣候了、

十九日、天晴、丙申、○山井安藝守來て暫雜談、同盛秋來、○勸修寺頭辨へ除服之事申遣、則暮々宣下到來、○佛陀寺之僧良胤時に呼候了、明日安明院五七日也、明日者西專庵へ罷候間、今日招請、予相伴候了、老母來候了、○西專庵へ罷向、明日之料十疋、持向、○濃州より四條中將書狀到來、則返事遣候了、

廿日、天晴、丁酉、○今朝西專庵へ時に罷向、佛陀寺之僧壽算、良胤、安養寺之慶存等相伴候了、其外方々へ送膳共也、五十餘人之由候了、○今日初而參内、八時分參

了、○飛鳥井より瓜廿送給候了、

十五日、天晴、壬辰、○祖母安明月忌初之間、僧呼、宗清、予相伴候了、○暮々誓願寺へ參詣候了、○中御門西向老母來談、瓜を勸候了、○官務迄へ縁迄罷向、中御門、予一盃候了、

十六日、天晴、癸巳、○中御門にて楊弓張行、罷向仕候了、人數四五人也、其人數等に嘉定を被振舞候了、予素麵賞翫候了、○暮々誓願寺へ參詣、中御門同道、又飛鳥井門迄罷向、同道にて月見候、寶鏡院殿御近邊通口御使比五尼、被來候、可參之由有之、各不着袴之間雖斟酌仕候、不苦之由候間參、御門外にて一盃候了、又歸路に飛鳥井にて一盃候了、

十七日、天晴、甲午、○中御門にて楊弓卅度仕候了、○予此間之寫經校合之事、昨日佛陀寺へ申候、則出來、彼寺之僧良胤、招請、卷事誂候了、一部者三部經、來廿日爲安明院五七日也、一部者外祖母願久大師、明日五七日之爲也、觀經、阿彌陀經等也、干飯にて一盃勸候了、○暮々誓

也、先伏見殿、准后、萬里小路等へ罷向候了、禁裏にては長橋瓜給候、則御學問所之御縁へ參、暮々迄御雜談共申候了、相番頭左中辨兼秀朝、源中納言代也、○去十八日、河内國譽田城落居、云々、崑山上總介以下大死、云々、是も一族之所作也、本願寺悉皆々催也、

廿一日、天晴、戊戌、○從禁裏予源氏物語本十帖餘、可見參之由文有之、從桐壺至蓬生十六帖進上候了、御新調之間、本之樣體可有御覽料歟、○藏人修理權亮所へ罷向、瓜賞翫、持明院へ禮に罷、留守之間申置候了、攝取院へ罷候、一盃候了、○晚天持明院にて鞠一足候了、亭主、予、藏人、壽琳等也、四辻少將遅く來候間、此方へ同道雜談候了、干飯勸候了、

廿二日、天晴、己亥、○田中孫三郎來、○晚天飛鳥井へ罷向暫雜談、夜入歸宅候了、○去廿日、和泉堺於南庄、三好筑前守初而一類悉生害、云々、八十餘人、云々、一所に廿八人自害、云々、其外武家奉公之輩廿四人、云々、細川六郎沙汰也、本願寺合力にて、一族廿一萬騎起て賣、

言繼卿記五 天文元年六月

云々、言語道斷儀也、丹波國波多野、昨今之間悉沒落、云々、天下皆一族間候也、愁歎々々、○粟津公事錢五十疋出、去月分也、

廿三日、庚子、○西三條へ久敷不罷向之間早々罷、逍遙院見參候了、從伏見殿昨日可參之由被仰下之時分不參之間、そと參候、○青門御出京之由候間參候了、伏見之般舟院之僧幸違路次にて對顔、青門へ可參之由申候間、御在京之由申聞、然者可參之間、申次事頼入由申候間、又參候、御扇持參、御對面御盃被下候了、○從禁裏源氏之殘可進上之由被仰下候間、至若菜十九帖進上候了、今明日之間隙次第參候て、可書之由被仰下之間、則參内、於外様番所頭辨、發合、予常夏書之、五帖、書了瓜被下、晚飯候了、○歸路藤三位亭へ罷向、暫はなし候了、○夜入納涼之便、東坊城へ罷向、月待之由候間、夜半過迄はなし候了、一盃候了、

廿四日、辛丑、○源氏殘十九冊禁裏へ進上、以上一部、十五帖、○伏見殿へ參、伊治宿禰蘇合圓調合仕候、見物、干

飯にて一盃候了、○青門へそと參候、○廣橋へ禮に罷候了、暮々歸宅、一盃候了、○予帷梅染、今日出來、中御門候人孫三郎作工也、

廿五日、壬寅、○今日當番、晝大内記長澤朝臣、相轉、宿者予祇候、相番源中納言、宿季遠に相轉候了、今日御法樂御連歌御當座、云々、

廿六日、癸卯、天晴、七、○伏見殿へ祇候、雙紙書候了、其間間宿直申候了、晚飯有之、

廿七日、甲辰、天晴、八、○從禁裏參候て御雙紙可仕之由被仰間、則參内、先度之殘書寫候了、今一度にて可出來歟、今日者三條大納言、頭辨、下官三人也、瓜被出候了、晚景小汁予計也、○官務牛玉圓調合、云々、一具送、祝着々々、

廿八日、乙巳、○官務伊治宿禰、申候韻鏡序書寫、朱墨之點等出來、則遣候了、○中御門月次和歌會罷向候了、當座廿首、人數予、亭主、官務、壽命院、清筑後息才鶴丸、治部又四郎、等悦、慈善、下笠又二郎等也、予歌夏木、夏

恨、夏祝、

むら雨や茂る柳の一本より

露の玉まく風の涼しさ
とふとてもみしかき夜半のさよ衣

かへすくもうらみ侘つゝ、

夏なから夕かけ草の世ははやく

君になひかむ風や吹らん

○伊治宿禰在國門出とて此方へ來、一盃勸候了、壺持來候了、藏人、修理亮來暫雜談、同一盃候了、伯卿白地來臨、

廿九日、丙午、天晴、○大内記被申候詠歌大概注、今朝立筆、八時分出來、則持て罷向候了、藏人到、官務等一盃候了、○從伏見殿御所御使有之、明日安養院宮御百ヶ口□時に可參之由被仰下候、必々可祇候之由申候了、晚天とと祇候候了、○從大宅郷茅草上候了、○自萬里小路、今日當番いか様にも頼入之由候間、暮々參、御輪之以後參候了、御神事也、依輕服遲參、相番範久朝臣

也、予は外様に臥候了、

○七月大享祿五年

一日、丁未、○伏見殿へ御時に參、三條大納言、今出川大納言等御相伴歟、其外皆々相伴、四辻前大納言、鷲尾前中納言、五條菅中納言、源中納言、予、諸仲朝臣、長雅朝臣、片明寺堯淵法印、大納言律師、ようせつ等也、八時分退出候了、准后、若宮御方、同萬里、逍遙院等へ禮に罷向候了、四辻所へも罷候、○從飛鳥井使有之、晚天來て鞠一足可仕之由候了、八過時分四辻少將、官務同道候て罷向、御比丘尼御所々々へ被參、云々、留守也、一宮壹岐守、六角堂松坊等來候、先一足仕候了、人數予、官務、速水兵部丞、平田入道、一宮、松坊等也、暮て亭主被歸候了、鞠以後一盃候了、○御祝參候了、被參候輩帥大納言、四辻前大納言、鷲尾前中納言、源中納言、伯二位、新宰相中將、頭左中辨、兼秀朝臣、範久朝臣、予、公毅朝臣、諸仲朝臣、季遠等也、予は其間々外様に宿候了、○從大宅郷御供一膳上候了、

二日、戊申、天晴、○四辻少將方へ罷向、終日はなし候了、今夜四辻少將此方に逗留、○東坊城へそと罷候了、三日、己酉、天晴、○從禁裏七夕御樂御目六、可許進之由被仰出之間書進候、則皆々相催候了、平、萬、只、三急、五急、太急、小老、雞等也、

七夕可有御樂、可令參仕給之由被仰下候也、

七月三日

言 繼

四辻前大納言脱カ、鸛尾前中納言殿、奉、源中納言

殿、奉、但不具仔細候、涯分可御意、伯二位殿、奉、但不具之間、得構候

候、四辻少將殿、奉、藏人式部丞殿、所勞子細候間、加養生

可得御意候、

地下へ、

七夕御樂各可致參勤之由、可被相催候也、

七月三日

言 繼

山井筑前守殿

今日御目六持參、二條殿へ伯卿被參候間同道候了、○自藤三位公事五十番歌合借用間、則遣候了、

四日、庚戌、天晴、○今日式部少輔管長雅朝臣任大内記、云云、○七夕御目六、伏見殿へ持參、御重服之間不可被參之由有之、三條大納言不具之由被申候、菊亭大納言所勞之由被申候了、○從禁裏致祇候源氏可仕之由被仰候間、參候て書寫、今日常夏之卷終寫功候了、於議定所書之、出御暫御雜談申候了、○東坊城在國之間、暇乞罷向候了、○七夕可詠進之由、從伏見殿御廻文、題寄月祝七夕、

五日、辛亥、天晴、○今日安明院之盡七日也、西專庵へ時に罷候、相國寺之慶雲院、常著軒、本誓寺之統全、嚴阿彌等相伴候了、○東坊城長持朝臣、今日下向豐後國、云々、伊治宿禰も周防國へ下向、從此方罷出、一盃用意、樽代十疋、持來、素麵用意三獻候了、折節景通來相伴、行事官入道、ふくい入道是者同在國也、同相伴候了、伊治宿禰に小補歴先借遣候了、○從大宅郷之内野村、大麥但、一斗八升三合到、云々、目出々々、○今日神光院仁和寺之門下、從土州上洛、參内、予參申次、八時分參内、御加持被申候了、予今日又於議

定所御雙紙書、蘭卷筆立、出御、暫御雜談候了、夕方御膳御跡頂候了、當番之間、其間々祇候、相番源中納言許也、予服之間外様に宿候了、外様番衆三條大納言、公右朝臣兩人也、

六日、壬子、天晴、○伏見殿、中院、正親町、薄所罷向、暫は

なし候了、中御門へもそと罷候了、○藏人修理亮明日夕

所役之事申遣了、

七日、癸丑、天晴、○從二條殿御使有之、左京大夫久親朝臣、今夕可

有御參之由有之、就其黑物器可借進之由有之間、絲卷

進上、又左京大夫、予直垂之事申口口方可遣之由申候

了、○伏見殿、逍遙院等へ花所望候、何も到來、一筒禁

裏へ進上候了、佳例也、○今朝朝飯に老母來臨、相伴候

了、○從深草土器持來、數六、百敷、○從大宅郷袖數下、持來

候、佳例也、從野村茶二巾十八、袋、ひくつ二巾到、目出々々、

○今日禁裏表御懷紙、藤三位談合、織女風爲扇、

をのつから涼しくもあるか彦星の

ならず扇に秋のはつかせ

伏見殿詠進同談合、寄月祝七夕、
いくめぐりかはらぬ月の光にも

たのめかをきし星合の空

中御門へ禮罷向、素麵有之、當座有之、織女契久、
いく代々の契りなるならん彦星の

行末もなを限りやはある

大澤長門守、澤路筑後入道、同右京亮、同隼人佐、同彦三郎、井上五郎右衛門等禮に來候了、河原者禮に來候了、○樂人益秋朝臣、景通、久泰、景長、景雄等禮に來、云々、皆不對面、景範依所勞不來之由申候了、嚴阿み來、田中孫三郎來、○益秋朝臣予冠指貫借用、今夕料也、種々公物被出候、左京大夫直垂取來、則遣了、○路次にて飛鳥井參會、同道候て若宮御方、伏見殿等へ參候了、又准后、逍遙院、中院、藏人等へ罷向、○暮々參内、御祝被參候輩四辻前大納言、鸛尾前中納言、萬里小路中納言、源中納言、伯二位、新宰相中將、尹豊朝臣、兼秀朝臣、予、公敏朝臣、季遠、橘以緒等也、五時分

草花色々、

心ありて露も見えけり秋草の

色をつくせる花の籬に

山中瀧音、

峯たかみ石にさはりて落瀧津

波のひ、さも山とよむまで

當座予、藤三位談合候了、卷頭初秋朝、寄玉戀、壽中衣、

秋きのぬと思ふ心や引かへて

はや涼しさの袖の朝風

袖のうへにをくてふ露のしら玉の

きえかへりつゝ思ふくるしさ

旅衣なをそしほるゝ露霜の

おきふし野へのかり枕して

次一盃候了、

廿八日、甲戌、天晴、七時分夕立、又□□□、○四過時分參内、源氏書寫候

了、青門、竹内殿、頭辨、範久朝臣等參、於小御所御基

候了、今日番頭辨、兼秀朝臣代、季遠兩人也、予其間々外様に

臥候了、

廿九日、乙亥、天晴、夕立、○今夜改元也、就其五條より太刀、

平緒、石帶、笏、雜色烏帽子被申候間、五種遣候了、○

同高辻、大帷、赤大口、笏被申候間遣了、○極カ局務

依カ衣之事申候間、於北隣させ候了、○暮々改元聽

聞に參内、先菅中納言、源中納言、新宰相中將着陣有

之、次親王宣下也有之、邦輔親王、寛欽法親王等也、上

卿三條大納言、職事頭左中辨一身也、關白御參、予、四

辻少將兩人して二度御盃參候了、冷麵等也、各盃酌候

了、○初夜過時分始、上卿帥大納言、其外三條大納言、

菅中納言、源中納言、新宰相中將着陣、上卿其間々與

座也、兼秀朝臣勘文持參、次勘文廻覽、次宰相中將讀

上、次下薦次第拜申候、次各杖カ儀也、及曉天、文元、

天文之内、叡慮次第と被申候、關白に御談合、是も同

被申候、可爲天文之由候了、次詔書、次吉書如常、畢於

常御所參御盃、天酌云々、十八鐘之時分各退出、予者

外様に臥候了、

卅日、丙子、四時分より雨下、晚天晴、○早々伏見殿親王宣下、目出度存

候由申て參候、帥大納言宣旨持參、御盃三獻參、御陪

膳仕候了、其間々終日祇候、七時分退出候了、○久敷

不罷候間、萬里小路へ罷候、右少辨暫はなし候了、○

中御門へ罷候、伊勢物語之奥書被誂候間、書寫候了、

其間々宿候てはなし候了、○今日當番也、雖然改元之

翌日、重輕服之仁加斟酌、云々、仍不參也、○五條より

五色被返候了、父子之内勘文被寫與候了、○高辻より

三色儘返給候了、○極カ局務所より昨夜之禮に人來、

云々、

○上文數葉缺ク、按、
二八月ノ記事ナリ、

十八日、甲午、中御門、○惠命院、岡侍者、治部又四郎、下笠又二

郎來、前裁之梯を皆々落被賞翫候了、茶子にて勸茶候

了、○自北隣柳原、予直垂被返候了、一蓋栗餅被送、祝

着々々、○御靈祭禮中御門にて見物、無指事、一盃候

了、

十九日、乙未、天晴、○本願寺衆山崎へ二千計にて打出、西岡

臥候了、

廿九日、乙亥、天晴、夕立、○今夜改元也、就其五條より太刀、

平緒、石帶、笏、雜色烏帽子被申候間、五種遣候了、○

同高辻、大帷、赤大口、笏被申候間遣了、○極カ局務

依カ衣之事申候間、於北隣させ候了、○暮々改元聽

聞に參内、先菅中納言、源中納言、新宰相中將着陣有

之、次親王宣下也有之、邦輔親王、寛欽法親王等也、上

卿三條大納言、職事頭左中辨一身也、關白御參、予、四

辻少將兩人して二度御盃參候了、冷麵等也、各盃酌候

了、○初夜過時分始、上卿帥大納言、其外三條大納言、

菅中納言、源中納言、新宰相中將着陣、上卿其間々與

座也、兼秀朝臣勘文持參、次勘文廻覽、次宰相中將讀

上、次下薦次第拜申候、次各杖カ儀也、及曉天、文元、

天文之内、叡慮次第と被申候、關白に御談合、是も同

被申候、可爲天文之由候了、次詔書、次吉書如常、畢於

常御所參御盃、天酌云々、十八鐘之時分各退出、予者

外様に臥候了、

衆馳向鬪、云々、依京中日蓮衆柳本方東寺迄罷向、云

云、本願寺衆又三百餘討死、殘悉方々送カ退散、云々、

雜具各拾、云々、○明日葉室之祭也、仍中御門衆男女各

被行候、俄予同道、仍御暇申、九過時分罷向候了、晚

飯候了、

廿日、丙申、天晴、七時分、○今日八時分申樂始、大夫日吉、難波

梅、春榮仕候了、雨下候間、其間々置候了、則歸宅、夜

八時分迄以外風流、各くるい候了、一興々々、

廿一日、丁酉、天晴、○今日早々可罷歸候處、各被留候間、晚

飯以後歸宅候了、○從禁裏御月次御題出候了、以下

○上文數葉缺ク、按、
十一月ノ記事ナリ、

二日、丙午、天晴、○從大宅郷御供二膳到、一膳昨日、一膳同

御はたきめ也、○伯卿來臨、晚飯用意候了、

三日、丁未、天晴、○澤路隼人佐來、明日江州へ可罷下候、就

山科之儀女房奉書之事申候間、□□申調候、明日可被

出、云々、○廣橋へ罷候て申候文出次第、云々、○從萬

里小路今日當代カ番宿計可參之由被申候間、暮々參

内、相番權大納言、兼秀朝臣、予等也、暮々三人ながら參御前、暫御雜談候了、○盛秋訴訟故就不許、不可出仕之由申候間、其間披露申候了、就其各樂所輩可出頭歟否之事、可相尋之由被仰候了、

四日、戊申、天晴、○今朝藏人修理權亮氏直、所に朝飯有之、罷向、四條父子、甘露寺、予、景範等也、予者用之事有之、難而歸候、○女房奉書漸可出之間、廣橋へ四過時分罷向、只今出候由候了、并内侍所御神樂御下行事、被仰下度之事候間、可申下之由承候間、畏候由申候、天文元十廿九仰

山しな大やけの郷なきのつししよさんさいの事につき、くはしく申され候つるを、いまたいつかたへも御下ちいたされ候はぬよし申され候つる、さては一日そう郷の事申され候、くはしく御事におはせられ候つる、ことにこれはよのさい所にこんし候はぬ御れう所の事にて候、このほど御下ちもいて候とて候ほどに、きとおほせつけられ候は、

めてたくよろこひおほしめし候はんするよし、よくくむろまちとのへ申され候へく候よし、申とて候、しほし、

頭辨とのへ

同廣橋添状有之、又神樂事御文出候、それは當月二日の日付候、不寫留候、予書狀同相添候、如此、

禁裏御料所山科七郷之内大宅郷柳辻地頭分諸散在所之事、先度申入候處に、未被出御下知之由被申候、就其方々被成御下知之上者、無相違之様預御申沙汰候者、可爲祝着候、殊重而女房奉書被出候事候、可然之様頼入存候、恐々謹言、

十月廿九日

大館伊與入道殿

又同兵庫頭方へ書狀遣候、如此、

此間者久敷不申通候、積鬱之條御床敷存候、就中先度内々申候山科七郷之内西庄之事、可然之様御入魂千萬頼々入存候外無他候、猶澤路隼人佐可申候、

諸事期面謁之時、先省略候也、恐々謹言、

十月廿九日

言 繼

大館兵庫頭殿

御神樂等之事能々申合、九過時分指下候了、○從大宅郷御供二膳上候了、三々の御はたき也、○伯卿來臨、此方に被宿候了、近日攝州西宮へ下向、云々、明日此方可門出之由被申候了、來七日、云々、

五日、己酉、天晴、夜入雨下、○今日當番源中納言に相轉仕候了、○勸修寺、中御門等誘引、伊勢與次等鶴野へ罷候了、○暮々伯卿、岡侍者、山井安藝守等被來候了、壺被持來候、一盞候了、安藝守同道、云々、伯卿此方に被宿候、○伊賀又三郎明日周防へ官務方へ罷下、云々、是又今夜此方へ門出壺持來候了、

六日、庚戌、雨下、○又三郎下とて來候間、坏出候了、書狀下候了、○中御門へそと罷候了、

七日、辛亥、天晴、○青門へ御手本唐紙五枚申入候、則刻出來畏入者也、田舎へ之用也、○伯卿より書狀有之、今日可

書狀を中御門辨方へ言傳候、又青門被遊候詩歌一枚遣候了、○伯卿明日下向之由候間、罷候て見舞候了、又景範先度之由相尋候處、事はてたる様體候間、罷向意見仕候、予に任候由申候、是も明日伯卿同道、云々、○今日外様番也、樂所之事に、朝衣にて參内、樂所之申事共御返事申候、又景範御暇之事同申入候、今日番衆源中納言一身也、予雖爲外様内々臥候了、十日、甲寅、天晴、○早々伏見殿へ參候處、此間御精進也、仍今日御精進と云にて、各祇候之間、此間々可祇候之由被仰候間逗留、三條大納言、今出川大納言、源中納言、持明院宰相、予、長雅朝臣、公範、資雄各朝飯有之、九時分退出候了、○青門、萬里小路、中院等へ罷向候了、○當番之間暮々參内、と參御前、惟房同祇候候了、相番鷺尾前中納言と予兩人也、十一日、乙卯、天晴、○早旦澤路隼人佐昨日夜入從江州上洛とて來、書狀共、大館入道書狀如此、去六日御樂事に、山科事而從此方令御返事候、隼人折返申候處、如此、

就山科七郷之儀、今度細川刑部少輔、三淵彌二郎以兩人御申候段、女房奉書被出之條々、仰之儀共候間、今以被成其御意得候、仍地下人緩急之儀、急度以御糺明被加御成敗候様、爲御意得可被申入候、次彼構堀之儀、最前以筋目普請可仕之段肝要候、依此御返事、七郷之御下知可被成之由候、猶刑部少輔、彌二郎可有啓上候、宜得御意候、恐々謹言、十一月十日、大館入道、常、興、判

廣橋殿 進覽

就山科七郷之儀、今度以兩人御申之段、女房之奉書被出之、條々仰之儀共候之間、先以被成其御意得候、仍地下人緩急之儀、急度以御糺明被加御成敗候様、爲御意得可被申入候、次構之堀之儀、最前以筋目普請可仕之段肝要候、依此御返事、七郷之御下知可被成之由候、猶大館伊與入道可有啓上候旨、可得御意候、恐惶謹言、十一月十日、細川刑部少輔、晴、廣、判

三淵彌二郎 晴 貞判

廣橋殿 進覽

猶御使可被申入候、貴札令拜見候、仍大宅郷御下知事、具令披露候、今度就七郷儀、細川刑部少輔、三淵彌二郎以兩人御申之旨候、重而只今又廣橋殿へ被仰候、委曲猶此兩人可有啓上候、私よりも可令申由候條同申入候、依此御返事則御下知可被成候之旨候、可得御意候、恐々謹言、

霜月十日

大館入道、常、興、判

山科殿 尊報

如仰此間者不申通候、非本意候處、預御札候、拜見祝着至候、仍御知行分之儀委細承候、聊以無疎略候、涯分可申入候、於様體澤路隼人佐方へ以面申候間、定可被申候、無由斷可致馳走覺悟候、猶期後信候、可得御意候、恐惶謹言、

十一月八日

大館兵庫頭、高、信、判

山科殿 參御人々御中

廣橋へ罷向此由委申候、書狀共同遣了、夕方參可申由被申候了、十二日、丙辰、天晴、晚天、七時分小雨下、○從長橋局御文有之、下姿にて可參之由候了、則朝飯已前參候、山科七郷御成敗之事、可申付之由被仰出候、畏候由申候、然者文可被出之間、案文廣橋と談合仕候て、可書進之由被仰候、○盛秋之儀不辨之由申候、尤思食候、御料所面にて御扶持候はんする間、致堪忍可奉公之由可申之由、被仰出候、○若宮御方へ御筆御習候はん日次、予可取進之由同被仰出候、陰陽に可申由申候處に、只予可撰進之由被仰出候、何も畏之由申て退出候了、○今日亡父忌日也、雖然不辨故僧不呼、無念々々、周章々々、世尊寺に時申付候、彼卿宿相違之事候て、從一昨日此方之事也、未暫此方之事にて可有候、云々、○七郷儀加思案、内々案文調、廣橋へ罷向談合候て、直付候了、○在富卿所へ罷、如此之様體悉語候了、且々祝着之由申候了、○奉書案

文相調候て、長橋へ持參候、則如此被調候て被出候、
天文元年十一月十一日
 山しな七郷御せいはいの事、ふけよりたひく申
 され候ほどに、色々おほせわけられ候所に、いくへ
 にも御きたあるへき事にて候へども、ゑいりよこ
 してかたく仰の事にて候ほどに、さしもをかれ候
 はんする、さ候はくわんたい人の事、この御所
 より御せいはいをくはへられ候へのよし申され
 候事にて候、それにつきてふけよりてをいれられ
 候はぬにつきては、郷中としてその内のはん人に
 ても、又さい所にて候へ、けんてうにきとせい
 はいをくはへ候へきよし仰つけられ候へく候、こ
 とにらう人などおほくかへをき候により、一た
 んくせ事のよし申され候事にて候、さやうの事も
 かく申つけられ候て、いそきあいはらはれ候へ
 く候、又かまへのほりの事も、まへの御うけ申候
 ことく、一はうのふんなりども、いそきくうめ
 候へは、まつく無事にもなり候やうに候か、この

てういさかもちし候ては、くせ事にて候
 へく候、いづれもく郷中より申候ふん、ことく
 くおほせとけられ候うへは、なをくふさい
 たし候はぬやうに、よくくおほせつけられ候へ
 く候、もしくちいたし候は、又たちかへる事
 にて候へく候、このよしよくおほせつけられ候へ
 く候よしおほせ事候、しんじ、
 くらのかみとのへ

廣橋よりの書狀如此、

今度七郷之事、爲室町殿被加御成敗、可被置御代官
 之由、及度々雖御執奏候、種々被仰出候間、大館伊
 與入道、并細川刑部少輔、三淵彌二郎等、以書狀□
 □□可令奏聞之處、堅被仰出貴殿之由候、於子細者
 具被載奉書候間、令省略候、被仰出候條々、不遲怠之
 様可被仰付候、萬一於延引者、可爲曲事候、今度叡
 慮之儀、於彼輩者忝題目候、能々可有御下知候也、
 恐々謹言、

十一月十二日

山科殿

兼

秀

此旨堅澤路隼人佐に申付候、明日早々山科へ可罷下
 之由申候、○暮々に中御門と兩人、誓願寺芝薬師等へ
 參詣候了、○中御門へ罷向、夜入田樂にて一盞候了、
 ○御筭御傳受日次予取進、來十七日、辛酉、廿日甲子、兩
 日取進也、

十三日、丁巳、天晴、○昨夕資直卿來て申候、禁中指圖悉仕出
 候て、九時分持向仕候、祝着之由申候了、○西專庵見
 舞候了、○越前へ書狀調、青木又三郎母老母、方へ勅筆
 青門筆、詩歌五枚、以下
 三枚、缺文

○上文數葉缺ク、按ニ、
十二月ノ記事ナリ

九日、癸未、天晴、○從龍花山井將監上洛、左兵衛督より書狀
 あり、永綱元服來廿日、云々、可罷下之由候了、○伏見
 殿へ祇候、櫛、手洗、打亂箱等之脱カ申入候、可被借下、
 云々、○正親町にてたかうな刀、ゆすりつき申候、可借
 之由候了、○女房奉書申出候了、廣橋へ持向、廳而書狀

可相調之由被申候了、○飛鳥井より使有之、久敷不來
 候、ふと可來之由候了、○カ補 歴長々正親町に被留
 候間乞返候了、少用之事故□□、○□□□家卿代外様
 番參候了、

十日、甲申、天晴、○□□鷹野へ被出候間、飛鳥井、予、中御
 門□□□□賀茂邊河原罷向、取鷹候了、近來催興候
 了、□□藏人等晩飯候了、暮々歸宅、○□□當番之間
 參内、鷲尾前中納言不來、予一身也、

十一日、乙酉、晴、四時、○今日途中へ下向之間、御暇之儀
 申入退出候了、○四過時分より途中へ罷下、於今鴨局
 務所一盞有之、七時分下着、一盞、種々雜談候了、

十二日、丙戌、天晴、○今日亡父忌日、僧之事申置候了、○今
 日も途中に逗留候了、

十三日、丁亥、雪下、○今日雪降之間、途中に逗留、

十四日、戊子、天晴、○今日上洛、路次にて逢雪忘前後、
時々雪下
 ○祇園祭禮、云々、○廣橋へ罷向、來廿日左兵衛督息
 元服、就其侍從從五位上兩條、當日之分御申沙汰頼入

候由申口、飛鳥井へ罷向、是も息來廿日に元服と、云云、口口種々談合候了、

十五日、己丑、今朝雪、○中御門藏人等來談、藏人兆鏡子持來一盞候了、○當番之間七過時分參内、鷲尾代頭辨被參候了、暮々參、御湯殿御燒火、夜半時分迄御雜談申候了、左兵衛督息永綱官位、來廿日之分勅許候了、十六日、庚寅、○今日禁裏御煤拂之間、從昨日祇候候了、被參人數範久朝臣、下官、長雅朝臣、季遠、藤原氏直、菅原在忠等也、如何田樂にて一盞、七時分過候了、入麵にて一盞如恆例、暮々退出候了、○藏人夜入來、一盞候了、

十七日、辛卯、○未明建仁寺光明院へ用之事にて罷向、時口口從其種善軒へ罷向、一盞候了、○飛鳥井へ罷向、來廿日息元服之事、種々口口口口入物共注文書て置候了、予途中へ之口口千萬無念之由被申候了、餅善哉、にて一盞口口口口物之事被申候間、直に伏見殿へ參、打亂箱口口内之事申入候處に、於打亂箱者一向不出物候、

候了、各入候了、

廿日、甲午、○永綱元服之儀午刻也、先童形にて出座、次父口口爲加冠出座、新冠之左次粟津右京進打亂箱持參、次同名修理亮冠持參、置柳莖新松井新左衛門泔器置柳莖左方持參、次予近冠入左手見之、次打亂箱を開、次取手定之、次髮を取前梳之、次以紙捻結之、次以小本結卷之、次髮搔にて分之、次短以小本結結之、左方、次右方、次以檀紙裏之、以紙捻結之、先左後右、次取笄刀切之、左右、次取冠入本鳥に、次切髮納櫛巾中、不見新冠、同笄刀納之、次櫛、一枚、髮搔、置柳莖上退了、次父卿進搔鬢、左、三櫛、次口口同、次後、同、次打亂箱以下如前撤之、役者同之、次父卿起座、次新冠起座、次於便所本鳥取直着衣冠、式三獻有之、予出太刀候了、又父卿太刀、糸卷、折紙持來與予候了、次父卿予新冠出座、二獻有之、各召出有之、次各起座候了、○晚飯左兵衛督、藤侍從母、小人達、予、藤侍從等相伴候了、各召出、粟津參河守、同右京進、同修理進、松井新左衛門、山口善左衛

口以別儀兩種可被出之由候、予途中へも兩種申請候、只今口口候了、此由申遣候了、則禮狀到來候了、○途中へ之物共取寄候了、花山院にて笄刀、正親町にて同刀、泔器兩種、笄刀者前に申候間、其間々取寄口、萬里にて指貫、水干、中御門にて袍四位、二具、指貫五位、等取寄候了、一元服作法、理髮、一條殿後妙花寺御筆、藏人修理權亮所持候、借て寫候了、○勘解由小路在當可來之由申候間、暮々罷向、鷲尾前中納言、高倉少納言、予、治部大輔等也、田樂にて一盞候了、四過時分に歸宅候了、○來廿五日御月次今日詠進、資直卿談合候了、

十八日、壬辰、○松井新三郎左兵衛督來、召つれ途中へ罷下候了、人夫一人召つる、持て下候物共冠、三、袍、二具、指貫、一具、檜扇、横目、水干、泔器、打亂箱、櫛巾、笄刀、二、直垂、烏帽子、扇等也、朝飯以後罷下、八時分下着候了、一盞候了、

十九日、癸巳、○竹田之物共被官衆悉今日下候了、口口千阿彌も下候了、予者息之部屋へ移候了、○今日風呂門、山井將監、吉田五郎、粟津孫二郎、同與五郎等也、今日彼被官共受領等有之、粟津新右衛門尉平貞、任參河守、同孫三郎平通、任修理進、松井新三郎口口、任新左衛門尉、山口與四郎藤原宗清、任善左衛門尉、其外竹田者、勘解由藤原盛、任河内守、同子彦三郎藤原清、任勘解由、彈正忠藤原光、任佐渡守、同子紀三郎藤原惟家、任彈正口、みすの政所安平次藤原重弘、任式部丞等也、口宣口口口、○今日飛鳥井息元服、云々、加冠帥大、理髮、口口、冠予所持候遣了、袍公物申出遣候了、申口公敍朝臣留守候了、名字雅教、云々、侍從從五位上等被申候、頭中將申沙汰、云云、○高倉息永綱、今日任侍從、敍從五位上、兼而予細細頭辨兼秀朝臣、申候了、先日口宣案持向候了、○今日當番萬里小路へ相轉候了、廿一日、乙未、天晴、○今日朝夕飯内々にて相伴候了、○寺庵衆、僧衆禮來、十人有之、父子予對面、雜煮入麵すい物三獻有之、大飲也、暮々迄也、○彼官衆少々竹田衆今日上洛候了、

廿二日、丙申、○今日も内々にて朝夕相伴候了、○今日無殊事、夜に入坊主小汗にて一盞振舞候了、○客僧兩人來、二獻候了、

内、於議定所御對面、男末にて天盃頂戴候了、鷺尾前中納言被參、兄四辻前大納言所勞大事とて、宿は退出候了、○自大宅郷柴一荷上候了、

廿三日、丁酉、○今日も内々にて相伴候了、○竹籠軒へ罷向一見候、十人計雪打候了、一興々々、○今日借物共調、折紙京へ上せ候了、各返候了、○今日京都予宅佳例煤拂候了、老母、西專庵來儀、云々、大澤長門守、同彦兵衛、澤路筑後入道、右京亮等來、

廿六日、庚子、○途中高倉之女中より一荷兩種送給□□、○中御門、治部又四郎、下笠又二郎來、○持明院侍從元服之禮來臨□□□□、○暮々四條亞相、藏人修理權亮呼候、田樂□□一盞勸候了、○今日晚飯より老母此方へ來儀、□□越年也、○正親町、萬里小路へ先日借物之爲禮罷向、中院へそ罷候了、青門へ參候了、○今朝途中皮衣已下下候了、

廿四日、戊戌、天晴、○内々にて朝夕相伴候了、○羽子四卷て遣了、今日も雪打候了、○夜入田樂にて一盞候了、

廿七日、辛丑、○四辻所勞見舞候了、聊得減之由候了、○萬里小路へ少用之事候て罷向了、○持明院元服之禮罷向、太刀金遣了、○從禁裏殿下歳末御禮御參之間、申次可參之由候間、四時分參内、七過時分御參也、先參御前、三間、暫御物語候了、梶井宮同御參也、四方拜御前裝束可參之由勅定、○廣橋へ罷向、從途中申候口宣案之事申合候了、○飛鳥井へ元服爲禮罷向、太刀

廿五日、己亥、天晴、○途中より上洛、山井將監景雅、召具、朝飯以後也、小袖之表一、綿給候了、祝着々々、八時分歸宅、伏見殿へ兩種二荷從高倉被進候間、予直に持參、御對面、御祝着之由候了、○自途中用沈、一兩、薄、二枚、匂具等召寄候了、○從持明院侍從元服之間、今夜參内、申次頼入由候了、○暮々當番之間參内、則侍從基孝、參了、

言繼卿記六

兼卷、遣了、父卿見參、暮々間則罷歸候了、○中御門へ罷向暫雜談、夜入歸宅候了、

言繼卿記六

廿八日、壬寅、○中御門へ罷向、暫雜談候了、○從大宅郷羹五丸、つち木廿把、到、同梅枝門松等到、鏡餅九枚、葩二百枚、大鏡三枚、到、米一俵、同到、日出度々々々、○自途中馬之代米二石到、祝着々々、同表袴、石帶馬臈、到、元日之用借用、○從筑後方代物二十疋到、○澤路隼人方より大津之公事錢、且々五十疋到、○歳末之卷數山科東岩屋に、法住寺、長伯寺等到、○同禮に來儀衆富小路三位、實直吉田侍從、鳴光數、持明院宰相等被來候、

天文二 癸巳 曆

○宗俊等禮に來了、○自萬里小路使有之、次男兒來、春早々因幡へ以下缺文

○正月大 四方拜之事
一日、甲辰、天晴、○寅一點於番衆所着束帶、衣紋範久朝臣に申候、先頭辨兼秀朝臣、被着前裝束予、則各參集在所如例、庭上立廻屏風、清涼殿御構子舉階間計、御簾同御兼秀朝臣、御劔公敍朝臣、脂燭予、長雅朝臣、橋以緒、藤原氏直等也、御服御衣紋範久朝臣、御前裝束予祇候也、次於末盃酌如常、珍重々々、日出已前退出、藤原氏直重服也、四方拜には不苦、云々、○行水已後又着束帶、私之四方拜沙汰候了、看經等如常、○佳例かんにて祝有之、祝着々々、○餅祝朝飯等如常祝候了、各被官共來候了、予酌にて一盞勸候了、竹千代丸、澤路筑後入道、同右京亮、同隼人佐、同彦三郎、松千代等也、

井上五郎右衛門來、對面候了、隼人佐筆一對持來、祝
 着々々、○吉書如常沙汰候了、○自中御門冬袍到、予
 主付候了、○飛鳥井袍公物之用借用、今日返遣候了、
 ○准后、青蓮院宮、伏見殿、同宮御方御禮に參、各御對
 面也、若宮様へ參、御對面、御盃頂戴候了、同萬里小路
 へも申候了、○御祝に暮々參内、御局々へ御禮申候
 了、今夜被參候輩帥大納言、公條權大納言、實胤萬里小
 路中納言、秀房三條宰相中將、實世兼秀朝臣、廣橋範久
 朝臣、藤少納言公鼓朝臣、頭中將下官、右少辨惟房、萬里小路季
 遠、四辻橘以緒、梅廣等、○若宮御方還御、御劔參候了、
 御輿寄申惟房□□□□、○外様番衆公右朝臣、小倉一
 身也、御禮被申候、予申次口、予外様花山院前大納言
 忠補、代祇候候、内々帥卿一身也、○於長橋局帥卿、予兩
 人すい物にて一盞候了、
 二日、乙巳天晴、○豐越中守、盛秋、同小童豐秋、禮に來、對
 面、酒を勤候了、○四條亞相來儀、一盞勤候了、一樽兩
 種隨身也、○澤路右京亮掃初來、盃のませ候了、囊持

來、○禁裏北門役所者禮に來、云々、○樂始、平調子、
 萬歲樂、只三臺急、五常樂急、太平樂急、鷄德、老君子、
 林歌、壹越調、音取、陵王破等吹候了、○中御門へ禮に
 罷向、盃一、隨身、同老母御出候也、雜煮にて一盞候了、
 ○齒堅祝有之、如常、右京亮來て用意也、○暮々御祝參
 内、被參輩帥大納言、權大納言、萬里小路中納言、三條
 宰相中將、兼秀朝臣、範久朝臣、予、惟房、季遠等也、其
 後大所にて一盞候了、○外様番衆四條大納言、同中
 將、隆重御禮被申候、予申次候了、内々番衆季遠父卿依
 所勞相轉、予一身也、
 三日、丙午曇、天、○澤路右京亮來、大豆打候了、○今井
 小三郎宿、中御門方違に罷向、中御門同道同所也、盃持
 て向、一盞候了、廳而罷歸候了、○攝取院方違に此方
 へ來儀、一樽兩種持來、餅立入、にて一盞勤候了、此方
 に被宿候了、○萬里小路兒、皆明寺、香西新左衛門尉、
 中村、魚梁瀬與次等、方違敷門出敷に來儀、當月中に
 周防へ下向、云々、餅立入、にて一盞勤候了、音曲そと

候了、萬里小路より土器物三、壺被持候了、○當年星供
 養之事、皆明寺に申候、晚天持來、
 四日、丁未雪下、四時分、○西專庵朝飯に呼候了、同阿茶
 子、○柳原、富小路等へ禮に罷向候了、理覺院、廣橋、
 半井澄玄所等へ禮に罷向候了、供竹千代丸、松千代、
 井上五郎右衛門、太郎右衛門等也、○飛鳥井へ禮に罷
 向、一荷兩種、串持、隨身、今日家之鞠始也、亭主父子、
 予、速水兵部丞等也、庭しるきの間、座敷にて一足候
 了、其後明神之盃持て被出、先亭主、次予、次侍從等頂
 戴候了、其後推物たら、にて盃三被出候了、沈醉候了、
 ○從大宅郷御供二膳、上候、恆例、大豆、五升、前々出候、餅
 陀言由申、云々、言語道斷不可然、○暮々御禮參内、被
 參候輩帥大納言、權大納言、鷲尾前中納言、源中納言、
 萬里小路中納言、三條宰相中將、兼秀朝臣、範久朝臣、
 予、惟房、季遠等也、宮御方御參也、○持明院予袍之事
 被申候間、外様にて借渡候、□□□□事被申候間、次
 指貫遣候、又持明院侍從指貫□□□□中御門へ借用

予に被申候間、申て遣候、兩三□□□□申次範久朝
 臣、其後外様にて一盞候了、
 五日、戊申、○當番之間、四時分參内、九時分御祝候了、
 申口にて一盞、其後參御三間、暫御難談申候了、八時
 分北畠之聲聞帥千秋萬歲三人、參候了、如例參議定所
 御庭曲舞、盛長、夢物語、頼朝七過時分退出候了、○六過時分
 飛鳥井參内とて、此方へ來儀、用意也、一盞勤候了、紫
 組懸持來被與予、祝着々々、侍從禮に可來、然共遅々
 とて、太刀糸卷同被持來候了、則同道候て參内、廳而
 御對面、予申次、於男末天盃頂戴候了、三條大納言先
 之御對面有之、云々、鷲尾申次、云々、鷲尾宿には退出
 候了、予一身也、組懸之事、禁裏にて御案内申候、飛鳥
 者申間敷由候へ共申候、故實歟、
 六日、己酉、天晴、○四條羽林、山井筑前守、景通藏人修理權亮、
 神餘隼人佐、治部又四郎、下笠又次郎、田中新左衛門、
 同孫三郎等禮に來、云々、○四條へ禮に罷向、盃兩種隨
 身、餅にて一盞候了、又大炊御門、同二位局、持明院、

勘解由小路、竹内殿、正親町□□、轉法輪三條、五辻、中院、四辻、鷲尾、高倉、皆明寺□□、○青門、伏見殿へ參候て、暫御物語申候了、○從飛鳥井書狀有之、昨日被與候懸古物とて□□□被取改候、同一通如此有之、

就蹴鞠久門弟契約、紫組冠懸之事、連々御懸望之條、令進之候、可有御着用候、彌此道可令屬御執心給事肝要候、恐々謹言、

正月六日

山科殿

雅

綱

則請文仕候て遣之、如此也、

就蹴鞠御門弟、紫組懸事、連々嚴望之處、只今拜受有難存候、彌此道不可存如在候、猶々御教訓所仰候由、宜得御意候、言繼誠恐謹言、

正月六日

言

繼

暮々中御門へ罷向、今日御禮に參内之由被申候間、若冠裝束させ候了、○菊亭、中御門御禮被申候了、申次

可參之由候間、則着朝衣參内之處、帥卿申次にて御對面、云々、可罷出之處、帥卿一身之間、可祇候之由候間、其間々祇候候了、○從大宅郷若菜五荷到、同三十籠、五野村郷三十籠五、等到、御供二膳同到、

七日、庚戌、○如例御祝有之、申口にて一盞候了、次退出、○此方之祝如例候了、清水式部丞禮に來、云々、○

方々御禮に參、大祥寺殿御喝食御所御對面、御盃頂候了、三位殿、庭田、菊亭、薄、内侍所、甘露寺、攝取院等

へ罷向、各見參候了、德大寺入道相國入見、勤修寺申置候了、○飛鳥井へ一昨日組懸之爲禮、以太刀持罷向、

見參、□□有之、澤路隼人佐被召出候了、一宮壹岐□□□、○安禪寺殿へ參候、御對面、御盃頂候了、○中御門禮に來臨、壺隨身、餅にて一盞勸候了、○禁裏御祝、暮々參内、

八日、辛亥、○早々番歸とて勤修寺來臨、飛鳥井鷹被出野之條、爲見物被誘引間、令同道罷向、亭主同被出候、紫野之邊にて鷹に相懸放舞上候て、相國寺之内に取

居木、九時分兩三人罷歸、皆飛鳥井へ同道小漬候了、

其後又三人罷向、取改居木、二條之等持寺に有之、七時分にすへ上候て各歸宅候了、○安養寺之長老、佛陀寺

之祐閑、廬山寺之金光院、宗俊等來、云々、建仁寺之種

善軒、宗圓侍者、伯卿次男禮に來臨候了、○暮々外様番に參、

永家、一身也、天酒出候了、三條宰相中將、頭辨、右少辨

等被出候、一盞勸候了、宰相中將は大元帥法聽聞に被

參候、兩人者當番也、今夜醍醐之水本僧正、藏人修理

權亮御禮申候、四辻少將申次、云々、○大宅郷より柴

一荷上候了、

九日、壬子、天晴、○澤路入道來、對面暫雜談、老母振舞御

かん候了、○高野山大定院之長阿彌、幼少之時此方に

居候者來候了、一盞勸候了、暫雜談、○西專庵へ禮に

罷向、兩種壺等隨身、四條羽林、藏人修理權亮等同被

來候て、一盞候了、○青門へ參候、大元帥法へ御參之間

御供申候、聽聞仕候、四時分に歸宅候了、

十日、癸丑、天晴、○今朝長阿彌に時申付候了、○從正親町

使有之、明日鞍馬寺へ可同道由候、故障之事候由申候

了、○申次早々可參之由候間、四時分參内、理性院御

禮被申候、同御加持候了、其後内大臣九條殿輔、御禮被

申候、其後又關白近衛殿御方御所、御參、御禮被申候、夜入

資雄日野町左兵衛佐、御禮被申候、何も皆予申次候了、九時分

參御前、御三、暫御雜談申候了、○自飛鳥井鞠とて、兩度

使有之由候間、八時分退出、則罷向一足候了、人數亭

主、予、金粟院、一宮壹岐守、六角堂之松坊、速水兵部

丞、里村彌二郎等也、其後餅立入、にて一盞候了、○當

番之間、又暮々參内、予一身也、大元帥法へ參聽聞候

了、○盛秋來、○常光院、極務兼賢朝臣、佛陀寺之僧壽算、良

胤等禮に來臨、云々、大隅民部丞同來、云々、○持明

院、高辻禮に來儀、云々、

十一日、甲寅、○從大宅郷御供二膳到來、○田口掃部助

禮に來、○今日伏見殿申沙汰也、一荷土器物二進上候

了、七時分參、御出座之人々御兩御所、竹内殿、安禪寺

殿、松、總持寺殿、曇花院殿、御弟、南御方、西御方、南仙

院、四條大納言、鷺尾前中納言、源中納言、持明院宰相、範久朝臣、隆重朝臣、予、長雅朝臣、資雄等也、七獻被下候了、予六獻にて退出候了、○猪熊三位禮に來、云々、

十二日、乙卯、雨下、○亡父忌日之間、統全、正舜時に來、相伴候了、○藤三位終日來談、同盛秋來、○盲祐椿時に來、種々狂言共、云々、○外様番飛鳥井代に參候、四條中將と兩人也、天酒出候了、○來十九日御會始催有之、

初春祝

右御題、來十九日可爲和歌御會始、各可令豫參給之由被仰下候也、

正月十一日

伊 長

帥大納言殿、四條大納言殿、四辻前大納言殿、三條大納言殿、鷺尾前中納言殿、菅中納言殿、萬里小路中納言殿、左衛門督殿、源中納言殿、持明院宰相殿、三條宰相中將殿、右大辨宰相殿、頭辨殿、頭中將殿、

藤少納言殿、四條中將殿、內藏頭殿、中院少將殿、右少辨殿、四辻少將殿、藏人式部丞殿、

十三日、丙辰、天晴、○坂本執當方より一樽兩種送給候了、○一樽兩種帥卿へ送遣候了、○中御門と同道方々禮に罷向、近衛殿太閤御對面、一盞有之、摠持寺殿御留守、南御所同、但慶福庵にて一盞有之、寶鏡寺殿、入江殿御對面、御盃頂之、鷹司殿御對面、岡御所、よりん庵等御留守、清三位等參候了、○從飛鳥井速水來、明日朝飯に可參之由、云々、

十四日、丁巳、○西三條へ禮に罷向、帥卿對面、餅立入、にて一盞候了、○四條父子、正親町、予、藏人等同道にて飛鳥井へ罷向、朝飯以後うとんにて一盞有之、侍從出座、七時分各歸宅候了、○吉田侍從禮に來、云々、○如例年從大宅郷三毬打竹五十本之分到、二百本、大澤彦兵衛、澤路筑後入道、同右京亮、同彦三郎、井上五郎右衛門、太郎右衛門、次郎右衛門、地下之人夫等、如例年十六本用意候、則以書狀禁裏へ進上候了、

三きつちやう十ほんしんしやういたし候、めてた

くいく千とせ萬代までも、あいかはらすしんしやう候へきよし、よくく御心へ候て、御ひろうにあつかり候へく候、しし、
とき繼

勾當内侍この、御局へ

○今夜於此方十炷香張行候了、人數四條中將被來候、中御門、修理亮、治部又四郎、越前、僧、田中孫三郎、下笠又次郎、松千代、千阿彌等也、餅にて一盞勸候了、十五日、戊午、○祖母忌日之間、統全時に到、相伴候了、○景範禮に來、對面、餅立入、にて一盞勸候了、○中御門來談、青門へ同道、佳例鞍馬寺牛玉五枚申請候了、伏見殿へもち參候了、○今朝早々三毬打はやし候了、大澤彦兵衛、澤路入道、同右京亮、同隼人佐、同彦三郎、坂田竹千代、井上五郎右衛門等來候了、其後粥祝如常、○從極簡來十八日三毬打催有之廻文、

宿紙拂底之間内々令申候、

來十八日三毬打三本、如例年可令持參給之由被仰

下候、可得御意存候也、

正月十四日

以 緒

頭辨殿、頭中將殿、藤少納言殿、四條中將殿、內藏頭殿、菅少納言殿、小倉中將殿、大内記殿、中院少將殿、藏人辨殿、四辻少將殿、左兵衛佐殿、右衛門佐殿、飛鳥井侍從殿、持明院侍從殿、藏人殿、菅藏人殿、新藏人殿、

○從飛鳥井使有之條、四條中將、藏人同道候て罷向、鞠一足候了、人數亭主、四條中、予、藏人、金粟院、速水兵部丞、淵田與三郎等也、晚天伏見殿御三毬打參候了、○暮々參内、御祝被參候輩帥大納言、權大納言、鷺尾前中納言、甘露寺中納言、萬里小路中納言、源中納言、三條宰相中將、右大辨宰相、範久朝臣、予、惟房、橘以緒等也、御坏以後、於清涼殿御庭上三毬打有之、十三本三本從勸修寺進上、云々、仕丁共如例年はやし候了、○相番鷺尾、予兩人、鷺者宿に退出候了、外様番衆三條大納言、中院少將兩人也、中院御禮被申候、予申次候了、

十六日、己未、天晴、月蝕皆息、（既カ）也、卯一點地動、○禁裏佳例之百萬返之間、暫祇候、四萬返申候了、四時分申次之由被仰候間、朝飯長橋局へ召寄候了、即刻知恩寺長老、安樂光院、智恩院、二尊院等御禮被申候、予申次、各御卷數進上也、獨々也、於議定所暫御雜談申候了、未四五人祇候之輩有之、云々、遲候間、先可罷出之由被仰候間、七時分退出候了、○此方佳例百萬返申候了、○佛陀寺之善得院、鳴社務祐雄、等禮に來、云々、○中御門、岡侍者等來談、今夜於中御門十炷香可有之可參、云々、晚に罷向、香包事予用意也、人數四條中將、予、亭主、岡侍者、治部又四郎、越前、下笠又次郎、玄鏡、與七、松千代、千阿等也、一盞有之、音曲也、岡侍者一盞隨身、云々、夜半時分歸宅候了、○從深草來十八日之三毬打竹持來、云々、○從勸修寺使有之、明日飛鳥井鷹被出候間、可同道之由候了、○從右少辨予小補歷被借候、則遣候了、

等賀茂邊より松崎邊へ被出候、鷹相應取放取居木、七時分渡各罷歸候、はい鷹鳴社にて賜二取候了、○光明院來、幡州播州へ之儀申談候了、○高橋若狹守禮に來、云々、○從大宅郷昨日大般若札、荒米等到、

十八日、辛酉、○藤三位所へ罷向、明日御會始之歌談合候了、○三毬打如例年調進上候了、於禁中用意之、澤路入道、同右京亮、同隼人佐、井上五郎右衛門、太郎右衛門、大澤彦兵衛尉、隼人中間夫兩人等也、○予懷紙之案、青門被遊候て被下候了、○七過時分御三毬打參内、已上廿一本有之、如恆例聲聞師はやし候了、爲見物被參候輩萬里小路中納言、三條宰相中將、右大辨宰相、公敍朝臣、範久朝臣、予、惟房、橘以緒等也、如例年於男末一盞有之、○予者外様番永家脚代に參候了、内々右大辨宰相萬里小路代、一身、予内々に臥候了、○自飛鳥井三毬打進上之用人夫之事被申候間、山科之人夫兩人申付遣了、

十九日、壬戌、雨下、四時分より天晴、○幡州島津左京亮、同飯田入道

宇野右京亮、備前樂師寺次郎左衛門、今橋大和守、使惟光方へ兩通書狀相調候て、建仁寺光明院へ持て遣了、○飛鳥井此方へ來候、被着朝衣、同予着衣冠、今日公宴御會始也、依兩人合同道、九過時分參内、予和歌、初春祝、

二葉より子日の松を引うへて

千とせを君か代にやかそへん

八過時分各參集、御人數御製、若宮御方、御不參、初中務卿宮、御不參、青蓮院宮、同、梶井宮、同、無品親王、同、前左大臣、不參、入道前内大臣、道通院、帥大納言、四條大納言、三條大納言、不參、鸞尾前中納言、菅中納言、不參、甘露寺中納言、萬里小路中納言、左衛門督、源中納言、持明院宰相、三條宰相中將、右大辨宰相、公敍朝臣、範久朝臣、隆重朝臣、予、惟房、初參、橘以緒不參、等也、讀師四條大納言、講師公敍朝臣、兩人共散々沙汰候了、失其多端、云々、發聲左衛門督、督歌發聲鸞尾前中納言也、其後於御三間御酒有之如例、年折三合、盃二つ、出、暫候

了、暮々退出候了、○飛鳥井に小漬申付候了、藏人來談、一盞勸候了、速水兵部丞、奥田孫七等召出候了、五過時分被歸候了、○鞍馬寺之戒光坊來、灰炭一俵、卷數等持來、云々、

廿日、癸亥、○藤三位來談候了、○今日妙心寺長老參内、予申次に參、四時分被參候、○青門へ參、暫御雜談申候了、○七時分參御前、三間、暫御雜談申候了、○今日御祝如常、申口にて一盞候了、○今日番衆予一身也、○幡州へ書狀、嵯峨之下河端鹿王院之内玉芳軒へ持て遣、太郎右衛門に申付候了、

廿一日、甲子、○中御門へ罷向、暫雜談候了、○南都春日社御師積藏院中方より書狀有之、舊冬無音之間、一度に濟々、到、神供油物卷數火箸等到、則夕方返事遣候了、○明後日可參内侍所へ歎之由存候間、今晚結髮、同神事也、

廿二日、乙丑、○暮々外様番飛鳥井代に祇候、但故障之間、五時分退出、四條中將一身也、

廿三日、丙寅、雪下、八過 ○早旦着朝衣參詣、内侍所へ太刀奉參、進候、退出後、廳而予地之上之春日、下御靈、上御靈、同御旅所、小野等へ參詣候了、吉田、祇園等へ可參詣之處、深雪之間無其儀、無念々々、○從飛鳥井使有之、今朝落馬、云々、仍石見川所望也、○藏人修理權亮來談候了、○今晚禁裏御香、七過時分參内、被參候輩御、三、曼殊院宮、一、鷺尾前中納言、三、甘露寺中納言、六、萬里小路中納言、三、源中納言、四、右大辨宰相、六、範久朝臣、六、下官三、等也、愚物同數之輩闖也、御憑物甘露寺中納言拜領也、予者筆三對持參、不思議扇一本、取候、其後申口にて一盞候了、五時分各退出、萬里小路中納言、右大辨宰相兩人共番也、末々衆月待とて留候間、予其間々祇候候也、治部大輔被來、赤粥にて一盞候了、

御使留守へ被下、云々、他行之由申候間、又飛鳥井へ御使被下、云々、雖然予者不存之由申、晚天御盃參候間可參之由被仰候、宮之御方御本結に參候、則退出候了、○四條中將同道にて、七時分伏見殿へ祇候、御盃參候、中書王、同宮御方、梶井殿、三條大納言、鷺尾前中納言、源中納言、持明院宰相、範久朝臣、隆重朝臣、予、長雅朝臣、堯淵法印、皆明寺、長賀僧都、常樂院、資雄、快承、大法師等也、就智院御樽持參之故也、三獻之後御前へ被召出候了、平家暫申候了、披講、音曲等有之、五常樂急、太平樂急等有之、中書王御比巴、鷺尾等、源中納言笛、持明院笙、四條中將同、予笛一典^カ也、七獻參候、四時分退出、

廿五日、戊辰、 ○飛鳥井去夜より相煩とて、寫^カ藥所望之間、琥珀丸廿粒、遣了、○中御門より咳氣藥所望之間、こ九包仲和散遣了、昨日三包遣候、拂底之間、今日又調合候了、○紫野大德寺之内就賢院之長老參内、盆香合被進也、予申次、四過時分被參候、則於議定所

御對面候了、○八時分參御前、問三暫御雜談申候了、當番之間、其間々祇候候了、予一身、晚飯^口御酒頂候了、

廿六日、己巳、 ○今日中御門合同道禮に罷向、先花山院對面、一盞有之、次二條殿同一盞有之、次墨花院申置、安養寺一盞、常樂寺申置、次建仁寺之内大龍庵之内種善軒申置、同眞性院申置、次東山猪熊三位慈照院申置候了、同吉田見參候了、中御門は逗留也、予罷歸候了、○從御靈北野へ御參之間、可參之由御書有之、他行之由申、云々、○外様番中御門代に參、予一身也、○甘露寺禮に來儀候了、

廿七日、庚午、 ○早々飛鳥井へ罷向見舞候、無殊事、云云、朝飯用意候了、其後太刀刀廿許被見候、鷺目候了、○九時分四條へ罷向、夢想連歌有之、執筆者予仕了、四十四句有之、人數亭主、鷺尾、甘露寺、高倉中將、予、中御門、藏人、治部大輔、西川入道、光秋等也、晚飯用意候、其後出盃、夜半時分迄酒宴候了、○中御門へ

岡侍者被來、被留候了、予同とまり候了、

廿八日、辛未、 ○今朝中御門に朝飯在之、岡侍者相伴也、○鷺尾、皆明寺、萬里小路辨、同弟兄、内山等中御門へ被來候、予可來之由有之間罷向、一盞有之、其後鞠一足有之、四條中將被來候了、○藤三位片時來談、○岡侍者所へ可來之由候間罷向、四條中將、予、中御門、治部又四郎、壽林、田中孫三郎、越前三上泰五郎、下笠又二郎、千阿彌、松千代、小者等也、事外他人數也、先一盞有之、次晚飯各相伴也、其後盃出、夜九時分迄大飲也、○今夜外様番左兵衛督代、持明院へ相轉候了、

廿九日、壬申、小 ○漢和一面仕候了、其後朝飯出來、中酒疑候了、四過時分予者歸宅、其後一續^カにて一盞、云云、各八過時分被歸候了、○中御門に鮫之汁用意之由候間、飯持て罷向候了、○七時分青門へ參、四過時分退出候了、

卅日、癸酉、雨下、四 ○松井六郎左衛門入麵を振舞候了、

○從堅田之藤田七郎方荒卷一、送候了、○當番之間、九過時分に參内、節會次第書寫候、八過時分參御前、御三暮々迄御雜談申候了、晚飯御跡を頂候了、相番鷺尾前中納言、宿計祇候也、○暮々正親町當年禮に來儀、云々、殊夜に入、云々、○御陵之織手司補任取候、廬山寺之照傳依懸望、少事儀兩種壹荷二十疋持來候了、
内藏寮下

遠山右京亮能次男

右爲御陵織手專公役、於諸公事者、不可有其煩者也、仍補任之狀如件、

天文二年正月廿七日

長門守綱家在押

○二月大

一日、甲戌、天晴、○今朝盛秋に小漬用意、相伴候了、○藤三位禮に來、見參、澤路筑後入道、同右京亮、同隼人佐禮に參、對面、山井安藝守景範、來、對面、○中御門へ葉室出京とて被呼候間罷向、一盞候了、○四條、藤三位、中坊、西專庵等へ禮に罷向候了、廣橋へ罷向、縁カ緣にて暫雜

談、飛鳥井他行、云々、安居院と兩人暫雜談、伏見殿、准后、同青門、三條西等へ禮に參候了、○奥之田舍人方より、藏人取次一荷食籠被送候了、○暮々御祝に祇候、被參候輩帥大納言、權大納言、鷺尾前中納言、萬里小路中納言、源中納言、三條宰相中將、右大辨宰相、範久朝臣、予等也、予者大所にて又一盞有之、可退出之處、召具人無人之間、其間々祇候、内々帥卿一身也、仍同宿候了、○從大宅郷御供一膳到來、目出々々、

二日、乙亥、天晴、○藏人來、中御門招請、一盞勸候了、○飛鳥井昨日之禮とて來儀、一盞候、暫雜談候了、○暮々外様番飛鳥井代に參候了、相番四條中將計也、予食籠、小とくり大所へ隨身、一盞候了、○舊冬口宣案共途中へ下候了、惟近、孫左衛門下、云々、急候間不遣書狀也、三日、丙子、天晴、○中御門へ罷向、甘露寺被來候、一盞候了、補任直候了、歷名逐而可直候也、○大所へ罷向一盞候、又中院へ罷向又一盞候、鞠一足有之、事外沈醉無正體候、伏見殿、青門等へと參候了、

四日、丁丑、天晴、○藤三位亭朝飯有之、四條父子、予、座頭み

九一檢校等也、修理權亮相伴也、○勘解由小路三位所へ罷向、暫雜談、一盞有之、青門へと參候、甘露寺、高倉、松泉院、玉林等中將某候了、○暮々外様番持明院基春參候、高辻大内記長同被參當番也、然處持明院宰相雅朝臣、被參、不事屈事也、予可退出之由被申候處、内々番衆無之間、早々可參之由被仰出候條、則着朝衣參候了、予一身也、○從萬里小路石帶、平緒、下襲之襟被借用候間遣候了、明日關白宣下上卿に被參候用也、

五日、戊寅、天晴、○正親町へ罷向、頭中將と暫雜談候了、○今日當番之間、九時分參内、則參御前、御三一時餘御雜談申候、承候了、○關白之事、此間種々相論也、仍今日從大樹諸司に參候者、可爲曲事之由、大館内富森彌四郎爲御使申候了、雖然堅爲禁裏被仰付候了、御兩局不參也、○五時分參集、上卿萬里小路中納言秀房、先着陣、辨、惟房、史三善英名也、吉書藏人方、次起座、更着與座、辨以内大臣植通判、爲關白并氏長者一座牛車兵仗等

宣下仰之、次上卿移动端座行事候了、次二條關白伊房准后宣下有之、

六日、己卯、天晴、○從萬里小路石帶、平緒、下襲襟等被返候了、○廣橋縁迄來談、昨日陣宣下之様雜談、○夕方持明院に鞠有之、亭主、同弟花光院、四條羽林、予等也、七日、庚辰、天晴、○中御門へ罷向、暫雜談候了、○中院へと罷向候了、公卿補任も醍醐院上下被借用候間、則遣候了、○今曉七時分、大祥寺殿へ又盜人入候て悉取候了、

八日、辛巳、雨下、○從萬里小路就春日祭之儀可談合事有之、可來由使有之條罷向、樣體共指圖持向候て申合候了、就其袍闕如之間、飛鳥井之袍傳借之事被申候了、○青門へと參候、御將某見物候了、○中御門へ罷向候了、暫雜談、一聲吟候了、○外様番永家卿代參候了、予一身也、内々萬里小路中納言一身也、九日、壬午、天晴、○今日中御門にて朝飯有之、故一品之忌日之間、僧佛陀寺之良胤來、相伴也、○四條亞相同道に

て、稻荷參詣之人見物に參候了、事外之群集也、法性寺にて一盞候了、四條振舞、旅宅にて候、歸路建仁寺光堂へ罷、晩に小漬用意也、暮々歸宅、○從途中山井將監景雅、上洛、自武衛書狀有之、禁裏へ五荷三種進上目六也、廣橋傳奏申次也、鷹、鬘斗鮑、荒卷等也、使粟津修理進相添也、○今日老母攝取院へ招請、暮々御歸候、

十日、癸未、○飛鳥井へ罷向、從萬里小路被申候袍之事申候、可遣之由被申候、從北隣被申候乳香散之事、同申候、心得候由候了、九時分合同道、千本之維遣力、教經へ口出候了、器懷中付物仕候了、四條父子、藏人修理權亮可合同道之處、遅々間先罷向、則同所へ被參候了、歸路に飛鳥井にて各草餅にて一盞候了、歸路に中御門へ罷向、鯉之汁有之、仍飯取寄、○從禁裏早々可參之由、云々、仍七過時分參内候了、暮々御前御三、參、四時分迄御雜談候了、予一身也、○老母中御門へ御出候了、雖而御歸宅、

十一日、甲申、天晴、○青門にて環翠軒清三位入、日本紀講尺從今日申候、四時分に參候、伏見殿、三條大納言、持明院宰相、萬里之兒、下官、高辻長雅朝臣、皆明寺、中御門宣治、藤三位實直、宮内卿在富、局務兼賢、吉田侍從、兼右、鳥小路青門廳、新三位長谷、其外内山萬里、僧從、壽命院等來、赤粥候了、新宰相妙法院、一樽持來、云云、予者南都多武峯へ之狀共調候了、中御門右筆未練之故也、如此調候、舊案有之、

御當職九條殿御拜任候、任先規早々可被申御禮之由被仰出之旨候也、恐々謹言、
二月十一日 秀 久(花押)
春日正預殿、春日次預殿、春日權預殿、春日神主殿、春日權神主殿、各別五通調之、青侍奉書分也、
御當職九條殿御拜任候、任先規早々可被申御禮之由被仰出候也、恐々謹言、
二月十一日 □ 治

多武峯檢校三綱御中

○今朝帥卿亭へ罷向、多武峯、南都へ御使藤三位望申、云々、中御門代々有由緒之間、殿下へ御取合頼入候由、中御門申候之由申候了、尤候、其分可申之由候了、又萬里小路へ罷向、飛鳥井袍之事返事申候了、

十二日、乙酉、○今朝亡父忌日之間、僧時に來、相伴候了、正舜來候處に、在國之間、佛陀寺之良乳招請候了、彼僧合同道維教經へ參候了、器持て付物沙汰候了、歸路飛鳥井へ罷向候、父子、安居院等見參、暫雜談候了、來廿日に侍從參内候へき由被申候、就其袍指貫之事頼入由被申候、心得候由申候、北隣より被申候乳香散所望候、又安居院所持之天台之止觀第二、表書勅筆也、仍上覽有度由勅誼之間、借用候て罷歸候了、○柳原へ乳香散持て罷向與之、○暮々外様番飛鳥井雅綱、代に、參候了、四條中將父卿、と兩人也、又昨日申出候去月御會始御懷紙返上候、又天台之止觀入見參候了、内々番衆右大辨宰相、範久朝臣兩人也、○伏見殿宮御方、日本

紀御用之由候間、上卷入見參候了、○一昨日堺之儀落居、云々、一騎取懸、細川六郎始而、三吉神五郎、可竹軒、木深大略不殘討死、云々、言語道斷次第也、京都日蓮衆難儀不過之、以外珍事、云々、

十三日、丙戌、曇、時々、○自中御門用之事有之、可來之由候間則罷向、有引勘事、赤粥候了、一昨日之日本紀本取に進候、○持明院宰相來儀暫雜談、日本紀上卷之内五枚書寫可與之由候、先請取候、急云々、○澤路隼人來、堺之儀一定、云々、攝州より藥師寺者八幡へ取のき候由風聞、一宮壹岐守同事也、○藏人修理亮來、藤三位方より使、中御門へ南都、峯寺等へ事申子細有之、可演談□□□則罷向之處、客人有之間罷歸候了、○老母甘露寺へ招請朝飯、暮々歸宅、中御門西向煩敷之間、直に御出候了、
十四日、丁亥、眞夜より、○中御門より使に、甘露寺へ罷向申事有之、帥卿へ罷向可申之由候間、彼亭へ罷向申候了、南都□□□申次事也、○從禁裏早々可參之由候

間、四時分に參内、東山智恩院之長老靈寶作佛、四繪佛
 卅計、持參、一々權筆共驚目者也、叡覽、來歷之事共長
 老直に言上候了、後土器物にて一盞候了、萬里小路中
 納言、範久朝臣、予等也、竹内殿も被參候、弟子之喝食
 者萬里小路次男也、御扇拜領候了、何も小御所にて
 也、○從萬里小路被呼之間罷向、彼長老相伴之料也、
 小濱にて一盞候了、同宿兩人有之、○又參内參御前、
 御三、暫御雜談候了、竹内殿御祇候也、七過時分退出候
 了、○藤三位所、中御門へ罷向候て、兩寺之儀申候了、
 ○老母今日御歸候了、
 十五日、戊子、天晴、○早々飛鳥井へ少用之事有之之間罷向、
 則罷歸、○祖母忌日之間、本誓寺之僧統全時に來、相
 伴候了、○當番之間、朝飯以後早々參内、御雙紙書候、
 八時分參御前、御三、暮々迄御雜談申候了、公卿補任第
 一申出候了、今日予一身也、青蓮院宮當年今日初而御
 參内、五時分青門御酌にて召出候了、廳而還御候了、
 御樽等御持參也、○若宮行幸有之、御方御所御學問所

也、御蠟燭參候了、御劔勾當内侍也、天酌候了、
 十六日、己丑、雨下、○中御門へ罷向、去夜より岡侍者逗留、
 云々、時用意也、予朝飯召寄相伴候、暫はなし候了、○
 八時分柳原へ予、中御門、岡侍者招請、雨中之興一盞
 候了、七過時分歸宅候了、○暮々藤三位來、四時分迄
 雜談候了、
 十七日、庚寅、天晴、九、○今日三心院忌日之間、佛陀寺之
 僧良胤時に來、相伴候了、○帥卿亭へ罷向、峯寺之儀
 故也、同中御門へ罷向候了、○安居院飛鳥、被來候、禁
 裏へ御禮被申候間、此方にて被着衣候了、○壬生官務
 宿願、來談候了、○今日より禁裏に御修法始行、導師報
 恩院權僧正源雅、號水、名僧六口、奉行右少辨、惟房、四時
 分に始、予暮々參内、四過時分退出候了、以清涼殿爲
 道場、以小御所爲休所、昨日堂莊嚴候了、護持之御案
 内御なて物等、橘以緒候了、聽聞之人々帥卿、甘露寺
 中納言、當番、源中納言、右大辨宰相番也、範久朝臣、予
 等也、○攝取院方違に被來候、壺、食籠持來、四條亞相、

同北向、昌御りやう、西專庵等來儀候了、夜半時分皆
 皆被歸候了、攝取院者被宿候了、
 十八日、辛卯、天晴、○攝取院早々被歸候、一盞勸候了、○持
 明院之被申候日本紀五枚、書寫出來、則□□罷向遣了、
 日蓮衆召籠人取、云々、集會候間、三條亞相、持明
 院宰相合同道見物候、火付候物三人召取、則生害候
 了、○飛鳥井へ罷向、暫雜談候了、又帥卿へ罷向候了、
 ○暮々中御門、予、陰陽頭、有春、治部又四郎宿へ罷向
 候了、寮頭盃出候、一盞候了、其間々宿候了、遊女候了、
 十九日、壬辰、天晴、○中御門へ罷向、後室歡樂同事也、朝飯
 有之、佐口拾古物、被與予候、祝着々々、○帥卿亭へ罷
 向候了、又連々被申候桃木繼候了、宰相中將と中將某
 一盤仕候了、又青門へそと參候了、○藏人所へ罷向雜
 談候了、
 廿日、癸巳、雨下、八、○當番之間、七時分參内、則參御前、
 相三、時分より晴、暮々迄御雜談申候了、暮々御修法始行、右少辨、極
 簡等參候了、今日の當番予一身也、○今朝飛鳥井に

朝飯有之、予計也、今日侍從始而參内、袍萬里小路、指貫、
 四條、冠子、各予馳走也、悉皆予に談合也、冠裝束等予
 きせ候了、御樽三荷三種、一折、二折、三折、以目六進上也、
 同長橋、道遙院等へも樽被遣了、八時分に參内、予申
 次候了、於男末天盃頂戴候了、次長橋局にて一盞候
 了、次若宮御方へ參、金持、御對面、次准后、次青門御對
 面、次伏見殿御對面、皆予同道申次候了、次道遙院見
 參、鯉のすい物にて一盞候了、各召出候了、帥卿は他
 行、云々、其外轉法輪、庭田、正親町、花山院、甘露寺、
 四條、此方、藏人等へ罷、云々、
 廿一日、甲午、天晴、○今日青門日本紀御講尺、第三、與飛鳥井
 合同道參候了、其後則罷歸候、局務來、暫雜談候、飛鳥
 井歸路に又此方へ被來候、一盞勸候了、又藏人所より
 使有之、飛鳥可同道之由、合同道彼亭へ罷向一盞候
 了、暫雜談、○晚天中御門へ罷向、暫雜談候了、○暮々
 御添番に早々可參、云々、仍則參内、夜入帥卿被參候
 了、御修法初中後三座候了、

廿二日、乙未、天晴、七時、分地動云々。○庭之梅枝三、禁裏へ進上、同青門へ二枝、長橋局へ一枝進候了。○花山院より誘引にて、四條、甘露寺、予同道、北野社、聖天等へ參候了。花山院明朝朝飯可持來之由候了。○外様之番飛鳥井代、參、御修法爲聽聞着朝衣參内、相番四條中將同朝衣也、内々番衆右大辨宰相一身也、梶井宮後夜爲御聽聞、御方御所御學問所に御逗留、仍予御宿直申候了、今夜初夜、二座、中夜三座、候了、中夜御聽聞也、予同聽聞候了、其後又御學問所に御宿直候了。○安居院之本止觀、今朝申出候、使彌七、有之間則遣候了。○澤路隼人佐來、廿三日、丙申、雨下、晚天晴。○中御門へ罷向、暫雜談候了、夜又罷向、月待也、予陰陽頭、有春朝臣、治部又四郎、嚴藏主、下笠又次郎、與七等音曲候了、内々へ柳原之北向、官務西向等被來候了。○從禁裏明後日御法樂御會に可參之由候了。○今朝花山院へ可罷向之處、四條、甘露寺所勞、云々、仍故障候了。

之汗候了、四條父子、予、藏人修理權亮等也、耐繪候了、又攝取院へ罷向一盃候了、甘露寺庭にて柿木一本繼候了。○青門へそと參候了、又伏見殿宮御方へ祇候、又中院へ罷向、麴而罷歸候了、夕方四條所にて柿一本、梅一本、繼候了。廿五日、戊戌、天晴。○庭梅枝若宮御方、四條、北隣、中御門、藤三位父子、持明院等へ入見參候了、前新内侍殿へ一枝、三條宰相中將一枝、禁大所へ一枝等也。○御法樂之御會に四時分參内、御人數帥大納言、四條大納言、甘露寺中納言、萬里小路中納言、源中納言、三條宰相中將、範久朝臣、下官執筆也、御製御發句、さきさかす心や花の都人、○八時分御湯漬候了、御連歌以後廿首御當座候了、三條宰相中將被讀上候了、其後又一盃、各四時分退出候了。○今日御月次歌今朝持參、藤三位に談合、郭公稀、隣紅葉、述懷、たまさかのた、一こゑはむら雨の行衛もつらき山ほとゝきす

へたてなき色をかはして里つゝき隣とみるも庭の紅葉葉あかすのみ又もみてしか梅さきて月かすむ夜の春の曙御當座二首、苗代水、待忘戀、いく春もしつか門田にひくしめのいまそ思ふ忍ふといひし言の葉は忘る、草の種にや有けん○今日當番其間々祇候、範久朝臣御添番に祇候也、此邊盜人可入之由風聞、御用身也、廿六日、己亥、天晴。○中御門へ罷向、時に金光院被來、暫雜談候了。○御添番に可祇候之由有之間、則參、帥卿、予兩人也、外様番衆中御門宣治、一身也。○中御門、平野預同道來臨、雙紙々此方にうたれ候了。廿七日、庚子、天晴。○今日中御門紙うたれ候了。○四時分日本紀講尺に參候了、事外他人數也、飛鳥井同道、伏

見殿へ參候了、麴而退出候了。○皆明寺來臨、雜教經校合候了、餅にて茶を勸候了。○勘解由小路宮内卿亭へ罷向、暫雜談候了。○中御門へ暮々罷向、甘露寺被來候了、四時分迄雜談、一盃有之。○明日料とて、澤路筑後入道十疋持參、云々、廿八日、辛丑、雨下。○今日祖父忌月之間、僧良胤時に到、相伴候了。○四條より可參之由候間罷向處、多武峯寺告文使に中將下向、云々、就其予可同道之由被申候、不具之由申候了、資直卿同來候了、彼間之儀種々被申候了、草餅にて一盃候了。○中御門へ罷向、暮々歸宅候了。廿九日、壬寅、天晴。○飛鳥井へ罷向、數刻雜談候了、又西專庵へ罷向、暫雜談候了、昨日より所勞之様候。○四條へ罷向、蜜柑木繼候了。卅日、癸卯、天晴。○中御門へ罷向暫雜談、平野預來談候了。○七時分當番之間參内、則參御前、御三、暫御雜談共申候了、四條中將告文使之事、驚召思候由候了、羽林彼

使之事、何年例哉不審之由候了、今日内々予一身也、鷺尾前中納言歡樂、云々、四辻前大納言從舊冬依所勞不參、今日始而出仕也、○來月三日關鷄催廻文候了、如此、

宿紙拂底之間、内々令申候也、

來月三日關鷄三羽、如例年可令持參給旨被仰候、可得御意候也、

二月廿九日

以 緒

頭辨殿、奉、頭中將殿、奉、四條中將殿、奉、内藏頭殿、奉、菅少納言殿、在國之間可、小倉中將殿、奉、大内記殿、奉、中院少將殿、奉、藏人辨殿、奉、四辻少將殿、奉、左兵衛佐殿、奉、飛鳥井侍從殿、奉、持明院侍從殿、奉、藏人殿、奉、菅藏人殿、奉、新藏人殿、奉、

○三月大

一日、甲辰、天晴、○北隣北向、伊勢物語校合之事、昨日被申候間罷向一校候了、○今日日本紀講尺可參之處、依所勞□□間不參、○中御門へ罷向、雙紙紙折てこち候了、

先六冊結候了、夕飯取寄賞翫候、鮎繪候了、○御祝に參候、被參輩帥大納言、四辻前大納言、萬里小路中納言、源中納言、三條宰相中將、左大辨宰相、兼秀朝臣、予等也、○予者其間々外様に臥候了、番衆小倉中將公右朝臣、子公松計也、内々帥卿一身也、○從大宅郷御供大寺二膳、今日之分、三膳上候了、目出候了、

二日、乙巳、天晴、○中御門へ罷向、暫雜談候了、甘露寺へ罷向、栗柿三本、繼了、亭主青門へ蒙求之講尺に被參、云云、一盞候了、又攝取院へ罷向、雜談候了、○外様番に參候、四條中將、予飛鳥井代、兩人也、内々右大辨宰相一身也、

三日、丙午、天晴、戊刻小雨、○今朝關鷄見物候、九番有之、予鳥者如例年從野村持來、被參候輩頭中將、公敘朝臣、予、橋以緒等也、○伏見殿へ參、關鷄見物、被參輩四條中將、予、大内記、長雅朝臣、左兵衛佐、資雄、庭之息兒等也、雖而退出候了、○於大所伊與局中酒相伴一盞候了、○右京亮、軍人佐、彦三郎、大澤彦兵衛、竹壽、五郎右衛門禮に

來、○西川對馬入道禮に來、對面、多武峯事種々申候

了、又甘露寺禮に來儀、兩人々盃出候了、盛秋禮に來候了、○勸修寺に晚氣汗有之、飯持て罷向、三條大納言、頭辨、予等也、鯨之汁也、鮎繪雉等有之、皆明寺中酒相伴也、○中御門、柳原、萬里小路、青門、准后、逍遙院等へ禮に罷向候了、○晚天御祝參候、被參候輩帥大納言、四辻前大納言、權大納言、甘露寺中納言、三條宰相中將、新三位、延久朔、十月廿七日上陸、公敘朝臣、予、惟房、季遠等也、季遠歡樂以後始而祇候也、○御局々へ御禮申候了、其間々祇候候了、今夜之番衆權大納言、新三位、惟房等也、○今日此方祝如常、○深草土器如例六百持來候了、

四日、丁未、天晴、○飛鳥井へ罷向、數刻雜談、此間内務所勞散々式候由候、甘露寺に晚飯之汁有之、云々、仍歸路同道候了、○萬里小路へ少用之事有之間罷向、暫雜談候了、○伏見殿へ參、萬松、菊亭御象某有之、○中御門へ罷向、被申候事有之間、萬里小路へ罷向、夜入歸候

了、今夜其間々中御門に臥候了、

五日、戊申、天晴、○種善軒來臨、暫雜談、非時申付候了、○伏見殿に御鞠有之、予持參、御人數青門、梨門、宮御方、予等也、後に三條大納言、皆明寺、右少辨等被參候了、○種善軒、中御門、予北隣にて一盞有之、又中御門へ各罷向、其間々臥候了、○今日當番帥卿へ相轉申候了、

六日、己酉、天晴、○九時分帥卿代に參、御雙紙殘書寫候了、七時分參御前、暫御雜談申候了、晚景供御跡頂候了、今日予一身也、外様中御門宣治、一身也、○今日暮暮鷺尾前中納言隆康、逝去、云々、言語道斷次第也、去月末より疫病、云々、一跡斷絶、彌一家之零落、愁傷愁傷、

七日、庚戌、雨下、○日蓮宗打廻、云々、仍中御門、吉田侍從同道候て見物、三條京極にて見物、一萬計有之、馬上四百餘騎、云々、悉地下人也、兵具以下鷺目物也、雨下之間少々歸候了、○中御門へ罷向、雙紙結切候了、夕方

汁候了、

八日、辛亥、天晴、○中御門へ罷向、甘露寺被參、一盞候了、○外様番高倉代に參、予一身也、

九日、壬子、天晴、中御門母去夜より所勞、云々、罷向見舞候了、○盜人之沙汰候間、北門役所之人數加増之事申付候處、山科七郷之民等依雜説、出京迷惑之由申候、然共堅申候條、今日より兩三人加増之由申候間、長橋局へ參申入候、次中御門辨官所望之事に被仰事候、委可申聞之旨被仰出候了、○松田八郎左衛門入道暮々來、暫雜談、誘引候間同道、佛陀寺之良胤所へ罷向、田樂にて一盞候、四時分歸宅、○飛鳥井へ罷向、數刻雜談、一盞候了、所勞むさにて無興之由候了、

十日、癸丑、天晴、○東坊城長澤朝臣、從豊後上洛、云々、仍四時分爲向四條邊迄罷下、同頭辨被下候、歸路同道也、可然體也、珍重々々、近邊木屋藥師堂にて各々一盞候了、○萬里小路へそと罷向、就來十七日春日祭之儀、聊申事候了、○當番之間、八過時分參内、御雙紙殘書

寫候了、青門、竹内殿、右大辨宰相等被參、御見候了、暮暮參御前、暫雜談候了、中御門辨官事御返事直に申入候了、今日予一身也、

十一日、甲寅、○今朝早々參御前、御學問所、辨官之儀頭辨に可尋之由被仰候、則退出、廣橋へ罷向、仰之趣申合候、御返事之様資雄、宣治辨官所望之事被仰下候、未練之事候間、何とも無分別候、舊例超越上首補辨官事有無難申、或廷尉佐、或勘解由次官等勞、或依庶嫡、超上首補辨官候事連綿候、其外者超越之儀無覺語候、但資雄拜賀之事難成候間、叡慮次第、云々、雖然不便之儀也、又宣治者就不被補辨官者、職事計者故障之由堅申候、所存有之間辨官所望、云々、所詮左大辨宰相雖爲在國、以大辨勞納言事御免候て、兩人被補辨官候者可然之由被申候、則歸宅、○日本紀御講尺に青門へ參候了、又從伏見殿可參之由候間則參候、來十九日故入道安養院尊儀、御一廻之間、十八日に直に可參之由申入候、必々可參之由被仰候了、○八過時分着朝衣參内、則參

御前、御三問、頭辨御返事之様申入候了、其外種々暫御雜談申候了、○暮々飛鳥井へ罷向、所勞いまた散々由被申候、暫雜談、夜四過時分歸宅候了、誓願寺迄被送候了、

十二日、乙卯、天晴、○大澤長門守當年始而禮に來候了、○長橋へ御用候て參候了、○亡父忌日之間、常樂寺之僧正舜時に來、予相伴、○青門、伏見殿へそと參候了、○暮々外様之番飛鳥井代、參候了、相番四條中將、予兩人也、

十三日、丙辰、天晴、○後白川院御正月之間、法住院へ參、着衣冠御陪膳仕候了、則退出、次妙法院へ御禮に參、御對面、暫御雜談申候了、先之小松谷へ罷向、一盞候了、次建仁寺種善軒へ罷向、又二條殿へ准宮之御禮に參候、御對面、暫御雜談申候了、一盞候了、○中御門へ罷向、東坊城被居候、暫雜談、冷麵にて一盞候了、○明後日禁裏聖天御法樂可祇候之由廻文候了、十四日、丁巳、天晴、○從萬里小路使有之、少用事之候間、

則罷向申候了、又伏見殿、青門へも參候了、○飛鳥井へ罷向、數刻雜談、所勞散々式也、○今日飛鳥井冬袍萬里小路借用也、來十七日之料也、予演説、○自今日當番結改番始之間、暮々參内、相番田向、伯卿等也、何も參、予一身也、則參御前、御三問、四時分迄御雜談申候了、

十五日、戊午、天晴、○勸修寺右大辨宰相今朝奏事始也、仍予冬袍借用則遣候、衣紋之事被申候間、彼局へ罷向させ候了、申次無之間、早々可參之由候間、又着朝衣參候了、○五過時分御會に參、聖天御法樂也、百韻言也から一字露顯也、發句、管中納言也、八時分長橋局にて小漬候了、五時分退出候了、

十六日、己未、天晴、○少用之事候て、長橋局迄參候了、彼局も明日南都へ下向也、○東坊城へ直垂、同鳥帽子、小袴借用候了、烏帽子、直垂者大内記方へ遣、伏見にて來十日着用之料也、○夕方より萬里小路へ罷向候て宿候了、明日春日祭上卿下向、未明之間如此候了、

十七日、庚申、時々小雨下、夜入深明、土用入、○曉天七時分、從飛鳥井使有之、南良之御師方へ之言傳代二十疋被言傳候、心得候由申候了、使安田彌七也、○長橋萬里小路與、予馬、七時分出門、法性寺にて夜明候、亭にて晝飯候了、きつゝの濱にて長橋へ御盃被參候、予御酌申候了、各共衆にも一盞候了、亭迄從南都之迎來候了、七時分南都へ下着候了、新藥師與、神主、萬里小路御師也、長橋者忍之間、てんかいに被打付候了、○今日京都堀出燒亡、云々、其馳走之間、親のかたきとて野カ討人、云々、仍上下人數羣集取合、數十人蒙疵、剩當座に十餘人死、云々、三所にて鍵有之、云々、

十八日、辛酉、雨下、九時分、子寅一點行水、上卿着束帶子衣、社參、家賢同道也、予直垂にて同道、深雨之間路次取笠、先上卿着祓戸座、雨下之間懸襦、宮司申祝、大麻懸上卿笏、上卿氣色脫カ次、撤之、次上卿起座、次上卿着着到殿座、次外記着座、史不參也、上卿目、自下臈起座、次上卿入藤鳥井、於慶賀門下懸襦、撤帶劔手洗、次舞殿

直會殿作合に逗留、次神主先大鷹を敷、上卿神主進て卦御棚、二三四五次第に社司卦之、次上卿引襦着座、雨儀之間内に敷之、次神馬を引、次兩段再拜、次神主來取幣、次歸出て拍手、上卿帶之、次上卿起座帶劔、直會殿に着座、勸盃三獻如常次、上卿催六和舞、髮木綿懸之、次上卿召史見參、次見參持參、上卿覽之則被返、次上卿起座、次若宮へ社參如常候了、○於奥所朝飯有之、同昨夕候了、神主二月堂牛王與予、○予洞院に罷向見參、次修南院へ罷向見參、一盞候了、四時分上洛、於亭晝飯候了、木幡より予者直に伏見へ參、伏見より迎兩人來候了、大通院へ參候處、大光明寺風呂有之、仍參風呂、伏見殿、梶井宮、萬松、其外皆々祇候也、○於大通院悲カ時有之、次一獻候了、○今日粟津公事殘二十疋出、云々、一貫二百計未進、

候了、八時分大光明寺へ渡御、御燒香候了、二獻御盃參候了、先之御陵へ御參、御燒香候了、次般舟三昧院にて御燒香、次寶嚴院にて御燒香候了、次還御、伏見殿、梶井殿、萬松、源中納言等御與也、予、長雅朝臣兩人馬也、予迎大澤彦兵衛、松千代、彦右衛門等來候了、

○中御門へ罷向、則歸宅候了、○今日當番不參也、廿日、癸亥、天晴、土用、八專、○從越前老母姉上洛也、覺勝院同道也、迎に罷向、遅々候て今出川にて相候了、○飛鳥井、廣橋へ罷向、暫雜談、南都より言傳申候了、○中御門に晚飯有之、越前之人々振舞也、みやけとて二十疋與予也、○從萬里小路石帶、笠袋被返候、予太刀、直垂同被返候了、

廿一日、甲子、小雨、下、土用、○萬里小路、薄等へ罷向、暫雜談候了、廿二日、乙丑、天晴、小、雨下、土用、○皆明寺來儀、暫雜談候了、○中御門へ罷向、暫雜談、晚飯持て中酒候了、○宮内卿在富、上、來廿六日美濃へ泰山府君に下向とて借借用、遣了、同指貫大帷借用候了、○外様番飛鳥井雅編、代祇候

候了、相番四條中將也、○明後日禁裏内々申沙汰、云云、從長橋局廻文有之、

廿三日、丙寅、晴、○早々從禁裏可祇候之由候間、從外様直に祇候、明日之申沙汰に、流谷し、屋致祇候音曲有之、云云、仍かこい等見つくり可申付、云々、常御所御庇へ被召被仰付候了、又御三間へ祇候、暫雜談候了、八過時分退出候了、○從松尾社、務袍指貫借用之間、次之を遣了、

廿四日、丁卯、小雨、生栗一折、○今日禁裏内々申沙汰有之、仍兩種調、土器物、一樽進上候、九時分參内、被參候輩御所々々、准后、大聖寺殿、南御所、伏見殿、青蓮院宮、梶井宮、曼殊院宮、二位局、三位局等也、帥大納言、四辻前大納言、權大納言、甘露寺中納言、萬里小路中納言、源中納言、三條宰相中將、右大辨宰相、新三位、兼秀朝臣、下官、長雅朝臣、藤原氏直、菅原在忠等也、女中皆御出座、乍去御陪膳無之、仍三條宰相中將勤之、御所々々、御前予、長雅朝臣兩人勤之、御ひさけ等沙汰之、各八

過時分參集、則澁谷祇候、以上十四人にてうたい候了、夜五時分罷出、七獻計敷、四過時分各退出候了、御三間にて有之、うたい黒戸跡也、○今日予當番一身也、但甘露寺中納言、菅原在忠兩人其間々祇候也、○今朝早々飛鳥井へ罷向、暫雜談候了、

廿五日、戊辰、天晴、土用 ○中御門へ罷向、暫雜談候了、○勘解由小路所へ罷向、暫雜談一盞候了、明日濃州へ泰山府君に下向、云々、仍大帷、杏、指貫三種借用之間遣之、

廿六日、己巳、天晴、土用 ○中御門へ罷向、暫雜談候了、○樂所之事に長橋迄參候了、又大典侍とのへも參候了、廿七日、庚午、天晴、土用 ○飛鳥井へ罷向、暫雜談、淵田與三郎來、暫うたい候了、速水兵部丞小鼓也、一盞候了、○鷹司殿御方御所、去廿三日被任右大將之間、爲御禮參候、御兩所御對面也、○四辻所へ罷向、少將常照院□□今下山、云々、一盞候了、景通、久泰等來候了、○松田八郎左衛門入道來、暫雜談、晚飯相伴候了、

廿八日、辛未、天晴 ○暮々御用之事有之、早々可參之由候間、則參内、參御前之處、新三位兩人、多武峯事御使之御用也、甘露寺中納言、萬里小路中納言、右大辨宰相、頭辨、□長橋局へ被參候了、再三披露、重而九條殿可被仰出之由にて、各退出候了、○別殿行幸也、天酌にて一盞、權大納言、頭辨、予也、今夜予外様番永家參候了、但内々に臥候也、内々番衆權大納言、頭辨兩人也、○與より織田兵部丞見やけとて、美濃紙一束、包丁一樽與之、祝着々々、○松田入道今日も來臨候了、廿九日、壬申、天晴、土用 今朝早々又參御前、景範公事之事被仰了、○攝取院此方へ方違に被參、壺隨身也、老母同越前之使來臨候了、卅日、癸酉、天晴、土用 ○晝御會之間、九時分參内、七過時分各參集、御人數御製、帥大納言、四辻前大納言、甘露寺中納言、萬里小路中納言、三條宰相中將、新三位、下官、季遠等也、卅首勅題也、秉燭之時分出來、予讀上了、予和歌帥卿に談合、二首、牆上藤、暮山躑躅、

ゆかりある色をみせつゝ、中牆の

へたてもわかすさける藤波

ゆふ日影うつろふ山の紅に

又色そへてさくつゝしかな

於番衆所土器物にて一盞候了、則各退出、予者番之間、其間々祇候候了、右大辨宰相昨日に相轉候了、○禁裏御雙紙節會次第、今日終寫功進上候了、○從大宅郷柴一荷到、同殿一荷到、

○四月小

一日、甲戌、天晴 ○治部又四郎、高橋若狹守、久泰、景範、修理權亮、大澤彦兵衛、澤路隼人佐、同右京亮、井上五郎右衛門等禮に來、織田兵部丞來、○伏見殿、准后、若宮御方、青門、三條西、萬里小路、中院、飛鳥井、徳大寺、廣橋、中御門、藤三位等へ禮に罷向候了、○從大宅郷殿一荷到候了、○暮々御祝に參内、被參候輩四辻前大納言、權大納言、甘露寺中納言、三條宰相中納言、滋野井宰相中將、右大辨宰相、頭中將、予、長淳朝臣、季遠

等也、○予者伏見殿へ參臥候了、

二日、乙亥、○以下缺文

○七月小

一日、壬寅、曇、晚天、雨下、土用 ○今夜當番一身也、退出之次、二條大納言亭へ罷向見參、七夕御樂參勤之事申候、不具之由被申候、則參内、其由申候了、伏見殿へそと參候了、○四條中將、藤三位、同藏人、東坊城、中御門、西川入道、山井安藝守、豊越中守等禮に來儀、○飛鳥井、甘露寺、逍遙院、准后、萬里小路、宮内卿、藤三位、四條、坊城、中御門、柳原等へ禮に罷向候了、○東坊城來臨、肩衣、湯帷、帶等被送之、明日在國之故也、○御祝に暮々參内、被參候輩四辻前大納言、甘露寺中納言、源中納言、三條宰相中將、新三位、予、諸仲朝臣、長淳朝臣、季遠朝臣等也、御祝以後於大所一盞有之、四辻父子、予計也、今夜爲帥卿番代祇候候了、來十四日に相轉、自禁裏明日在國之用とて、薰物五具、拜領、過分、○中御門薰三具、被送、祝着候了、

二日、突卯、晴、曉天○伏見殿へ御暇乞に祇候候了、後鳥羽院御當座之御懷紙一座、拜領、并後伏見院、後花園院御書○中御門、四條、坊城、藤三位、柳原、宮内卿所へ暇乞に罷向候了、○老母、西專庵朝飯に被來候了、○德大寺へ罷向見參、○飛鳥井へ罷向、藏人來、三人令同道坂本へ下候了、尾州へ下向也、四過時分出門、東坊小原辻迄被送候了、予打送大澤彦兵衛、豊越中守、坂田竹千世、澤路右京亮、同隼人佐、同彦三郎、井上五郎右衛門、松千代等也、白川より返之、予共雜紙カ與三郎一人也、七時分坂本宿善養坊へ付候了、則風呂へ入臥候了、三日、甲辰、晴、土用○執當來、見參、打輪借用候了、○四時分立、へいつしより乗船、之取へ上候了、守山之内守善寺と云時衆所にて湯汗候了、從江州馬三疋來、飛、予、藏人乗候了、江州むさの長光寺に一宿候了、伊川能登守、沼田彌五郎被來候了、四日、乙巳、晴、土用○人夫不調候間、長光寺に逗留候了、五日、丙午、天晴、土用○馬三疋、人夫等來、四時分立候了、九

過時分に山上へ付候了、所々見物驚目候了、永源寺、含空院、退藏寺方々見物、各の宿雄相庵と云々、○今朝於長光寺慈善とくり持來候了、六日、丁未、天晴、夜、入雨下、土用○今日五時分立、はつふたうけを越候了、九里皆坂也、一段之坂也、八過時分伊勢國梅戸城へ付候了、小庵に一宿候了、七日、戊申、天晴、土用終○今日五時分旅家を立候了、送馬三疋有之、三人乘了、八時分に桑名之津へ付候了、今日可乘舟處、鹽時惡候間逗留候了、八日、己酉、天晴、五里餘○今日五時分立桑名乘舟、八時分に尾張國津島へ付候了、則自飛鳥井織田三郎方へ速水兵部被遣候、雖而織田大膳使に來、七過時分同三郎迎とて來、則彼館へ罷向、馬に乗、三郎不乘、跡に來候了、夜半時分冷麵すい物等にて一盞候了、自飛鳥馬太刀被遣了、則城之内新造に移候了、未徙移之所也、驚目候了、九日、庚戌、天晴○朝飯之内に織田三郎、同名右近來見舞候

了、暫雜談候了、晚天鞠張行、人數飛鳥井、予、藏人、朝子三郎、右近、速水兵部丞等也、見物之人數之數百人有之、八過時分始、七時分迄候了、先歸宅行水候、晚飯三郎所に用意、夜入汁六、中酒以後風呂へ入、其間々歸宅候了、十日、辛亥、天晴○朝飯以前より右近來候了、九過時分迄雜談、又々三郎來談、伴ばんの九郎兵衛禮を申候了、飛鳥八時分三郎城へ被罷向候了、雖而同名十郎左衛門使にて、予、藏人兩人可參、云々、則同道候て罷向、冷麵にて一盞候了、則雜具召寄鞠有之、人數飛、予、藏人、三郎、右近、速水、成田、伴ばんの九郎兵衛等也、成田者濃州之仁と云々、昨日禮太刀、申候了、則歸宅候了、行水候了、夜入晚飯候了、十一日、壬子、天晴、八專、入夜入夕立○八時分織田右近來、冷麵候了、三郎者去年和談以後、始而織田大和守方へ同名與二郎出頭、云々、仍罷向、云々、○織田兵部丞女相煩とて、朝飯以後藏人清洲へ罷向、兵部方へ者先皇勅筆、

女房方へ薰物三具、勅作、言傳遣候了、十二日、癸丑、天晴、八專○三郎、右近尉等來候了、七時分鞠始候了、織田大和守禮に來候、於懸被見參候、鞠人數飛鳥、予、大和守、速水兵部丞、織田三郎、同右近、成田等也、暮々大和守禮に來、太刀、糸卷、予にも太刀送候了、祝著々々、則以速水禮被申候、予も言傳候了、十三日、甲寅、天晴、八專、夜雨下○藏人四過時分に被歸候了、○織田大膳亮定信飛鳥の門弟に成候了、太刀、糸卷、二百疋出候了、三郎も來候了、八過時分風呂へ呼候間、乍三人罷向候了、則歸候了、右近者蟲氣、云々、十四日、乙卯、天晴、八專○朝飯之時分、織田三郎信秀、來、今日盆之料とて飛へ百疋、予、藏人兩人へ五十疋つ、持て送候了、速水に三十疋、云々、又近所之寺にて施餓鬼申付候、僧衆十餘人、淨土宗也、三人罷向燒香候了、又於此方棚用意水向候了、○夜柱松と申事見物候了、一興候了、十五日、丙辰、晴、四九八、時分夕立、晚晴○九時分蓮飯祝候了、○瀧川彦

九郎勝景飛鳥の門弟に成候了、太刀、糸、二百疋持來、云々、沓迄云々、晚天水向候了、夜入構橋上にて月見候、三郎同道、盃出酒候了、音曲等有之、○京都へ書狀調候て上候、

十六日、丁巳、天晴、八專、八時分夕立 ○花井又次郎源元信飛鳥門弟に成候、太刀、糸、二百疋持來、沓迄云々、矢野石見守寛倫同門弟に成候了、太刀以下同前 ○三郎來、飛鳥城へ同道候了、予、藏人可來之由使有之、兩人罷向、切麴にて一盞候了、○三郎に勅筆、二枚、青門御筆一枚、詩歌を遣候了、

十七日、戊午、晴、八專 ○三郎見舞則歸候了、七時分飛鳥、予兩人近所一見候了、路次にて右近に逢候了、則歸候了、麴而右近來、瓜食籠とくり等隨身、一盞有之、又三郎庭にて一足鞠あり、皆異體也、人數飛鳥、予、藏人、三郎、速水、右近、成田、花井又次郎等也、

十八日、己未、天晴、八專 ○青門御筆之詩歌二枚、十一歳織田虎千代三郎與力遣候了、則禮とて來、自愛々々、○矢野石見守、衛武

直近、予、藏人兩人に禮とて來、太刀糸、持參候、見參候了、三郎、右近、大膳皆々來候了、晚天鞠有之、人數飛鳥、予、藏人、織田三郎、速水兵部丞、矢野石見守、織田右近尉、同大膳亮、瀧川彦九郎、花井又次郎、成田等也、○伴九郎兵衛尉門弟に成、云々、太刀、糸、二百疋持參、云々、

十九日、庚申、天晴、八專 ○八時分平手中務丞方よりとくり到、則一盞有之、右近衛、三郎來、晚景鞠有之、人數飛鳥、予、藏人、三郎、速水、右近、花井又次郎、成田、伴九郎兵衛、瀧川彦九郎等也、○初夜時分風流有之、可來之由使有之、三人罷向、種々入破四五番有之、三郎弟虎千代大鼓打候了、其外少人共舞候、自愛々々、○

庚申に七時迄候了、少將基をさし候了、
廿日、辛酉、天晴、夜入雨下 ○今朝朝飯平手中務丞所有之、各罷向候了、三人ながら太刀遣候了、種々造作驚目候了、數寄之座敷一段也、盃出、八過時分迄酒候了、音曲有之、中務次男七歳、大鼓打候、牟藤息七歳、大つ、み打候、自愛

自愛驚耳目候、笛者津島之物とて來候、十二歳之物也、何も奇特之事也、

廿一日、壬戌、晴、八專 ○織田三郎、同右近來候、見舞候了、○織田右衛門尉達順、蹴鞠門弟に成、云々、太刀、持、三百疋持來、同孫左門尉信吉、同時太刀、糸、二百疋持來、乍兩人沓迄也、右衛門尉、予、藏人兩人にも太刀糸、にて禮申候、對面候了、○虎千代、藏人方へ食籠とくり持來見物、一盞候了、○晚天鞠有之、異體也、人數飛鳥、予、藏人、三郎、速水兵部、織田右衛門尉、成田左京

亮、織田右近尉、同孫左衛門尉、花井又次郎、伴九郎兵衛尉、瀧川彦九郎等也、
廿二日、癸亥、天晴、土岐被官長井藤左衛門與力、八專終 ○成田左京亮明日濃州へ歸宅とて來、飛對面候了、○織田右近、同大膳亮、同孫左衛門等來候了、晚景鞠有之、烏帽子也、上者飛鳥之黒、借給候、人數飛、予、藏人、三郎、兵部、織田右衛門尉、同右近、同孫左衛門、花井又次郎、伴九郎兵衛、瀧川彦九郎等也、

廿三日、甲子、天晴 ○今日三郎亭にて和歌會有之、予和歌飛鳥へ談合、二首懷紙也、早秋風、社頭祝、秋來ぬといふはかりにそきのふけふ
ちよや軒端の萩のうはかせ
みかさやま四の社の影やすく
おさまれる世は神のまに〜
人數飛鳥、予、藏人、織田三郎、信秀、同右衛門尉達順、釋安心、日蓮矢野石見守三善寛倫、さいか右京進三善定直、省方、速水兵部丞平親忠、沙彌周徳、齋藤加賀守勝秀、織田十郎右衛門尉頼秀、同右近尉光清、小勢修理橋秀實、伴九郎兵衛尉伴兼久、牟藤掃部助平任貞等也、講頌有之、讀師飛鳥、兼、發聲講師兵部丞親忠、飛之歌、子發下讀師予沙汰候了、次冷麴、すい物にて一盞有之、在名なこや次歸宅候了、○今川竹王丸蹴鞠門弟に被成候、太刀、糸、三百疋被持來候、沓迄也、織田與三郎達種、右近同門弟に成候、太刀、同、二百疋、平手助次郎勝秀、同前、○晚天鞠有之、人數飛、予、藏人、那古屋十二歳今川竹王丸、三郎、兵部

丞、織田右衛門尉、同右近尉、同孫左衛門尉、花井又次郎、瀧川彦九郎、伴九郎兵衛尉等也、竹王丸自愛々々、各有恐者也、奇特神妙々々、○會以前に安心、日蓮、周徳扇代正二十さいか右京、齋藤加賀守、織田十郎右衛門尉、小勢修理、牟藤掃部、飛鳥へ太刀糸、にて禮申候了、廿四日、乙丑、曇、○四過時分三郎鷹野へ出候、飛鳥、予、藏人各同道候了、へきの八幡にて津島之鱒、右近湯漬振舞候了、津島之天王見物、暮々歸宅候了、雲雀四十餘取候了、

廿五日、丙寅、曇、○織田兵部丞息女煩とて、早々藏人清洲へ越候了、○一昨日鞠遅候間、不被申開候間、今川竹王丸、織田與三郎、平手助次郎來候了、又矢野善十郎石見守、同門弟に成候了、太刀、糸、二百疋持來候了、又歌道門弟に成候とて太刀出候了、○右近來、城へ同道暫候了、三郎又此方へ同道、一時計雜談候了、晚天藏人歸宅、○八境圖十一枚予沙汰候了、飛被誂候了、○晚景鞠有之、人數飛鳥、予、竹王丸、織田三郎、速水

兵部、矢野善十郎、織田大膳亮、同右近尉、同與三郎、花井又次郎、平手助次郎等也、廿六日、丁卯、天晴、○晚天鞠有之、人數飛鳥、予、藏、竹王丸、織田三郎、速水兵部丞、織田右衛門尉、同右近、同大膳亮、矢野善十郎、織田孫左衛門、花井又次郎、伴九郎兵衛、瀧川彦九郎等也、○渡邊玄蕃助和脱カ蹴鞠門弟に成候、太刀、馬一疋、五百疋持來候了、杵葛袴迄也、廿七日、戊辰、天晴、○竹王丸被來候、飛鳥教訓有之、○朝鞠有之、渡邊玄蕃望也、人數飛鳥、予、藏人、竹王丸、織田三郎、速水兵部丞、渡邊玄蕃助、織田右衛門尉、同右近、花井又次郎等也、○平手中務庭用意也、口切立申付候とて飛鳥被行候、○林新五郎秀貞道之門弟に成候了、太刀、糸、二百疋持來候了、父八郎左衛門代歟、○三郎來、飛鳥へ三千疋、予、藏人兩人に二百疋つ、速水同歟、折紙出候、安田彌七、石千代、伊藤行事官等に白帷遣候了、○切麵にて一盞候了、○三郎所、今川竹王丸所へ三人暇乞罷向、則來、虎千代同之、

○七時分より清すへ罷向、暮々付候、道三里也、皆々馬也、乘馬衆飛鳥、予、藏人、速水兵部、安田彌七、織田三郎、同右近、同右膳、矢野善十郎、小原左京進、穴孫右京亮等也、則織田大和守城之近所法華堂へ移候了、大和守則來、初夜時分晚飯出來、則大和守、三郎皆々歸宅、織田丹波守馳走也、

廿八日、己巳、天晴、辰、○大和守來候、則歸宅、三郎來、暫雜談候了、九時分朝飯候了、○千秋左近將監季通奉公千秋、庶子熱田、神人、歟鞠道之門弟に成候了、太刀、糸、二百疋持來候了、○渡邊弟林光院と云物、歌道之門弟に成、云々、百疋持來、云々、内之物千賀又四郎同來候了、○大和守方より使同名丹波、有之、明日乍三人朝飯に可來、云々、○切麵有之、○六時分飛鳥雜色四郎右衛門遠行也、廿四日より所勞也、不便々々、勝幡に殘候了、跡之事平手申付、云々、○織田兵部女七歳、遠行、云々、不便云々、廿九日、庚午、天晴、○織田三郎來、大和守所へ八時分同道、朝飯有之、雖而鞠有之、人數飛鳥、予、藏人、織田大和

守、同三郎、同右近、同大膳、速水兵部、毛利十郎、千秋將監、伴九郎兵衛、矢野善十郎等也、鞠以後則歸宅、○冷麵暮々有之、○渡邊所より馬來、鹿毛也、尺歟、○八月大天文二一日、辛未、天晴、午未時雨、下、日餘午未之時、○八時分織田大和守禮に來、飛、予、藏に太刀にて禮申候了、毛利彦九郎飛へ太刀にて禮申候了、○九過時分冷麵有之、○暮々坂井攝津守、矢野石見守、赤木對馬守禮に來候了、妙心寺之學首座在國とて、予を尋て來、對面、暫雜談候了、○七時分大和守所へ、從飛鳥速水を禮に被遣候、太刀、予、藏人も言傳、同太刀遣候了、二日、壬申、天晴、○今朝織田大和守所に朝飯有之、八時分に罷向、相伴之衆飛鳥、予、大和守、速水兵部、織田右衛門尉、矢野石見守等也、藏人依所勞不能候、晚天鞠有之、人數飛鳥、予、大和守、速水、右衛門尉、毛利十郎、矢野石見守等也、厥后行水、次盞出候、冷麵すい物にて一盞候了、六過時分歸宅候了、各送候了、

三日、癸酉、天晴、○篠田入道安盛歌道爲門弟、百疋持來、云云、矢野石見守同道候了、織田丹波守、矢野石見守、坂井攝津守、毛利十郎等來候了、○帷布、鞠上之布越後、代八十疋、織田兵部方へ遣了、詔候了、
 四日、甲戌、天晴、晚天雨下、○織田監物尉、大和守弟也、同子、同勘解由右衛門尉等、飛へ太刀糸、にて禮申候了、○勸進大房、兩三人同道にて罷向、大和守以下各來候了、其後大和守所にて鞠有之、人數飛、子、藏人、大和守、速水、矢野石見、織田右衛門尉、毛利十郎等也、右近茶、乍去依所勞早歸候了、鞠以後行水、切麵にて一盞候了、
 五日、丁亥、天晴、○帷布來、同本遣裁事申遣了、○名古屋又七、蹴鞠門弟に成候了、太刀、糸、二百疋持參、云云、同坂井攝津守太刀、糸、百疋持來候了、○藏人、又次郎武衛一家、所へ朝飯罷向、云々、七時分歸宅候了、○織田大和守饅頭一鉢百計、持來、同右衛門尉、矢野石見守等來候了、○切麵候了、右衛門尉、石見守、津守、名古屋等相伴候了、○夕方風呂候了、○毛利十郎、矢野

石見守、同善十郎來、夜に入歸候了、
 六日、丙子、天晴、○出家兩三人來、歌道門弟に成候、百疋持來、云々、坂井彌助飛へ太刀糸、にて禮申候了、此方雜掌方請取、沙汰候者也、○織田三郎來、同與三郎、同大膳亮、坂井攝津守、矢野石見守、毛利十郎、那古野又七等來、赤林對馬守所より鈴物一對、食籠出候、一盞候了、○今朝小漬矢野振舞候了、○晚天鞠有之、人數飛、子、藏人、織田大和守、同三郎、速水兵部、毛利十郎、織田右衛門尉、同大膳亮、同與三郎等也、晚飯用意、其後音曲有之、飯中より飛、速水所勞、云々、
 七日、丁丑、天晴、○今日織田三郎、同名藤左衛門所へ罷向、在所之名織田井、云々、從此方一里有之、云々、去年取合以後初也、三郎爲に者伯父、云々、□□之沙汰有之、○織田三郎八過時分來候、其後毛利十郎、矢野石見守來候了、○予帷出來候了、
 八日、戊寅、曇、夜入小雨下、○三郎來見舞候了、○從矢野石州をもい沙汰候て進候、飛鳥依所勞也、又毛利十郎白粥進候了、○八時分矢野石見守、同善十郎、赤林對馬守、那古

野又七、坂井攝津守見舞來、飛鳥熱氣甚之間無見參、赤林者脈取候了、○五時分石見守呼候、藥師之事申候、法花衆同道候了、一藥進候了、毛利十郎來、暫候了、
 九日、己卯、細雨下、○飛鳥所勞に乗圓坊と云物、去夜又今朝來、時氣云々、一藥進候、○織田三郎兩三度、同大和守、同監物、同右近、同大膳亮、矢野石見守、坂井攝津守見舞來候了、○晚天麵候了、
 十日、庚辰、晴、亥刻、未刻迄大雨、○織田三郎、同右近、同大膳亮、同丹波守、同與三郎、赤林對馬守見舞に來候了、飛鳥今日者被煩候了、對馬守一藥進候、○藏人熱田へ罷向、病者有之、云々、○渡邊玄蕃助所より貝鮑、五十、荒卷廿、樽代五、飛へ進候了、書狀被遣、予書候了、
 十一日、辛巳、曇、晚天雨下、○織田右近尉來、○織田三郎、同丹波守、同孫左衛門等來候、醫者南都興福寺所院之内越中同道脈取候、則一藥進候、今日者被得減氣候、○織田監物、赤林對馬等來候了、○昨日之微物兩種、織田丹波守方へ被遣候了、○織田大和守、坂井攝津守、矢

野善十郎、毛利十郎等見舞來、○藏人晚天歸候了、○丹波守粥用意持參候了、
 十二日、壬午、晴、晚天雨下、○飛鳥去夜より又熱氣指被煩候了、○平手來、○詔候下帶到、○飛鳥之馬大和守に被遣候了、○右近、丹波終日此方之事にて、馳走也、毛利十郎、織田監物、坂井攝津守等來、越中兩三度脈に來、○夜入近所之寺にて、眼朝と云物祈禱候了、太刀等遣了、○予鞠之上染事出來候了、
 十三日、癸未、曇、晚天、終夜雨下、○三郎方より使者有之、内藤、右近來、今日減、○織田丹波守赤粥持參、各相伴候了、○大和守見舞來候、暫雜談、予、藏、大和守、朝飯相伴候了、○坂井、赤林來、はん藏主來、夕方祈禱に近所之庵へ被罷候、予、藏兩人者不罷候、
 十四日、甲申、雨下、○織田右近、赤林對馬守等來候了、從今朝藏人藥進、種々雖爲斟酌、堅被申候間進候了、○鞠之上ぞめらん二十疋卅遣候了、○織田大和守見舞來、坂井攝津守、毛利十郎等來、八時分餅善哉、予、飛、坂井、毛

利相伴候了、○織田三郎來、同平手中務丞來候了、飛鳥上洛之儀談合候了、○三郎申付、近所之庵にて、飛鳥爲祈禱大般若轉讀候了、暮々罷向候了、

十五日、乙酉、天晴、○織田三郎、同右近來、三郎、右近數度來候了、織田大和守、同監物、同丹波守、同勘解由左衛門、瀧川彦九郎、毛利十郎等來了、○丹波守方より予、藏人兩人可來、晚飯之由兩度使有之、無人之由申て斟酌候了、○戌刻丹波守赤粥持參、一口被食候了、○藏人に借用之儀二百八十返遣候了、彌七に六十疋借用、○藏人に申木綿袴誂候了、○藏人に詠遣了、月下馳狂苑留也、

思ひきやこよひ最中の秋の月

影を清すの空にみんとは 風 巢

飛鳥之鍵織田三郎に被出候了、

十六日、丙戌、天晴、暮、○右近來、此間居住之處、○本養寺之坊主白粥被振舞了、○織田大和守、同丹波守、同勘解由左衛門、赤

林對馬守、矢野善十郎、坂井攝津守等見舞に來、○從

武衛使山本大、有之、○藏人に誂候木綿袴出來、口十疋四十、云々、染事迄、○毛利十郎來、○藏人に短冊出候、先皇勅筆候題、一枚、當今勅筆、三首、逍遙院短冊五首、等也、○飛鳥今日終に被與候、被得減氣候、大慶々々、○織田與三郎に葛袴被遣了、

十七日、丁亥、雨下、○織田右近、同丹波守、毛利十郎、矢野善十郎、那古屋又七、坂井攝津守、平手中務丞來候了、○今日上洛依雨來廿日へ延引、仍大和守暇乞に來候、飛鳥へ太刀持一腰、馬一疋、栗毛印雀、五千疋進候了、予に太刀、持馬一疋、代三、百疋、藏人にも同前也、飛へ毛利花向とて二百疋進上、○從勝幡三郎方、先日之折紙錢二百疋到、○けのき十四代二十疋出來了、○木綿袴代二十疋遣了、○雜色與三郎詔言候間、二十疋遣候了、彌七に借候代八十疋返、

十八日、戊子、天晴、○平手中務丞來、此間種々馳走之間、息助次郎に葛袴被遣了、則御禮に二百疋進上候了、○織田右近尉飛へ花むけとて三百疋進候、同息與三郎百

疋進、同丹波守子息七歳、竹滿丸に、八境圖、鴨沓之免狀被遣候、圖者未遣也、○藏人、毛利十郎兩人に鞠扇被遣了、○武衛息治部大輔義統、方へ、鴨沓、葛袴、八境圖、同免狀等、以速水兵部丞被送遣了、○毛利十郎予大江敦元に毛拔數六、送候、祝着々々、○勘解小路治部大輔被來候、鞠道之門弟に被成候、太刀系、千疋持來候了、予、藏人兩人見參禮申候了、速水兵部に百疋、○織田丹波守子竹滿丸禮に來、飛鳥、予兩人に太刀系、にて禮申候、藏人には太刀代三十疋也、○赤林、坂井、矢野善十郎等來、○織田監物鞠道之門弟に成候、明日可申聞、云々、今日禮に來、太刀系、馬代三百疋、杏、葛袴に五百疋也、速水兵部に百疋等也、

十九日、己丑、天晴、○矢野善十郎勝倫、早朝來、父石見守此間所勞、云々、相煩由今曉注進、云々、仍在所へ歸候由申候て來、後花園院勅書一通、遣了、○織田大和守來、扇之指様被申聞候了、毛利十郎、右近等來、○織田監物丞廣孝、那古野又七教久來、門弟に成候了、委被申聞

候了、○坂井攝津守折紙にて禮申候了、○藏人京へ之言傳物二包來、○矢野善十郎所望之由申候間、制詞和歌、小點詞、天德歌合等書寫、毛利に預け置候了、○右近に青門被遊候三社託宣遣候、○右近饑別とて三十疋送候、祝着々々、○武衛義敦、より四辻方へ之返事來、同鞆一懸、被持給候了、立野使、○藏人者未上洛、仍今夜より他所へ罷向候了、○紙一帖廿六錢に召寄候了、○左衛門尉京都へ書狀言傳候、

廿日、庚寅、曇、酉刻、○藏人早々來候了、○織田兵部丞女房方より毛拔數十、送給候了、○織田大和守暇乞に來、道廿町計送候了、同丹波守一里計來、同右近濃州墨のまた迄到、彼在所之渡へ夜入四時分に付、舟遅候、夜半時分計に光明寺と云所へ付候了、毛利十郎、那古野又七、大和守同前、三郎、織田大膳、瀧川彦九郎道迄暇乞に來候了、○平手中務丞予に濃州紙一束、毛拔五送候、祝着々々、○藏人者清須に殘候了、○攝津守暇乞來候了、

廿一日、辛卯、雨下、八時分より晴○今日雨下之間、洲侯に逗留候了、
○朝夕之儀守護代齋藤勘解由左衛門他所候間、子息
毗沙德申付候了、晝うこん候了、○速水左京進亮太
刀にて禮申候、同太刀、肩衣、袴被遣候、飛鳥之被官
也、○其夜飛鳥云捨、織田右近贈答、又予二首、
行かへりなれてもいさやかゝる夜の

雨もうきねの旅は忘れし

飛鳥

行かへり名残の程に打そへて

雨もつらさの旅は忘れし

光清織田右近

□□□□□□□□□□ふり出て

ことはる雨もうき旅の空

予

旅そうき雨こそあらめおもはず

又川波に程をふる哉

又予

又予方へ右近、同返歌□□如此、

別行心のほそをしたひても

こよひなきにはいたつらの身や

光清

別ゆく名残はわれもありそ海の

真砂といふも何ならぬかな

予

廿二日、壬辰、天晴○朝飯以後立墨俣たるいに付候了、道六

里歟、墨俣より和田彌九郎送に来候了、速水左京亮も

来候、織田右近も来候了、

廿三日、癸巳、天晴○織田右近尉、速水左京亮、和田彌九郎、

たるいより今朝歸候了、又長井と云物送に来候了、た

るいを立て朝妻に付候了、

廿四日、甲午、天晴○今曉八時以前に乗船、勝幡よりの輿か

き歸候了、七時分に坂本へ付候、濱之坂井源三右衛門

所へ付候了、飛鳥之小物、予雜色與三郎、京へ明日之

迎之事申上候了、暮々に上付、云々、坂本の大蓮坊、善

養坊、佛頂坊等来候了、

廿五日、乙未、天晴○五時分昨日上候兩人来、其外吉田へ申

候夫兩人、飛鳥へ侍三人、人夫三人、輿かき三人来候

了、予迎山中迄来候了、馬、大澤彦兵衛尉、路澤右京

亮、同隼人佐、同彦三郎、井上五郎右衛門、松千代、二

郎右衛門等迎に来候了、直に歸宅候、河崎にて暇乞候

了、○藤三位來、藏人言傳物遣候、暫尾州之事雜談候

了、又西專庵來臨、中御門、吉田侍從等來儀候了、○中

御門へ罷向、老母に十疋、毛拔、一、中御門毛拔、一、同西

向へ、進候了、柳原北向へ毛拔、一、官務西向へ、進候

了、○下女に十疋遣了、○飛鳥へ罷向、父子見參候

了、○勘宮所より使有之、則罷向候、毛拔一、遣候、暫雜

談、暮方歸宅、○藤三位所へ罷向、一盞有之、○四條、坊

城へ罷向、昨日より禁中御千句、云々、

廿六日、丙申、天晴○四十疋にて夜物召寄候了、二十疋半又

下行候了、○青門へ毛拔、二、伏見殿宮御方へ、二、持參進

上候、萬里へ罷向、右中辨と暫雜談、禁裏大所へ參、末

之物三人、女孀等に毛拔一、遣了、○中御門へ罷向、

西向咳氣、云々、仲和散二包、遣候、○飛鳥井見舞候、

同事也、

廿七日、丁酉、雨下○四條へ罷向、父子へ毛拔一、見上出

候、甘露寺へ罷向、攝取院へ罷向、一盞有之、着に小漬

用意候了、伏見殿へ毛拔二、持參、萬里へ二つ、四辻へ武

衛よりの鞆遣候、少將に毛拔一、遣了、宮内卿用之由

申候間罷向所に他行、云々、○中御門より藥之事被申

候、又三包遣候了、○西專庵へ罷向、十疋持向、阿茶

子に毛拔一、遣了、○宮内卿所へ罷向、尾州之事聞度由

申候人有之、云々、不來也、○萬里小路番代乞請參候、

罷上之由申候、長橋局、今參局へ毛拔一、出候、相番新

三位、予、季遠等也、○澤路筑後入道、同隼人佐來、濃

州紙一帖つゝ、遣候、

廿八日、戊戌、天晴○今朝予、季遠兩人參御前に、暫御雜談

候、次兩人常御所御掃除仕候了、於長橋局兩人之朝飯

用意、○景範來、南都舞人四人任官加階之事申候、則

披露、勅許、兩人大少辨、兩人頭中將に申候了、暮々

到、口宣案、
上卿帥大納言
天文二年八月廿八日 宣旨

狛忠 葛

宜殺從五位下

上卿帥大納言

天文二年八月廿八日 宣旨

左兵衛少尉狛俊葛

宜任左近衛將監

上卿源中納言

天文二年八月廿八日 宣旨

大神 秀 祐

宜任兵庫允

上卿源中納言

天文二年八月廿八日 宣旨

大神 行 枝

宜任兵庫允

藏人頭右近衛權中將藤原公敏 奉

景雄に遣、明日西室南都へ下向、仍景雄被雇、云々、○中御門へ罷向、一盞有之、○柳原へ予鞠上預け候了、○藤三位に山科者持出候藁、關白へ御認候、不謂之由可被申由罷向申候、二三荷被認、云々、山科七郷者、往古以來諸公事免除也、○飛鳥井見舞候、同事也、○坊城へ罷候、毛拔三、遣候了、一盞候、宮内卿、治部大輔被居候、彼兩人此方へ來、云々、留守也、尾州事開度由申僧來候間、委申聞候了、○外様番永家卿代に參候、一身也、内々源中納言、季遠、兼秀朝臣代、云々、○今朝若宮御方御元服之御服之事、可勘進之由被仰出候、珍重々々、廿九日、己亥、○四條へ罷向、暫雜談、建仁寺之光明院來、○勘解由小路所へ時に罷向、人數高倉、新三、予、五辻、治部大輔等也、○澤路隼人佐來、○今日途中へ下向、與三郎計召具、堅田にて借用之料二百疋隨身、高へ樽代二十疋同十疋也、薰物二具、勅作、女中へ毛拔、三、綾

御乳へ茶、二、はふへ同也、

卅日、庚子、○風呂有之、○堅田之儀申談、二百疋利分參、十疋相添、粟津左京進へ壺、代十善溪庵へ同遣了、○去十五日武家御下知出、云々、如此、

山科内藏頭雜掌申、城州山科大宅郷地頭職、同諸散在柳辻等事、去年雖被成御下知、違亂之族號未休、寄事於左右、年貢令難澁、云々、以外次第也、早如先々嚴密可沙汰渡彼雜掌之由、所被仰出之狀如件、

天文二

八月十五日

堯

連判

當所名主沙汰人中

山科内藏頭雜掌申、城州山科大宅郷地頭職、同諸散在柳辻等事、去年雖被成御下知、違亂之族號未休、寄事於左右、百姓等年貢令難澁、云々、以外之次第也、早如先々嚴密可沙汰渡彼雜掌之由、被成奉書訖、宜令存知之由狀如件、

天文二

八月十五日

堯

連判

山科七郷中

○九月小
一日、辛丑、○今朝堅田へ與三郎遣候了、谷坊同道、云云、○八時分高倉父子同道、中龍花沙汰人隼人佐山へ罷向、松茸隨身、晚飯有之、暮々歸宅、

二日、壬寅、○堅田より與三郎早々歸候、借狀返候了、又去冬麥之代七十疋半出候、舊冬借候に引て二十疋半と、又五十疋借候、以上七百五十到候了、○十疋はふ方へ返了、谷坊に酒勤了、○十疋炭誂候、はふにあつ候了、○夜に入善溪庵にて、去月連歌之殘一折候了、三日、癸卯、○早々途中より上洛候了、○飛鳥井へ罷向、聊被得減氣候、見參候了、○中御門へ罷向、一盞候了、○豊越中守傳達笙一管、四十疋に置候、利分五十

四文遣候了、○暮々伏見殿宮御方へ參了、
四日、甲辰、細雨下 ○早々菊亭へ罷向被申儀有之、中坊に對面候了、○伏見殿宮御方へ參了、○小法師召寄、庭梢つませ掃除候了、○笙一管越中守持來、今一管之事、利平相違候て不來候、○當番之間暮々參内、一身也、則參御前、四時分迄御雜談候了、○中御門女中來儀、栗餅にて一盞勸了、○わた十疋にて十八め召寄、重陽菊之御なかの料也、

五日、乙巳、天晴、戌刻 ○早朝澤路隼人佐攝州芥川へ、大宅郷之儀并率分下地取に下、云々、來候間坏のませ候了、○田中孫三郎早々より來、終日作工させ了、○老母九時分來候了、先暫此方可有逗留也、菊のわた御調也、○西川對馬守入道方へ壺遣候了、○七時分參内、諸仲朝臣番代存知候了、御太刀一振のこひ候了、殘三振暮々間返上、滋野井宰相中將、予兩人參御前、四時分迄御雜談候了、御太刀五振歟被見候了、○若宮御方來十一月御元服、云々、御服總用撰書付、長橋局へ進

候了、○青門へ參、鷄頭花一莖持參、
六日、丙午、天晴 ○今朝御太刀來國光、來國俊二振のこひ申候了、○佛陀寺之祐閑時に呼候了、故長橋局七回也、○誓願寺へ參詣、○飛鳥井へ罷向見舞候、父子三人見參、○花山院へ罷向、暫雜談申候了、
七日、己未、天晴 ○山科野村郷人夫兩人今日來、沙取寄候、六荷持來、○明後日菊の御なか、禁裏へ進上候了、佳例三色也、

菊の御なかにいにかかせしんしやういたし候、めてたく千秋萬せぬまでもしんしやう候へきよし、御心え候て、御ひろうにあつかり候へく候、
勾當内侍どの、御局へ
萬里小路より
○明後日重陽和歌廻文有之、御題、園深菊更榮、
八日、戊申、天晴 ○中御門へ罷向、朝茶飲候了、○柳原へ罷向、貞治記兩冊借用、○澤路隼人佐從芥川上落、細川六郎遵行到、

禁裏御料所城州山科東庄大宅郷地頭職、同散在地柳辻等事、被對公方御下知無相違處、彼百姓等、寄絆於左右、年貢以下難澁、云々、以外次第也、所詮退他妨、彌可被全領知由候也、仍執達如件、
天文二

九月七日

長 隆 判

山科内藏頭家雜掌

山科内藏頭家雜掌申、禁裏御料所城州東庄大宅郷地頭職、同散在地柳辻等事、被對公方御下知無相違處、寄絆於左右、年貢以下難澁、云々、言語道斷次第也、所詮退他妨、嚴密可致其沙汰、彼雜掌由狀如件、
天文二

九月七日

長 隆 判

當所名主百姓中

已上三通

山科七郷名主沙汰人中

資直卿所へ八時分罷向、藏人母一回明日也、仍懺法有之、四條亞相、子、東坊城等也、僧衆十一人有之、先入麵、暮々粥候了、○兩三人同道藥師へ詣候了、

○外樣番左兵衛督代に參候了、予一身也、内々權大納言、源中納言、頭辨等也、
九日、己酉、天晴 ○中御門、柳原、四條、西專庵、坊城、伏見殿、准后、同青門、萬里、長橋局、新典侍殿、大典侍殿、新大典侍殿、伊與局等へ禮に參、御所へも申、今夜依不具御祝に不參、○四條父子、予、東坊城同道、入江殿へ御禮に參候了、坊御盃被參、云々、一盞候了、坊城早出候了、○四條父子、予同道、飛鳥井へ罷向、被見參候、再發之由被申候、昨日迄被痛、云々、○藤三位禮に到、○山井筑前、景通、盛秋、高橋若狹守、治部又四郎、西川入道、藤阿彌、澤路入道、同右京亮、同隼人佐、井上五郎右衛門等禮に來了、○今朝藤三位所へ可罷之由申候へ共、俄故障候了、

十日、庚戌、天晴 ○伏見殿、青門等へ參候了、○近所大工廻屋、所下女熟カ湯一桶懸、云々、手足聊殘而一身皆燒、云々、仍氣付藥付藥等遣了、絶壽候了、○晚天滋野井番代に參候了、昨日に相轉、五辻相番也、○從途中さ

けつちの木、椿、直垂の紐到、又予唐絲一着、被所望候間遣了、

十一日、辛亥、天晴、
晚天雨下、○燒跡藥又一裏遣了、聊留痛、云々、

○惠命院來談候了、○東坊城へ罷向、去夜より所勞、云云、明日陳カ議難參之由、云々、仍大内記長雅、依體可

相詰、云々、被參候了、局務業賢、朝臣、同來、從江州桑實今日上落、云々、○今日申次參内、仁和寺之菩提院僧正四通時分、

去六日極官被申候、其御禮に今日被參候、御加持被申候、初度也、予申次也、次則參御前御雜談申候、七時

分迄候了、○今晚青門にて、東坊城御汁振舞申候、今朝云々、依所勞延引、雖然重而申候間今晚有之、被參

輩三條大納言、萬里小路中納言、新三位、予、諸仲朝臣、内山、治部大輔正盛、善龍等也、御中酒以後、音曲

中將某等有之、○東坊城より夏地子但十疋到、○從筑後所米一斗到、云々、

十二日、壬子、雨下、
八專入、○亡父聖カ月之間、本誓寺統全、常樂寺之正舜等時に來候、老母、西專庵同相伴候了、○

野村兩人來、沙二荷持候了、九時分より東坊城へ遣了、○今日大樹父公法住院贈左大臣元宰相中將、從一位義澄被贈

太政大臣、爲大納言被申候、豐後之大友申沙汰歟、東坊城申次也、抑贈相國之事、等持院以後今是也、云々、

又聖忌之日之外、不時に贈官初例歟之由、云々、九時分參集、上卿三條大納言、公賴、辨頭辨、奉行、少納言、

長淳、業賢朝臣參、内記者英名也、宣下之様如常、深雨之間雨儀也、頭辨、長淳朝臣、業賢朝臣等、衣、文予

させ候了、○此町と正親町と喧嘩、正親町者兩人蒙疵、云云、○勘解由小路宮内卿所へ罷向、五辻被來候、汁有

之、予小漬用意也、暮々迄雜談候了、○外様番飛鳥井代に參候、相番四條中將代、等也、内々番衆萬里小路

中納言、新三位、四辻少將等也、○燒跡に血下二服遣候、又相煩之由申候間、參蘇領二包遣了、一昨日より

大小便不通之由申候了、同不食、云々、十三日、癸丑、雨下、
八專、○中御門へ罷向雜談、臆而歸候了、

○座頭祐椿來候、朝飯申付了、八時分迄種々事申候

了、一興候了、四辻少將、鳴光數等來談、栗餅申付候了、○東坊城へ罷向、四辻少將同道、一盞候了、○燒跡

人去夜兩三度痢通、氣能候て食事出來、云々、今朝通氣湯三包遣候了、○晚飯四辻所に有之、仍少將と同道

候て罷向、暫雜談候了、○青門へ參、今夜可祇候之由仰候間、其間々祇候、祐椿祇候仕候、種々事共申一興

也、予青門と中將某一盤參候了、治部大輔と二盤仕了、三條大納言被參候了、○花山院より使有之、昨日

之喧嘩不知候間、只今音信と、云々、○理覺院被來、能登守護用云々、續拾遺可書寫之由被申、被持來候了、

十四日、甲寅、天晴、
八專、○中御門に汁有之、朝飯持向候了、○宮内卿來談、○燒跡内藥同方二包、付藥一包等遣

候、彌得減、云々、○飛鳥井見舞罷向、此間被煩候、從一昨日被得減氣、云々、見參一盞候了、飯尾善左衛門

入道宗悅同來了、又尾州より上候山田、只今下向、云云、仍織田大和守方へ返事一筆遣了、○宮内卿方より

老懸所望之由申候間、以內儀花山院へ相尋候處、新左

衛門二懸之分持來、則宮内卿所へ遣候了、大内所用之由申候、云々、○當番之間暮々參内、則參御前、四時分

迄御雜談候了、予一身也、十五日、乙卯、天晴、
八專、○大宅郷より御供一膳、大般若札米

一斗到、隼人佐持て來候了、○續拾遺集立筆、○宮内卿齋服頸紙相違之所直度由申て到、則調改遣了、○

燒跡に内藥同方二包、付藥等遣了、親類者とて禮に來、蔓草一蓋持來、○燒跡之所主禮とて、十疋持來候

了、○勘解由小路來、四條中將呼候、田樂にて一盞勸候了、○途中より書狀到、來十九日法樂連歌張行候

間、十八日に可來、云々、十六日、丙辰、天晴、八
專、聊地動、○松井新左衛門來、一盞勸候了、○

燒跡内藥同方三包、付藥一包遣了、○惠命院被來候了、○澤路隼人佐來、○從轉法輪被申候諷方社法樂、

調候て進候了、藤三位談合、苜昌蒲、

いく世にかなかきためしをかりてふく

あやめのねさへけふにあふらん

十七日、丁巳、天晴、○少用之事候て五辻へ罷向、又青門へと參候了、○四條へ時に罷候、父子、予、祐閑、誓願寺、本願行尊、等相伴、老母も、罷候了、今日終日逗留也、○途中より書狀來、侍從母之乳人煩候間、明後日會延引、云々、○豊越中守雇候藥種用意候了、晚飯相伴候了、○從廣橋字切之事被申候、注遣了、光盛、切經、光信、切向、光親、(去)切向、(平)或中、光敦、切見、光英、切京、等也、切字注迄付候て遣了、○新三位より明後日當番に相轉之間、七時分參内、勘解由小路重代太刀、叙覽有度由勅定候之間、罷向候て申聞、持參候了、相番萬里小路中納言、予兩人也、暮々兩人參御前、四過時分迄御難談申候了、

十八日、戊午、天晴、○勘解由小路宮内卿太刀持向、返遣了、○青門へ昨日申請候廣韻持參、○五辻被來、大人參湯所望之由候て、藥種十種計持來、五十四味也、殘此方に有之、一盞勸了、一分計也、○朝飯以後、青門上御靈へ御參詣、御供に參候、被參候輩青門、三條大納言、萬里

小路中納言、新三位、予、左衛門佐、右衛門佐、宮内卿、在富、治部大輔、門跡坊官、大貳、大藏卿、新三位、善龍等也、御歸路に相國寺法住院之圓通寺庭御見物也、近頃見事也、次萬松軒御庭御見物、伏見之大光明寺忠首座來、御盃出候了、鐵首座、孝藏主、俊侍者、喝食兩人等出、各數盃候了、○暮々青門、五辻所へ渡御之間、可來之由兼而被申候へ共、沈醉之條不能向、暮々外様番永家、參候了、予一身也、内々頭辨一身也、仍予内々に臥候了、○今日大宅郷政所澤野井越中守遠行、云々、不便々々、

十九日、己未、天晴、○從途中山口彌九郎上洛、明日夢想之法樂連歌之間、今日可罷下之由、云々、仍用意候了、○青門へ參候、藤侍從料三社託宣天神名號申請候了、伏見殿宮御方へ參候了、○長橋下口迄參、御暇之事申候了、○飛鳥井へ罷向見舞候、暫被得減氣候了、○八時分より途中へ罷下候、共雜色與三郎計也、山口彌九郎同道、暮々下着候了、○景範來、南都舞人重葛方よ

り油煙一丁、到、喜悅之由申候了、○西專庵へ罷向、第十帶刀上候間禮申候、今度六郎下知、此仁申調也、

廿日、庚申、天晴、○今日連歌藤侍從母夢想也、いかにしてたへの三代世や常磐山、人數左兵衛督、下官、藤侍從、臥雲庵、梵朝、下生庵、立孤、宗卜、周學、珠芳、梵心、智純、永智、光怡、宗盛、賴清、通清、盛清、景雅、竹千代丸、宗行等也、○粟津修理進中將基四盤指候、三番負、一番持也、○今日未明與三郎上候、明日堺へ下、云云、

廿一日、辛酉、天晴、○晚天鞠一足有之、人數武衛、予、拾遺、粟津右京進、同修理進、山井將監、松井新左衛門等也、○鞍馬寺戒光坊被來、云々、梯數十、毗沙門持來、

廿二日、壬戌、天晴、○今日於善住庵連歌有之、衛兵衛行盛と云物振舞候、發句予に詠候、人數東、予、侍、立孤、珠芳、智純、光怡、永智、梵心、賴清、通清、景雅、盛清、祐、清在、清元、智觀、行盛等也、執筆予沙汰候了、晚飯用意候了、夜半許終候了、

廿三日、癸亥、天晴、○朝飯以後上洛候了、粟津修理同道、道に山口彌九郎同上候了、炭一俵、取寄候了、又昨日懷紙爲清書隨身候了、○菊亭へ言傳候間、罷向見參、栗餅にて一盞候了、東向見參、○伏見殿宮御方へ祇候、御扇拜領候了、青門へと祇候、御月待とて各祇候、三亞、四少、高倉、大輔、大藏卿、新三位、大貳等也、

廿四日、甲子、天晴、○來廿七日御月次御樂可相催之由被仰出候間、觸候、先御目六進候、廻文如例、四條大納言殿、故障、四辻前大納言殿、奉、源中納言殿、所勞、四條中將殿、奉、四辻少將殿、奉、藏人式部丞殿所勞、等也、地下之輩景通に申候了、○葉雪に左兵衛督本卦之事中に罷向候、兩三日之中に可撰之由申了、十疋遣了、○勘解由小路所へ罷向、猪熊三位、頭辨、東坊等被來了、

○藤三位來、暫雜談候了、○當番之間暮々參内、則參御前、四時分迄御難談申候了、

廿五日、乙丑、天晴、○久敷飛鳥井へ不能候間、早々罷向見參、朝飯用意候了、○中院へ罷向見參、被他行候間、

予上洛以後始也、○伏見殿宮御方へそと參候了、○西專庵見舞候了、○自入江殿山科之事文有之、夕方御返事申候了、○景範、盛秋來候了、明後日御樂之事申候了、○澤路入道來、云々、同隼人佐召寄、申付事候了、○藤三位所へ罷向、今日公宴御月次和歌談合了、月前搦衣、山皆紅葉、寄御神祇等也、

しつのもか月にいをねす深る夜の

よそにしれつ、うつつ衣哉

日にそひて山路はふかき紅葉はの

色にとられて松杉もなし

春秋の霜をかさねて神代より

いくとせをふる柳なるらん

攝取院方違に被來候、白粥用意被持來了、又田樂にて酒此方に用意候了、如例被宿候了、○勘解由小路來談候了、

廿六日、丙寅、天晴、土用、○懷紙昨日暮候間、今日相調進上申候了、○菊亭より書狀有之、途中へ被申候事有之、○

轉法輪亞相より假名遣雙紙被申候間、借進候了、○慈善早々來、朝飯申付了、○勘解由小路あつけ候唐櫃數三取寄候了、○途中より書狀有之、菊亭より書狀、連歌懷紙貝香等下候了、○戌刻許二本松燒亡、十間許燒、云々、○中御門へ罷向、則歸候了、明日御樂に指貫之事申候了、

廿七日、丁卯、天晴、土用、今、曉寅刻地動、大、○四條羽林來儀、景範、景雄

來、同樂候了、景範、景雄兩人朝飯申付候了、○益秋冠

之事申候間遣了景範に袍同遣了、夕方冠袍季音青袴

返候了、○九時分御樂に參内了、催候了、四條中將器

申出進了、八過時分始了、笙隆重朝臣、音頭、殘、殘樂、子、武、兼秋朝臣、盛秋、殘樂、酒、箏築安陪季音、笛景通、音、鳥、武、景範、殘樂、箏御所作、四辻前大納言、口、季遠朝

臣、大鼓景雄等也、目六、雙調、鳥破、只、同急、賀殿急、

胡飲酒破、酒胡子、武德樂、新羅陵王急、朗詠等如例、

御樂以後一盞如例、其後予、四辻少將兩人參御前、暮

暮迄御雜談申候、薰物一貝つ、兩人に被下候了、有難

事也、暮々退出了、○今日共竹千代、井上五郎右衛門、松千代等也、○予袍廣橋に借用、指貫は中御門へ借用候了、

廿八日、戊辰、天晴、土用、○西專庵へ罷向、正舜時に來、中酒

一盞飲了、○澤路筑後入道履持來候、暫雜談、○葉雪

來、高倉兵、本卦持來候了、○宮内卿館へ用之事候て罷

向、則歸宅候了、○途中より人上候、小沈所用とて

十疋半來、則取寄候了、○外様之番永家卿代參候、一

身也、内々權大納言、新三位、頭辨等也、

廿九日、己巳、雨下、土用、八時分、晴、暮より終夜時雨、○途中へ沈、三分、本卦等下

候了、○花山院老懸大内所望にて、下京阿川取候、勘

解由小路取次、今朝侍片岡右京進に一貫五百文渡候、

小ゆるきと云名物也、○今日禁裏盡御會有之、御茶之

用可參之由候間、四過時分參内、五時分終了、予當番

之間、其間々祇候候、一身也、晚天小漬如常、

○十月小

一日、庚午、天晴、土用、○四條禮に罷向、一盞有之、中御門へ罷

向、同一盞有之、柳原、坊城、西專庵、准后、伏見殿、萬里小路、勘解由小路等へ罷向候了、○四條父子、中御門、景範、盛秋、高橋若狹、田中新左衛門、同孫三郎等禮來儀、○澤路筑後入道來、粟一斗到、彦三郎、五十嵐、同右京亮來了、井上五郎右衛門同來、○東坊城今夜番之事被申候、袍指貫來、暮々參内、御祝、被參候輩帥大納言、四辻前大納言、甘露寺中納言、三條宰相中將、新三位、予、諸仲朝臣、季遠朝臣等也、宮御方還御、予御劔、御輿寄申候、諸仲朝臣御蠟燭參候了、○今夜内内番衆帥大納言、甘露寺中納言、予、長淳朝臣等也、二日、辛未、天晴、夜五時、分より雨下、土用、○中御門より可來之由候間則罷向、江州へ書狀調遣候、朝飯有之、○青門元應寺灌頂御聽聞之間、御共可參之由候間參候、先勘解由小路可同道之由申候間罷向、五辻、中御門、猪熊三位等候、一盞候了、從其青門へ參候、則御出候、人數青門、三條亞相、萬里小路黃門、高倉、予、五辻、中御門、内山、在富卿、治部大輔、其外青門候人大貳、大藏卿、新三位、善

龍、重菊、虎千代丸等也、先法勝寺御見物、御盃出一盞有之、八時分灌頂始候、灌頂人四人有之、中程自寺盃出一盞候、不終に還御、常在光寺へ御出候、はうはん有之、中酒凝候、四時分より歸京、祇園にて雨下、笠共借候、滋野井、山本大藏、粟津彌四郎等送に來了、東山衆御酒之時各被參候、鳥小路、長谷三位、妙觀院、南光院、松泉院、法輪院、治部卿等也、○今日外様番飛鳥井代、直に參候了、予一身也、○粟津修理進來、云々、唐紙四枚持來、二枚青門御手本、二枚者與予候了、○入江殿より大宅郷之事御書有之、○大宅郷より御供一膳上、云云、

三日、壬申、晴、土用、○粟一斗政所より出了、且納敷、三斗九升出候所也、○狛近頼敘爵之事披露、勅許也、次類句卅枚被出候、可書寫之由候、○中御門同道、西光寺へ罷向一盞候、又飛鳥井へ罷向、又一盞、廣橋へ罷向、一盞候了、東坊城來儀、予南都舞人口宣案所望候、則被與書之、此者狛忠葛に同日申候了、

上卿萬里小路中納言
天文二年八月廿八日 宣旨
正六位上狛近頼
宣敍從五位下
藏人頭左中辨藤原兼秀 奉

近頼將監補歷不見遂可尋、聽而景範所へ遣候、○勘解由小路所へ罷向、暫雜談候了、五辻、治部大輔被來候了、○近衛南北室町、喧嘩、云々、無事也、○青門へそと參候了、

四日、癸酉、晴、土用、○澤路隼人佐來了、○平胃散ひかせ了、○粟分散候、老母に先一升、西專庵二升、阿茶子一升、與三郎一升、松千代に一盞遣候、常夏に一升遣了、政所從穢出候間、先配分候、總而禁裏へ不進上候間者、一つも不取事也、○當番之間暮々參内、則參御前、五過時分迄御雜談申候了、予一身也、於長橋局小漬候了、

五日、甲戌、雨下、五時、分より晴、土用、○去月御月次御懷紙被出、裏書仕進候了、○盛秋來、○來十二日御月次御樂催候了、地

下者盛秋に申候、○中御門罷向、暫雜談候了、○四條亞相來儀、云々、留守不會也、○西專庵へ罷向、暫雜談候了、額毛拔了、○四條へ罷向、未練老耄之間、樂道可永停止之由、可披露之由被申候、幸中將參勤之間、兩人出頭、是又不叶之由被申候、赤飯にて一盞有之、六日、乙亥、曇、土用、○澤路筑後入道來、深草より亥の子の餅如例到、目出度々々々、○伏見殿へ來十二日御樂目六持參、暫宮御方と御物語申入候了、○青門へ祇候、三亞、五辻、内山、治部大輔等祇候也、中院へそと罷向、又四辻へ罷向、亞相見參、暫雜談、少將者參内、云々、

○晚天亥子祝候了、西專庵來儀、○竹千代に粟遣了、○暮々御祝參内、被參候輩帥大納言、四辻大納言、權大納言、甘露寺中納言、萬里小路中納言、源中納言、三條亞相中將、新三位、頭辨、予、諸仲朝臣、季遠朝臣等也、御嚴重共申出候、四條父子、中御門兄弟、葉室等今夜遣了、油小路、高倉等へ者以便宜可遣者也、○宮御方御嚴重如例年、還御、御劔御與寄予、諸仲朝臣

御蠟燭に參候了、

七日、丙子、天晴、土用、○萬里小路權辨に預け候公卿補任廿八冊取寄候、○廣橋へ補歷返遣、○早々治部大輔被來、今日入江殿へ參候とて、肩衣袴之事被申候間則遣候、先茶子勸候了、○中御門へそと罷候了、○飛鳥井へ夕方罷向、御嚴重隨身遣候、暮々迄雜談候、歸路又勘解由小路宮内卿亭へ罷向、五辻、猪熊三位等暫雜談候了、

八日、丁丑、天晴、土用、○北隣より被申候料紙打而遣候、予持罷向候了、○宮内卿より可來之由使有之、則罷向、五辻、治部大輔被居候、一盞候了、○西專庵へ罷向、聽而歸宅、○中御門へ罷向、暫雜談候了、○外様へ澤路入道來、大宅郷より御供一膳上候、前々未進分、云々、爲粟代米一斗二升政所より上候、以上二斗四升也、未進分一斗五升也、堅可申付由申聞候、○外様番永家卿代參、予一身也、内々權大納言、諸仲朝臣重親、兩人也、夜半計三條宰相中將、四辻少將、最勝院等、於宜陽殿一盞有之、予も罷候、最勝院者駿河之物也、從去年秋上

新三位、兼秀朝臣、予、諸仲朝臣、長淳朝臣、季遠朝臣等也、宮御方御嚴重等如例年、宮御方還御、予御與寄候、御劔持候了、長淳朝臣御蠟燭持參候了、其後於大所一盞有之、四辻父子、頭辨、予、坊城等也、今日番衆權大納言、頭辨等也、予内々臥候了、
 十九日、戊子、天晴、○萬里小路より羽子五所望とて、羽けつり等被送了、○禁裏、宮御方、伏見殿、准后、逍遙院へ、粟一籠進獻候了、大典侍殿、長橋局、今參局、四條、萬里小路、中御門、勘解由小路等へ一盞遣候了、○當番之間七時分參内、青門御參、轉法輪三條前左府、同大納言祇候、薰物黒方、調合御相傳、云々、夜半計退出候了、三獻參候、御陪膳三條宰相中將、青門、御前子、三條父子、前諸仲朝臣、季遠朝臣兩人也、三獻天酌也、初獻三條宰相中將、二獻予仕了、○四條殿去年夏冬、當年夏地子請取遣候、七十疋八十六也、三十疋廿三返遣事有之、四十疋にて予あつけ候袍返給、利分六十三也、殘而指貫有之、三十疋にて可出者也、

廿日、己丑、天晴、○從大宅郷政所米一斗五升、粟之代、云々、是迄政所三斗九升にて皆納也、○今朝正親町に狸之汁用意、朝飯持て罷向、甘露寺、高倉、予計也、則雖而罷歸候、○稻荷神主九時分來、禁裏へ訴訟之事申候間、參候て申入候、雖然無入眼、暮々歸候了、種善軒被來候て被申候、伯二位依在國也、種善軒者中御門に被宿候間、予も罷向宿候了、○從青門御書有之、明日東山へ渡御之間、御共に可參、云々、則致祇候、様體承て罷歸候了、

廿一日、庚寅、天晴、○朝飯急青門へ參候、則青門、竹内殿、新門主御出候、御共三條大納言、裏頭也、予、内山、治部大輔、勸首座、大進、大藏卿、新三位、善龍等也、先尊勝院へ渡御、尊勝院に御傳受之事有之、御坏參候了、本尊共合掌、次長谷三位所にて御用意、定法寺へ渡御、曼殊院新宮の僧正傳受之事有之、次御盃參、數刻御酒了、東山衆善學院、定法寺僧正弟子、西園寺也、南光院、妙觀院、松泉院、法輪院、鳥小路法印、願務也、長谷三位、治部卿、安能、虎千

代、藤千代、重菊等也、其後又妙觀院同内にて又一盞、音曲有之、次還御、又長谷所にて御衣裳改、御盃參、壁餅入たる參候、一盞候了、七過時分還御候了、御送之衆途中より被歸候、松泉院、安能兩人計御共也、○勘解由小路へ罷向暫雜談、五時分罷歸候、予事外沈醉也、○北隣に四條老母田樂候、罷候、一盞候了、○江州高倉左兵衛督へ書狀、御嚴重隼人佐所へ遣、諏方信州言傳、云々、○禁裏御月次御題御短冊出候、
 廿二日、辛卯、天晴、○盛秋に申候而質物に置候筈、先度代遣候、今日持來候、○四條中將被雇候大人參湯、今朝三七日之分廿一包遣了、○從禁裏廻文有之、來廿六日はいかた御祝有之可參、云々、畏候由申候、一昨日御折紙有之、明日歡喜天御法樂御連歌執筆可參、云々、他行仕候間、今朝畏候由申處、御延引、云々、○丹州六郎方赤澤藏人兄弟、其外數多討死、云々、内藤以下没落、上洛云々、昨日七時分之事と云々、一國平均、云々、今朝西衆打出野伏、云々、無殊事、○外様番雅稱、卿代に參候了、

四條中將、予兩人也、
 廿三日、壬辰、天晴、○青門へそと參候了、一盞候了、○勘解由小路へ罷向、○中御門へ罷向、暫雜談候了、
 廿四日、癸巳、天晴、天一天上、○中御門へ罷向、今日青門に御一獻之事有之、持參之小折三合、見物候了、○勘解由小路へ罷向候、是も參候、蓋臺進、云々、瓜事之外脱力遅々、云々、頭人甘露寺、萬里小路、坊城、中御門、藤三位、宮内卿、云々、御人數事外大勢、云々、○飛鳥井へ罷向、暫雜談、令同道近野遊山候了、○從青門御使有之、可參、云云、他行之間其由、云々、雖罷歸候、當番之間用意、七時分參内、則參御前、夜四時分迄御雜談申候了、番衆予一身也、
 廿五日、甲午、曉天、より雨降、○中御門へ罷向、赤粥用意候了、暫雜談候了、○從大宅郷米三斗出候了、○中御門同道青門へ參候了、暫御雜談申候了、○萬里小路へ罷向、則罷歸候了、
 廿六日、乙未、小雨、降、天晴、○老母、母西方院聖月之間、僧宗清時

に來了、西專庵同來儀候了、○從飛鳥井使有之、明日朝飯用意可來 云々、中御門可同道之由候、可罷之由申候了、則中御門へ申候、他行云々、今日禁裏はいかたの御祝候間、八過時分參内、被參候輩帥大納言、四辻前大納言、甘露寺中納言、萬里小路中納言、源中納言、新三位、兼秀朝臣、下官、諸仲朝臣、長淳朝臣、季遠朝臣、菅原在忠等也、如恆例至六位、御前にて御相伴申候了、初獻諸仲朝臣酌、二獻如例長橋酌也、暮々退出、○青門へ參、勘解由小路へそ罷候了、○萬里小路へ小鬼子五遣了、周防へ之用とて被申候了、○光秋來、江州へ罷下候間、御暇之事申候了、

廿七日、丙申、天晴、○今朝朝飯に飛鳥井へ罷向、甘露寺、中御門、予、治部大輔合同道罷向、此衆迄也、終日雜談、時々音曲等也、晝田樂にて一盞候了、七時分歸宅候了、大輔不具之由候間、予小袖借遣候了、○中御門へ罷向、吉田侍從、局務等居候、吉田逗留之間予雜談、其間々臥候了、

廿八日、丁酉、天晴、○雜色與三郎暇乞候間遣了、暮々歸候、○建仁寺種善軒來儀、在所之儀に被申事有之、○澤路隼人佐昨夕上候由申來、在所之儀懇尋候、先半損之分に皆納之由申候、散在分も半分計納所之由申候了、○予内刀腰刀に可申付之由隼人佐申付候、又遣太刀損候所直事申候、又江州高倉、言傳候、書狀藥等持て遣了、明日便宜有之、云々、

廿九日、戊戌、曇、時雨晴陰、○途中へ便宜候間、侍從方へ先度之和歌一卷、はふ方へ藥一包下候了、○禁裏よりの表法繪申付候、二枚、寒山、十徳、○從中御門吉田用とて、予烏帽子被借候間遣了、○禁裏聖天御法樂之御連歌之間祇候、御人數御製、帥大納言、菅中納言、甘露寺中納言、源中納言、高倉三位、予執筆也、六過時分迄候了、發句、

残れ菊梅は花まつ冬の庭 帥大納言
しくれて晴る軒の玉垂 御製
韻字支脂之韻也、連歌也、今日當番也、○勸修寺今日上洛、云

云、從伊豆五萬疋、從駿河三萬疋禁裏へ進上、云々、仍四辻少將御添番に被參候了、夜五時分兩人參御前、暫御雜談、御懷紙申出寫候了、○相國寺萬松軒借用之事有之來、云々、

○十一月大

一日、己亥、天晴、○西專庵今朝朝飯に呼、相伴候了、○今朝宮御方御童裝束之事、當今御元服之時之様に可申付之由、被仰出候、堅固省略法外之事候へ共、畏候由申候、明日吉日候間、井上可罷上之由申付候了、○北隣官務女房方より、可來之由申候間罷向、補任雇候間書遣了、入麵にて一盞候了、○中御門へ罷向、暫雜談候了、本國寺上人殿へ書狀被雇候間書候、宛所本國寺上人御房、禮節恐々謹言也、○澤路隼人佐禮に來了、○從廣橋名字切之事被申候、則切付て遣候、町之用歟、○青門、逍遙院、萬里等へ御禮に參候了、○御祝に暮暮參内、被參輩帥大納言、四辻前大納言、甘露寺中納言、源中納言、三條宰相中將、高倉三位、頭辨、予、諸仲

朝臣、長淳朝臣、季遠朝臣等也、○宮御方還御、予御劔御輿寄候了、御蠟燭長淳朝臣參、○大典侍殿、新大典侍殿、新典侍殿、伊與殿へ御禮被申候了、○於長橋局帥大納言、四辻前大納言、甘露寺中納言、源中納言、予、長淳朝臣等一盞候了、四時分退出、○山科之儀、相國寺こう藏主來了、

二日、庚子、天晴、○從禁裏朝飯以後可參之由候間則參、御服之事種々被仰候、御唐櫃禁裏にて被用意之由被仰候了、御今參中酒相伴了、○正親町頭中將より被呼候間罷向、補歷可直之由被申候、取亂候間、歷名計直與候、勘解由小路へそ罷向候了、○織手井上上候、御服之事申付候、御童裝束、御直衣、御袍、御單、御指貫等也、委細別紙注之、御要脚明日早々可取上之由申付候了、○青門、伏見殿と參候了、○外様番飛鳥井代に參候、相番四條中將也、長橋局へ被呼候間罷向、子祭祝候了、四條少將祇候也、當番一身、云々、○子祭に林歌吹候了、

三日、辛丑、天晴、○井上早々上候、長橋局へ御要脚之事申候、二十五貫給候、井上に十三貫渡し候了、早々能々可織之由、堅申付候了、○景範來、在國之由申候へ共、相違之由申來候、朝飯相伴候了、○坊城より和玉篇、三冊、庭訓被返了、又去夏地子之殘四百卅給候、以上五百卅にてすみ候、請取遣、○今日老母絹六疋六貫八百に御取候、其外引合一帖、杉原五帖、雜紙一束御取候了、○今日藏人修理權亮上洛候了、○中御門同道候て、飛鳥井、勸修寺へ罷向、皆他行也、○種善軒被上候、廣韻二冊、被借候、祝着々々、○甘露寺暮々來儀、廳而被歸候了、○從大宅郷佳例袖二百出候、目出々々、○扇六本つゝの十三本申付候、

四日、壬寅、天晴、○袖一盆中御門、四條、甘露寺、攝取院、西專庵等へ遣了、從攝取院密カ柑來了、○御檜扇之結花鬘絲等、七十疋にて攝取院へ誂候、但三十疋遣了、御檜扇横目、十疋半にて大澤長門守申付候、先五十遣、○予鍔之さや袋、さかわに口、鹽頸、青貝等之事、澤路へ申

付候了、○扇十三本二十六疋出來候、十本坊城豊後へ下向之間遣了、老母方より帶三筋遣了、○從大宅郷米壹俵來候、目出々々、○種善軒歸寺にて被來候了、○田中孫三郎來、作工雇候了、○禁裏御繪一對、表補繪出來候、代先遣了、○七時分當番之間參内、則參御前、暫御雜談申候、繪進上候了、予一身也、御太刀一振被出候、のこひ申候、

五日、癸卯、天晴、○中御門へ罷向、暫雜談候了、○猪熊三位來、芹河之内平野領田錢相除様に、高倉左兵衛督可演說之由申候、書狀相調可然之由申候處、則調候て送候了、茶子餅にて茶勸了、○澤路隼人佐來、申付事候了、一盞勸候了、○同筑後入道來、しんかう庵分栗七升出候、代米、五升、○景範來、從禁裏一俵被下候、忝存候由能々可申入之由申候了、盛秋にも拜領、云々、○伏見殿、青門等へ參候、何も暫御雜談申候了、甘露寺、攝取院等へ罷向、他行云々、○中御門へ罷向、鍔借用候、甘露寺被來候、三人音曲、五時分歸宅候了、

六日、甲辰、天晴、酉、刻より雨降、○今朝甘露寺、中御門、同母西向、朝飯に招請、相伴候了、中御門西向よりとくり被持候了、○東坊城へ罷向暫雜談、局務業賢、朝臣、同來候、明後日八日、下向、云々、○さけ緒一筋、老母世中への次に取寄候、十疋七十、云々、○中御門より被呼候間罷向、江州北郡知行湯次ゆきさき之代官善淨房方へ之書狀調候了、明日下笠下、云々、○紅花六斤七百五十に取寄候了、

七日、乙巳、風雨、終日晴陰、○田中孫三郎來、朝飯用意相伴候了、○御服御要脚五百疋申出候、是迄卅貫出候也、○隼人佐所へ、刀、鍔之手付五十疋遣了、○高倉雜色孫左衛門者、烏帽子二頭申付候、一盞勸候了、○中御門被來候、廳而歸宅、○四條亞相來儀、一盞勸申候了、○澤路隼人佐來候了、○青門へ參候、御るす也、伏見殿宮御方へ參候、四辻、中院へ罷向、暫雜談候了、○鳳笙之血脈之端書料紙用意、勅筆に今日申入候了、○勸修寺より補歷被返候了、

八日、丙午、天晴、○東坊城今日豊後へ下向、云々、予愚見抄

被借候間遣了、○中御門にてぬきつむき一端百疋に取候、予可着用也、○御月次御樂來十三日也、今日相催候了、○中御門へ罷向、坊城暇乞に被來候て、一盞候了、坊城へ合同道罷向、四條父子、廣橋、予、中御門、藏人修理權亮、猪熊三位等同被來候、一盞候了、其後宮内卿所へ門出之所にて被行候、其より直に被下候、五條にて鹽公事、代官淀屋所にて一盞候、因幡堂之外迄送にて罷下候、廣橋、予、中御門、藏人等也、○青門へとと參、堀川院艶書合外題申請候、高倉左兵衛所望之間、書寫候て遣候本也、○伏見殿へ御月次御樂目六持參候了、○外樣番永家、彌代、參候、予一身也、内々番衆廣橋と暫雜談候了、

九日、丁未、天晴、○御樂之事、地下之輩今朝催候了、○近衛殿より山科之儀御使有之、隼人佐所へ松千代相添遣了、○當番之間暮々參内、四辻少將參、兩人參御前、暫御雜談申候了、今夜別殿行幸也、御蠟燭に四辻少將被參候、則御添番に祇候候了、○七時分使有之、可來之

由申候、則罷向一盞候了、神書共外題、勅筆申請度之由申候間、則持參直に申入候了、○孫左衛門烏帽子代之事申候間、先十疋遣了、

十日、戊申、天晴、○若宮御方御男裝束總用、先日調進候、下之分四千疋餘也、然處三千疋にて可申付之由被仰候、言語道斷事也、○井上召上、種々加問答申付候、中々

之由申候、則參長橋局其分申入候、重而可被仰出候之由候了、○青門へ參候、無殊事候了、○今夜攝取院方

違とて被來候了、○青門へ暮々參、田樂とくり持參仕候、被參叢三條亞相、内山、治部大輔等計也、夜半許歸宅候了、○藏人公事根源抄返了、

十一日、己酉、天晴、○早朝飛鳥井へ罷向、暫雜談候了、○從大宅郷御はたきの御供、二膳上候了、○種善軒被上候、其間々被留候、十種香興行、中御門、下笠等計也、田樂にて一盞勸候了、○今夜御紅花させ候了、○古板一間六十、召寄候了、○栗板間中六十五寸一本五十四、召寄候了、○飛鳥井へにか竹一荷遣了、鞠垣之用也、兼約也、

使有之、故障之由候了、○從廣橋名字十、切字所望之間、勘遣候了、

十四日、壬子、天晴、八專入、○從途中人來、炭二袋到、以上九袋來了、○粟津三河守來、高倉より書狀有之、明日可上洛之由、云々、小漬勸候了、○中御門西向來儀、囊、赤飯等持來、佐同被來、相伴候了、○西川入道來、見參、則歸了、○當番之間七時分參内、則參御前、暫御雜談申候了、○種善軒へ杜之子美本代二十疋半遣了、西宮へ書狀短冊等遣候、

十五日、癸丑、天晴、雨時々、八專、○從葉室竹一荷來、是迄三荷來候了、○本誓寺僧統全時に來、予相伴候了、○中御門より被呼候間罷向、田舎へ書狀案先調了、○八時分高倉左兵衛督上洛、樽代三十到、則入麵にて一盞勸候了、被官衆餅にて一盞勸候了、晚飯各此方にて用意候了、松井新左衛門、粟津三河守、吉田五郎、山井將監、山口彌九郎、粟津孫二郎等也、○西專庵へ同道罷向候了、○粟津左京進來候了、○藤三位來、深更七過時分迄將基

○御樂延引之由被仰出候間、則催候了、○從途中人來、高倉可罷上之由書狀有之、則長橋へ申入候、又炭二俵來候、是迄七俵來候、○宮内卿へ罷向候、餅にて一盞候了、

十二日、庚戌、天晴、○亡父忌日之間、常樂寺之僧正舜來、種善軒、予相伴候了、○飛鳥井、五辻、治部大輔、速水兵部丞等晚飯に招請候了、暮て甘露寺、中御門被來候、田樂にて一盞、音曲候了、夜半時分各被歸候了、○西川對馬入道來候、暫對談之事有之、○井上伯母とて、御服御要脚取に來候間、千疋申出、是迄四千疋出了、井上方へ七百疋遣了、是迄二千疋下行候了、○田中孫三郎に申、木五本、板戸三枚二十疋に召寄候了、

十三日、辛亥、天晴、九時、分より雨降、○近所之大工召寄、棚二つ申付了、○景範來、○松田八郎左衛門入道來候、田樂勸候、竹二本、被所望候間遣候了、○平野預來候、中臣祓料紙持參、勅筆申請度由候了、○金覆輪二振、大澤彦兵衛申付、召寄候了、○澤路右京亮來候、○宮内卿可來之由

候了、○宮内卿本漢書卅四冊、從禁裏返被下候了、

十六日、甲寅、天晴、八專、○中御門へ罷向、越前へ書狀先五通調遣了、○長橋局より可參之由有之、則參、若宮御方御男裝束、御直衣仕立事計可申付之由候、殘者皆准后にて御沙汰、云々、先代未聞事也、何も畏候由申候了、

○田中孫三郎早々より來、普請申付候事申、大澤彦兵衛、雜色等沙汰候了、○左武衛、若宮御方御寸法祇候、予同道候了、御冠之頭御寸法、御たり三尺六寸五分也、ひろさ四尺七寸也、御足御寸法等給候了、

次御盃一盞武衛被下候、次還御、次又盃出、うこん、すい物等にて又酒候了、暮々罷歸候了、○町右少、職事奏慶、早々可來之由使有之、云々、則罷向候、纏而裝束着用、予依文也、次三獻候了、廣橋、予、高辻等計也、予太刀金持罷向、次出門、從半井亭也、母堂被居候間、家拜二拜、有之、雜色四本、如木、一人、青侍一人、烏帽子着以下數多候了、殿上儀式如常、四時分歸宅候了、○藤三位來候て、夜八過時分迄將基候了、田樂にて一盞候了、○今日竈段別所用意候了、○町より大帷、石帶、下

言繼卿記六 天文二年十一月

襲、單借借之間遣了、○武衛用、萬里小路にて袍指
貫借用也、○武衛相公事、予加級之事、廣橋へ申遣、何
も不許、云々、

十七日、乙卯、天晴、暮 ○此方之名々、武衛朝飯被振舞候
了、西專庵も被來了、○若王子被來候、○藤三位も朝
飯に來候、將基二盤候了、○九時分武衛、予同道參
内、則御對面、御三間也、予中次、申口にて天盃頂戴候了、其後予
參御前、御雜談申候了、○泉涌寺役者大宅郷之内事に
祇候、則予對談候了、○今朝早々より大工來、其外十
人計にて終日普請仕候了、○從大宅郷米一俵來候了、
○うこんにて一盞候了、及大飲候、暮々迄酒候了、千
阿彌昨日より來了、音曲等有之、武衛今日可歸之由
候、暮候間逗留也、夜入粥にて一盞有之、若王子も逗
留也、夜半過迄武衛、藤三位將基候了、中御門來候了、
○葉室より竹二荷來、以上五荷來候了、
十八日、丙辰、天晴、八專 ○四條父子、高倉、新三位、藏人修理
權亮等來、すい物にて一盞候了、及數盃候、其後老母方

にて一盞、又各へ一盞勸候了、四時分武衛被下候了、
○中御門へ罷向、甘露寺、廣橋被居候、則罷歸候了、○
今日も十人計終日普請沙汰候了、○甘露寺被來候、雖
而被歸候了、○西川入道來、留守之間歸、云々、○中御
門より被呼候間罷向、平野預居候、厚飯にて一盞候
了、○正親町中將より御神樂催一通有之、

内侍所御神樂、可爲來廿一日出御、可令候脂燭者、
給之字落敷、又
家説歟可尋問、
天氣執達如件、

十一月十八日

右中將公敍

謹上 内藏頭殿

十九日、丁巳、天晴、八專 ○大工一人、田中孫三郎、大澤彦兵
衛、澤路右京亮、同隼人佐、松千代、與三郎、衛門、其外
兩人來、終日普請候了、○伊勢太神宮御師錦屋左衛門
大夫方より、大麻一合并熨斗鮑百本到、目出度目出
度、○高辻被來候、一盞勸候了、○伏見殿へ參候、四
條、中御門和睦之事申候了、○菊亭へ罷向、左兵衛督

より言傳申候、一盞候了、○四條へ罷向申候、御返事
重而可申入、云々、○明後日内侍所へ可參之覺悟候
處、此方に服者有之間、從今夜薄所へ罷向候、行水沙
汰候了、○當番之間暮々參内、則參御前、暫御雜談申
候了、○頭中將方へ昨日之請文調遣候、如此、

内侍所御神樂、可爲來廿一日出御、可令候脂燭之
狀、所請如件、

十一月十八日

内藏頭言繼

廿日、戊午、天晴、八專 ○今日薄所にて終日候了、飯相伴候
了、今日薄女新内侍に祇候也、高倉左兵衛督猶子、云
々、事外取亂也、名字量子、予調遣候、從廣橋口宣案一
覽、

上納言中納言
天文二年十一月廿日 宣旨

藤原量子

宜爲掌侍

藏人頭左中辨藤原兼秀奉

明日御神樂用、四辻より笏、石帶に沓等遣候、持明院

へ大帷、町へ大帷、季音袴等遣候了、○萬里小路罷
向、御作事見物申候、四辻へも罷向候了、

廿一日、己未、天晴、八專 ○早々行水着束帶、内侍所へ參詣、御
最花十疋、進候、一盞候了、予迎不來之間、北尾新二郎
同道候、予外伯父也、○五辻やね被葺候間見舞候、又勸
解由小路へ罷向、一盞有之、○暮々予裝束衣文拔衣文
に仕候、次廣橋、次町、右少辨、次萬里小路權辨、次持明院宰
相、次四辻少將等させ候、次高倉三位主拔衣文予又き

せ候、次予着、次參内、盃酌如常、次着御、御服御衣文
高倉三位、御前裝束予祇候仕候了、新典侍殿、勾當内
侍御共也、御簾御裙兼秀朝臣、御劔公殺朝臣、御草鞋
惟房、脂燭下官、諸仲朝臣、季遠朝臣、橋以緒、藤原氏
直、菅原在忠、早參職事資將等也、勾當内侍屏風をころ
はかざる、燈爐にあたり火消候、今一にてとほし付
るごと又一消候、怪異之事也、其外如常、所作人臨時、
和琴四辻前大納言、本拍子持明院宰相、末拍子高倉三
位、付歌久泰、忠吉、忠宗、笛景通、篳篥橋以緒、近衛召

人多久氏、安陪季音、人長安陪季友等也、和琴中程季遠朝臣に與奪、星使公敍朝臣仰之、今夜奉行也、次還御如常、次予退出候了、八時分也、恆例本拍子久泰、末拍子忠吉、付歌忠宗、笛景通、篳篥橘以緒、和琴季遠朝臣、近衛召人多久氏、安陪季音、人長季友等也、云々、星使同之、○從途中若宮御方御服御寸法被調上了、廿一日、庚申、天晴、○萬里小路中院、大所、内侍所等へ罷向候了、○七時分中御門同道にて、飛鳥井へ罷向、暫雜談候了、○暮々外様番飛鳥井代參候、予一身也、四條中將宿に退出也、内々四辻少將一身、云々、大所にて一盞有之、○岡御所御近所四時分燒亡、仍予參候、乍去不苦、○伊勢御師返事取來、御最花十疋、進了、廿三日、辛酉、天晴、○薄所より予小袖一重、先日之間々置候、持參候了、○御用事有之間、早々可參之由候間、則參内仕候、則參御前、季遠朝臣祇候、去々年春日社御神樂之時、景範塚之公方下知取候事、景通訴訟申候間、子細可言上由被仰出候、則退出候了、○景範召寄

委細相尋、又參内、則參御前委申入候了、次退出候了、○若宮御方御服御直衣、御指貫織出、井上持來、則藤三位所へ預け候了、○町より大帷被返候了、○暮々中御門より可來之由有之、罷向、平野預、治部又四郎、下笠、閑彌二郎等、田樂粥等にて一盞有之、音曲有之、種善軒同被居候、夜半計歸宅候了、廿四日、壬戌、雨下、○從持明院大帷被返候了、○久泰次男久宗、右兵衛尉之事可披露之由、小折紙持來、云々、○景範來候了、彼申様一筆可書進之由、昨日被仰候間、今日調候て持參、如此、仰のおもむきかけのりにあひたつね候へは、女房の奉書をもつて、をのくへあひふれ候へとも、せういんつかまつり候はて、すてに九てうどのへれつさんつかまつり候て、勅定たりともせういんいたし候ましきよし申候につきて、女房の文を、てたて候はんするため、さかいの奉書をとり候、又ふけの奉書をとり候事も、永正四年ほうちういん

この、御下ちのすちめをもつて、申うけ候よし申候事も、このよし御心え候て、御ひろうにあつかり候へく候、しんじ、とき 繼

なかはしどの、御局へ

西京壽命院所持候聖廟之御筆之名號、同持參候、○當番之間七時分參内了、一身也、外様持明院被參候、景長對予自由之儀、於路次有之、仍予訴訟申候了、○御粥有之、

廿五日、癸亥、天晴、○久宗一官之事披露、則勅許、口宣案事右少辨に申候、○伏見殿、青門、萬里小路、宮内卿所へ罷向候了、○御月次懷紙調進候、昨日藤三位に談合、題行路雪、年内梅、忘久戀、雪のうへに跡つけそめて行末に

道なき方も道はありけり
さもあらぬよその梢の冬木にも
梅かゝはかり春やしるらん
おもふには人もつれなし忘れられて

いつのまゝにかどはれさるらん

中御門へ罷向候、則歸宅候了、○局務朝臣、暮々より來、中將某六盤さし候、持也、夜八時分迄指了、田樂にて一盞勸了、○攝取院へ檜扇之二十の物二十疋遣、以上五十疋遣、殘二十疋也、○途中より人夫上候、若宮御方御元服、來月十四日之由申下候了、○宮内卿申入候神道之抄外題六、今朝被染勅筆被出候、則遣候、祝着之由書狀有之、

廿六日、甲子、○老母々堂忌日之間、近所之僧宗清時に來候了、○町右少、より昨日申候口宣案被持候て到、上卿權大納言、天文二年十一月廿五日 宣旨 多久泰次男也、左衛門少志多久宗 宣任右兵衛少尉

藏人右少辨藤原資將奉
若宮御方御所新造、今朝卯刻立柱、午刻上棟也、八時分參候て見舞申候、帥大納言、源中納言、三條宰相中將、予、右衛門佐等被參候、雜煮すい物にて一盞候了、

○青門へ祇候、則退出、持明院へ罷向、一盞有之、○暮暮中御門宣綱代外様番に參候、一身也、長橋へ被呼候間罷向、大黒飯にて一盞候了、帥大納言、四辻少將等也、

廿七日、乙丑、天晴、八時、分より初雪降 ○田中孫三郎來、終日作工申付了、○今日禁裏御會、御茶に可參之由有之、歡樂之由申之、○晚飯中御門に有之、狸之汁也、予、亭主、局務業賢朝臣、陰陽頭藤春朝臣、等也、甚將基等有之、暮々甘露寺方違に被來候、田樂にて酒有之、夜半計罷歸候了、○澤路軍人佐來、

廿八日、丙寅、雪一寸餘、積候了、天晴 ○田中孫三郎來、今日も終日作事、此間數日辛勞之間、扇代二十遣候了、○澤路軍人佐、同彦三郎來見舞候了、○葉室姉十四此方へ今晚被來候了、青侍中へとて百疋持參、云々、

廿九日、丁卯、雪降、晚雨下 ○早々四條羽林來儀、中御とカ儀被申候了、○中御門へ罷向、暫雜談候了、○今日當番、就景長事訴訟不參也、○今日勘解由小路於平野社くまど岐神、

見殿宮御方へ壹食籠持參、三條亞相、大内記、右少辨等祇候也、四時分退出、各御機嫌也、○歸路中院へ罷候て、其間々臥候了、

○十二月大

一日、己巳、○今朝青侍共朝飯に呼候、大澤長門守、澤路筑後入道、同右京亮故障之由申候間、私宅へ遣候、大澤彦兵衛尉、坂田竹千世、澤路軍人佐、同彦三郎、井上五郎右衛門等來候了、各中より一荷兩種出候了、田中孫三郎、同呼候了、内々盛秋室同呼候、○盛秋取次新調冠人々捨候、四十疋に取候、先二十疋遣候了、○景範來對面、一盞勸候了、○中御門昨晚より所勞、云々、今朝藥二包遣了、參蘇飲 ○新内侍局へ一荷兩種遣候、薄所へ遣候、可來之由候へ共不參、内々間不罷向、○伏見殿、若宮御方、准后、三條西、四條、藤三位等へ禮に參、○暮々四條亞相來儀、一盞勸候了、○中御門へ罷向、所勞散々式也、四時分迄雜談候、平野預同來、○從大宅郷御供一膳到、目出々々、

眞言之時之神籬等切、云々、神籬切日年中一度有之、今散狀是也、

日相當、云々、○久泰來候間對面、口宣案遣候了、卅日、戊辰、○五辻、勘解小路早朝來、景長詫言之由、云云、思案仕候て從是可申之由申候了、八時分女房奉書出候、沈醉之間迷惑之由申候、云々、御口入也、御返事に、向後緩急候者、爲私可成敗由文被出候者、可出仕之由申入候了、○勘解小路へ罷向、五辻被來候間、兩人に申候、主に一行被書候へ之由申候了、○萬里小路へ罷向、御作事暫見物申候、又伏見殿宮御方へ祇候候了、則罷向候了、○四條より一荷兩種、中御門より二荷三種到候了、○中御門へ一荷兩種遣候了、○第十細川六帶刀左衛門尉方より食籠壺到、可來之由申候へ共不來候、山科之儀に六郎下知取候時、樽代遣候し禮歟、○御服要脚千疋出候、是迄五千疋也、殘而千五百疋也、井上に六貫渡候、是迄廿六貫文渡候、殘而三貫三百四十文歟、御單織出持參候、薄候間可織直之由申て返遣了、○薄所へ罷向、景通居候、一盞候了、○暮々伏

二日、庚午、卯刻雪、下天晴 ○從萬里小路權辨、來十四日御元服、可令參勤之由折紙有之、返事罷向申候、不出頭候間、依體可參之由申候了、○正親町へ罷向、頭中將暫雜

談、先度之一通持向、給之字事不審、落字也、書改被出候了、○井上御柏、御單、一荷兩種無雜調二、持來候、御單練て能候由申候、同事也、堅申候處、種々詫言仕候、百疋半押候、○四條へ罷向、明日父子ながら朝飯に可有來儀之由申候、可來云々、又元服之時、指貫可借用之由申候、高倉用也、○伊與局へ可來之由候間罷向、板引之物尋由被申候間、心得候由申候、○中御門へ罷向、田樂にて一盞有之、嚴藏主ハ候、夜半許歸宅、三日、辛未、天晴 ○勘解由小路へ罷向、暫雜談候了、○暮々甘露寺へ罷向暫雜談、薰物二種被調合候、予計一盞有之、令同道中御門へ罷向、所勞同前也、一盞有之、甘露寺歸宅、予者夜半時分歸宅候、田樂赤粥等候、嚴藏主、猪熊三位等也、○四條父子、西專庵、今朝朝飯に招請候了、○猪熊三位來候了、

四日、壬申、○從飛鳥井使^{連水兵}有之、尾州武衛息所へ宛所被尋候、只治部大輔殿可然歟之由申候了、○御槍扇之繪土佐刑部大輔所へ誂候、十疋半にて申付、但十疋遣候、○御槍扇之金目蝶鳥、出來、卅にて沙汰候也、○勘解由小路宮内卿所へ罷向、暫雜談候了、○萬里小路へ罷向、暫御作事見物候了、○中御門今日も兩三度見舞候、同前也、はう草多出候也、東山吉田侍從、同左馬助、守鶴、嚴藏主等今夜被留候間、予も臥候了、終夜各不臥、田樂粥等有之、○藤三位來談候了、○四條中將昨日約束之薰物一具、給候了、
五日、癸酉、天晴、夜半、^{計より雨下}○早々藤三位所へ罷向、父子見參、予此間久敷不食候間、脈父子取候、七日之分藥可與之由申候、則八時分に谷藤湯七裏到、則受用候了、可禁酒之由申候、○萬里小路へ罷向、昨日西宮伯二位より書狀遣了、○飛鳥井へ罷向暫雜談、又廣橋にて暫雜談、何も一盞之事、種々故障候了、○中御門兩三度見舞候、同前也、○從途中松井新左衛門尉、吉田五郎上

洛來、書狀有之、御元服之定日可申下之由申候了、一盞勸候了、仕了明日下、云々、○吉田侍從來、兩人鞠一足仕了、○暮々猪熊三位來、平野社領芹河之内御塔田錢之事、高倉に能々可演說之由、證文案書狀等持來了、○從禁裏、先度壽命院入見參六字名號被返下候、宮内卿進上候周禮之本七冊、同被返下候、進上仕候由申候、但被返下候歟之由申入候了、又予出仕候へ之由、長橋より種々承了、
六日、甲戌、雨降、八、^{時分より晴}○從禁裏思召ちかへ候間、周禮之本可進上之由被仰出候、則進上候了、○中御門見舞に罷向、同邊也、吉田侍從相伴、小清用意也、○粟津三河守來、對面、○隼人佐所へ腰刀之料十疋遣候、
七日、乙亥、^{天晴}○藤三位來、暫雜談、一盞勸候、壬生官務子復來、同一盞勸候了、藤三位藤家系圖借用、于恆宿禰明後日親王宣下用大帷、下襲襟、單襟等借用之事申候、可遣之由申候、○局務^{業賢}、石帶之事申候、可遣之由申候、○四辻父子被來候、景範來、一盞勸候了、暫雜

談候了、○四條亞相來儀、暫雜談候了、○從廣橋使有之、親王家被補職事之間、明後日着束帶、八時分可參内之由候、親王宣下以後可有親族拜、云々、○中御門見舞候、聊勞敷、云々、○今日細川八郎衆丹州より西岡へ入、云々、同六郎方衆卅餘人打死、云々、○從伊與局明日紅糟用粟所望之間、乍乏少卅進了、
八日、丙子、^{天晴}○早々正親町、庭田等へ罷向、祖父^{言國}、後柏原院家司也、亡父卿當今家司也、今予職事兩代に相違之事無分別、相尋之處無分別、云々、又帥大納言相尋之處、度々例引勘に以同事也、云々、然者不可申所存、云々、○伏見殿へ參、紅糟被下候、青門へそこ參候了、○萬里小路へ罷向、御作事見物申候了、○中御門兩三度見舞候、聊被得減氣、云々、○先度之冠代殘二十疋今日遣候了、皆濟也、○從攝取院御槍扇之花十二枝二十等到來、今二十疋可遣之處、未下之間無其儀候了、花六枝可入者也、○予腰刀今日出來候了、隼人佐持來、○宮内卿來、暫雜談、○佛陀寺之僧祐閑來、○廣橋

へ罷向、明日之儀相尋候、家司職事事、舊記共見候同事也、可祇候之由申候了、大内記、于恆宿禰等被居候了、○入江殿より御使有之、同被付御下知候了、○宮御方御服御直衣、御指貫出來、物忿之間宮内卿所へ持て罷向、文庫に預置候了、○今日細川八郎衆出京、内野大宮迄出候、六郎方法花宗等出向、野伏暫有之、左右方へ引候、無殊事、京中以外にさわか候了、
九日、丁丑、^{天晴}○廣橋へ罷向、今夕樣體共對談候了、烏丸、于恆宿禰等被居候了、○中御門にて袖單、平緒、雜色狩衣借用候了、○藤三位にて雜色烏帽子借用、○雜色與三郎所勞之間、中御門雜色借候了、○四辻より石帶二、沓被返候、又笏、平緒借用之間遣候、○于恆宿禰來、大帷、下襲、袖單等之襟借用、遣了、○業賢朝臣來、石帶遣、又折重之事申候間、沙汰候て遣候、又肩衣袴借候間遣了、○鴨光數來、暫雜談候了、○中御門兩三度見舞今日者暫被得減氣、云々、○從廣橋衣文之事被申候、同鳥丸、萬里小路權辨等被申候、○暮々從廣橋使

有之、薄所に相待、云々、則罷向、廣橋、烏丸、業賢朝臣、于恆宿禰等に裝束させ候了、次歸宅候了、○高倉新三位四條に被居候間、予衣文事申候、兼而予披衣文仕候間、と被直候了、○五時分參内、於外様權辨衣文取置候、今夜陣儀四時分始、上卿帥大納言先着奥座、兼秀朝臣親王宣下之事仰之、次移端座、上卿召官人令敷軾、次官人召吉書、惟房吉書持參、次以官人召右中辨、光康、則參軾下吉書、次右中辨着床子座、史康雄十歳來取吉書、次兼秀朝臣親王宣下進上卿、次召右中辨給宣下、次右中辨床子座にて于恆朝臣遣、上卿、辨、史披覽如常、次兼秀朝臣家司職事交名下上卿、次兼秀朝臣勅別當可爲三條大納言公頼、之由仰上卿、次召右中辨仰此由、次右中辨床子座にて仰于恆朝臣、如常、次兼秀朝臣仰上卿邦輔親王可任式部卿之由、次上卿召業賢朝臣仰之、如常、次上卿以下起座、次上卿於弓場代奏慶、申次兼秀朝臣、次業賢朝臣束帶之皆具四辻少將借用、於薄所着用之、予させ候、次宮御方渡御小御所へ、

予御蠟燭持參、次予下殿、帶劔參小御所、上卿西の妻戸間に候、次上卿惟房召兼秀朝臣、參妻戸、給家司交名、次以惟房召予、同給職事交名、次家司職事南の廊下に列立、兼而沓取雜色西庭に召候、南の沓脱より下、東上北面列立、各持笏先兼秀朝臣立定一揖、次予、次季遠朝臣、光康、惟房等也、一揖同前、次予申次、持笏、離列直進向、兼秀朝臣一揖、予一揖、上沓脱參妻戸前、伺御氣色、歸向一揖、又兼秀朝臣一揖如常、次予加列、一同再拜、次從下臈退一揖、惟房、光康失念也、次予、季遠朝臣、撤帶劔堂上、於東妻戸、宮御方へ各御禮被申候、申次兼秀朝臣、帥大納言、四辻前大納言、甘露寺中納言、萬里小路中納言、源中納言、三條宰相中將、予、季遠朝臣、光康、惟房、兼秀朝臣等也、兼秀朝臣申次之間後也、次于恆宿禰親王宣下南の簀子へ持參、頭辨取次進籠中へ、新内侍取之、次宮御方還御、予御共申候、常御所へ御參、陣儀不始以前、兼秀朝臣於鬼間、家司職事交名折紙書之、

家司 不參中院少將 四辻少將 右中辨、烏丸 權左少辨、萬里小路
通爲朝臣 季遠朝臣 光康 惟房
頭辨、廣橋 兼秀依奉行末に被出之、

職事 隆重朝臣依不參、職事交名予に給之、
隆重朝臣 言繼朝臣 永綱

次於議定所御對面有之、申次頭辨同前也、次男末にて一盞有之、次天酌、次第各參、光康も參不審、如何可相尋、次宮御方還御、予御蠟燭に參候、四辻少將御劔御與被寄、御太刀さかさまに御與へ被入候、一笑々々、
○當番之間一身祇候了、○宣旨如此歟、
方仁

右中辨藤原朝臣光康傳宣、權大納言藤原朝臣公條宣奉勅、宜爲令親王者、
天文二年十二月九日

修理東大寺大佛長官主殿頭兼左大史 小槻宿禰子恆奉
勅別當之宣旨

權大納言藤原朝臣公條
右中辨藤原朝臣光康傳宣、權大納言藤原朝臣公條宣奉勅、件人宜爲方仁親王家別當者、
天文、
十日、戊寅、天晴、○早朝退出候了、○松田八郎左衛門入道訖言候間、八木聊遣候、○景雄來、途中へ下、云々、書狀調遣候、同職事交名調下候、檀紙折紙に如此、四條中將へも同調遣了、
職事 隆重朝臣 御參 永綱

言繼 景雅に朝飯、相伴候了、○業賢朝臣去夜衣文旁禮にて來候、同肩衣袴返候了、○于恆宿禰去夜禮に來候了、
○從長橋局宮御方御直衣御服御し、絹一疋御裏、御調料半分五十疋、給候、一向之物候間、御忘らひかたく候、此由申入候、○暮々伏見殿宮御方式部卿御任官之御禮に祇候候、内々常御所へ可參之由被仰間參候、一盞候

言繼 修理東大寺大佛長官主殿頭兼左大史 小槻宿禰子恆奉
勅別當之宣旨

了、武家一對、五辻、中坊祇候候了、大御所御參内候間、御共申候、同宮御方へ御參、同御對面、次准后へ被參候、四時分歸宅候了、

十一日、己卯、天晴、○土島神六來對面、高倉へ訖言事申候了、○予腰刀つゝ、黒皮にてまかせ候、下笠又次郎に申付候、半にて卷候、下笠に一盞勸候了、○于恆宿禰大帷、下襲單等襟、局務石帶等返候、○業賢朝臣予烏帽子直垂借候、遣候、則返了、○從長橋御服御直、御腰裏絹六尺給候、御讀書始十七八日比、云々、明日若宮御方御兒惜御さか月參候間、可參之由、云々、○中御門兩三度見舞、聊減氣、云々、○從伏見殿宮御方可參、云云、則參候、安禪寺殿小鬼子卷様御習候、四色五色教申候了、○廣橋へ家司名返候、○萬里小路へ罷向、御作事見舞申候了、○藏人修理權亮來、暫雜談候了、十二日、庚辰、晴、雪、○藤三位所へ先日之藥之禮に罷向、同脈取候了、○中御門見舞候、聊得減氣、云々、○亡父忌日之間僧祐開來、正舜指合候、間呼候了、○土佐刑

部大輔に申付候御檢扇繪今日出來候了、○今晚一桶兩種讀すし、土器物禁裏へ進上候了、暮々參内、被參候輩帥大納言、四辻前大納言、權大納言、甘露寺中納言、萬里小路中納言、源中納言、三條宰相中將、右大辨宰相、高倉三位、兼秀朝臣、下官、諸仲朝臣、季遠朝臣等也、七獻參候、初獻酌諸仲朝臣、二獻季遠朝臣、三獻若宮御方、四獻萬里小路中納言、五獻天酌、六獻宰相中將、七獻二位殿等也、夜八時分各退出、予者外様番、雅綱、其間々祇候、相番四條中將計也、○隼人佐來、十三日、辛巳、天晴、○景範來、○松井新右衛門途中へ下とて來、書狀言傳候、一盞勸候了、○御檢扇ごちに十花等付候了、○宮内卿所より御服御唐櫃取寄候了、○中御門兩度見舞候了、○飛鳥井へ罷向、暫雜談、一盞候了、○青門、萬里小路、宮内卿等へと罷候了、十四日、壬午、天晴、○景範來、江州よりの御下知付候、南都神樂奉行職事也、願主へ可申入之由也、○廣橋へ罷向、則罷歸候了、○神樂願主近衛殿へ申、云々、仍參候

て此由申候、無御存知之由承之間、此由江州へ可申者也、○雜舍之上菅候兩人來、隼人佐來候、○今日煤拂候了、大澤彦兵衛尉來、祝如常、○從坂本執當方例年之納豆廿裏、到、祝着々々、○持明院宰相被來候、暫雜談候了、○御服御唐櫃宮内卿文庫へあつけ候了、○土島神六來對面、則歸候了、○中御門見舞候、同前也、云云、○鴨光數來候、對面、則歸候了、○當番之間暮々參内、予一身也、今夜宮御方渡御御習禮有之、帥大納言、甘露寺中納言、萬里小路中納言、惟房等祇候也、其後於男末一盞有之、○宮御方還御、御蠟燭に參候了、惟房御劔御與被寄候、○從禁裏内々御訖言申候處、先百疋被下候、今百疋纏而可被出、云々、忝之由申入候了、○從途中人上候、藤侍從方より烏子、五枚、到、祝着々々、十五日、癸未、天晴、○今朝從禁裏被仰候類句、書寫進上候了、○御服之物五百疋、御直衣御調料殘七十疋餘出候、御調料以上百疋也、御服之物未下六百疋也、○御直衣ら、今日はらせ候了、○中御門見舞候、同前也、

聊減也、○景範來、○多忠國來、南都神樂料袍指貫之事申候、重而左右可申候由申て返候、對面候了、○粟津三川守來對面、纏而歸候、明日高倉父子可有上洛、云々、○明日禁裏御煤拂可參之由候了、○少用之事有之間、四辻、五辻等へ罷向候了、○四辻少將、治部大輔、經師越前等、暮々より來儀、田樂にて一盞勸候、夜半時分迄音曲候了、十六日、甲申、天晴、時々雪下、夕方暮、○朝飯急御煤拂に參内、被參候輩予、諸仲朝臣、長雅朝臣、季遠朝臣、橘以緒、藤原氏直、菅原在忠等也、盃酌等如例年、七時分退出候了、○高倉父子八時分上洛、其時分罷出、一盞勸候了、十七日、乙酉、雪降、時々晴、○中御門をこ見舞候、被得減氣、云云、○廣橋へ罷向、對客之間罷歸候了、○從長橋御服要脚殘六百疋出候、是迄六十貫也、目出度々々々、御讀書始明後日十九日、云々、○藤三位來、終日將某也、夜八過時分歸候了、○淨舜來、一荷兩種、○竹田衆來候了、樽六荷持來、○伏見殿より被召候間參候、又萬里小路

へ罷向、御冠と、め高倉調進候事被仰候了、
 十八日、丙戌、天晴、○清法印高倉へ禮來、予も對面、二荷兩
 種持來、云々、○藏珠院來候了、○中坊來、同淨舜一盞
 候了、○從高倉三位一荷兩種來候了、○高倉三位被來
 候、侍從に太刀持被持來候、一盞勸候了、○高倉父子御
 禮參内、藤侍從始也、予同道申次、乍父子御三間にて
 御對面、從車寄男末へ參了、侍從者天盃頂戴候了、三
 荷折三合持參也、次新内侍局へ禮に被行候、猶子之故
 也、二百疋折紙遣候、三獻候了、薄來候、予相伴候了、
 其後御局々へ御禮候了、○宮御方萬里小路へ御禮に
 參候、御對面、御盃被下候、御陪膳予仕了、二荷兩種持
 參候了、○准后へ御禮に參候、二荷兩種持參、無御對
 面、○西殿へ罷向、帥卿見參、一盞候了、二荷兩種遣、云
 云、○高倉三位所へ太刀持、持向、他行、云々、○四條亞
 相一荷兩種被持來候、沈醉之間臥候間、不見參申候、
 ○武衛料指貫萬里小路へ申候、侍從直衣指貫中將に
 借用候了、

十九日、丁亥、時々、雪下、晴、○四條中將、宮内卿、藤三位、廣橋、四
 條亞相被來候、何も一盞候了、○清水寺之目代來、樽
 隨身也、○御指貫之身を入候、予ひかへ候了、御服悉出
 來候、御讀書狀^カ始、午刻、云々、御服之御唐櫃被出候、少
 之間此方之二に入予持參、^{目六}長橋局へ渡候了、○高
 倉父子、予同道參小御所に、則御服着御、於東妻戸間
 二間之所也、御生氣才令向良方給、御衣文左兵衛督、
 御前裝束予祇候也、則南面坐給、御齒敷之、御讀書始
 有之、南面東妻戸さいのきはに文臺有之、其前御齒敷
 之南面、爲御座、御後立屏風、妻戸御簾卷之、^{小丸にさい}
 の外に圓座一枚、業賢朝臣祇候爲座、先出御、次奉行
 惟房、告出御之由、次業賢朝臣參進圓座、宮御方文臺の
 上の古文孝經一卷^{卷本、兼}、御取候て被遣、業賢朝臣請取
 之一覽、則置文臺上、次懷中本取出、披置文臺上、一段
 業賢朝臣讀、切聲、次卷懷中、次又取御本披文臺上に置、
 字指三、兼被置之、宮御方御持候、業賢朝臣同持字を
 つき、一段三反被請渡了、次御本如元置之退出、於北

簀子御太刀白、御馬折紙等給業賢朝臣、奉行取次之、次
 各參仕之輩御禮申候、次常御所へ御參、南面東妻戸を
 出給敷打板道に、被經御後、清涼殿番衆所内御參、予御
 そばに祇候、御共帥大納言、萬里小路中納言、左兵衛
 督、兼秀朝臣、予、惟房、永綱等也、御盃參候、帥、萬里、
 常御所へ參、殘衆於男末一盞有之、次宮御方小御所へ
 還御、如前、兼秀朝臣早出也、次御服令披給、左兵衛
 督、予祇候、次還出、兩人兼之候、次各退出候了、予當
 番之間、其間々祇候候了、○高倉今日八座勸許也、御
 禮以予申候了、自^カ愛々々、○宮御方、高倉三位、四
 條中將烏帽子額、今日高倉調進候了、
 廿日、戊子、天晴、時々雪下、○高倉父子上御靈へ參詣、云々、○從
 薄所水干事申候、委細罷向申候了、○從廣橋水干事被
 申候、取亂候間返遣了、○予烏帽子額今日出來、祝着
 祝着、何も中塗にて申候、○中御門より被呼候間罷
 向、明後日二條殿御參内、供奉殿上人及闕如之間、高
 辻を相語度由被申候間、則申遣、心得候由被申候、則

中御門へ申候了、皆具可調遣、云々、○妙觀院被來候、
 藤宰相に被申候事有之、予に被申候了、○若王寺より
 弟子^{藤侍從弟、十五歳}、得度、云々、名字之事被申候間、五切字調
 遣了、○高倉父子廣橋へ禮に被行候、予同道也、一荷
 兩種遣候、藤侍從太刀金持向、一盞候了、○高倉父子よ
 うりん庵へ被行候了、暮過て歸宅候、○從長橋明後日
 御元服之時無人之間、飛鳥井侍從可參之由可申由被
 仰出候、則申遣候、他行、云々、大澤彦兵衛遣候、○
 從廣橋故儀同之記御元服之記寫給候、先日予所望候
 也、
 廿一日、己丑、天晴、○五時分高倉父子、予同道、三條室町風
 呂へ罷候、歸路に等持寺之祥瑞に時有之、人數高、予、
 侍從、石橋房、同中將、公、祥瑞、宗俊、大澤彦兵衛尉、粟
 津右京進、同修理進、同三河守等也、晝又むし麵すい
 物にて、七時分迄酒音曲有之、高父子者直に若王寺へ
 被罷候、其間々被留候了、予者歸宅候了、○從方々書
 狀有之、從四辻懸物袍之事、薄所より烏帽子針事被申

候、則遣候、明日南都下向料也、春日社七ヶ夜御神樂有之、四條中將明日御元服之料下襲襟之事被申候、清三位入道今夜田樂可持參、云々、高留守之由申て、大澤彦兵遣候、同局務補歴さげつち事申候、則遣候了、○從禁裏可參之由被仰下候間則參内、別殿行幸也、參御蠟燭、天酌に參候、予一身也、四時分退出候了、○御月次御題出候、廿七日に可誦進之由候了、

廿二日、庚寅、晴、戊刻、○飛鳥井より使速水、有之、侍從不具之間、悉皆予可馳走之由被申候間、心得候由申候、身體等之事、萬事頼入之由候了、晚景此方へ可被來之由申候、高倉父子、飛鳥井侍從、予等裝束共方々借用、○袍子、公物、同五位二具、公物、中御門、指貫、四條、下襲襟三、新調、袖單二、甘露寺、大帷一、中御門、中御門、表袴三、公物、赤大口二、露寺、甘一業賢、等借用候了、○若王寺弟子名字又六切遣了、○高倉同道西殿へ罷向、二條殿、三條宰相中將衣文高取候、予前裝束仕了、一盞有之、云々、予は早歸候、○自禁裏可參之由候間、則參小御

所、御裝束事也、雖而退出候、帥卿、萬里小路中納言兩人沙汰也、予不得隙候間早出候、○四條中將、予、藤侍從、飛鳥井侍從、束帶愚亭にて高倉被着候、五時分同道候て參内候了、○今朝四條中將へ下襲襟調遣了、○攝取院方違に被來候了、○二條殿殿上人無之間、高辻に予申候、公物袍、予冠、中御門より指貫白小袖等高辻へ遣候、○萬里小路父子衣文之事被申候間、罷向候了、同勸修寺もきせ了、○刻限御元服也、先^{以下}○廿三日、辛卯、○從飛鳥井禮に使有之、○公物共袍三具、表袴三具返進申候了、○中御門袍、袖單、指貫、裾、大帷、白小袖等返候了、○四條へ指貫、局務杵返遣候了、○去夜之御膳、予、藤侍從兩人に一膳つ、被出候、宮御方從上膳文也、○高倉父子、予同道、伏見殿、御對面、轉法輪、菊亭、庭田、甘露寺、見參、正親町、五辻、宮内卿等へ罷向候了、○四條父子、藤三位父子晚飯、高倉用意候了、甘露寺被來候、中將基有之、四時分各被歸候了、○高倉へ妙顯寺上人より杉原十帖、兼使實成房同

十帖届一本出候、甘露寺美濃紙、一束、小刀二被出候了、○高倉杉原二帖、小刀一被與予候、藤侍從扇一本、與了、○從武家御兩御所へ御馬太刀御進上、今不相調候間、目六計伊勢守方より高倉へ上候、則傳奏之付雜掌候、傳奏南都へ下向之故也、

廿四日、壬辰、○今朝一時汁皆々振舞候了、○朝飯以後、高倉父子途中へ被下候了、○今朝高倉父子予同道、飛鳥井、勸修寺へ罷向候了、○從長橋局早々可參、云々、仍下姿にて參、大宅郷之事に、泉涌寺役者暫加間答候了、一盞有之、○小御所に親王御方御座候間祇候、御髮に參候、一盞被下候、○萬里小路へ罷向、御作事見舞了、○又禁裏より早々上姿にて可參、云々、則參内、來年正月太元帥法、可被行於紫震殿、仍道場之樣、理性院僧正被參被申候、予承候て、御三間にて直に披露申候了、其後暫暮々迄御前、御雜談申候了、今日當番予一身也、○薄室阿茶方より一荷兩種^{白壁}、送候、祝着々々、○藤三位に借候石帶返遣候了、○飛鳥

井禁裏へ御禮被申候、此方にて用意、云々、○町より四方拜脂燭可參之由、一通有之、○庭田今朝南都にて逝去之由、夜半計注進也、言語同斷事也、公私愁傷也、昨日下向、云々、

廿五日、癸巳、○從武家御禮に參候、目出候由、女房奉書事不被出候間、予申入候て、今朝新宰相方へ被出候了、○日蓮衆今朝西邊土、さいゐ、山の中、郡、梅津、河端其外十一村放火、云々、言語道斷事也、○中御門見舞候、被得大減候、いまた散々式也、○宮御方へ御額留三、調進持參候、則取改御髮に參候了、○薄へ昨日之樽之禮に罷候了、萬里小路御作事見舞候、○町へ罷向、四方拜參仕之事、可隨體之由申候、○青門へそと參候、則歸宅候、○帥卿へ赤大口返候了、○宮内卿へ裾返遣候了、○等持寺祥瑞へ先日之禮に、大澤彦兵衛尉遣候了、

廿六日、甲午、天晴、○二條殿へ先日召候間今日參候、暫御雜談申候了、御盃給候了、○花山院へ罷向、暫雜談、

一盞候了、○今日親王御方御移徙也、刻限亥刻也、先參小御所、中御門御元服之御禮御太刀進上、予持參也、依歡樂不參也、甘露寺祇候、兩人一盞被下候、次御方御所御學問所へ渡御、萬里小路父子、中院少將、四條中將祇候也、又御盃參候了、次御烏帽子直衣着御、予奉仕之、次萬里小路へ渡御、各御供申候、帥大納言、萬里小路中納言、三條宰相中將、四條中將、予、諸仲朝臣、御繼通爲朝臣、御劍、惟房等也、次各御太刀金進上、四條中將以下也、次御一獻有之、勾當内侍被參候、三獻御酌也、男衆萬里小路にて二獻有之、夜半時分退出候了、

廿七日、乙未、天晴、土用、○從途中書狀有之、女房文に小袖裏絹五、下候了、又書狀有之、内侍所へ元日御神樂料十疋到、○予烏帽子出來候、高倉雜色孫左衛門持來、一盞勸候、○澤路隼人佐來、○從萬里小路番相轉、暮々參候了、大祥寺殿御喝食御所、一昨日御得度、云々、今日御參也、二獻參候、典侍殿達御指合とて、御兩御所御陪

膳予參候、二獻御とくり也、今夜番衆予一身也、廿八日、丙申、天晴、土用、○番退出候、次萬里小路罷向、權辨一盞興行、不思寄事也、○青蓮院宮出世南光院、種善軒被來候、一盞勸候、歲暮禮、云々、南光院は妙勸院言傳有之、○飛鳥井歲暮之禮被來候、一盞勸候了、○伏見殿宮御方、青門へそと參候、萬里小路へ罷向、宮御方へ參候、一盞被下候了、宮内卿へ罷向、則罷歸了、○西專庵下女兩人に二十疋つ、遣候、下女は御訪是也、○山科地子高島與十郎違亂、云々、仍第十帶刀に申候、可相届之由申候了、○從大宅郷餅、梅枝、松等上候了、

廿九日、丁酉、天晴、大寒入、○藏人歲暮禮來、見參、西光寺、猪熊三位、宮内卿、治部大輔等被來候、云々、○甘露寺歲暮被來候、一盞勸候了、○御用之事有之、四時分參内、正月八日より於紫宸殿可有太元帥法、仍御掃除檢知候了、帥卿同被參候了、八時分退出、○光數來候了、○中御門殿風呂予申付候、暮々入候了、○暮々當番之間參

候、伏見殿御參、女中御指合之間、予御陪膳申候了、○親王御方へ伏見殿御參、申次仕候、三獻參候了、○從大宅郷柴二荷上候了、わり木二束到、つけ木六束如例年、○從勸修寺補歷事被申候、遣候了、

卅日、戊戌、天晴、○内々外様番、今日結改也、番文書損談合用早々可來、云々、仍罷向調遣候、朝飯用意也、○飛鳥井、西光寺、猪熊、宮内卿、持明院、甘露寺、攝取院、四條、藤三位、中御門、柳原、西專庵へ歲暮禮に罷向候了、○大宅郷政所弟澤野井孫衛門、越前守になし候、去廿六日日付口宣案、右少辨に所望遣候了、○從長橋、今日高倉從南都上洛運々候者、御服に可參之由有之、畏申候由申候了、○雜色與三郎御訪百疋、隼人佐に申付、栗津公事錢去月分にて遣候了、○町、高辻、四方拜衣文之事被申候、又高辻大帷、石帶、襪事被申候、遣了、○四條亞相、佛陀寺之祐閑歲暮禮來儀、○隼人佐に予新調肩衣遣了、○伏見殿、大祥寺殿、准后、同青門、逍遙院、萬里小路等へ歲暮禮參候了、○親王御

方へ參候、四辻父子被參候、御盃參候、一盞候了、○御歲末に暮々參内、帥大納言、三條宰相中將、予、菅原在忠御禮申候了、於御三間御對面也、○從正親町小番結改催有之、三番實胤卿、雅業王、予三人、云々、從菊亭新宰相代被催候了、○親王御方御參内之間、御供參候了、先御服予奉仕之、御劍子、御蠟燭季遠朝臣、御沓惟房、其外萬里小路被參了、○明朝四方拜、脂燭可參之間、其間々番衆所臥候了、○町石帶事被申候間遣候了、○澤路右京亮京竹公事錢とて、十疋持來、云々、○阿子御料人、今夜中御門へ被呼、云々、樽代十疋遣、云云、又中御門より同二十疋來、云々、比興々々、

言繼卿記七

天文三年甲曆

○正月小

一日、己亥、天晴、亥、○四方拜、寅刻各參集、奉行職事、右少將也、先於殿上兼秀朝臣、長雅朝臣、資將等裝束させ候、高倉三位御服奉仕之、御前裝束予祗候也、清涼殿東庭立廻御屏風四枚、御座机北三南一以下如例年、出御、御裾兼秀朝臣、御劔公敍朝臣、御草鞋資將、脂燭予、長雅朝臣、橘以緒、藤原氏直、菅原在忠等也、其後於男末盃酌如例年、未明各退出了、○予行水着衣冠參内侍所、一盞有之、從途中御最花十疋持參之、○雜煮祝如例年有之、○看經候了、○吉書、○祝朝飯以下如例年、目出度々々々、○樂始、平調々々、七句、萬歲樂、只拍三子、臺急、五常樂急、太平樂急、慶德、小娘子、老君子、壹越

調音取、陵王破等吹候了、○大澤彦兵衛尉、澤路筑後入道、同右京亮、同隼人佐、坂田竹千世、井上五郎右衛門尉等禮來候、酌にて盃勸候了、○中御門へ禮に罷向、一桶兩種持向、二獻有之、○親王御方、伏見殿、准后、青門等へ參候、皆御對面也、○宮御方御參内、御服高倉、予御前裝束、御劔予、御蠟燭諸仲朝臣、御沓惟房等也、御供帥大納言、萬里小路中納言、三條宰相中將、高倉三位、兼秀朝臣、公敍朝臣、季遠朝臣等也、○御局局へ御禮申候了、今夜御祝被參之輩帥大納言、四辻前大納言、萬里小路中納言、三條宰相中將、右大辨宰相、高倉三位、兼秀朝臣、公敍朝臣、予、諸仲朝臣、季遠朝臣、惟房、橘以緒等也、○親王御方還御、供奉同前、各被參候了、被改御小直衣候、予御服參候、次御こは供御以下三獻參候、帥卿父子、予計參候、三獻御酌、各被參候、四辻前大納言、右大辨宰相不參也、
二日、庚子、雪降、四、○西專庵朝飯に呼候了、○薄阿茶方より炭取、到、祝着々々、○大澤彦兵衛、坂田竹千世、

澤路隼人佐、井上五郎右衛門來、○薄所よりくた返候、又墨五丁送候、祝着々々、又五丁取寄候、四丁中御門へ被取候、八つ已上四十遣候了、○四辻より、墨一丁、紙二束、被送給候、祝着々々、袍、大帷、綱、笏等禮也、袍計來候、殘者失念歎、○忠國舞人、予番袍返候、囊、荒卷、墨三丁、持來、對面、一盞勸候了、南都神樂雜談共候了、○阿子中御門へ被行候、一荷兩種調遣候、老母同道也、○澤路右京亮禮に來候、去年竹公事錢殘十疋持來、○從持明院指貫事被申候間遣、針、一、耳搔、南都見上とて到、○高辻被借用候大帷、石帶、同町被借候石帶等被返候、○暮々御祝に參候、被參之輩帥大納言、四辻大納言、萬里小路中納言、三條宰相中將、右大辨宰相、高倉三位、兼秀朝臣、公敍朝臣、予、季遠朝臣、惟房、橘以緒等也、○外様番衆四條大納言、持明院宰相、長雅朝臣御禮被申候、申次季遠朝臣、予袍指貫外様にて借用、

三日、辛丑、○中御門へ罷向、暫雜談候了、墨一丁小宰相

に遣了、○老母、阿子兩人に墨一丁つゝ、進候了、
○大澤彦兵衛、坂田竹千世、澤路隼人佐、同右京亮、井上五郎右衛門等來、○河原者岩來、帶一、緒ふと三束持來、○四條へ禮に罷向、一盞候了、○當番之間八時分參内、頭中將公敍、七時分被參候、宿者退出、○御祝被參之輩帥大納言、四辻大納言、萬里小路中納言、三條宰相中將、右大辨宰相、高倉三位、兼秀朝臣、公敍朝臣、予、諸仲朝臣、季遠朝臣、惟房、橘以緒等也、
四日、壬寅、○早々從飛鳥井使有之、云々、今日鞍馬寺參詣可爲延引、又鞠始に必可來、云々、從番未出之以前也、則人遣候、立願之間可參詣候由申候處、來十六日必々可同道候間、何様にも鞠始可來、云々、○勸修寺に借候馬之事違變候了、○予新調鞠上始着用、鞠一足一身仕了、○萬里小路權辨、飛鳥井へ見物罷向、遅候間歸候、何時能候はんとて被尋候、一盞勸候了、○四條中將禮に被來候、一盞勸候了、○四條中將同道、飛鳥井に罷向、權辨、内山等同道了、○飛鳥井へ一荷兩

種遣候、○八時分鞠始候、人數飛鳥、勸修寺、四條中將、子、飛鳥侍從、速水兵部丞、里村彌二郎等也、侍從始也、其後うごんすい物三獻候了、各青侍共召被出候了、予供大澤彦兵衛、竹千世、○老母、西專庵鞍馬寺へ參詣、御通夜也、○高橋民部大輔、大隅民部丞禮來、云云、○山口餅大豆等如例年到、目出々々、

五日、癸卯、晴、○中御門へ罷向、一盞候了、○老母鞍馬より八時分下向、○從飛鳥井使安田、有之、對面、昨日祝着之禮、又禁裏へ御禮何比可然哉談合、云々、又去年中番代祝着之由候、樽代とて百疋被送候、祝着之由申候、一盞勸候了、○雨笠一本、十疋に取之、○西殿青侍紀多與次禮來、○飛鳥井今夜參内御禮被申候、於此方被着裝束候、予外様番代永家、祇候候間、同道仕候了、相番菊亭退出也、飛鳥申次右大辨宰相也、又宮御方へ被參候、則退出候了、予同道於愚亭二獻勸候、入麵すい物等用意候了、○中御門西向來臨、一荷兩種隨身也、同二獻勸了、○五辻禮に來儀、云々、○大工禮に來候了、

六日、甲辰、天晴、○中御門へ罷向暫雜談、西向へ墨一丁遣候、○澤路彦三郎禮に來、○從葉室局來、差樽兩種鏡餅等持參、局に二十疋、下女に十疋遣候、返に綿一包遣候、入麵にて祝候了、○阿子文實に所望之間、墨一丁遣候了、○從大宅郷若葉五荷如例年到、目出度目出度、○高辻禮に來儀、云々、○伏見殿宮御方へ參候、一盞被下候了、○暮々伏見殿宮御方へ參候、御盃頂戴候了、○長橋局へ一桶兩種遣候了、

七日、乙巳、雪降、○大澤彦兵衛、坂田竹千世丸、井上五郎右衛門等來候了、○今日祝如例年、目出度々々々、○中御門へ罷向、一盞有之、暫雜談候了、○帥卿へ一桶兩種遣候、則禮に罷向、雜煮にて一盞有之、○竹内殿、轉法輪三條、正親町、四辻、高倉、五辻、薄、中院、三位局等へ御禮參候了、○從廣橋予加級昨日勸許、口宣案到、上卿帥大納言、
天文三年正月六日 宣旨
從四位上藤原言繼朝臣
宣敍正四位下

藏人頭左中辨藤原兼秀奉

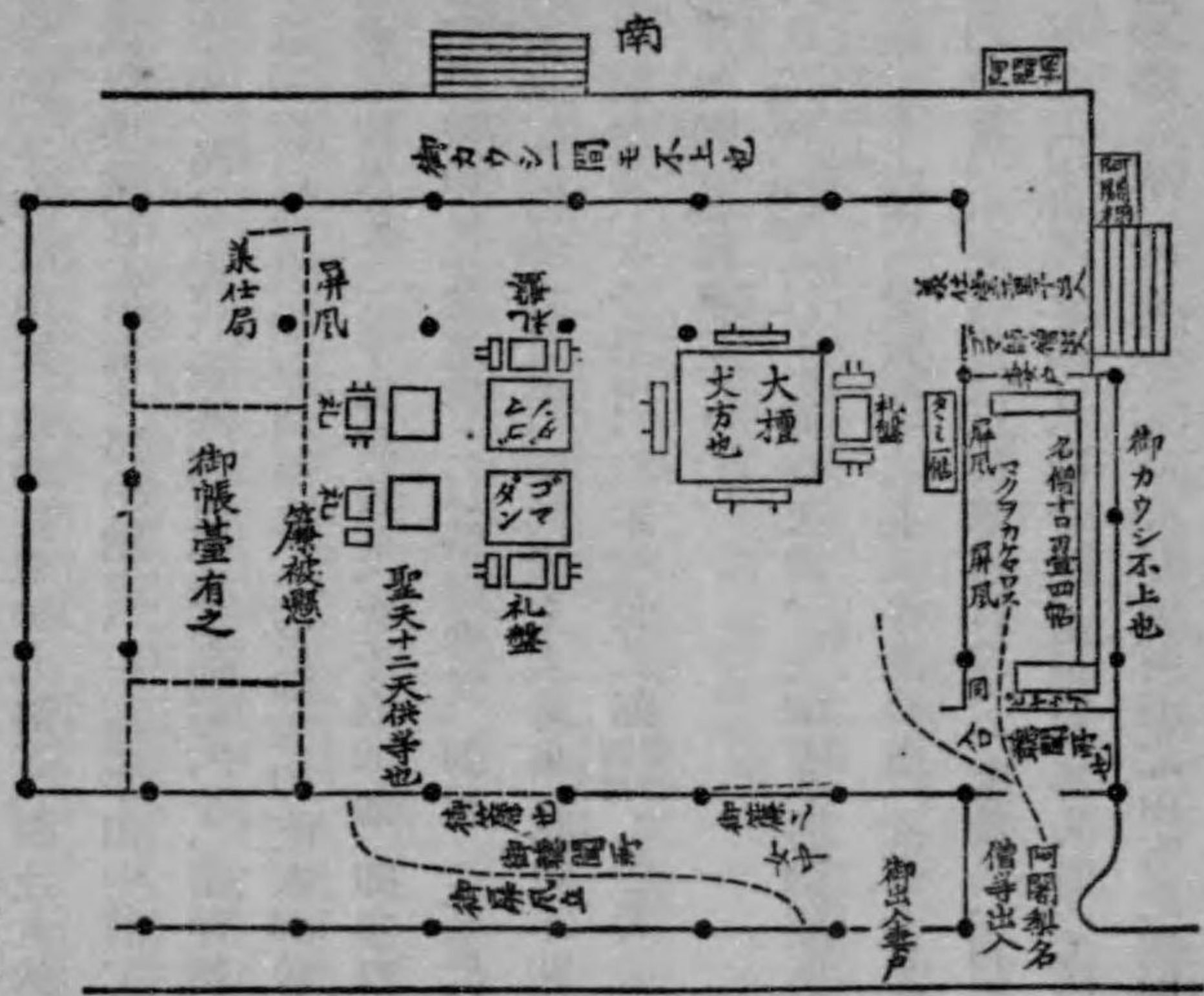
○四條亞相禮に來儀、一盞勸候了、○暮々御祝に參内、先宮御方へ祇候、各被參候、御こは供御參候、三獻各參候、予御盃申候、被參候輩帥大納言、四辻大納言、甘露寺中納言、萬里小路中納言、三條宰相中將、右大辨宰相、高倉三位、兼秀朝臣、公敍朝臣、予、諸仲朝臣、季遠朝臣、惟房、橘以緒等也、次宮御方御直衣御着用、高倉三位奉仕之、予御前裝束、次予取御劔、御參内也、各御供被申候、禁裏御こは供御參候、御祝に各被參候同前也、次宮御方還御、御共殿上人計也、萬里小路、高倉者被參候、次予退出、○木村源二郎西殿、禮來、云々、○宮内卿在宮、禮來、云々、

八日、丙午、朝雪、○早々河崎天神、上御靈、同御旅所、下御靈、子地上、春上等へ參詣候了、共大澤彦兵衛、井上五郎右衛門計也、○澤路彦三郎來、餅にて一盞勸候、初學之事有之、○山井安藝守、壽命院、西川對馬入道宗俊、宗信等禮に來、云々、○九時分早々可參之由有之間則參

内、西園寺大納言今日參内申次仕候、子息儀絶也、爲寂慮元服也、仍御述懷申、五六年不出頭也、近日和與にて出仕也、久我も同無出頭也、是も近日可出仕、云々、○八時分參御前、暫御雜談申候了、從今日於紫震殿太元帥法有之、道場用意共見物候了、今日青門、竹内殿、師弟御參内、准后、二位殿等御參也、暮々宮御方御迎に可參之由被仰候間則參、予御服奉仕、次取御劔、御沓惟房、御供兩人計也、萬里小路中納言下妾にて被參候、殘者運參也、五時分各御後へ渡御也、太元帥法始行也、名僧十口、阿闍梨理性院法印也、僧正者見物也、四過時分一座終、次各還御也、今夜者三座有之、云々、指圖大方此分也、

○宮御方還御如前、供奉諸仲朝臣、季遠朝臣、資將等被參之、予計一盞被下候、忝者也、御服共調入候了、○今日當番頭中將畫計也、宿者退出、予一身也、○種善軒禮に來儀、云々、

○指圖ハ製版ノ都合ニヨリ次頁ニアリ



大檀南東北三方まわりの、本尊南に一幅、北に二幅、毘沙門、等也、まくの外に机有之、佛供燈明有之、大檀之内色々物共有之、花瓶四方角三つ、以上十二、弓五十張也、矢百計有之、三、六、歟、鏡五、塔一、りんぼう一、前に花舎香爐以下有之、各休所小御所也、通路御後簀子也、

九日、丁未、天晴、○景範、盛秋禮に來、云々、○飯尾彌三郎禮に脱カ對面、暫雜談、○松田八郎左衛門入道來、餅にて一盞勸候、暫雜談候了、○中御門へ罷向暫雜談、一盞有之、下器部屋にて又酒有之、治部又四郎等計也、夜半計歸宅、○猪熊三位禮に來、見參、十日、戊申、天晴、○持明院、常光院禮に來儀、入見參候、等待寺之祥瑞禮に來、云々、○樂譜爲愚見今日立筆、小本也、○飛鳥井外様番始被參候、於此方被着直垂、宿者退出候了、十一日、己酉、天晴、○老母四條へ朝飯に罷向、西川振舞、云云、暮々御歸候、○久泰禮に來、墨二丁、進、祝着々々、對面候了、○葉室より竹一荷來、祝着々々、○今日伏見殿各申沙汰也、一荷兩種進候了、○中御門へ晚飯に罷向、狸汁有之也、○暮々伏見殿へ參候、遲參仕候、三獻め也、被參候輩四條大納言、四辻大納言、三條大納言、今出河大納言、持明院宰相、高倉三位、隆重朝臣、予、諸仲朝臣、長雅朝臣、季遠朝臣、資將、基孝等也、八

獻參候了、

十二日、庚戌、天晴、○亡父忌日之間、常樂寺之僧正舜時に來、相伴候了、○澤路軍人佐來、大宅郷地子之事申候、高島與十郎違亂之由前々申候、折紙可出之由堅申候處、六郎下知出候所者相除由申候、云々、然者十六日より可催促之由申上、云々、一昨日歟、六郎奉行古澤方へ狀遣候、取返候了、○阿子御料人中御門へ被呼候了、今夜逗留也、○中御門へ罷向暫雜談、一盞有之、四時分歸宅、○從途中山井將監景雅、來、左兵衛佐書狀有之、來廿一日に江州へ下候間、可同道由申上候了、一盞勸候了、十三日、辛亥、天晴、○景範來、對面、一盞勸候了、筆作來、筆三管、申付候、酒勸候了、○阿子夕方歸候了、○清三位禮に來、甘露寺禮に被來、云々、○今日大祥寺殿へ御禮に參、御弟子御所御對面、御盃頂候了、菊亭へ罷向見參、伏見殿、青門、萬里小路など參候、甘露寺へ罷向見參、攝取院一盞有之、持明院見參、宮内卿一盞

有之、大炊御門、同二位殿、小倉、猪熊三位、藤三位等へ罷向、○暮々當番之間參内、相番權大納言、宿者退出也、予一身也、○暮々藤三位所へ方違に罷向、則罷歸候了、○藏人此方へ方違に來、云々、一荷兩種持來、○從飛鳥井使有之、咳氣散々式也、來十六日鞍馬寺へ可依體之由被申候了、十四日、壬子、天晴、立、春、八專入、○今朝忠國、甲斐守所望之事披露、則勸許也、○太元帥法今朝迄也、各分散也、○中御門へ罷向、則罷歸候了、○從大宅郷如例年三毬打十六本用意、十本禁裏へ進上、大澤彦兵衛、澤路筑後入道、同右京亮、同彦三郎來仕候了、長橋文如此、三きちやう十はんしんしやういたし候よし、御心へ候て、御ひろうにあつかり候へく候、いとし、
と き 繼
勾當内侍との、御局へ

○長生軒禮に來候、○西專庵へ禮に罷向、とくり隨身也、○廣橋、理覺院、西光寺、飯尾彌三郎、長生軒、清三

位等へ禮に罷向候了、飛鳥井へ罷向、他行也、侍從見參、一盞候了、○暮々御祝に參内、被參候輩帥大納言、四辻前大納言、權大納言、甘露寺中納言、三條宰相、高倉三位、予、諸仲朝臣、季遠朝臣等也、則退出候了、○從坂本執當法印、例年兩種一樽到、祝着々々、十五日、癸丑、雨下、未刻、○粥祝如常、大澤彦兵衛、坂田竹千代丸、澤路入道、同右京亮、同隼人佐、井上五郎右衛門等來候、今朝雨下之間各歸候、三毬打夕方と申付候了、○中御門へ罷向暫雜談候了、○攝取院へ詔候沈二兩、貝香二分、取寄、則薰物料用意也、○夕方彦兵衛、右京亮、竹千世、隼人來、三毬打はやし候了、○暮々御祝御參候、先宮御方へ參候、御裝束予奉仕之、御前裝束惟房也、予取御劔、惟房取御沓、則御參内也、御供萬里小路中納言、兼秀朝臣、諸仲朝臣、季遠朝臣等也、御祝被參候輩帥大納言、四辻前大納言、權大納言、萬里小路中納言、三條宰相中將、右中辨宰相、高倉三位、兼秀朝臣、予、諸仲朝臣、季遠朝臣、惟房、橘以緒等也、次於清

涼殿東庭三毬打如例年、次宮御方還御、御供同前、又各御祝に被參候、御こは供御候間、先各に一盞有之、次各被參候、右大辨宰相不參也、次退出、○予外様番永家、參候、予一身也、御兆子出候了、○高倉三位禮に被來候、一盞勸候了、○從極膳三毬打催有之、加奉了、頭辨殿、頭中將殿、四條中將殿、內藏頭殿、左衛門佐○督殿、大內記殿、小倉中將殿、中院中將殿、四辻少將殿、右中辨殿、左少辨殿、藏人右少辨殿、右衛門佐殿、飛鳥井侍從殿、持明院侍從殿、藏人殿、菅藏人殿、新藏人殿、

十六日、甲寅、天晴、○從飛鳥井使有之、鞍馬守へ可同道之由被申候、馬之事勸修寺へ申候處、俄相違事有之間、可隨體由申候了、○馬事澤路隼人調來、但鞍皆具無之、飛鳥井に有之、則罷向用意、同道也、予共隼人、與三郎小者計、九時分出門、於鞍馬戒光坊小濱有之、予見上に十疋、其外御最花少、遣了、七時分下向候了、○高辻に詔候雲井のはな一冊、出來候了、○藏人修理亮來談、

○昨日和歌御會始制限可爲午一點之由、其沙汰候也、催有之、鶴宿松樹、右御題、

來十九日可有和歌御會始、可令豫參給之由被仰下候也、

正月十五日

秀 房

帥大納言、奉、四條大納言殿、四辻前大納言殿、奉、三條大納言殿、奉、菅中納言殿、甘露寺中納言殿、奉、左衛門督殿、持明院宰相、奉、三條宰相中將殿、奉、右大辨宰相殿、高倉三位殿、奉、頭辨殿、頭中將殿、奉、四條中將殿、內藏頭殿、奉、左衛門佐殿、奉、四辻少將殿、奉、藏人式部丞殿、奉、

來十八日、三毬打竹從深草持參、

十七日、乙卯、天晴、○今日故中御門入道三心院忌日之間、佛陀寺之僧良胤時に來、○今朝長橋局に朝飯有之、則罷歸候了、○中院、萬里小路へ罷向、則歸宅、中御門へ罷向、則歸宅、○勸修寺之青侍、從賀州白山書狀持來、對面、一盞勸候、○阿子中御門へ被行候、○暮々四條へ罷向暫雜談、一盞候了、○手綱、腹帶布三口、取寄候、則染

事田中孫三郎に詔候、○予肩衣出來、又惡候間返遣候了、

十八日、丙辰、天晴、○昨日攝取院へ申候あまつら來、則薰物調合候了、○各來、於禁中三毬打用意、大澤彦兵衛、澤路入道、同右京亮、同隼人佐、同彦三郎、與三郎、二郎右衛門、小二郎、隼人小物、人夫兩人等也、如例年以上廿五本有之、○當番旁八時分參内、親王御方小御所に御座候間參、暫御雜談申候了、七過時分三毬打始、被參候輩萬里小路中納言、三條宰相中將、高倉三位、頭中將、予、右衛門佐、四辻少將、水無瀬少將、權辨、極膳等也、於男末一盞如例年、○今日番衆頭中將畫計祇候、宿者予一身也、○從途中左兵衛佐書狀有之、來廿二日江州へ參候由候、其前可下、云々、

十九日、丁巳、天晴、○景雄禮來、對面、○中御門へ罷向暫雜談候了、○飛鳥井此方へ被來用意、今日御會始也、四條大納言、飛鳥井同道にて、八時分參内、八過時分各參集、小御所へ參、親王御方御服に參候、則御共申

候、御參御三間へ、次各被參候輩帥大納言、四條大納言、四辻前大納言、萬里小路中納言、左衛門督、持明院宰相、三條宰相中將、高倉三位、公伎朝臣、隆重朝臣、予、諸仲朝臣、公右朝臣、初參、通爲朝臣、初參、季遠朝臣、惟房等也、今日讀師帥大納言、講師惟房、發聲左衛門督也、右^左衛門督歌、持明院發聲也、次於御三間二獻如例年、暮々各退出也、宮御方還御、先予參御服、予取御劔、御查惟房、御共萬里小路中納言、隆重朝臣、通爲朝臣等也、予、季遠朝臣參御前、五時分退出候了、予共隼人佐、五郎右衛門、竹千世、與三郎等也、○予歌昨日藤三位に談合、今日清書、鶴宿^{松樹}、
おさまれるいく世の風かまな鶴の

なれてすむらむ松の木多かた

阿子今日罷歸候了、○予染小袖肩衣等出來、

廿日、^{戊午、天晴}、○途中へ予小袖以下小皮籠下候了、○四條

亞相朝飯に招請申候了、九時分被歸候了、○近所大工に申付候さけつち、今日出來候了、○鞍馬寺之戒光坊

禮に來、炭、一俵、毘沙門佛供餅等持參、見參、一盞勸候了、○經師越前召寄、薰物具十五薄置事申付候、取て歸候、餅善哉、にて一盞勸候了、次に伊勢物語表紙會申付候、○吉田侍從禮に來、云々、○中御門へ罷向、吉田來、入麴にて一盞、暫雜談候了、又局務來、暫雜談、○暮々飛鳥井代外様番に參候了、予一身也、
廿一日、^{己未、天晴}、○景雄來、兄方へ書狀言傳候、江州に居、云々、○老母中御門へ朝飯に被呼候了、○于恆宿禰^{壬生}官務、禮來、云々、○從長橋明後日內々申沙汰、可參之由廻文有之、○今日途中へ可下之處、申沙汰故御暇不出候間、無其儀、○伏見殿へ參、宮御方一盞被下候、青門、萬里小路等へ參候、勘解由小路所にて暫雜談候了、○南都春日御師、昨日書狀返事今日遣、御最花十疋、遣候、舊冬卷物、火箸、神供物等一度に到、○中御門へ罷向暫雜談候了、○藤三位より藤家系圖返候了、
廿二日、^{庚申、天晴}、○從甘露寺今朝朝飯可來之由、早且使有之、昨日予他行とて又來、○梶井殿御下山之間、伏見

殿へ參、三獻有之、宮御方にて暫御雜談申候了、○青門へ參候、則罷歸候了、○從妙觀院書狀有之、新宰相方へ申事有之、文箱一、送給候、○廣橋禮に被來、云々、○業賢朝臣局務、禮來、云々、○暮々中御門へ罷向、猪熊三位、壽命院、嚴藏主等來候了、赤粥有之、夜半過時分歸宅候了、○明日申沙汰料粟七十、大澤父子にむき事申付候、

廿三日、^{辛酉、晴、終日小雪、上卿帥大納言}、○從權辨忠國任國口宣案到、

天文三年正月十四日 宣旨

左近將監多忠國

宣任甲斐守

藏人權左少辨藤原惟房奉

理覺院禮に被來、云々、○景範來、江州へ書狀言傳候持來、○從舊冬勸修寺借用之補歷取返候、業賢朝臣又借用、○禁裏今日內々申沙汰之間、一桶兩種^器、進上候了、○明日江州へ路次之用皮袖細、中御門、皮袴氏直、借用候事、○當番旁七時分參内、先於長橋局入江殿へ

一盞被參候、予御酌申了、次御方御所へ參、御服に候、從伏見殿御使有之、可參云々、則參、同御服之事也、暮暮各參集、宮御方、伏見殿、梶井殿、大慈院殿、三時智恩院殿、帥大納言、四辻前大納言、權大納言、甘露寺中納言、萬里小路中納言、三條宰相中將、右大辨宰相、高倉三位、兼秀朝臣、予、諸仲朝臣、通爲朝臣、季遠朝臣等也、八獻參候了、三獻宮御方、四獻帥大納言、五獻伏見殿、六獻萬里小路、七獻天酌等也、次宮御方還御、御供申候了、今日雖爲當番、明日早々江州へ罷下候間、四辻少將に相轉候て罷出候了、
廿四日、^{壬戌、曉雪下、時分より晴}、○早々江州へ下向、局務同道候了、予供澤路隼人佐、同小物、與三郎計也、暮々くたひれ候間島郷に宿候了、
廿五日、^{癸亥、晴}、○今日五時分江州桑實寺へ付候、高倉宿へ罷向、今日高倉六角所へ禮に被行候了、○新宰相に奈良紙、一束、左兵衛佐に墨二丁、遣候了、
廿六日、^{甲子、天晴}、下津屋來、一盞有之、小林來、同一盞有

之、○今日九過時分大樹へ御禮に參候、高倉新宰相同道、申次細川刑部少輔也、此間御蒙氣、誰々にも無御對面、云々、適罷下候間御對面、云々、太刀持持參候了、次御さこの局へ罷向、薰物一具、遣候、同今局へ五具、遣候、見參候了、次朽木民部少輔所へ罷向、此仁内々披露也、太刀遣候了、大館伊與入道、同左衛門佐、細川刑部少輔所へ罷向、手綱腹帶一懸つ、遣了、伊與入道見參候、殘者申置候、又大館兵庫頭、三淵彌二郎、上野與三郎、細川伊豆守、清四郎、局務へ等へ罷向申置候了、○檀紙不足分局務へ所望之處、五枚到、又硯蓋借用候了、○高倉宿へ各被招請候、朽木民部少輔、三淵彌二郎、海老名備中守、小林民部少輔、安東平次郎等也、三獻有之、及大飲候了、○御さこの局より二荷三種被送候了、高倉留守に一可飲、云々、使片邊對面、一盞勸候、則又書狀にて御禮申候、高倉青侍共に各々勸候了、

廿七日、乙丑、晴、九時、分より雨下 ○朽木民部少輔予方へ禮に被來

候、太刀隨身也、細川刑部少輔同被來候了、○細川刑部、飯川彦九郎、小林民部少輔來、同道にて、高倉父子六角所へ招請、八時分被行候、奉公衆廿餘人、云々、夜半過被歸候、小林、菊阿同道來、各沈醉に又一盞有之、十四五つ、被飲候了、○昨夜同朋衆被御覽候、舊冬訴訟事有之、結句失面目候、既可被生涯之由候了、高倉相拘、種々御詫言申御免候了、則昨夜千阿、吉阿、孝阿、春阿、萬阿禮に來候了、此五人衆也、○局務所へ薰物二具、遣、硯蓋返了、竹内殿御乳人に二具遣、

廿八日、丙寅、雨降 ○孝阿暇乞に來候了、○今日四時分より上洛、高倉父子同道、直途中へ罷向、夜四時分付候了、廿九日、丁卯、晴 ○今日無殊事、○左兵衛佐母に薰物二具、はふに雜紙、帖坊主に墨二丁、遣候了、

○閏正月大

一日、戊辰、天晴 ○今日可罷上之處、明後日連歌張行とて、被留候間逗留候了、○寺庵衆禮に來、高倉父子、予出座、二獻有之、十人計也、○今日壬生官務、久泰、高橋

民部大輔、田口掃部助等禮來、云々、

二日、己巳、天晴 ○左兵衛佐、予、粟津修理進三人、十炷香興行、一興々々、

三日、庚午、天晴 ○今日粟津修理進頭役に而、連歌有之、廿人計有之、發句予に申候間、修理代に仕候、又一重たてる霞の衣かな、先一盞有之、次はう飯、又暮盞出候て及大飲候了、

四日、辛未、天晴、雪亦散 ○今日上洛、山井將監、松井新左衛門、龜君等同道候了、○粟津右京進口入、下生庵に百疋借用、隼人佐借狀、予袖判仕候了、六角方へ之太刀代、又下女御訪等に下行候了、○六郎奉行古津筑後守に書狀、去月十日遣候返事、當月五日到來、云々、太刀一腰到候、從此方筆十對遣候了、○中御門へ罷向、甘露寺被居候、一盞候了、皮袖細返了、○御さ五より一對へ、從大館入道廣橋へ返事遣候了、○今朝より四條へ御出候了、云々、暮々歸宅、

五日、壬申、天晴 ○從藏人所使有之、明日朝飯に可來、云々、

可罷之由申候、則罷向暫雜談、皮袴返遣了、○中御門へ罷向暫雜談候了、○飛鳥井へ罷向暫雜談、夕方鞠一足候了、人數飛、予、侍從、安居院、速水兵部、安田彌七等也、○伏見殿、青門等へ參候、暫御雜談申候了、○從五辻佛作叶圓用とて、檜扇襪裝束被借候間遣了、

六日、癸酉、晴、八時、分より雨下 ○中御門へ罷向、麴而歸宅、○景範來、令同道藏人所へ罷向、朝飯有之、飛鳥井、四條中將、予、治部大輔、景範、速水兵部等也、八時分にうとんにて酒有之、及大飲、音曲有之、夜に入各被歸候了、○中御門西向、葉室母此方へ被來候、從葉室母、厚飯、荒卷等持來、云々、一盞勸候了、

七日、甲戌、天晴 ○中御門へ罷向暫雜談候了、○從四辻明日藥師七人詣催有之、○從飛鳥井會始之題來候了、○宮内卿所へ罷向、一盞有之、○會之人數廻文相届、催候了、○持明院へ罷向、一盞有之、○伏見殿、青門等へそと參候了、○此方にて十炷香張行、中御門歡樂以後初而被來候、人數葉室、予、中御門、藏人、治部又四郎、祐

閑、下笠又次郎、經師越前等也、方^カ草に餅にて一盞勸候了、

八日、^{乙亥、天晴}○朝飯以後樂師詣、木屋樂師に各集候、人數四辻父子、萬里小路、持明院、廣橋、正親町、予等同道、因幡堂七人詣候了、○中御門へ罷向暫雜談候了、○當番之間八過時分參内、梶井宮御參、暮々迄御雜談、柳原本貞治鞠御記於燈下書寫之、本内侍所にて柳原の女中へ返候了、

九日、^{丙子、天晴}○飛鳥井へそと罷向候了、則罷歸、○岡御所へ當年之御禮に參候、御對面、暫御雜談申候、鷹司殿へ參、御他行、云々、崇持院殿御蟲氣、云々、南御所、寶鏡寺殿御對面、御盃頂候了、ようりん庵へ罷向、見參、入江殿へ參候、萬里小路被參、御酒有之、雖然沈醉之間早出仕候、安禪寺殿御留守、云々、

十日、^{丁丑、天晴}○中御門へ罷向暫雜談候了、○從二條殿御使有之、云々、○花山院へ禮に罷向、見參、二條殿へ參候、暫御雜談、一盞有之、聊奏聞之事被仰候、又曇花院

殿へ參候、御對面、一盞被下候、賀州之御料所御代官白光院望候間、此由申候、重而可有御返事、云々、○勸修寺江州へ被參候間、當番之事被申候間、暮々參内、則參御前、四時分迄御雜談申候了、從二條殿被申候事披露申候、不許也、予一身也、○今朝四條へ朝飯に罷向、予、藏人、宮内卿等也、

十一日、^{戊寅、天晴、八時分より雨下、夜入、大風吹、四時分より七時分迄吹}○今日月次會始也、當座之題之事失念、今朝申遣候、四時分來、八時分各集候、人數甘露寺、持明院、廣橋、持明院、予、藏人、壽命院、祥瑞軒、治部又四郎、大隅守、速水右近、清水三郎、下笠又次郎等也、木村源二郎、清水式部隙入とて不出、懷紙短冊者出候、飛鳥井侍從も懷紙計被出候了、晝一盞、又夕方鯨之すい物にて一盞勸候、及大飲、音曲等候了、○澤路右京亮あつけ候腰刀、取に來候間遣候了、

十二日、^{己卯、雨下、八時分より晴}○今朝亡父忌日之間僧來、正舜、又橘廚子之葉雪時に呼候、相伴候了、葉雪予本卦持來

候了、○七時分中御門、壽命院來談、一盞勸了、○木村源二郎昨日之懷紙持來候、又總一覽候了、○暮々中御門へ罷向、甘露寺被來候、中御門、予、壽命院等連歌十餘句候了、一盞有之、其間々各宿候了、

十三日、^{庚辰、天晴}○中御門母、葉室母、甘露寺、中御門、葉室等朝飯に呼了、各相伴也、甘露寺薰物一燒聞候了、○中院へ罷向暫雜談、四條へ罷向、他行也、伏見殿へ參候、宮御方へ祇候、中將某二盤參候、勝申候、御勝負に御扇拜領候了、○今日當番、勸修寺被參候間不參、十四日、^{辛巳、天晴}○今日建仁寺光堂月次連歌會也、從當年

人數に成候間、朝飯以後早々罷候了、人數予、常光院、^{青蓮院、藏務也、誠島小路、大藏卿、祇園宗成、同、六波羅普門坊、經厚法印、同子、經乘、高坊、竹坊、光、祐、同少納言、光明院宰相、四條道場時宗、壬生倉坊、祇園執行内山本、宗、藝、良盛、惟先、金、殿、宗、賀、弘、清、高、盛、同時宗}園重執筆、等也、九時分蔓草に餅にて一盞有之、又晚飯有之、暮々各歸候了、予者種善軒へ罷向、田樂にて一盞有之、其間々宿候了、○今日今堅田藤田七郎方より要脚百疋到、先日借候間只今來、又荒卷一、到、

十五日、^{壬午、天晴}○種善軒にて朝飯有之、其後則歸候了、○伏見殿、青門、中院等へ參了、暫御雜談申候了、○中御門へ罷向暫雜談候了、先姓文人々へみせ候、所望之由被申候、六十二枚有之、暮々より夜半時分迄に廿五丁書寫候了、次歸宅候了、今日より着到有之、又鞠一足有之、今日着到之題立春也、歌別註之、

十六日、^{癸未、天晴}○從早々中御門へ罷向、雙紙書候了、今日終日に廿八枚書候了、朝夕飯用意也、繪者三國と云物、粟津彌三郎兩人して寫候、四十九枚寫候了、○從持明院予冬袍、明後日御千句用被申候、遣候了、○賀州の兵部來、從白光院音信とて二百疋、老母に五十疋持來、對面、餅にて一盞勸候了、○中御門へ局務、官務、女中來、一盞有之、予夜四時分歸宅、

十七日、^{甲申、天晴、十方暮}○今朝中御門へ罷向、昨日之雙紙殘今朝に書終候了、繪も寫功を終候了、○今日中御門故入道忌日之間、僧兩人佛陀寺^{善得院}來、時相伴候了、○禁裏大所へ罷向、一盞有之、事外沈醉候了、○薄所

へ罷向、則歸候、内侍所へ罷向暫雜談候了、○暮々西專庵へ罷向、第十帶刀左衛門尉來、云々、仍鯨之す、い物にて一盞、予振舞、治部又四郎呼候了、
 十八日、乙酉、天晴、○今朝治部大輔、嚴藏主、治部又四郎朝飯申付候、下笠又次郎持來、汗振舞候了、鯨之汁也、○夕方薄、勘解由小路飯に呼候、相違事有之持來、鯨之汁用意、治部大輔又被來候、晚飯申付候了、○當番之間七時分參内、御千句暮々終候了、御盞參候、一獻有之、御陪膳三條宰相中將、御手長予、伏見殿御前長雅朝臣、妙法院宮御前予、梶井宮長雅朝臣也、御酌三條宰相中將、御加予也、被參候輩帥大納言、四條大納言、三條大納言、菅中納言、早出、甘露寺中納言、萬里小路中納言、持明院宰相、滋野井宰相中將、三條宰相中將、高倉三位、隆重朝臣、諸仲朝臣、長雅朝臣、通爲朝臣等也、○御前に召之間則參候、暫御雜談、御千句事共御物語也、今度予指合之事候て不參、無念々々、今夜滋野井祇候也、依宿所違所也、

十九日、丙戌、天晴、○今朝滋野井に朝飯振舞候、暫雜談、九時分兩人四條中將等同道、持明院へ罷向、鞠一足仕候了、○大炊御門へ罷向、菊仙院に申事有之、○澤路筑後入道、同右京亮來、從山科上洛之由申候、舊冬大宅郷地子之事、やうく半分に聊過て出候由申候、○從持明院袍被返候了、○中御門へ罷向、着到和歌書之、中御門、祐閑等歌直遣候了、治部又四郎歌昨日直候了、○賀州之兵部今晚飯に呼、相伴候了、
 廿日、丁亥、天晴、○陰陽頭所へ御樂始日次之事申遣候、八時分返事等到、
 御樂始日次
 今月廿六日 癸巳
 二月二日 己亥
 閏正月廿日 陰陽頭有春
 則長橋局へ進候、來月二日之由被仰出候了、○治部又四郎、下笠又次郎來、暫雜談候了、○從二條殿御使左京大輔久親朝臣有之、參候て基可見物申由、云々、○澤路隼人佐來、腰

刀のこい事、文箱ぬり事申付候、又清水願に申事有之、書狀調遣候了、○賀州兵部來、夕方返事可取來、云云、○二條殿へ參候、覺勝院成勝祇候、御基候了、二盤見物申候了、うとんにて一盞候了、暮々歸宅、○暮々外様番に飛鳥井代に參候了、予一身也、○從四辻小腰刀被返了、
 廿一日、戊子、天晴、○今朝朝飯に四條父子、飛鳥井、藏人修理、景範等呼了、○種善軒被來候、暫雜談候了、吉田侍從來、御元服之愚記借用、又太元帥法指圖、御會始歌等寫之、○御會始御懷紙返上申候了、○鞠伏見殿へ御借用進候了、○隼人佐所より腰刀來候了、○西專庵より可來由有之、則罷向、治部又四郎、七郎等來、一盞有之、後に嚴藏主、嚴阿彌、高屋孫二郎等來候了、○鴨光數來、明日鞠一足可張行、可來之由申候了、○行事官入道來、一盞勸候了、
 廿二日、己丑、曇、九時分より雨下、○來月二日御樂始御目六、勅筆出候、則廻文にて催候了、○中御門へ罷向暫雜談候了、

○鴨光數來、雨降に近頃無念之由申候、四辻亭へ可來之由申候間、令同道罷向、四辻父子、勸修寺、予、勸首座、伊せ與次等也、食籠にて一盞有之、音曲等也、後高倉被來候、○禁裏より、明後日御當座に可參之由廻文有之、畏候由申候了、
 廿三日、庚寅、雨下、○覺勝院、惠命院兩人、今朝時に老母方へ來儀、相伴申候、九時分被歸候、覺勝院と暮三盤打候了、○中御門西向、葉室母等鞍馬寺へ參詣、御留守事に少とくり持て罷向、治部又四郎被來候、終日雜談、七時分被歸候、佛陀寺壽算とくり持來、酒候了、同祐閑來、平野預等也、○今日當番四辻少將に相轉仕候了、○從飛鳥井使有之、明日參内之時此方へ可來、云云、
 廿四日、辛卯、雨下、○中御門へ罷向、着到和歌書候了、○今日御會、八時分參内、飛鳥井此方にて用意、同道候了、今日御當座五十首、勅題、御人數復裂、中務卿宮、梶井宮、帥大納言、四條大納言、四辻前大納言、權大

納言、三條大納言、甘露寺中納言、萬里小路中納言、左衛門督、持明院宰相、三條宰相中將、右大辨宰相、高倉三位、兼秀朝臣、隆重朝臣、下官、諸仲朝臣、通爲朝臣、季遠朝臣、被講候、讀師權大納言、講師兼秀朝臣、發聲左衛門督、四辻前大納言等也、其後七獻參候了、及大飲、音曲有之、夜半過各退出也、予其間々祇候也、當番諸仲朝臣計也、○阿子中御門へ被行候了、

廿五日、壬辰、○三條大納言亭へ罷向、御樂始目六持向、暫雜談、青門へ參、暫御雜談候了、○二條殿へ御樂始目六持參候、暫雜談、基二盤參候、御盃被下候了、歸路に花山院へ罷向、一盞有之、雜談暫、時也、○從飛鳥井明日雜具取に來候、次に此方之裝束之腰組懸、又從去年被借候香合等被返候了、○從西園寺御樂始に故障之由書狀有之、○外樣番水家參候了、予一身也、廿六日、癸巳、○宗清時に來、相伴候了、○中御門へ罷向、照傳、壽命院、祐閑、治部又四郎被來候、鞠一足有

之、○伏見殿へ參、宮御方將某一盤參候了、○飛鳥へ罷向、他行之間罷歸候了、廿七日、甲午、天晴、七時、分より小雨降、○飛鳥井へ申候和歌題出來候、取遣候了、○今日此方之月次和歌會也、八時分各被來候、四條父子、甘露寺、持明院、廣橋、常光院、種善軒、壽命院、治部又四郎、大隅守、速水右近、木村源二郎、清水式部、同三郎等也、飛鳥井侍從、藏人、清水式部者故障、懷紙計被出候了、今日大隅守頭人也、とくり食籠等持參、一盞、音曲と有之、○伊與局より被申候法樂、夢想和歌二首、調遣了、○今日會、讀師四條亞相、講師大隅守、發聲甘露寺等也、當座計講頌也、懷紙者予讀上了、○予針の青貝金物等、今日出來候了、廿八日、乙未、○今日於甘露寺月次連歌有之、式日廿五日延引也、人數四條大納言、四辻前大納言、三條大納言、甘露寺、持明院宰相、高倉、四條中將、予、五辻、四辻少將、龜藏主等也、晚飯に汁候了、各十錢つゝ、持て罷向候了、暮々歸候了、○當番之間參内、予一身也、參御

前、暫御雜談申候了、今夜萬里小路へ盗人數多入候、宮御方へも參候、手近物共大略取、云々、盗人兩三人蒙疵、萬里小路にも一人手をい候了、言語同斷事也、即刻參候了、又爲御使參候了、

廿九日、丙申、○早々萬里小路へ罷向、暫候了、○中御門へ罷向暫雜談了、○勘解由小路所に朝飯有之、四條父子、持明院、予、治部大輔等也、朝飯以後各被歸候了、予、大輔暫雜談、五辻、叶圓等來、八過時分歸宅候了、

卅日、丁酉、○廬山寺之僧照傳、治部又四郎、清水三郎、下笠又次郎等來、一盞勸候了、○中御門へ罷向、吉田來、四五人楊弓候了、○外樣番に畫計參候了、○暮々藏人所へ方違に罷向、四條同被參候、一盞有之、四時分罷歸、又藏人此方へ同道、一盞勸候、是も方違也、夜半計歸候了、

○二月大 一日、戊戌、○景範禮に來、明日樂春楊柳、老君子、小娘

子、林歌合候了、○四條へ朝飯に罷向、今日中將郢曲始也、四辻父子、持明院、高倉、予、景範等也、樂平調、明日之日六也、朗詠德是也、樂之後又一盞候了、○申事候て、大典侍との、御局へ參候、御里出とて御留守候間、罷歸候、伏見殿、准后、青門、宮御方等へ御禮に參候了、○高橋民部大輔、田口掃部助、同菊鶴禮に來、云云、○暮々御祝に參内、被參之輩帥大納言、四辻前大納言、三條宰相中將、右大辨宰相、高倉三位、兼秀朝臣、公敏朝臣、予、諸仲朝臣、季遠朝臣等也、○越前人之事、内々以御今參局、大典侍とのへ申候了、千疋之折紙進候、

二日、己亥、○今朝景範來、朝飯相伴候了、○景範、景雄袍指貫遣候了、○今日御樂始之間、四時分參内、各及度々相觸候了、九過時分菊亭へ罷向、裝束させ候了、今朝被申送候、一盞候了、則伏見殿へ參候、則御參内也、菊亭、持明院宰相、四條中將、予、大内記御共申候了、八時分各參集、伏見殿御器予兼而持參、次出御、次伏

十日、丁未、天晴、○中御門へ罷向、暫雜談候了、○松田八郎左衛門入道來、又慈善、嚴阿彌、高屋孫二郎等來、一盞勸候了、音曲、高屋笛吹候了、○從伏見殿御使有之、則參候、梶井殿、菊亭、眞如堂へ御參候間、御さか迎、云云、仍河原迄御迎に參候了、七時分より御酒始候、青門御出候、被參候輩三條大納言、菊亭大納言、持明院宰相、右大辨宰相、予、諸仲朝臣、資將、叶圓僧都、重成律師、大納言公等也、女中に武家之一臺被參候、數刻有之、夜四時分予早出候了、

十一日、戊申、天晴、夜、○一昨日申出候十月廿四日御當座之御短冊、今日以伊與局返進候了、○甘露寺、飛鳥井同道にて、千本維教經へ參詣候了、歸路に飛鳥井にて一盞候了、○暮々甘露寺、四條中將、予、岡御所之鶯宿梅盛之間、一種一瓶持參候、予張行也、予鈴物一對持參候、夜四時分各退出候了、音曲候了、事外各沈醉候了、

十二日、己酉、天晴、○今日亡父忌日之間僧來、正舜相合之由

候間、本誓寺之統全來、予相伴候了、○松田八郎入道來、笛吹候了、一盞勸候、七時分松田入道同道にて、誓願寺へ參詣候、歸路に高屋孫二郎對面、可來之由申て袖引入、一盞音曲等候了、種々雙紙共以下見了、夜入岡殿梅一覽、

十三日、庚戌、天晴、○岡殿へ祇候、方々へ被遣候梅枝切了、一盞被下候了、○中御門、治部又四郎同道にて、相國寺東門前定尺院系櫻見物、歸路に常徳院れんき萬松御庭見物、孝藏主伏見之大通院、一盞振舞候了、○當番之間七過時分參内、則參御前、四時分迄御雜談候了、予一身也、

十四日、辛亥、天晴、○今日建仁寺光堂月次連歌之間、罷下候、四條亞相同道候了、予者先種善軒へ罷向、從禁裏御一覽有度之由候詩集四冊借用、則光堂へ罷向、人數四條父子、予、常光院、青蓮院廳父子、祇園高坊、光明院宰相公、六波羅普門坊、同少納言、惟先、弘清、金殿、周重執筆、等也、七時分罷歸、四條父子、予同道、暮々歸宅候了、

候了、○高屋孫二郎送候とて、櫻枝八重、嚴阿み持來、云々、

十五日、壬子、天晴、○西專庵へ罷向則罷歸、今朝嚴阿み所へ一首遣候、高屋方へ可申遣由申候、

手折つる人のなさけの色も香も

ひとしほふかき花をみるかな

安明院忌日之間、本誓寺之僧統全時に來、予相伴候了、○從伏見殿、去十日御酒迎御返今日有之間、可參之由御使有之、畏候由申候了、○就樂所之儀、從長橋局折紙有之、則參候て申候了、○八過時分より伏見殿へ參候了、夜半過迄御酒候了、御兩御所、梨門、岡御所、安禪寺殿、西御方、一臺、四辻前大納言、三條大納言、菊亭大納言、持明院宰相、隆重朝臣、予、諸仲朝臣、季遠朝臣、資將、重成、叶圓、重猷、忠首座等也、夜半過罷出候了、

十六日、癸丑、天晴、○伏見殿とて參候了、四辻へ罷向、予笏取て歸宅了、○中御門へ罷向、暫雜談候了、○飛

鳥井へ罷向、來廿日當座題之事、來廿一日四條亞相拜賀借物等之事、侍從に申置候、他行故也、

十七日、甲寅、天晴、暮々、○佛陀寺之僧壽算時に來、予相伴候了、○中御門へ罷向、暫雜談候了、吉田侍從昨日より來、中御門、予東山へ可同道之由申候間、則罷向、先

神恩院長老出世之禮に罷向、見參、一盞候了、又神光院へも禮申候了、又吉田へ罷向、晚飯候了、夜田樂候了、○今朝景通、景長等來、八幡之事に文申候了、則出候、予名を加へ遣候了、又御用之事有之、長橋局へ參了、十八日、乙卯、雨下、○今日終日吉田にて雙紙書寫、雜談候了、晚飯以後歸宅候了、○當番之間暮々參内、參御前、四時分迄御雜談候了、予一身也、

十九日、丙辰、天晴、○明後日四條大納言奏慶之事に、三條、同西、甘露寺、萬里小路、飛鳥井方々へ罷向、裝束具借用之約束候了、先景範所にて一盞候了、○越前之青木母今日上洛也、中御門へ被付候、罷向見參候了、廿日、丁巳、天晴、○今日愚亭月次和歌會也、清水三郎貞

頭役也、今朝從飛鳥井常座題廿首分到、今日被來人數甘露寺、廣橋、四條中將、予、常光院、種善軒、壽命院、治部又四郎、速見右近、清水式部丞、同三郎等也、三郎とくり、あこや、海雲、ち、はくきやわの物等持來候了、○夜五時分飛鳥井父子被來候、伏見殿にて御酒有之、云々、○外様番飛鳥井代參候了、今夜侍從可被參之由内々被申候、雖然同沈醉之間、被歸候了、○當月公宴御月次題到、廻文也、花色映月、無風花散、忍經年戀、

廿一日、戊午、晴、八時分、○從早々四條へ罷向、今夜之奏慶之儀申談候了、○方々借用之物之折紙書候て、取に遣候了、○八時分より四條へ罷向、夕飯有之、四條へ遣候物下襲襟、大帷、三石帶、三平緒、笏、隨身之冠、同太刀、同老懸、烏帽子着侍、澤路右京亮、仕丁一人野村、等遣了、○景通一荷兩種持參、對面、入麴にて一盞勸候了、○四條へ一荷兩種遣候了、○中御門へ罷向候了、○今夜予供大澤彦兵衛尉、澤路隼人佐、井上五郎右衛門、雜色

與三郎、野村二人、隨身一人等也、○今夜四條父子、甘露寺、予、藏人等也、七過時分盃出候、三獻候了、六時分出門、四條大納言供雜色六本、如木一人、布衣二人、白丁等也、同中將雜色一人、隨身一人、白丁一人等也、今夜雨儀也、申次四條中將沙汰候了、出門之時、中門外中將、予列立、對予一揖、其以下如常、歸路に予不扈從、其間々歸宅候了、於禁中四條大納言天盃頂戴候了、

廿二日、己未、雨降、○早々四條へ罷向候了、○從四條一荷兩種被送候了、○西專庵、中御門へそと罷向、則罷歸候了、○四條大納言被來候、太刀持、隨身、祝着々々、一盞勸候了、○中御門、松田八郎左衛門入道、嚴阿み、高屋孫二郎等來、入麴にて一盞勸候了、高屋笛にて音曲候了、○三條亞相明日春日祭用赤大口、平緒借用、遣了、

廿三日、庚申、天晴、○越前之青木後室老母、今朝鮎汁菜振舞候、朝飯持來候了、樽代二十疋持來、西專庵同呼候

了、九時分麵用意候了、今參局にて具借用、一番覆候了、九過時分被歸了、○嚴阿み來、高屋孫二郎より打曇五枚送候、祝着々々、○當番之間八過時分參内、先伏見殿へ參候、吉田治部少輔兼隨加級、同左馬助加級、又神祇權少副之事事に申候間、町右少辨に申候了、今夜相番權大納言也、六過時分兩人參御前、四時分迄御雜談候了、

廿四日、辛酉、天晴、暮、○今朝青木後室朝飯振舞也、甘露寺、予罷向候了、○中御門、照傳等東山吉田へ罷向、云云、予路次同道、予者粟田口妙觀院へ從途中之申狀持罷向、見參、一盞候了、吉田へ音信候、各被歸之由候間、則罷歸了、○青門、伏見殿へそと參候了、宮内卿所へ罷向、他行、云々、○中御門へ罷向、晚飯に汁候了、

廿五日、壬戌、雨降、八時分、○中御門へ罷向、暫雜談候了、○今日外様番可參之處、所勞氣之間不參、廿六日、癸亥、天晴、亥刻、○中御門より鞍馬寺花見とて

被誘引候、明日少用之事有之間故障候了、河原迄予、治部又四郎、照傳、下笠送候了、被參詣候衆中御門、同西向、老母、葉室母、越前青木後室等也、○西專庵へ罷向、治部又四郎同道候、高屋孫二郎來、田樂にて一盞振舞候了、嚴阿み同來、事外沈醉候了、○御料人中御門に姉留守に被居候とて被行候了、○四條より明日朝飯に可來之由使有之、

廿七日、甲子、雨降、八時分、○四條へ罷向、朝飯有之、甘露寺、予、藏人修理亮等計也、○西專庵そと見舞候了、○御料人被歸候了、○松田八郎左衛門入道來、暫雜談候了、○鞍馬寺より九時分各被歸候了、○景範來談、來月廿一日弘法大師七百年忌、曼茶羅供庭儀也、仍舞樂之事共申候了、

廿八日、乙丑、天晴、土用入、○今日祖父雲芳院聖月之間、本誓寺之僧統全時に呼候、松田入道同呼候、予相伴候了、○治部又四郎被來候、着到被談合候了、嚴阿み來、○持明院被來候、暫雜談候了、○中御門へ罷向、吉田

侍從母來、一盞候了、○元之官女茶阿從一昨日來、御訪未進十四半有之、云々、乞候間但十疋先遣候了、○町

右少辨、より口宣案來、則吉田へ便宜に遣候了、
上柳萬里小路中納言
天文三年二月廿六日 宣旨

左馬助卜部兼高

宜任神祇權少副

藏人右少辨藤原資將 奉

上柳萬里小路中納言
天文三年二月廿六日

從五位上下部兼隨

宜敘正五位下

藏人右少辨藤原資將 奉

上柳萬里小路中納言
天文三年二月廿六日

從五位下卜部兼高

宜敘從五位上

藏人—— 奉

當番之間七時分參内、今日相番權大納言と兩人也、暮暮兩人參御前、夜半時分迄御雜談申候了、

三百十二
廿九日、丙寅、○今朝正親町に耐汁有之、朝飯持て罷向、予計也、○今日於持明院亭月次連歌會有之、人數四條、四辻、三條亞相、亭主、高倉、四條中將、予、四辻少將、龜藏主等也、予五十韻執筆候了、中將、少將一折つ、書候了、暮々罷歸候了、○中御門へ罷向、等悦、治部又四郎、筆彌二郎、六七人音曲候了、大小鼓候了、入麴にて酒候了、四時分歸宅候了、
卅日、丁卯、○中御門へ罷向、暫雜談候了、○嚴藏主來、禁裏堀之事、六町へ申候所畏候由申候、然者折紙所望之由申候間、内々伺候て可遣之由申了、○九時分參内、堀之事申候、可然思食候、猶帥大納言、萬里小路中納言可談合之由被仰候間罷向、千萬可然之様被申候了、逍遙院と暫雜談、柳原被申候短冊十首、出來候、取て罷歸候、則又參内、此由申候、則參御前暫御雜談候了、○暮々飛鳥井侍從被來候、此方にて用意、外様番に被參候、予同參候了、宿直兩人有之、
○三月小

一日、戊辰、○大澤彦兵衛尉、澤路隼人佐禮に來候了、
○高橋民部大輔、治部又四郎禮に被來候了、○中御門、四條、藏人、西專庵、伏見殿、宮御方、准后、同青門、三條西等へ禮に罷向候了、○越前衆、老母明日參宮、云々、仍此方精進屋とて各被來候了、○禁裏東南堀之事、六町へ申付候、嚴藏主に折紙付候、各へ可申之由申候、如此、

禁裏様東南堀事、近日御用心之間、被致御警固候爲、六町之輩、致普請候者可爲神妙由、堅可申之旨、山科殿御奉行所候也、仍狀如件、

二月廿九日

澤路隼人佐 重 清 判
坂田民部少輔 頼 家 判

六町月行事

○暮々御祝に參内、被參候輩帥大納言、四辻前大納言、三條宰相中將、高倉三位、兼秀朝臣、予、諸仲朝臣、季遠朝臣等也、○從大宅郷御供三膳上候了、目出度目出度、

三百十三
二日、己巳、小雨下、五時分、○今朝越前衆兩三人、老母、下女等參宮門出候了、○治部又四郎、松田八郎左衛門入道、嚴阿み、高屋孫二郎等來、終日雜談、高屋笛吹音曲候了、一盞勸候、晚飯各取寄、鯨汁用意候了、中酒光候了、四辻少將被來候了、
三日、庚午、○鬪鷄之間持て參内候了、九番候了、次伏見殿へ參候、十番計候了、今日御禮申候了、鷄者如何例年從野村郷持來、祝候て下候了、○今朝澤路筑後入道朝飯用意來候了、右京亮今日迄六日所勞、云々、風氣之由申候了、○多久泰禮に來、鴨光數來、高橋民部大輔來、景範來候了、○澤路隼人佐來、○大澤彦兵衛來候了、○藏人來、○中御門へ禮に罷、歸四條、西專庵、藏人所へ罷向、青門、准后、西殿、萬里小路、宮内卿へ罷、歸候了、二條殿今日御參内也、准后へも御參、予申次仕候了、飛鳥井へ罷向、周桂來、一盞候了、○伏見殿御祝に七時分參候、二獻參候了、予御陪膳仕了、三條大納言、菊亭大納言、庭田、童體、予、諸仲朝臣、長雅

朝臣、資將等也、○宮内卿禮に來、云々、四條中將被來、半井澄玄禮に來、遊仙丹百粒、持來、粟津彌三郎禮に來、云々、下繪短冊三枚、持來、○從深草土器持來、數六○嚴藏主來、禁裏堀之事畏候由申候了、○暮々御祝に參候、先宮御方へ參候、御祝候了、次御參内、予御劔持、季遠朝臣御沓に參候了、御供萬里小路中納言、兼秀朝臣、公敍朝臣、諸仲朝臣、橘以緒等也、還御之時申供奉、御劔公敍朝臣持候了、御祝に參内之輩帥大納言、四辻前大納言、權大納言、甘露寺中納言、萬里小路中納言、三條宰相中將、右大辨宰相、高倉三位、兼秀朝臣、公敍朝臣、予、諸仲朝臣、季遠朝臣等也、權大納言、予當番之間、其間々祇候、頭辨御添番に祇候也、
 四日、辛未、雨下○高屋孫二郎、松田入道來、終日雜談、笛吹音曲候了、甘露寺、清水三郎笛開度之由候間呼候、一盞勸候了、暮々被歸候了、○大澤彦兵衛尉呼て、半井澄玄、粟津彌三郎所へ昨日之禮に遣候了、
 五日、壬申、天晴○飛鳥井より使有之、速水兵部明日歌鞠會に可

來、云々、對面、可罷之由申候了、○從大宅鄉殿一荷到、○伏見殿より御鞠之由御使有之、則參候、御人數梨門、宮御方、持明院宰相、予、資將等也、○中御門へ晚飯之汁有之、罷向候了、○暮々又伏見殿へ參候、音曲有之、三上府生、澤路隼人佐、經師越前三人うたい候了、御盞三、參候了、はう飯被下候了、夜半時分退出、事外沈醉候了、○葉室母方より草餅一盆、壺被送候、祝著々々、
 六日、癸酉、天晴○薄所へ小用之事有之罷向、又宮内卿所へ罷向候了、○今日飛鳥井會歌師卿に談合候了、則清書候、○九時分甘露寺、持明院、四條中將此方へ被來候、同道候て飛鳥井へ罷向、烏帽子、直垂、鞠之具持せ候了、則當座^{十五}有之、予二首讀候了、則講頌有之、人數甘露寺、亭主、持明院、四條中將、予、侍從、景範、周桂、里村彌二郎等也、歌以後勸修寺入道被來、次はう飯にて一盞有之、次鞠有之、甘、亭主、持明院、四條中將、予、侍從、速水兵部丞、里村彌二郎等也、持明、四中、侍

從、今日組懸被聽候了、數多之見物衆也、五六百人有之、青門、梨門、竹内殿、入江殿、寶鏡寺殿、慶春院、近衛殿、御兩御所、久我父子、三條大、菊亭、其外此邊衆大略見物也、鞠以後食籠にて一盞有之、五時分各歸宅候了、○從大宅鄉殿片荷持來、○嚴阿來、花一枝從高屋孫二郎送、云々、○禁裏堀之事に、六町衆各來、云云、他行之由申候、云々、
 七日、甲戌、天晴○今朝中御門へ朝飯に被呼候間、罷向候了、○松田入道、高屋孫二郎來、笛吹候了、草餅にて一盞勸候了、三人同道にて、建仁寺光堂之藤見物候、當年一向無見立候、暮々歸宅候了、○堀之事に從六町月行事來、三上府生、清水式部丞同來、清水奏者仕候了、内藤彈正忠、波々伯部左衛門尉所へ、從此方可届之由申候間、心得候由申候了、三上、清水兩人一盞勸候了、
 八日、乙亥、天晴○廣橋早々被來候、從禁裏御使、云々、來廿日東寺之曼陀羅供舞樂目六、各召寄談合仕候て、案可書進之由候了、○四條へ朝飯に被呼候間罷向、覺勝院、

予計也、亭主父子相伴候了、○景通、景範、久泰、盛秋、景衡、景雄召寄談合仕候、盛秋他行とて遅く來、景範者今度之奉行、久泰至今日不相催候間、兎角不可申由申候了、景通、久泰等談合候て如此調候、
 曼陀羅供
 舞目錄
 左 右
 萬 歲 樂 地 久
 太 平 樂 長 保 樂
 陵 王 納 蘇 利
 曼陀羅供
 舞
 左
 萬 歲 樂
 太 平 樂
 陵 王

右

地 久
長 保 樂

納 蘇 利

廣橋、景範如此可然、云々、

如此相調、長橋局へ進入候、引合折紙也、次今日當番所勞之間、不可參之由申入候、御心得候由候、○廣橋へ先罷向、目六様談合候了、暫雜談候了、○中御門へ罷向暫雜談候了、吉田侍從來逗留候了、

九日、丙子、天晴、○吉田、中御門、壽命院、照傳、松田入道、清水三郎暫來談候了、○中御門又被來候、廣橋禁裏爲御使被來候、今度就曼陀羅供、景通訴訟有之、然處景範證文先々一紙も不入見參候、然者此度可爲勸感、一紙にても入見參候者、逐而可有御糺明候、殊去年來之緩怠、可有御免之由、堅可申付之由被仰下候了、畏候由申候了、則景範召寄此分申聞候、肝要之證文唯一紙可入見參之由申付候、明日可持來之由申候了、○中御

門、治部又四郎、下笠又次郎に蕨之汁振舞了、中酒者阿彌陀之者也、○中御門職事之事、前兩度予披露、今日以廣橋被仰出候、極薦方へ從頭辨一通如此歟、右衛門佐藤原宣治被補五位藏人候也、任例可令下知給、仍狀如件、

三月九日

左 中 辨 判

藏人式部丞殿

今晚予直垂借着、長橋迄御禮被申候了、殊歡樂以後始也、宮御方、青門、西殿、廣橋等へ參、云々、○夜五時分中御門、予、清水三郎、下笠又二郎、經師又三郎等誓願寺へ參詣、高屋門前にて清水三郎一盞振舞候、高屋も出候、夜半計歸宅、清水三郎此方に臥候了、○從大宅郷殿一荷到、以上二荷彌到、○今日高屋孫二郎來、暫吹候、關小刀一、持來、祝着々々、雖而歸候了、十日、丁丑、天晴、○中御門に汗有之、朝飯持向候了、○景範來候、證文一紙、系圖等持參來候了、如此之證文也、是者慈照院殿御代細川右京大夫勝元號龍安寺、遵行也、

表紙如此

山井因幡守殿

右京大夫勝元

石清水八幡宮御神樂料所備中國吉河庄并北野社樂頭職等事、就由緒先度御成敗之處、筑前守景兼一方向雖掠、給奉書被召返畢、更任證文之旨、如元可全領知之由、所被仰下也、仍執達如件、

文明元年十一月廿四日

右京大夫判

山井因幡守殿

此一紙と系圖と入見參候、殘者此方に置候了、當社日供學頭職之事、可申付景康之由、被成下御奉書候、心得申候之由、自私可申旨候、恐々謹言、
十二月廿五日

北島藤左衛門尉明忠

判松梅院之雜掌也

山井因幡守殿

北野宮寺日供學頭職事、可被申付山井因幡守景康由、被仰出候也、仍執達如件、

十二月廿九日

之 種 判
貞 基 判

松 梅 院

武家御下知也、

就大神景定身上事、預御尋候、去十月比於當所依當俗仕候間、前社務實久糺明之間、逐電勿論候、恐々謹言、

十二月廿八日

賀茂社務

久 判

飯尾肥前守殿

此三通者此方に留候、不入見參、○廣橋へ人遣候、則被來候、予同道參内、則參御前、景範證文系圖等入見參候、只今先被返下候、來廿一日以後可入見參、可有御糺明之由候、此上者女房奉書可被出候、兩人案文可調進之由被仰候、其後暫御雜談申候了、長橋にて頭辨案文被調、則披露、雖而長橋被書出候了、一盞有之、予今夜御添番に可祇候之由被仰候間、畏候由申候了、奉書如此、

仰天文二

どう寺のまんだらくのふかくにつきて、ふかく人

わたくしの所そんな候とも、へつしたる勅くわんの事にて候へは、いらんを申候はて、をのくさんきんいたし候は、神妙におほしめし候へきよし、かたく申つけられ候へく候、なをこのうへにて所そんを申ともから候は、それをのそぎ候て、申さたいたし候へど、久やすにおほせつけられ候へく候よし申とて候、いし、

頭辨とのへ

景範方へ證文四通、系圖等、予持て罷向返遣了、○飛鳥井へ罷向、來廿日着座に被參候間、其儀談合候了、又明日之愚亭月次會、當座廿首、題之事申候、又甘露寺被來、一盞候了、暮々歸宅候了、○暮々御添番に參内、飛鳥井侍從父卿代に被參候、此方にて用意、予同道候了、今夜別殿行幸也、紫雲殿御渡也、予御蠟燭に參候了、召出右大辨宰相、予兩人也、予鶏申候了、則還御、御講^カ子以後外様へ罷向、中御門とくり持來、一盞有之、又日花門下にて有之、夜半迄酒候了、○因州柳原より逍遙

院へ被申候色紙、今夕出來、七十二枚出候、從國廿四枚被申候間、持て罷向申候了、○自理覺院一荷兩種被送候、祝着々々、予に被誂候雙紙被急候了、

十一日、戌寅、○從飛鳥井當座題來候了、今日木村源二郎頭人也、○今日月次和歌會也、來廿日東寺之法事之間引寄候、被來候人數四條、同中將、甘露寺、持明院、廣橋、予、治部又四郎、木村源二郎、清水式部丞、同三郎、速水右近、大隅守等也、當座計講頌也、讀師四條、講師源二郎、發聲四條中將也、其後一盞候了、○從伊勢各今日下向也、仍予酒迎とて盃出候了、四條父子、甘、治部、清水父子、木村殘候、及大飲音曲候了、○山井將監景雅從途中上洛とて、書狀持來、一盞候了、

十二日、己卯、○今日亡父忌日之間、常樂寺之僧正舜時に來、予相伴候了、○老母伊勢見上とて、あみ笠、御祓、甘のり、のし等見來候了、又越前青木後室方より祓、甘のり、青のり被送候、祝着々々、○治部又四郎、清水三郎同道候て、清水寺へ參詣候、目代^{圓場院中}へ罷

向、就堀之儀くいの木廿本計、當山より可進之由申付候、一盞候了、○澤路右京亮所勞、見舞に日々人遣候了、○從逍遙院書狀有之、色紙出來候了、○澤路右京亮今晚遠行、云々、言語同斷、不便々々、○飛鳥井へ罷向暫雜談、暮々歸宅候了、

十三日、庚辰、○逍遙院昨日之書狀之禮に罷向、見參候了、○朝飯以後、早々法住寺へ、後白川院御聖月之間、爲御陪膳罷下候了、○今日より四條東洞院にて勸進申樂有之、大夫少人也、江州者、云々、座之物共京都之物相交候了、中御門、予、中女房衆等見物候了、今日八番候了、○今日之當番、勸修寺へ相轉候了、○清水寺目代來、一盞勸候、○中御門へ罷向、一盞音曲等候了、○澤路筑後入道以大澤彦兵衛尉申候右京亮跡之事、隼人佐以子猶子之分定候由申候了、惡日之間留守之由申候了、○暮々松田入道來、暫雜談、月下に高屋門前へ罷向笛吹、孫二郎出候、内へ呼候間罷向、茶立候、後に一盞候了、

十四日、辛巳、晴、時雨下、○今朝朝飯に飛鳥井へ罷向、人數正親町、甘露寺、予、專壽寺等也、○中御門へ罷向、暫雜談候了、○今日日光堂月次連歌故障之由申遣、○今朝逍遙院へ罷向、因州より色紙禮樽代百疋持來之間、予隨身持向見參、中取間敷之由被申候、種々申候へ共被歸候間、紀多與次に先預置候了、色紙廿四枚、短冊十首、樽代持て來候、三宅と云物に渡候了、○暮々與次來候、早々可取之由申候、先預候由申候、杜若一盞逍遙院へ遣候了、

十五日、壬午、雨下、五分より晴、○紀多與次來候、種々申候處、やうやう被留候由申候、茶勸候、暫雜談、又景雄來候、舞繪見度由申候間、二卷遣候、取て歸候了、松田入道、高屋孫二郎來、茶勸暫雜談候了、○七過時分勸修寺番代に參内、則參御前、四時分迄御雜談申候了、○從廣橋使有之、就山科七郷儀申度事有之由被申候、番之間明日可罷之由申候了、○從正親町祿之裏板引事頼入由申て、入候のりの代十疋來候了、

十六日、癸未、天晴、○四時分廣橋へ罷向之處、從江州椿阿み、以大和內山之中院僧正言傳、云々、日蓮衆木澤津カに付て、以六角宇治郡十一ヶ郷、山科七郷、東山十郷散在一圓申請、云々、山科儀可被相支之由申候、云々、言語道斷儀也、則可披露者也、○清水寺目代來候了、木之事詫言、云々、○高屋孫二郎河魚、竹子送候、祝着祝着、則夕方汁用意、松田入道晚飯此方に用意也、下笠又次郎、高屋孫二郎飯持來、暮々伏見殿前へ同道、笛吹候了、○下笠又次郎を内藤彈正忠、波々伯部左衛門尉所へ遣候、他行、云々、○澤路隼人佐門外迄召寄、山科之事申聞候了、

十七日、甲申、天晴、十方霧入、○中御門へ罷向、廳而歸宅候了、○朝飯以後則參内、山科七郷事内々披露、則可參御前、云々、則委細申入候、九過時分迄御雜談候了、江州へ女房奉書案文、頭辨に相談可調進之由被仰候了、○松田入道來談、則被歸候了、○廣橋へ罷向相談、則案文調候、直に飛鳥井へ罷向、正親町、甘露寺被來候、來廿

日東寺曼陀羅供之事對談也、一蓋被勸候了、○澤路從山科上洛、日蓮宗申請候事驚入候、祝着之由申候了、十八日、乙酉、天晴、暮、○今朝昨日之文案文、早々長橋局へ進候、則此文出候了、

仰天文三、三十八

山しな七かうのしよさんさい、申うけ候ともからあるよしきこしめし及はれ候、一ちやうにて候やらん、おそろき覺しめし候、おと、しも申され候つれども、おほせわけられ候て、しゆこふにうの御下ちをかかねてまいらせられ候つる事にて候、ことにそのかうみんどもは、北のものやく所をそんなして、ほうこうけたいなき事にて候へは、かたく仰いたされ候て、この程のことくへちきなきやうに候は、めてたくよろこひ覺しめし候へきよし、よく心え候て、むろまちどのへ申され候へく候よし申とて候、しん、

頭辨とのへ

澤路隼人佐召寄堅申付候、從廣橋も書狀有之、○今日當番代、種々相轉候へ共無之、此由申入候了、○伏見殿へ參候、四時分御出候、御輿也、梶井殿同御輿也、予、左京大夫諸仲朝臣、五辻、馬にて御共申候了、馬は城南へ被仰候て、五辻引て參候了、九時分大光明寺へ御出候、すい物餅にて一盞候了、寺庵衆悉御禮參候了、少少御對面、津田佐土守御樽持參候了、同太郎左衛門、同又三郎法性寺迄御迎に參候了、七時分より大通院にて觀音懺法候了、梨門同渡御候了、予御劔持之、左京大夫兩人直垂着用、暮々晚飯參候了、四過時分迄御酒候了、○般舟三昧院之孝意、年代記摺本、予に與候、祝着々々、

十九日、丙戌、小雨下、五時分、リ晴、暮々より雨下、○早々御粥參候了、其後大通院へ渡御、法華經頓寫有之、僧衆廿二人歟、予七把助筆候了、四時分半齋候了、各御焼香終、大光明寺へ還御、御時參候了、又寺庵衆御禮申輩有之、御樽御茶等濟々進上候了、○一盞有之、次般舟院へ渡御、御燒

香候了、七時分、次還御如前、○飛鳥井袍、大帷、於此方調進、今日遣、云々、又石帶、平緒、笏、下襲、借用候間遣候了、○四條中將大帷、石帶、平緒、隨身之老懸、同太刀被借候間遣候了、○薄隨身褌袴、飛鳥井へ予申て借遣候、又壺筒籙、弓、冠綏、太刀等予遣候了、○暮々飛鳥井へ罷向、裝束之折重仕候了、夜四過時分歸宅候、一盞候了、

廿日、丁亥、天晴、○早旦廣橋より使有之間罷向、飯用意、受用候了、東寺へ各出立也、諷誦失念歟之由被申候、則只今渡候如此、同舞目六、一昨日遣候、如此、

内藏寮

請諷誦事

三寶衆僧御布施麻布伍百端

右諷誦所請如件

天文三年三月廿日

頭正四位行右近權少將藤原朝臣言繼

曼陀羅供

舞 左 萬 歲 樂 太 平 樂 陵 王 地 右 久 長 保 樂 蘇 利 納

小高檀紙一重書、上を立文候了、○早々飛鳥井へ罷向各下、云々、予東寺へ罷下、寶菩提院へ罷向、着座公卿三人、廣橋、四條中將、極蔭等同所也、則時參候了、寶菩提院相伴候了、九時分從寺家折三合三荷送候、各勸候了、七時分各束帶也、權大納言、高倉、拔、甘露寺、飛鳥井、廣橋、子、四條中將、甘極蔭子、させ候了、出一盞候了、○七過時分公卿着座、權大納言、甘露寺中納言、飛鳥井等三人也、僮僕行莊也、布衣一人つゝ、雜色六

本、白丁等也、烏帽子着六七人つゝ也、以上百六七十人有之、頭辨兼秀、行莊同前、四條中將、極蔭等出仕、次從千手堂至御影堂、引列音樂加陀等有之、此樂萬歌樂列次第、菩薩五人、舞人八人、樂人十二人、從儀師、威儀師、衆僧卅四口、大阿闍梨如此也、舞左狛重葛、狛狛 右多久奏、多忠吉、多忠國、多忠宗等也、樂人笙益秋朝臣、盛秋、豐原光秋、筆築安陪季音、同季友、笛景通、景範、景長、景雄、三鼓左久泰、右景通、大鼓左友高、右景雄、鉦鼓左景衡、右景雄等也、大阿闍梨法務大僧正義、東寺長者、三、左前大僧正宗永、兜願師、醍醐寶光院、權權僧正源雅、同報恩院、故權中、權僧正了運、仁和寺菩提院、故權法印定俊、勸修寺普法印仁瑜、仁和寺南法印全淳、寶茂金剛大僧都堯雅、醍醐無量壽院、權中納言爲和稱子、權大僧都真淳、僧都堯雅、實入道前參木正二位行季稱男、權大僧都真淳、仁和寺理燈院、權同寺金勝院、權少僧都榮賢、智院、法眼光祐、三司守光公稱子、實前參木正二位、法眼隆慶、岩藏常光院、權大權律師眞永、東寺寶實治稱男、納言隆永稱男、權律師弘賀、讚師、醍醐光善院、位神祇伯資、權律師祐重、同正覺權律師弘賀、伊勢因幡守平定氏稱男、權律師亮雄、東寺寶菩提大法師弘存、合鉢、醍醐大法師

隆惠、勸修寺四林院、故權右權僧正圓瑜、明師、內山中院、故宮權僧正嚴助、醍醐正院、權同法印興紹、勸修寺理光院、前法印爲源、東寺寶嚴院、久我諸法印宗諄、散華師、東法印亮惠、大夫源爲朝臣子、權大僧都深應、醍醐行權大僧都公譽、內東寺寶菩提院、日權大僧都深應、醍醐行權大僧都公譽、內吉社司、子權大僧都深應、醍醐行權大僧都公譽、內上乘院、參木右權少僧都長助、勸修寺聖光院、權中法眼隆賢、大辨賢房稱男、權律師光深、東寺金勝權律師亮濟、東寺寶仁和寺惠命院、權權律師光深、院少將權律師亮濟、東寺寶大納言隆永稱男、權權律師亮濟、東寺寶大藏權律師定圓、勸修寺密大法師尊純、東寺正覺院、中納言大大法師俊照、醍醐密大法師堯惠、醍醐中性院、因大法師宗珍、堂達、東寺寶大法師堯惠、醍醐中性院、因大法師宗珍、堂達、東寺寶輪院治部卿等也、何も下臈先行、次衆僧寶子に列立、伽陀有之、次各入道場、未加行之輩猶殘寶子各行道、次着座唄有之、次散花、次大行道、樂雙調下臈先行也、次第菩薩、舞人、樂人、衆僧也、地上大阿闍梨計殘禮盤、次讚、誦文、廻向等畢、次大阿闍梨着座、施物三重、公卿三人被引候了、衆僧に無之、次舞有之、萬歲樂、地久、太平樂、長保樂等也、陵王、納蘇利、裝束不調之故歎無之、次僧俗各起座候了、今日としや使隆重朝臣、御布施手長橋以緒也、夜八時分歸宿坊、非時有之、其間々歸宅及曉天、正

親町、甘露寺、飛鳥井、廣橋、四條中將、極蔭等同道候了、廿一日、戊子、○從飛鳥井下襲襟、笏、平緒、石帶二筋、四條中將大帷、平緒、石帶、笏、隨身之冠、同太刀、老懸、薄所より隨身之冠、弓、筒籙、綏、太刀等被返了、澤路隼人佐早々來、昨晚從江州上洛之由候了、諸公事停止之間、大館伊與入道披露斟酌之由候、其外女房奉書文言被調直可然之由候、重而左京大夫殿、宮内卿殿以兩人披露可然之由被申候、云々、○中御門へ罷向、暫雜談候了、○晚天參内、從江州之樣申入候、則參御前委申上了、暫御雜談、四時分退出候了、廿二日、己丑、○昨日從道遙院柳原へ可下之由、書狀調來、同子方へ書狀有之、仍罷向禮申候、見參、一盞被勸候了、○廣橋へ罷向、江州返事之樣申候了、女房奉書被調直事可申之由被申候處、景範、盛秋、忠宗等一樽持來、云々、一盞候了、○越前之後室晚飯用意、云々、則罷向了、○正親町に物共來、云々、西之堀事、波々伯部

方より使有之由申候、云々、○西專庵參宮、云々、
 廿三日、庚寅、天晴、○今朝早々從廣橋使有之、昨晚も來、云
 云、今日朝飯に可來、云々、可罷之由申候、則罷向、飛
 鳥井、予、中御門、宮内卿、隆玄等也、雖而飛鳥井被歸
 候、今日堀之普請、云々、予同道罷向、普請見物候了、
 入過時分歸宅、○當番之間七時分參内、予一身也、
 廿四日、辛卯、天晴、○中御門へ罷向、暫雜談了、○從大宅郷人
 夫十人來、昨日申付候、則飛鳥井へ遣候、堀普請之合
 力也、○松木被來候、見參申候了、○景範來、南都北京
 舞樂人任官加級事、云々、○西專庵へ罷向、第十帶刀
 に申候禁裏堀事、波々伯部違亂不可然候、意見可申
 之由候、盃出一盞候了、
 廿五日、壬辰、天晴、○松田入道終日來談候了、○第十來、予
 他行之間、云々、○今朝盛秋所に朝飯用意、云々、罷向、
 老母、予、中御門三人罷向候了、則罷歸、○第十帶刀申
 樣罷向聞候、不許容、猶樣體申候了、○宮内卿所へ罷
 向、暫雜談候了、○高屋孫二郎來、笛吹候了、○暮々外

樣番永家、參候、予一身也、舞樂人官位事申入候、今日
 御衰日之間、明日可被仰、云々、
 廿六日、癸巳、天晴、夜入雨下、○早々若王子へ大澤彦兵衛尉遣候、
 禁裏堀之くいの木之事、十本可被進之由申遣候、心得
 候、廿本可進之由候了、○第十帶刀來、波々伯部に種
 種申候へ共、同事申候、云々、何も暫堀之事可相待之
 由可申之由、申合候了、○朝飯以後早々參内、堀事如
 此申候、可打置敷否之事披露申候、帥大納言、萬里小
 路可談合之由被仰候間、兩人へ兩度罷向、種々談合仕
 候、只急度武家へ被仰出可然之由候了、則此由重而披
 露、則參御前暫御雜談候了、案文相調長橋へ可申候之
 由被仰候、則予案文調入見參、長橋被調候了、文言如
 此、
 仰天文三
三廿六
 この御所御ようしんにつきて、ほりの事さとおほ
 せいたされ候て、御うちさせられたく覺しめし候
 へとも、當時こ、かしこほりにならへて、おほせ

られ候もいか、にて候ほどに、この御きん所の地
 下の輩に仰つけられ候て、すてにまかり出候を、な
 いどうは、かへかたより、世のほりをほり候はて
 はかなひ候ましきよし申候て候、さ候へはなら
 へてはめいわくのよし申候ほどに、あひのそき候
 やうにきと仰つけられ候は、よろこひ覺しめし
 候へきよし、むろまちどのへよく心え候て申され
 候へく候よし申て候、い、い、

頭辨とのへ

廣橋へ罷向、添狀之事申候、心得候由候了、○舞樂人
 官位之事、各勅許也、則頭辨、二通、頭中將、三通、權辨三
 通、罷向申候、何も即刻に被調與候了、
上卿帥大納言
 天文三年三月廿六日 宣旨

從五位下狛近憲

宣令除服出仕
上卿帥大納言
 藏人頭左中辨藤原兼秀奉
 天文三年三月廿六日 宣旨

前丹波守狛近憲

宣任備後守

上卿三條大納言
 藏人頭左中辨藤原兼秀奉
 天文三年三月廿六日 宣旨

左近衛將監大神景雅

宣任式部少丞

上卿三條大納言
 藏人頭右近衛權中將藤原公敏奉
 天文三年三月廿六日 宣旨

左近衛將監狛近賴

宣任備中守

上卿三條大納言
 藏人頭右近衛權中將藤原公敏奉
 天文三年三月廿六日 宣旨

左近衛將監狛忠葛

宣任周防守

上卿三條大納言
 藏人頭右近衛權中將藤原公敏奉
 天文三年三月廿六日 宣旨

狛近次

宜任^カ從五位下

藏人^カ左少辨藤原惟房奉

上卿三條大納言

天文三年三月廿六日 宣旨

多久氏

宜敘從五位下

藏人^カ左少辨藤原惟房奉

上卿三條大納言

天文三年三月廿六日 宣旨

豐原光秋

宜敘從五位下

藏人^カ左少辨藤原惟房奉

廿七日、甲午、小^{雨下}。○今朝朝飯に松木へ罷向、宿所五辻亭也、詔^カ請之輩四條亞相、四辻亞相、五條黃門、勸修寺相公、高倉三位、四條中將、下官、五辻、四辻少將、宮内卿、^{在宮}常照院時圓、等也、中酒及大飲、雙六音曲有之、八時分すい物にて一盞有之、七時分予歸候了、○宮内卿亭へ罷向暫雜談、茶飲候了、治部大輔、予兩三人又音曲候了、暮々歸宅、○從甘露寺使有之、明日因幡堂

へ御代官詣、云々、心得候由申候了、○中御門へ罷向暫雜談、中御門、予、筆作彌二郎等暫音曲、五過時分罷歸候了、

廿八日、乙未、○早々甘露寺へ罷向、因幡堂へ各參詣也、人數亭主、三條宰相中將、高倉三位、頭辨、頭中將、四條中將、予、權辨等也、先一盞候了、○從廣橋江州へ之添狀調來候了、○當番之間七時分參内、予一身也、○明日中御門にて越前後室鞠張行也、人數以下事予に任候由候間、飛鳥井へ罷向申候、父子、速水兵部等申候了、里村可被申遣由申候了、又持明院へ罷向申候、可來之由候、高倉故障之由申候了、○若王子へ申候、木甘本進候由使氣前、有之、對面、一盞勸候了、人夫不足之間、殘明日可進之由候了、○松田入道來、一盞勸候了、

廿九日、丙申、○伊與局にて粥被勸了、明日故局十七廻、云々、○越前後室可來之由有之、云々、則罷向、今日鞠に中御門不可出事候、背本意候間、予馳走にて可

成飛鳥井門弟之由被申候、然者四過時分飛鳥井へ同道候了、予太刀二振取寄遣候、太刀一振一荷兩種にて罷向候了、種々被申合候、次一盞有之、則罷歸候了、○八時分各被來候、一度に雖非本意候、杳杳袴之事申候、心得候由被申候、太刀にて禮被申候、葛袴今日俄用意也、袴、一樽後室用意也、○淨土寺殿奥坊呼候、同來候了、○勸修寺被來了、○先はう飯にて一盞有之、次鞠候了、人數甘露寺、飛鳥井、持明院、予、亭主、飛鳥井侍從、奥坊、速水兵部丞等也、鞠以後一盞候、大飲音曲候了、夜四過時分各被歸候了、各飛鳥井送候、歸路に廣橋へ罷向、又一盞有之、予事之外沈醉、前後忘却、不可說々々々、

○四月大

一日、丁酉、○中御門へ罷向、飛鳥井へ可同道之由候間、罷向一盞候了、○宮内卿所へ罷向、則罷歸了、所々禮依不具不罷出、○今日山科祭、云々、如例御供上了、目出度々々々、○治部又四郎所へ少^カ以下

二日、戊戌、○從長橋局可參之由有之間、則參内、來七日伏見般舟三昧院御經供養御布施取事、可參勤之由堅被仰候間、畏候由申候、又着座公卿及闕如之間、左衛門督堅可申旨被仰之間、罷向申合候、仰事候間畏候由被申候了、奉行職事藏人右少辨方々雖被申候、無人之間如此候、拙者方へも一昨日一通有之、如此、來月七日、奉爲後柏原院聖忌、於般舟三昧院可被行御經供養、御布施取可令參勤、依天氣執啓如件、

三月廿九日

右少辨資將

謹上 内藏頭殿

從廣橋今日番、明日當番に被相轉候、心得由申候、○七時分參内、左衛門督畏候由申候、又番之間其間間祇候、今夜相番高倉三位、^{公音}前頭中將、^{宗禰朝}予兼^{朝臣}等也、暮々三人參御前、圍碁有之、懸物檀紙一帖被出候、高倉三位勝にて拜領也、

三日、己亥、○中御門へ罷向暫雜談候了、○建仁寺之種善軒此間所勞、云々、今日初而被來候了、○治部又四

郎被來候、江州桑實へ雇候て下候、女房奉書兩通以下五通遣候了、○今朝早々中御門同道にて廣橋へ罷向、來六日中御門拜賀習禮候了、

四日、庚子、天晴、○松田入道終日來談、餅にて茶勸候了、夕方高屋孫二郎來、暫笛吹候了、まきににて一盞勸候了、○晚飯越前後室用意、云々、則罷向候了、佛陀寺僧壽算、秋閑來候、相伴候了、予兩人相待候間、雖而歸宅候、又中御門、秋閑此方へ來候、茶勸候了、○暮々甘露寺、予、中御門同道參内、於殿上中御門習禮、甘露寺被歸候、予殘候、廣橋被來候、又委習禮候了、三條大納言當番被參候、中御門と兩人也、中御門壺取寄、暫酒勸候了、四過時分廣橋、予兩人歸宅候了、

五日、辛丑、晴、八時分より雨降、○内々前にもかり普請候了、九時分出來候了、○北尾新二郎被來、昨日も來、云々、則見參、雖而被歸候了、○松田入道、高屋孫二郎來、茶勸候了、笛暫吹候了、○予小腰物、繪一幅、馬、質物五十疋に置候了、○治部又四郎方へ謝物に二十疋遣候了、○田

中孫三郎に十疋にて筆之事訛候、則可申付之由候了、○中御門へ罷向、暮々迄難談候了、○今夜外様番深雨之間不參、慮外々々、

六日、壬寅、雨降、晚天晴、○中御門へ罷向、拜賀見舞候了、又太刀、石帶、犀角丸、同隨身冠、二、老懸、同、壺、同、箆、同、弓、同、太刀、同、借用之間遣候了、○七過時分被着束帶、衣文子、前裝束業賢朝臣、暮々皆々被來候、甘露寺中納言、萬里小路中納言、右大辨宰相、頭辨、予等也、難煮、冷麵、すい物三獻、各召出有之、五時分出門、雜色四人、隨身二人、如木一人、布衣一人、白丁等也、予禁中にて着衣冠見舞候、藏人佐入四足門北へ行、下侍邊に立、長向、橋以緒申次、出向、佐一揖、申次答揖、次申次帶劔持笏出て一揖、次佐一揖、次聊進退、次舞踏如常、次下侍にて撤劔笏、笏葉室重代慶賀笏之間、予懷中、退出之時又遣候、次中央間、東壁の、上殿上、杏地上にてぬく、直に着座、先右膝をつく、次左、次橋以緒着横敷座、次氣色六位に、六位召主殿司、二音、史直硯、主殿司硯持來、六位前に

置、次火掻立了、次六位氣色藏人佐、次六位硯の墨摺染筆試、日給札本持、進寄取筆、札に藏人二字書之、但作法計也、次主殿司撤硯、次湯漬を居臺盤兩人之前、陪膳主殿司、手長女孀也、次氣色、兩人進寄立箸、其間三氣計、次箸如元歸本座、次藏人佐從懷中取出解文請奏等置前、横、次藏人佐氣色六位、拜賀之由奏聞歟、六位起座、奏聞之由從上戸仰、次取吉書進、上戸を出て臺盤所の妻戸簾下より進、内侍取之奏聞、歸出て罷出候、取之歸本座、右廻、吉書を置前に、次直裾、次硯可持參之由氣色主殿司、主殿司持參硯、右方、水を入墨摺之、始計、後廿、次取吉書、内藏寮の請奏を前に横に置、次美濃國廣絹の解文を取、裏紙懸紙に重て三に折、疊の下に押入、次解文を覽、聊卷て三に折、端に取筆書之、可成返抄

藏人右衛門佐藤原宣治次卷之下出納、左の袖の下、より也、次出納返抄を出す、次返抄を一覽、三に折奥の位置の下にさう名を書、さう名は、判の事也、次卷て出納に下す、次内藏寮の請奏、裏紙を取て懸紙に加て懷中、次主殿司硯

を撤す、次參御前方に、今度者不經上戸小板敷を通候了、次於議定所御對面、申次極簡、次於男末天酌頂戴候了、次於上戸邊裾を引着小板敷、南面、西の壁のきは也、直裾、其間三氣計、次退出、外様の上にて懸裾候了、○歸宅候て、中御門にて又一盞候了、○予冠、袍、指貫、白裾、扇袋に入飛鳥井へ遣候、明日伏見へ言傳候了、

七日、癸卯、天晴、○早旦朝飯、日出時分伏見へ罷下、速水兵部同道也、飛鳥井へカ馬也、予共大澤彦兵衛尉、與三郎計也、般舟院にて着衣冠、飛鳥井同前、幸順に筆、五管、順智同、五管、幸意に同十管、遣候了、極簡も下向也、兩三人時有之、次上卿着座、次導師、飛鳥井一人、大名僧一人、等入道場、御經供養如例年、終次上卿起座、御布施小袖、二重置導師前、手長極簡也、次予御布施物置導師、前次脱カ名僧前に同置候了、出納束帶にて出候、殿上人者直に取之、次導師以下御布施を以て退出候了、次一盞候了、次予、大光明寺僧忠首座同道稻荷迄來候了、歸路

しる谷のいかう宗佛光寺へ飛鳥井音信、予可來之由候間罷向、冷麵、すい物等にて一盞候了、○中御門へ罷向、則罷歸候了、

八日、甲辰、雨降、○中御門より一昨日借用之物共悉被返候了、○今日四過時分より途中へ罷下候、與三郎計召具、高倉雜色孫左衛門召具、路次八瀬やせ祭禮見物、競馬十八番候了、十二疋三度番候了、○今日當番相轉無之、御暇之事申置候了、

九日、乙巳、○今日當所祭也、於社頭日吉、梅若立合申樂候了、毎年二番つ、四番有之、當年藤宰相見物之間、五番つ、十番候了、半一盞兩度有之、何も面白沙汰候、珍敷申樂候也、水上、國栖、遊屋、野口判官、金山寺、菊若、實盛、鼎、羅城門、養老等也、

十日、丙午、○梅若大夫禮に來、一盞候了、○堂に今日も日吉申樂仕候、見物候、葛城、野宮、たてな、是害、濱川、松島等也、十一日、丁未、○武衛、予、粟津修理進馬に乗候、粟津右京進、宮鹽與五郎、等持寺之祥瑞、竹田之石橋坊之中津

將、善源庵、智純、善住庵永智、等、酒迎とて酒始候、及大飲、諸人忘却前後、平臥式也、不可說々々々、音曲有之、

十二日、戊申、○今日無殊事、晚天音曲候了、○今日飛鳥井に田舎人法樂有之、云々、予者歌計八日に遣候了、

○上句 □□めなれてもめつらしきかな

十三日、己酉、○今日粟津修理進一昨日之返沙汰候、麵すい物にて及大飲、諸人沈醉、前後不覺、不可說不可說、

十四日、庚戌、天晴、六、○今日可罷上候處、明後日迄被留候間逗留候、暮々より夜半迄音曲、

十五日、辛亥、○今日無殊事、○今日從妙觀院使有之、善住庵之事也、先今日者可逗留之由申候、明日早々可來、云々、

十六日、壬子、雨降、○今朝故藤宰相竹龍、聖月之間、於竹龍軒觀音懺法有之、僧衆十人、當所之衆也、○妙觀院

使井上三郎右衛門來、先可上落之由申候了、

十七日、癸丑、天晴、○今日從途中上落候了、直に粟田口之妙觀院へ罷向、一ヶ條之儀申合候了、大方申定候了、竹に餅入にて一盞候了、○伏見殿、青門、萬里小路、四辻等へ罷向候了、

十八日、甲寅、天晴、○高屋孫二郎、嚴藏主來談候了、○當番之間七時分參内、今日聖天御法樂有之、云々、權大納言代に勸修寺被參候、六過時分兩人參御前、四過時分迄御雜談候了、○從中御門、明後日朝飯に可來之由使有之、可罷之由申候了、

十九日、乙卯、天晴、○種善軒白地被來候了、○中御門へ罷向、暫雜談候了、○從長橋局北御門役所之事文在之、折紙相副澤路方へ遣候、就北御門役所之儀、如此被仰出候、

只今致御番候仁體太不可然候、先度盜人之砌、既致成敗可進之由被仰候處、無其儀之段曲事思召候處、結局又此仁體仁申付候事、言語道斷曲事次第候、所

詮七郷之輩罷上、可致御番參勤之由、堅可被申付之旨、被仰出候也、

四月十九日

民部少輔頼家判

澤路筑後入道殿

廿日、丙辰、天晴、○今朝朝飯に中御門へ罷向、人數甘露寺、萬里小路、飛鳥井、勸修寺、廣橋、予等也、朝飯以後盃出候、各被歸候了、廣橋此方へ被來暫雜談、中御門、壽命院等被來候了、○越前後室之雙紙四帖切とち候、晚飯用意也、○從常光院普門坊源氏一冊來、予可書寫之由有之、

廿一日、丁巳、天晴、○今日此方月次會、昨日指合候間、今日沙汰候了、甘露寺、廣橋、四條中將、予、藏人匠作、壽命院、治部又四郎、大隅守、速水右近等也、當座計右近讀上候了、今日右近頭役也、食籠壺等隨身也、七時分各被歸候了、○中御門へ罷向、昨日殘之雙紙二帖とち候、以上六冊也、

廿二日、戊午、天晴、○今日宗清、與三郎兩人、藪垣沙汰

候了、○今朝雙紙一帖、以上七冊とちて進候、同七冊之銘、今日予書候了、

廿三日、己未、天晴、八專、○一昨日申入候勅筆三枚出來、一枚者被返候了、畏候由申候了、二枚越前後室に遣候了、○從妙觀院使有之、一ヶ條之儀也、牛之飼料不出仕之由候了、出候へは日別八寸、出之由被申候了、○萬里小路より可來之由候、則罷向、宮御方仰、云々、明夜庚申に中御門金吾次將、飛鳥井侍從召具可參之由被仰候了、○越前後室、甘露寺、越前へ四過時分被下候、予遲候て走候、吉田にて行合候了、北白川迄送候、中御門、予、治部又四郎、嚴藏主等也、○飛鳥井へ罷向、申樂見物、云々、從昨日西島太夫勸進仕候、近所迄罷向、同道にて罷歸、明日宮御方へ參仕之事申、畏候由候、一盞候、中御門同畏由候了、○萬里小路へ罷向、兩人可參之由申入候了、○當番之間七過時分參内、則御學文所御走へ參候、五時分迄御難談候了、相番權大納言、予計也、大所に各月待とて、四辻少將被來候、八過時

分迄候、貝二番覆候了、

廿四日、庚申、天晴、八專、七時分夕立、○中御門可誘引之由申候間、申樂見物に罷向候、妙蓮寺之僧とて、日蓮宗酒勤候了、五番過て大夕立、萬人悉ぬれ候了、予も衣裳悉しほり候了、忘前後各一身歸候、予廬山寺へ罷向、金光院へ行候、主殿助出合、照傳又歸一盞候了、暫寝臥候て暮暮歸宅候了、○暮々飛鳥井侍從來、烏帽子着事、眉作事等予沙汰候了、則令同道宮御方へ參候了、同中御門參、四辻少將遲參也、五時分始候、火本予、筆取四辻少將也、夜半時分終候、御方御所無也、予七種、四辻少將、三、理覺院、五、内山上乘院、四、權辨、一、右衛門佐、五、飛鳥井侍從、四、觀首座無等也、冷麵御臺物等にて御酒候了、事外沈醉仕候、七過時分退出候了、飛鳥井侍從此方に被留候了、○御料人從昨日所勞、云々、今夕中御門へ被行候了、廿五日、辛酉、天晴、八專、○芥河へ便宜有之由候間、書狀調昨日遣候了、如此、

其後久敷不申通候、背本意候、仍禁裏就御用心、東南之堀被普請度由候、急度可被仰出候處、世上之堀共に相並被仰事如何に思召、不被仰出候、御近所五六町地下之輩、連々致御警固候間、彼輩被仰出候、可罷出候處、内藤彈正忠、波々伯部左衛門尉兩人以使者、世上堀に可罷出之由御申付候、然者兩方へ罷出事迷惑之由歎申候間、可相届之由被仰出候間、數度以使者申候處、從六郎殿堅被申付之由候て、更無承引候事候、叡慮違背之段、太不可然候、彼在所相除候様、急度兩人に可被仰付之由、自拙者内々可申之由被仰出候、上意へも近日被申入候由候、可然之様六郎殿へ御取合專一候、尙委細第十帶刀左衛門尉存知之事候間、可被申候、恐々謹言、

四月廿四日

言 繼

古津筑後守殿

就御堀之儀、内彈波左于今度々申遣候處、更無承引候、上意へも近日被申入候間、六郎殿へ内々從拙者

可申入之旨被仰出候間、古津筑後守方へ以書狀申候、淵底御存知之事候間、可然之様御入魂專一候、御近所六町之儀相除候様、兩人に急度可被申付候、一日も被急度由候間、近日先可普請候由申付候事候間、可然之様御馳走所仰候、定而從上意も可被仰出候歎、近日傳奏桑實へ被參之由風聞、諸事期面謁之時候、恐々謹言、

四月廿四日

言 繼

第十帶刀左衛門尉殿

中御門へ罷向、御料人見舞候、事外熱氣也、風氣也、祐閑藥與候了、○暮々此方へ呼候、中御門に各被六借候間、如此也、無興々々、廿六日、壬戌、天晴、八專、○祐閑脈に來候了、○宗清時に來、相伴候了、○四五人千卷心經讀候了、○今日予誕生日之間、大澤彦兵衛尉申付、祇園御靈等へ代官參候了、○伏見殿、青門にぞと參候、青門にて消除疫病經申出候了、萬里小路へ罷向、他行、云々、○從途中人上候、

鏡臺被預候、可下由候間下候了、又佐方より音曲本被申候、三帖下候了、○廬山寺金光院來、加持候了、廿七日、癸亥、天晴、八事終 ○今朝中御門にて朝飯食候了、暫難談候了、○祐閑兩度御料人脈に來、煩敷由申候了、○猪熊三位大内方へ之用、云々、取要中臣祓可書寫與之由申候了、○藏人所へ罷向、脈之事申候、則來、御料人脈取候、煩敷由申候、○葉雪所へ罷向、一算申候、病之様不苦由申候、卅日に不増者不苦候、増候者大事之由申候了、○今朝公宴、一昨日之御會懷紙調進入候了、遅々慮外々々、○從明日於禁裏元應寺長老觀音經談義、云々、可參之由從長橋廻文有之、可隨體之由申候了、○中御門へそと罷向候了、○予葛袴直垂質物に置候、二百廿文、云々、○暮々萬里小路へ罷向暫雜談、此間大内方より宮御方へ進上候御太刀拜見、御平さや作新調、云々、鬼神大夫二尺一寸計、悉黃金作、紫絲にて卷候了、○金光院今日も來、加持候了、廿八日、甲子、天晴、○今朝朝飯盛秋用意、云々、昨晚來、云々、

則向來、罷向相伴、景範計也、猶子振舞歟、先之景範暫來談、○葉雪所へ罷向、昨日と同前申候了、○宮内卿所へ罷向、則歸宅候了、○今日より三ヶ日、於禁裏元應寺長老觀音經談義有之、九時分參内、四以前始、云云、予事外遲參也、聽聞被參輩帥大納言、四辻前大納言、權大納言、三條宰相中將、高倉三位、新三位、兼秀朝臣、予、諸仲朝臣、季遠朝臣等也、於番衆所各々一盞有之、小御所にて御談義者被讀候了、○當番之間暮々參内、相番權大納言、予計也、○御料人歡樂、從昨日被得減氣候了、金光院今日加持候了、○禁裏へ從大内方四千疋、駿河より三千疋、伊豆より萬疋到來、云々、舊冬御約束之事申候處、百疋被下候、祝若々々、盛秋に五十疋被下、云々、○中御門母、御料人母、歡樂見舞被來候、まきに一盞勸候了、廿九日、乙丑、天晴、七、時分夕立 ○早々從古津方先度之堀之事返事有之、堅兩人に申付、云々、第十帶刀左衛門尉昨日上洛、云々、西專庵へ罷向見參候、内藤、波々伯部兩人

方、又地下へ六郎下知付候、寫候了、

爲禁裏御用心、堀之事被仰付、洛中一條二町、正親町二町、烏町、橘辻子町人等處被相拘之、云々、甚不可然、總堀雖延引、先可專勸命由、堅可被加下知候也、仍執達如件、

四月廿八日

長 隆判

内藤 彈正忠殿

波々伯部左衛門尉殿

爲禁裏御用心、堀事被仰付、洛中一條二町、正親町二町、烏丸、橘辻子等處、有難澁子細、云々、太不可然、所詮總堀雖被延引、先可專勸命候也、仍執達如件、

四月廿八日

長 隆判

所々町中

此町へ之下知也、不付予所望候、伏見殿御地之上相除候間、如此候了、○四時分御談義に參候了、聽聞に逍遙院被參候、其外昨日之分各被參候了、九時分各退出、

兼秀朝臣、予、季遠朝臣參御前、種々御雜談、七過時分退出候了、○予肩衣、二、袴、黒、白帷、質物に置候、三十疋遣取寄候了、○金光院今日も加持被來、云々、○嚴藏主、清水式部、眞繼新九郎等召寄、堀事申付候、然者來月五日に可掘初之由申候了、卅日、丙寅、天晴、○御料人妹又所勞、云々、醫者事澄立、ゆうせう三位等申遣、他行、云々、清法印申候、則來、中御門へ來脈取候、可煩之由申候了、一藥可與之由申候、冷麵にて一盞被勸候了、○中御門へ病事流布御祈事、諸寺諸社へ可相觸之由、被仰出候、○今日も金光院加持に被來候了、○眞性院從駿河去廿六日上洛、云々、今日中御門へ被來之由候間、罷向見參候了、○今日御談義、四過時分參候了、聽聞輩如先々、四辻父子不參、又橘以緒參候了、法談以後一盞有之、權大納言、高倉三位、新三位、予、諸仲朝臣、橘以緒殘、勸一盞候了、○眞性院此方へ被來候、一盞勸候了、葛一端被與候、祝若祝若、○暮々外様番代、參了、予一身也、○從途中昨日

人夫上候、妙觀院事申下候、又黒文箱下候、又鏡臺下候、

○五月小

一日、丁卯、天晴、○宮御方、伏見殿准后、青門、逍遙院、萬里小路、中御門、四條、飛鳥井禮に參候、各御對面、飛鳥井にては一盞候了、西專庵へ罷向、○從大宅郷御供上候、如常、○大澤彦兵衛澤、路隼人佐禮に來、景範、盛秋禮に來了、治部又四郎禮に來儀、云々、○暮々御祝に參内、被參候輩帥大納言、四辻前大納言、權大納言、三條宰相中將、高倉三位、新三位、宗藤、朝臣、兼秀朝臣、予、諸仲朝臣、季遠朝臣等也、○今參局予指貫被借候、暮々被返候了、

二日、戊辰、雨下、九時分より晴、○從途中人夫上、炭二俵上候了、○從今堅田人來、菅、沙、枇杷籠三來候、目出々々、○中御門へ罷向雜談候了、萬里小路へ少用之事有之、罷向候了、○西專庵へ罷向、第一帶刀、治部又四郎、林、伊藤、經師等に予竹子汁振舞、經師壺持來了、○藤藏人方違に

來、一盞勸候了、

三日、己巳、天晴、○北御門役所之事、從長橋文有之、堅申付候了、○眞性院爲祈禱、今朝早々被來候、仁王經讀誦候了、時相伴候、西專庵も被來了、○經師越前大般若三卷持來、端卅行計可書寫之由申候、伊勢兩太神宮之者新作、云々、御被小刀等持來候、則筆立候了、○當番之間八過時分參内、相番權大納言計也、○四時分廣橋へ罷向、中御門同道、今日廣橋江州桑實へ被參候、昨日山科之儀女房奉書遣候、只今堀之事之奉書遣申候、中御門壺隨身、一盞候了、

四日、庚午、天晴、夜に入雨下、○枇杷方々へ進候、禁裏、宮御方、長橋、逍遙院、四條、萬里小路、中御門、官務女中、西專庵等也、家中各に遣了、高屋孫二郎方へ一盆遣候、まき廿送候了、○伊勢兩大神宮寺勸進帳、今日書遣了、十穀禮に來候、壺持參、見參一盞勸了、經師同道候了、○高屋孫二郎來、竹子汁用意、藤阿み、高屋等也、○大隅守來、明日賀茂用とて、予冠借候了、○第十帶刀禮に

來、今朝枇杷遣了、古津方へ之狀遣候、第十に太刀糸卷遣了、

五日、辛未、晴、時時小雨、○禁裏東之堀、今朝早々四五町輩罷出掘始候了、予罷向見物候了、繩張聊普請候了、則罷向候了、○方々禮に罷向、次第不同、隣中御門一盞有之、西專庵、四條一盞有之、正親町、大祥寺殿、中院申置候、西殿帥見參、伏見殿、青門御對面、四辻見參、攝取院申置候、安祥寺殿、岡殿御對面、一盞、飛鳥井一盞有之、藏人修理見參候了、○四條羽林、中御門、治部又四郎、經師、久泰、忠國、景範、盛秋、同永秋、高屋孫二郎禮に來儀、云々、○盛秋二條殿御侍十五、猶子、云々、仍一昨日少志被給候、名字予切て遣候了、口宣案中御門へ申遣了、

上卿名缺
天文三年五月三日 宣旨
豐原永秋

宣任左衛門少志
藏人右衛門佐藤原宣治奉

此祝如常候了、○暮々宮御方へ御祝に參候、御盃被下候了、御祝に參内、被參候輩帥大納言、權大納言、萬里小路、三條宰相中將、右大辨宰相、高倉三位、新三位、庭田兒、予、諸仲朝臣、季遠朝臣、惟房等也、○予外水家樣番代、一身也、天酌出候了、予内々臥候了、内々番衆右大丞カ、辨一身也、○葉室母より壺まき到、云々、祝着祝着、○今參局予指貫借用、暮々被返候了、

○八月大

一日、乙未、曇、○禁裏、同宮御方、御田面不事行候間、金覆輪進上、同御返候了、○伏見殿宮御方へ笛唄、一管進上、正親町へ文箱、一、小刀兼定、一遣候了、從正親町鳥子廿五、油圓墨一丁、被送候了、○表法繪師早瀬新次郎來、對面了、下笠又次郎、玄鏡等來、云々、○四條中將來臨、見參、田中加賀守、同將監來、對面、○從大宅郷恆例差樽一丁、餅數五、柿、ひけ二到、目出度々々々、御供一膳同到、高一荷到、以上二荷到、○河原者岩來、帚一持來

候了、○景範、久泰、盛秋、忠宗等禮に來、嚴阿み、高屋孫二郎來、云々、○中御門、治部又四郎、景範來儀、一盞勸候了、○准后、同青門、伏見殿、逍遙院、四條、飛鳥井、廣橋、中御門、岡御所等へ御禮に參候、飛、廣一盞有之、○花山院夕方汁有之、飯持せて罷向、正親町、勸修寺等也、楊弓有之、雖而歸候了、○宮御方へ參、則御參内、御共申候、予御劔持候了、頭辨御杵、四辻少將御蠟燭持候、萬里小路中納言下姿、高倉三位等御共也、予御酒被下候了、○御祝、參内之輩帥大納言、四辻前大納言、權大納言、三條宰相中將、右大辨宰相、高倉三位、新三位、慶壽丸、兼秀朝臣、予、諸仲朝臣、季慶朝臣等也、御局々へ御禮申候了、○宮御方還御、御共申候了、如前、御蠟燭諸仲朝臣也、

二日、丙申、晴、七時分雨下、壽命院に借用之伊勢物語注、宵問、今日小川之筆作彌二郎罷候由候間、言傳候て返遣候了、○平野預兼永來、則歸候了、○經師長徳、召寄、宵問抄新寫切結申付候、高屋孫二郎、嚴藏主等來、一盞勸候、數刻

雜談候了、○從松木明日當番に相轉候間、七過時分參内、相番頭辨、四辻少將等也、三人暮々參御前、五過時分迄御雜談候了、○雜色與三郎今日より暇乞退參候了、
三日、丁酉、曇、四過時分より雨下、七時分より至夜半過大風雨及曉天、○中御門、局務、清四郎來談、雙六候了、○七過時分藏人呼候間罷向、餅煮にて一盞候了、五時分歸宅、大風に北之壁十間計吹臥候了、所々屋上壁等吹破候了、每家之馳走近來事也、○谷之城今日之風雨にやくら壁等吹破、云々、仍今夜落候了、
四日、戊戌、○從夜中至今朝、谷之城燒、云々、乍去大井河水事之外深候て、諸陣各西岡有之、云々、○局務暫來談、官務來、中御門、清四郎等來儀、○北尾新四郎呼候、予老母方へ社具之長崎書狀下候間、同可下之由申候、一盞勸候了、書狀前官務内伊賀又三郎に言傳候了、
五日、己亥、○以下天晴、缺文

天文四乙曆

○正月小

一日、癸亥、天晴、○四方拜有之、寅刻參集、奉行職事、右少辨御服高倉三位奉仕、御前裝束長淳朝臣、清涼殿東庭立廻屏風、四枚、御座机以下如例年、御構格カ、子階間計上候了、出御、御罷同御裾兼秀朝臣、御劔公鉸朝臣、御草鞋惟房、脂燭殿上人子、長淳朝臣、季遠朝臣、橋以緒、御後に資將、宣治等也、次於男末盃酌如例年也、予去夜外様番雅綱、祇候候了、今朝萬里小路へ罷向、權辨惟房、裝束させ候了、六時分退出候了、○令行水着束帶、庭上に敷荒薦、四方拜仕候了、看經、○吉書候了、○雜煮にて祝、如例年、○朝飯以後各々酌にて一盞勸候了、大澤彦兵衛尉、坂田竹壽丸、澤路筑後入道、同菊鶴丸、同隼人佐、同彦三郎、井上次郎五郎等也、○中御門へ禮に罷向、一盞候了、坊城之裝束折重沙汰候了、藤宰相來、坊城、中御門兩人衣文片袖つゝ、藤宰相、

予させ候了、○壬生官務予儀、來、爲樽代十疋持來、今夜節會に參、此方にて用意、○從飛鳥井石帶有文玉、下襲被借候間遣候了、○從廣橋魚袋、靴被申候間遣候了、○今夜節會予參仕之事、不具之由連々雖申候、從廣橋今日三度使有之、種々被申候間、可參之由申候了、○半臂綱、薄に借用候了、○藤宰相用公物指貫申出候了、○暮々藤宰相來、爲去年番料百疋持來、祝着祝着、同左兵衛佐爲見物來候、雜煮にて一盞勸候了、各召出候、粟津右京進、同修理進、同孫次郎、松井新左衛門尉、山井式部丞、吉田五郎等也、○予着束帶、藤宰相、予予恆宿禰同道參内、予者持明院へ罷向、裝束させ候了、一盞有之、○九時分小朝拜初候、公卿帥大納言、公條權大納言、實胤左衛門督、雅綱持明院宰相、基規三條宰相中將、實世兼秀朝臣、言繼、長淳朝臣、季遠朝臣、惟房、資將、宣治、橋以緒等也、公卿無人之間、兼秀朝臣加公卿末に、六位又殿上人一列は、申次兼秀朝臣也、次於男末盃酌有之、宮御方還御之間、御供に參候、予御

劔、惟房御杵、橘以緒蠟燭、其外兼秀朝臣、長淳朝臣、季遠朝臣、隆重朝臣、資將等供奉也、○節會内辨帥大納言、外辨權大納言、左衛門督、持明院宰相、三條宰相中將等也、奉行職事兼秀朝臣、參陣辨資將、召内侍新内侍局、同扶持宣治、少納言長淳朝臣、次將左季遠朝臣、右子、局務、兼賢、朝臣、宿願、六位外記英名、通昭、康雄等參候了、八時分雪下之間、予早出候了、○藤宰相父子、雪下又沈醉之間、此方に逗留也、官務も此方に臥候了、

二日、甲子、天晴、○藤宰相父子、官務早々被歸候了、○從持明院大帷石帶、從飛鳥井石帶下襲襟被返候了、○清水三郎、野坂又二郎禮に來、對面、一盞勸候了、○暮々着衣冠參御祝、舊冬極月十四日御直衣有文、小癸、拜領、加潤色今日着用也、先准后、青門、伏見殿、宮御方へ御禮に參、宮御方にて御盃頂戴候了、今夜御祝祇候之輩帥大納言、四辻前大納言、萬里小路中納言、三條宰相中將、右大辨宰相、高倉三位、兼秀朝臣、公敏朝臣、予、季遠

朝臣、橘以緒等也、次御局々へ御禮申候了、○鏡祝夕方有之、如例年、○阿子、御料人、中御門へ禮に罷向、云々、一荷兩種遣候了、同老母同道也、○大澤彦兵衛、同長門守、澤路龜鶴、同隼人佐來、

三日、乙丑、天晴、○烏丸、出納將監、速水右近、佛所侍從、山本與次郎禮に來、云々、○坊城禮に來儀、治部又四郎來臨、見參、一盞勸候、島津泰四郎來、對面、一盞勸候了、○當番之間暮々參内、御祝被參之輩帥大納言、四辻前大納言、權大納言、三條宰相中將、右大辨宰相、高倉三位、慶壽丸、庭田、兼秀朝臣、予、長淳朝臣、季遠朝臣、橘以緒等也、○明日武家へ出仕之用に、勸修寺へ馬之事申遣、可遣之由候了、○今日中將轉任之事、以頭辨申候、則勸許也、御禮申候了、○今日當番衆權大納言、予兩人也、於長橋局雜煮にて一盞有之、

四日、丙寅、天晴、○勸修寺へ馬引に遣候、鞍皆具、笠袋、鞍覆、毛氈、杵等召寄候、五時分罷出候、先藤宰相所へ罷

向、合同道參候、藤宰相にて一盞有之、予共澤路隼人佐、井上次郎五郎、雜色三人、小物一人、人夫一人、又小物一人等也、九過時分御對面也、申次荒川治部少輔、堂上藤宰相、予兩人計也、奉公輩無人也、四人歟、番方四人、奉行十一人、醫者三人、在富卿等計也、次以遊阿み御局々へ御禮申候、一對、御今局、左京大夫局、宮内卿局等也、先之上様へ申候、御乳人見參、次奉公方へ罷向、大館伊與入道、同左衛門佐、同兵庫頭、同九郎、上野與三郎、朽木民部少輔、伊勢因幡守、飯川彦九郎、三淵彌二郎、一色式部少輔、本郷常陸介、同三郎、荒川治部少輔、小笠原民部少輔、安東平次郎、進士美作守、海老名備中守、同二郎、清四郎、局務等へ罷向、次尊勝院見參、一盞候了、妙觀院、建仁寺光堂見參、一盞候了、細川六郎所へ罷向、鷹野始、云云、奏者飯尾二郎左衛門、古津筑後守同共、云々、次曇花院殿へ參候、御師弟子御盃被下候了、在富卿祇候也、二條殿へ參候御對面、御盃被下候、花山院申

置候、攝取院、福生庵、甘露寺見參也、資直卿所申置候、四條見參一盞有之、西專庵へ罷向候了、○廣橋禮に來儀、云々、櫛田將監禮に來、云々、○從大宅郷大豆五升餘出、云々、餅者不出、曲事也、御供二膳出候、

五日、丁卯、天晴、○早旦從甘露寺使有之、今朝朝飯に可來、云々、可罷向之由申候了、坊城、中御門合同道罷向、此三人計也、九時分罷歸候了、○八時分より暖氣散々式、平臥候了、○清水式部丞、紀多與次禮に來、云々、○中御門禮に被來候、所勞之間不能見參候、老母方に一盞候了、

六日、戊辰、天晴、○從長橋局可參之由有之、自昨日所勞散々由申候、雖然押而致祇候候、御即位御服御袍、御表袴、御直衣三色、可申付之由被仰出候了、○四條中將禮に被來候、見參、一盞勸候了、○多久泰禮に來、云々、加田次郎左衛門同來、云々、○從葉室乳人來、樽并餅置、予御乳人方へ來、同自此方樽遣候了、

七日、己巳、天晴、○猪熊三位禮に來、見參、餅に脱カ一盞勸候了、○景通禮に來、云々、盛秋來、乍平臥對面候了、○今日祝如例年、

八日、庚午、天晴、○西川對馬入道、牛玉面一具持參同祐閑、宗清、宗春禮に來、云々、高屋孫四郎、嚴阿み、藤藏主來、對面候了、○今日當番可參之處、所勞之間不參候了、○治部又四郎暫

雜談、夕飯用意候了、盛秋中酒時分來了、

九日、辛未、天晴、○東坊城被來候、暫雜談候了、○今晚此方

にて音曲有之、人數速水掃部助、竹内殿待法師備後、山本與次郎、木村源二郎、魚梁瀨與次、速水右近、清水三郎、島津泰四郎等也、夕方汁用意、中酒有之、夜入又一盞勸候了、大鼓以下三色、藤宰相に借用候了、

十日、壬申、終日雪下、○西郷三九日保家地子分事、度々女房奉書被出、可停止景範競望之由、一昨日被仰出候、其御返事長橋局へ參候て申候、雖及一流斷絶、不可停止之由申入候了、○從御方御所今日參賀之申次可參之由有之、則參候、久我右府、西園寺大納言被參候、御咳氣

來、茶持參、予相伴、扇一本遣候了、○今日甘露寺奏慶之間、兩種一樽遣候了、暮々中御門へ罷向、裝束させ候、今夜拜賀之扈從并申次也、次甘露寺へ罷向、依文かき候、次三獻有之、被見訪人數四條前大納言、予、東坊城、中御門等也、○薄所へ罷向、廣橋裝束させ候、次持明院へ罷向、同裝束させ候了、○今夜女院號定有之、廿先新大納言着陣、萬里小路中納言着陣、次持明院宰相着陣候了、次帥大納言、新大納言、萬里小路中納言、三條宰相中將、持明院宰相參陣、頭辨仰帥大納言院號定可奉行之由、次帥大納言移座、日華門院、豐樂門院、關白前左府等勘進、云々、豐樂門院可然分相定、云々、予所勞氣之間、半罷歸候了、○女院今夜伏見般舟三昧院へ御忍にて御出、云云、

十三日、乙亥、天晴、○今日當番之間七時分參内、予一身也、十四日、丙子、天晴、夜に入大風深雨、震動二度、將軍境□□二間計光物飛、云々、雷等也、○今日三毬打竹七十かごの分從大宅郷上候、大澤彦兵衛尉、澤路軍

之間無御對面之由申候了、終日祇候、夕御膳御あこ頂候了、今夕大元帥法可有御聽聞之間、御參内之御共可參、云々、然者暮々又參候、予一身之外無御共之間、無御參内、仍退出申候了、○坂本從執當一樽荒卷^カ、送候、佳例也、目出々々、

十一日、癸酉、終日雪下、深八寸餘、○中御門へ朝飯に罷向、甘露寺、予、東坊城等也、○禁裏御身堅に宮内卿在當參内之間、申次可參、云々、九時分參申次仕候、參御三間御雜談

申候了、次宮之御方へ參候、下官被待候、在富卿御身堅參候、申次仕候了、次退出候了、○今日伏見殿御申沙汰也、兩種一樽進上候、暮々參御兩御所、梶井宮、安禪寺殿、宗持寺殿、上臈等也、被參候輩四條前大納言、同隆重朝臣、予、長淳朝臣、長雅朝臣等計也、八獻參候了、○今夜夜半過准后崩御候了、先密々々々、○自大宅郷御供二膳上候了、○竹内殿へ御禮に參候了、新門主御見參也、

十二日、甲戌、終日雪下、○亡父忌日之間、常樂寺僧正舜時に

人佐、同彦三郎、又三郎、次郎右衛門、人夫三人、三毬打用意也、禁裏へ五本進上候了、例年十本雖進上候、就女院之儀五本進上、舊例此分也、吉書可被入候御用計也、此方六本、如例年用意候了、○三毬打、中御門、四條所望之間、三本分遣候了、○青門、大祥寺殿へ、女院之儀御訪申入候了、○正親町へ禮に罷向候了、

十五日、丁丑、天晴、○赤粥如例年祝有之、大澤長門守、同彦兵衛尉、坂田竹千世、澤路龜菊、同隼人佐、同彦三郎、井上二郎五郎、又三郎、次郎右衛門、三毬打如例年はやし候了、○帥卿所へ一樽兩種送候了、則可來之由候、土器物海老高橋若狹守に申付候、來用意候了、○七時分帥卿へ禮に罷向、見參、すい物にて一盞候了、見參○轉法輪三條、五辻、庭田、菊亭、三位殿、中院、高倉、四辻、大炊御門、二位殿、宮内卿、治部又四郎、猪熊三位、日野等へ禮に罷向、佛陀寺へ罷向、四條父子、日野等一盞候了、○今日御祝、沈醉之間不參候、○老母今日鞍馬寺へ被參候、御通夜、云々、共阿茶子、大澤彦兵

衛尉、澤路軍

衛尉等也、○統全今朝時に來、予相伴候了、扇十本遣候了、

十六日、戊寅、天晴、○從長橋局可參之由候間、則參候、帥卿、萬里小路中納言祇候也、御錫紵御服之事也、大永六七度四千疋之由申候、然者一向御總用無之間、半分にて可調進之由有之、中々難調事也、猶以思案明日御返事可申入之由申候、諸事如此、云々、又城南へ籠居之殿上人に可參之由被申候、倚慮以前不可參之由申入候了、御葬禮來廿三日、云々、此供奉又所役素服着用之事、當官にて不參候間、如此申入候、御同心也、○葉室母出京、此方へ被來候、こわき供御とくり隨身也、○中御門へ罷向、暫はなし候了、

十七日、己卯、天晴、○佛陀寺僧壽算時に來、相伴、扇一本遣候了、○中御門へ罷向、暫雜談候了、○滋野井禮に被來、云々、○長橋へ參、御服可調進之由申入候了、薄所へ禮に罷向、一盞候了、

十八日、庚辰、天晴、○朝飯以後用意、中御門同道にて方々へ

禮に罷向候了、先安禪寺殿參候、御咳氣之由候、雖然御對面、御坏頂候了、伯卿、廣橋、徳大寺、勸修寺、飛鳥井、近衛殿、烏丸、町、宗持寺殿へ參候、南御所御對面、御盃給候、寶鏡寺殿、ようりん庵御留守也、入江殿御咳氣之由有之、御對面無之、一盞有之、滋野井へ申置候、鷹司殿御對面、岡殿御留守、云々、伏見殿へ參、暫宮御方に祇候、花山院笄刀之事罷向申候、咳氣之間無見參、從是可申候、云々、○今日當番四辻中將に相轉、來廿二日に替了、

十九日、辛巳、天晴、○正親町へ罷向、泔器借用、伏見殿へ參、打亂筥蓋并櫛巾申出候了、明日葉室元服用也、先宮御方にて一盞被下候、中將某一盤參候了、勝申候、次宮内卿所へ罷向、明日元服吉時吉方尋候了、○今日中御門に終日、明日之用意申付候了、○葉室烏帽子予調遣候、今日出來之間則遣候了、○葉室へ三種雲雀一折廿、いのちの荒柳三荷遣候了、

廿日、壬午、天晴、○花山院にて笄刀借用候了、○今日終日中

御門へ罷向、葉室元服之儀共調候了、○從廣橋葉室官位勸許口宣案到、昇殿之事同申入候了、

上柳橋大納言 天文四年正月廿日 宣旨

從五位下藤原賴房

宜任兵部權少輔

藏人頭左中辨藤原兼秀 奉

天文四年正月廿日 宣旨

從五位下藤原賴房

宜敍從五位上

藏人、

首服之事八時分也、加冠新大納言伊長卿、衣冠、先着座、西上、北面、次新冠着座、西上、南面、次布衣左京冠持參、次山口又七打亂筥持參、次又布衣泔器持參、次予衣冠、進、打亂筥中櫛、髮搔、小本結、三筋、本結二筋、取出、次新冠取手定之、以手解髮、長小本結にて卷之、以髮搔分之、短小本結にて結之、主、次左、以檀紙二枚笄刀取出之、檀紙にて髮を卷、先右次左、紙捻にて結之、□わな左右共に内之方

也、次取笄刀切之、先右次左、新冠に不見櫛巾中へ入之、取冠入髮以左手令持之、笄刀以下調之了、解櫛髮搔泔器之居柳筥退了、次加冠進、左右のひんをか、次復座、次予進櫛髮搔納之、櫛巾如元調之退了、次布衣以下如前撤之、次新冠起座、次加冠起座候了、内々にて予本結取改候了、○内々にて三坏烏子等祝候了、○禁裏へ三荷三種、宮御方へ一荷兩種、長橋局へ一荷兩種進上候了、○祝三獻有之、人數甘露寺、勸修寺、予、東坊城、中御門、新冠等也、雜煮すい物二有之、各召出有之、○禁裏へ御禮に參候、下姿之間長橋迄也、予參て申入候、中御門同道也、宮御方へ參候、御對面、御盃被下候、伏見殿へ參候、御對面也、逍遙院へ罷向、所勞之由候、四條へ罷向、大納言他行、中將見參、一盞候了、○飛鳥井、松田對馬守禮に來儀、云々、

廿一日、癸未、天晴、○今朝甘露寺に朝飯有之、去十二日拜賀後宴歎、人數亭主、予、東坊城、中御門、薄、治部又四郎等也、○葉室甘露へ二荷兩種并太刀にて禮に來、すい

物にて一盞候了、○葉室此方へ禮に來、太刀持來候了、一盞勸候了、今日武家へ參、云々、坊城同道也、御對面、御坏頂戴、云々、太刀進上候了、

廿二日、甲申、天晴、○從長橋局御錫紵御服御總用之内、且五百疋被出候了、○御檜扇五十にて申付候、先手付卅にて申付候了、○土高器三、申付候、五十分也、○葉室青侍共、左京亮、山口又七、伊賀又四郎、藤二郎、新三郎一昨日禮に來、對面、一盞勸候了、○一色式部少輔、海老名二郎、孝阿彌禮に來、云々、○甘露寺被來候、現任公卿可書寫之由被申候間、書進候、并七辨等也、○今朝葉室に朝飯有之、人數甘露寺、勸修寺、廣橋、予、中御門、薄等也、中御門亭にて有之、

廿三日、乙酉、雨下、○中御門へ罷向、暫難談候了、○板一間三色木二本百四十にて召寄候、御服御唐櫃用也、○櫛田將監召寄、御冠事申付候、依折中九十疋にて申付候、迷惑之由申候、對面、一盞勸申候、手付先三十疋遣候了、○宗喜來談、一盞勸候、○今夜當番之間暮々祇候、

四辻中將御添番也、予兩人也、○今夜女院御葬禮、伏見般舟三昧院にて有之、云々、各被下候、供奉帥大納言、淺黃沙、紗カ、下同、萌黃沙、狩、右大辨宰相、沙、狩衣、上結、云々、萬里小路中納言、衣上結、右大辨宰相、結、云々、隆重朝臣、白布衣、云々、松長淳朝臣、赤綾狩衣、勅使藏人佐宣治、東帶、勸修寺候人三度、庭田候人、志、等也、三宅北面に參候事先代未聞事也、志立相事未練之次第也、以後下北面侍共兩人に不可立相事也、於仰者可參北面共、齋藤太郎左衛門、庵主筑後守、日野内、廣橋内、松波左衛門大夫、山形右兵衛大夫、大澤長門守、同彦兵衛尉、速水掃部助、同右近將監、東堂參河守、高橋民部大輔、同若狹守、同雅樂助、此等之輩於故障者如何、無左右被召加候事傳奏、右大辨宰相、失也、殊三宅に隆重朝臣松明渡事、未練至極、口惜題目也、○今夜之供奉可參之由、先日内々被仰出候、當官之時御葬禮之供奉素服着用之事、遺詔遺令使等不勤之、難而御吉服致調進故也、此由申入候了、

廿四日、丙戌、天晴、○今日四時分從伏見各被歸候了、○大工

召寄御唐櫃申付候、晝酒肴勸候、十疋遣候了、くき此方に有之、○猪熊三位來談、茶子餅にて茶勸候了、○高屋彌助、同名孫二郎晚飯に呼候了、○從勸修寺、明後日女院初七日御經供養御布施取可參之由、折紙有之、

廿五日、丁亥、天晴、○今日又大工來、御唐櫃出來、長さ二尺四寸、廣さ一尺五寸五分、高さ一尺四寸也、足數六、棒一間餘、木此方有之、又御唐櫃用意、御服共内々可入用也、○板間中五十にて召寄候了、○大工に朝飯申付候、晝酒肴作料十疋遣候了、○老母世中へ罷出、御服之料越後布二端九十疋、越中一端四十疋、絹半疋四十疋半、又一疋一貫二百五十取候了、予用杉原五帖十疋、厚紙一帖四十、木綿一端二十疋取候了、○盛秋來、晚飯可來之由申、雖斟酌候堅申候間、夕方罷向、老母、予兩人也、○伊勢祭主入道宗坡來、一盞勸候了、○明日用勸修寺へ馬之事申候處、今日血出、云々、○藤宰相に馬之事申候、不所持之由申候了、○明日用大宅郷

にて人夫一人召寄候、今日上候了、○萬里小路より可來之由候間、則罷向、明日着座に祇候之間、抜衣文之事被申候間、則させ候了、○大典侍殿より文有之、明日新典侍殿と伏見へ御下向之事情、路次惡候間、御歸之時可有御同道之由候、畏候由申候了、

廿六日、戊子、豐樂門院初七日、天晴、○朝飯急伏見へ罷下候、共大澤彦兵衛尉、井上次郎五郎、雜色又三郎、衛門、人夫一人、裝束以下持候了、般舟院にて用意、御服之直衣着用候、上卿帥大納言、萬里小路中納言被參候、御布施取予、橋以緒參候了、籠居公卿滋野井宰相中將、殿上人隆重朝臣也、大典侍局、新典侍局御參候、御時參候、御陪膳四條中將、予兩人仕候了、其後各時候了、○九時分導師報林院猷一僧都被參候、大名僧一口、誦文東坊城長淳朝臣作進也、無清書草被用候、別當帥大納言也、忌日佛藥師新圖也、○御經供養以後、麵すい物等にて酒候了、女中、公卿衆、幸違御相伴、四條中將、予、極薦等御陪膳也、○八時分泉涌寺衆參、諷經に廿一人有之、

○八時分より各上洛候了、○晚飯中御門へ持て相伴候了、○幸遵納所に筆三對、純智西宮に十疋、幸意に筆三對、慈統に墨二疋、遣候了、○荒川治部少輔、長生軒、上智院民部卿禮に來、云々、

廿七日、己丑、○治部河内守禮に來候了、○九時分眞性院祈禱に來臨、作事申付候了、仁王經讀誦候了、引物に晝燈臺出候了、

廿八日、庚寅、○朝飯以後、予、中御門、平野預猪熊三位兼水廻、同道鞍馬寺へ參詣、葉室母被參候、戒光坊へ罷向、御最花十疋、宮笥筆二對、墨二疋、遣候了、晝飯用意候了、入江殿御參詣、御所坊へ御出、召候間、中御門と兩人參候、御坏被下候了、八過時分下向候了、○伏見殿へ祇候、梶井宮、式部卿宮、暫御難談申候了、○今日當番四辻中將に相轉候了、○大館左衛門佐禮に來、云々、○

般舟院に籠居公卿五日替、滋野井宰相中將上洛、云云、持明院宰相下向也、四條中將、前大納言代迄に來月迄逗留、云々、籠居人番替事不可然事也、且者不吉

之儀也、甚不可然々々々、

廿九日、辛卯、○從長橋局御總用之内七百疋被出候、以上千二百疋被出候了、殘而八百疋也、○御槍扇出來、代殘廿遺候、以上五十也、○烏帽子物之殘五十、孫左衛門方、雜色、八十疋、孫左衛門方、遣候了、○予太刀鍔二色、去年十月質物に置候、十二月迄之利分百廿遺候了、三月限也、雜色又三郎取次也、○中御門侍從笛折候、櫻田に予申付候、つき事は新調百疋にて沙汰也、手付に五十疋遣候了、○予笛つき事、三十疋半にて申付候、且十疋半遣候了、○繩御帶雜色又三郎に申付候、茶子に十遺候了、○冠師楠田方へ御冠之代又三十疋遣候、以上且六十疋遣候了、○中御門へ罷向、暫難談候了、○高屋彌助、同孫二郎、宗喜來、一盞勸候了、

○二月大
一日、壬辰、○伏見殿、萬里小路、西三條、入江殿御禮に參候了、入江殿に飛鳥井、觀世又三郎祇候、御酒候了、飛鳥井へ罷向、他行、侍從見參、一盞候了、岡殿、四條、

中御門、廣橋、宮内卿所へ罷向候、○德大寺へ罷向、一盞候了、○今夜御祝に不祇候、御盃も不參由候了、○

土高器三出來、代五十遺候了、○治部又四郎禮來儀、小笠原民部少輔來、云々、○從大宅郷御供上候了、○猪熊三位來、明日朝飯に可來之由申候、指合之由申候了、

二日、癸巳、天晴、○甘露寺、廣橋、東坊城、中御門、薄、治部大輔等朝飯に呼候了、○中御門へ罷向難談候了、○伏見殿へ參候、中書王、梶井宮、暫御難談申入候了、○中院へ罷向、坊城、四辻中將、權辨、内山之上乘院被居候、一盞有之、各同道にて青門へ參候、其後夜入禁中にて又各酒有之、坊城振舞也、

三日、甲午、天晴、暮、○中御門舊冬在國之時、留守事衆に今日晚飯に呼候、愚亭被借候了、夜に入十種香候了、人數子、中御門、葉室、千秋將監、宗喜、治部又四郎、高屋彌助、同孫二郎、經師又三郎、後來下笠又二郎、嚴藏主、筆彌二郎等也、○今日當番四辻中將に相轉候了、○今

日女院二七日、云々、

四日、乙未、天晴、○御總用之内五百疋、從長橋局被出候、是迄千七百疋也、殘而三百疋也、○布二端七百廿、御襪絹六十五、御なか二十疋、御絲二十五疋にて召寄候了、○治部又四郎笛一管祕計也、近比之古物也、八十疋分申定候了、○今日四條中將上洛、云々、殿上人無之、持明院宰相來八日迄可逗留之由被仰、云々、

五日、丙申、天晴、○從長橋局可參之由候間、則參候處、伏見般舟院に籠居殿上人四條中將昨日上洛候、各難被仰付候、故障候間、拙者可計申候由承候間、種々令思案候、持明院少將基連、申聞、御返事之由申入候了、○德大寺へ罷向、持明院少將に申候處、畏候由被申候、德亞相見參、一盞有之、暫難談、少將下向明日に申定罷歸候、○勸修寺へ罷向、明日持明院送之事申候處、兩人可遣之由被申候了、島津秦四郎此方送に來、一盞勸候了、毛拔一鉸、カ、持來、祝着々々、○景範宿へ罷向、笛みせ候、近比之見事之由申候、郭公と號笛かと申候了、

すい物にて二獻盃出候了、○平野預亭に晩飯有之、廣橋、予、坊城、中御門、亭主、速水右近等也、○各同道禁中梅見候了、○自因州柳原上洛之由候間、罷向見參、坊城、中御門被來候、一盞候了、藏人修理權助氏直も、今日從尾州上洛、云々、○治部又四郎方へ笛之代先五十疋渡候、殘三十疋也、
 六日、丁酉、雨下風吹、夜入大風雨甚、○從持明院袍指貫取に來候間、公物申出遣候、五時分被下候了、勸修寺より兩人、庭田より一人送候了、○藏人權亮今朝朝飯に呼候間罷向、四條、予、坊城三人計也、○柳原へ罷向、暫雜談候了、○帥卿所へ罷向、來九日次候袍之事申候處、兼約云々、并參陣樣體尋候了、○中御門へ罷向雜談候了、○先日十種香勝衆予、治部又四郎に、中御門、葉室、下笠、經師又三郎、筆彌二郎等計振舞候了、夜入田樂にて一盞候了、○七過時分に柳原風呂被振舞候、人數甘露寺、廣橋、予、坊城、中御門、藏人權亮等也、○今日女院三七日、云々、

七日、戌戌、天晴、○去夜大風に禁裏日華門顛倒、云々、不怪事也、○伏見へ可進之用、經師に提婆品十疋半にて申付候了、薄樣略之、○藤宰相へ罷向、數時雜談、晩飯相伴候了、七時分罷歸候了、明後日倚廬渡御、御服可參之由申候了、○四辻代に御番に祇候候、參御前、夜半時分迄御雜談申候、予一身也、○諒闇御服之御總用之殘三百疋、御冠之代百疋被出候、是迄二千百疋被出候了、御調料に三百疋老母方へ渡候了、
 八日、己亥、天晴、○柳宮二、到來候、作料卅遣候了、○御冠出來、三十疋遣候、以上九十疋渡候了、○御絹三疋半、四貫二百にて召寄候了、○惡錢百疋有之、不足等此内也、○從大宅鄉澤野井越前守禮來、去年主カ領禮也、政所伯父也、三荷三種餅五、昆布廿持來、入麵勸候、同政所、彦三郎二十疋持來、乍兩人對面、盃のませ候了、○澤路入道、同虎菊、同隼人佐、同彦三郎、井上二郎五郎、下笠又次郎、高屋彌助、同孫二郎等來了、各に餅にて一盞勸候了、○中御門、西專庵等へ餅、鯛、五、切て、とくり

遣候了、○青門へこふ十卷、白壁一折一荷進上候了、○少用之事有之間、長橋局へ參候、甲賀事也、○高屋孫二郎暮々來、甲賀事申合候了、○當番之間暮々參内、予一身也、今夜小御所へ別殿行幸也、予御カ共申候了、○經師に提婆品代先十疋遣候了、○從般舟院持明院上洛、云々、少將一人、云々、
 九日、庚子、天曇、暮、暮より雨下、○從萬里小路石帶被申候間、玉帶遣候了、○五辻にて半臂爛借候了、○中御門へ壺筥、矢之根、八、弓等遣候了、○正親町之老懸中御門へ借用、予取次也、○藏人權亮隨身壺筥、同矢、借候間遣候、同平筥籙も申候間遣、○極簡平筥籙、同矢九、丸緒、間塞等申候間、遣候了、○從頭中將公殺、弓、壺筥皆具可借之由被申候間、陣儀以後於禁中可遣之由申候了、○從禁裏御服御半臂拜領之間、則今夜着用候了、○今晚藤宰相來、於此方用意也、指貫帥卿に借用候了、○予、中御門兩人、於此方束帶着用、絨文藤宰相に申候間腋也、老無帶劔、予者魚袋付候了、予一身也、祖父卿付候

以例付之也、衛符カ之具者持候了、○御錫紵御服持て進候、先從長橋局諒闇御服御大口御湯帷兩種進之、諒闇御服者倚廬終に根本參候、今日參候事近例也、倚廬十二日之間、御引直衣、線布、御大口白布、可被召候事也、近來依被略如此也、○頭辨兼秀、長淳朝臣、資將衣文事被申候間、罷向候了、
 十日、辛丑、雨下、○五辻へ半臂爛先返候了、○今朝柳原、四辻中將、予恆宿禰、松波又七朝飯に呼候了、○東坊城暫來談候了、○從長橋局明日何様にも伏見へ可罷下之由承候、明後日頼寫有之由承候、旁故障之間、明後日曉天可罷下之由申入候了、明日一方違之日之故也、又御錫紵御服之事、可被預之由承候間、明日預所申定、可申出之由申入候了、○般舟院へ高倉三位下向、云云、持明院少將祇候、云々、
 十一日、壬寅、小、○從四條今朝朝飯可來之由有之、可然之由申、昨朝可來之由度々雖被申候、故障之間如此、在富と兩人計也、前大納言者大祥寺殿へ祇候とて、四

條相伴也、○從青門昨朝御時に可祇候之由被仰出候、不參之間其御禮參候、竹内殿師弟、權辨、上乘院、花開院等祇候也、○伏見殿へ祇候、梶井宮、李部王、暫御難談申入候了、○御錫紵申出、四條殿へ預候了、十五色有之、○予笙四管四條へ預候了、鳳凰、龍土也、○宗喜暫難談、○從柳原昨日禮松波來、對面、○攝取院へ方違に罷向、福生庵は入江殿へ被參、云々、留守也、聽而罷歸候了、○予誂提婆品取寄候、半遣候、藤宰相誂候も取寄候了、若王寺へ入遣、十疋半取寄遣候了、十二日、豐樂門院五七日御法事煩寫有之○曉天伏見へ罷下候、人夫未上洛候間、禁裏御仕丁申候處、依遲々六時分罷下候、共大澤彦兵衛尉、井上二郎五郎、木内彌二郎、又三郎、與二郎、衛門等也、五時分下着候了、然共早頓寫過候了、無念無念、大澤此方留置、殘皆返候、持明院少將上洛之間、各隨身也、予從今日般舟三昧院に籠居、高倉三位從一昨日下向、云々、六時勤行着座候了、○藤宰相進上、予進上提婆品、幸遵に付候了、

十三日、甲辰、○六時有之、從元應寺書寫經法華、進候了、○於幸遊西堂方一盞有之、高倉、予、大通院長老以下僧衆十人計也、○書寫經有之、今日八把書之、○幸意出京、伏見殿、梶井殿、三秀院等首座提婆品被進候、帥卿觀經書寫紙經被進候了、十四日、乙巳、天明、○無殊事、京都へ便宜有之、○各に肴餅にて一盞、予振舞候了、○今日經六把書寫候了、○二尊院之良舜に慈救咒請候了、十五日、丙午、時々、○涅槃講式有之、又廿五三昧有之、夜尺迦念佛舍利禮有之、○明日六七日法事に、今日廬山寺之衆三人下候、芳林、照傳等也、○今日經八把書候了、○今日高倉三位可有之由候處、十九日迄可有祇候之由堅被仰候間、逗留也、予同前、十六日、丁未、雨降、○女院六七日也、今朝羅漢式例時有之、僧衆十四人有之、○從京小袖被下候了、○從法勝寺御經達候了、○慈善呼寄、高倉漸寫一筆校合候了、三部經也、○大光明寺へ忠首座來、一盞候了、○今日寫經六

把書候了、

十七日、戊申、○從曇華院書寫法花經、伊與局提婆品、淨華院阿彌陀經印寫、庭田阿彌陀經書寫被進候了、○今日寫經十二把書候了、○今日二尊院長老一空、に護身法相傳仕候了、

十八日、己酉、○明日盡七日之間、廬山寺穎運西堂、穎般論師、三鉢寺、壽慶、下向候了、○津田佐土守來、高倉、予對面、一盞勤候了、○宿忌に隨行念佛有之、○二尊院長老一空、三鉢寺西堂、淳芳、同周盛口予方へ一樽被送候、及數盃候了、○明日上洛之用馬之事、津田又三郎に申候了、○比叡山東谷龍智院御燒香參候了、○御中陰籠僧交名、二尊院長老一空、三鉢寺西堂、淳芳、般舟院幸遊三、上坊周盛、二、良純、般、幸意、助音秀智、二、惠瑣、般、慈潤、三、惠臨等也、

每日勤行次第、五種妙行、
初夜 光明真言行法、同陀羅尼隨求小咒禮讚、二時、

五更 禮讚、行法、陀羅尼等、慈救咒、日出 法華懺文、獻粥、諷經、梵網觀經讀誦、禮讚、禺中 禮讚、半齋、諷經、日南 妙經看讀、解脫八講輪轉、書寫、黄昏 例時作法、禮讚、普門品、正月廿三日 初更開口、七々御忌本尊、并御作善次第、

初七日廿六日 藥師宿忌諷經、當日舍利講式、二七日三日 彌勒、論義、隨行念佛、三七日六日 千手、諷經、施餓鬼、四七日九日 地藏、諷經、廿五三昧、五七日十二日 尺迦、諷經、法華頓寫、六七日十六日 不動、諷經論義、例時、盡七日十九日 阿彌陀、隨行念佛、曼陀羅供、諷經參仕次第、并御燒香次第、大德寺、泉涌寺、大典侍殿、新典侍殿、新大典侍殿、勾當内侍、右大辨宰相、禪林寺、佛陀寺、知恩院、報

恩寺、智恩寺、常樂寺、

方々進上御經、書寫法華經、

大德寺、泉涌寺、參詣寺、安樂光院、廬山寺、元應寺、

法勝寺、安禪寺、曇花院、三時智恩院、正傳寺、青門

二部、

印寫提婆品

大典侍殿、新典侍殿、新大典侍殿、藤宰相、子、伊與

局、晴光、二位局、萬松軒、兼秀朝臣、

同阿彌陀經

伏見殿、梶井殿、曼殊院宮、二、大慈院殿、勾當内侍、三

位御局、淨花院、慶壽丸、左衛門督、

觀經

逍遙院、帥卿、

書寫三部經

二尊院、高倉三位、禪林寺、佛陀寺、常樂寺、知恩院、

知恩寺、報恩寺、安養寺、

四要品

長講堂、

道場

法花三部、同願寫一部、三部經一部、

初七日御經供養、

道師報林院、着座公卿帥卿、萬里小路中納言、御

布施取予、所役極簡緒、等也、

盡七日御經供養、

導師毘沙門堂、前大僧正承忠、名僧城南院、重祿、着座權

大納言、實胤、左衛門督、雅綱、御布施取予、長雅朝臣、所

役橋以緒等也、

十九日、庚戌、天晴、○從早々曼陀羅供有之、長老、一空、淳芳

西堂、幸蓮西堂、穎連西堂、周盛論師、慶運論師、壽慶

、、穎般、、良純、、幸意、、慈弘、、等也、

先粥、次時有之、上卿權大納言、左衛門督、殿上人長雅

朝臣、橋以緒等也、○御經供養有之、先導師忠承僧正

登禮盤、次名僧重祿、律師、着座、次權大納言、左衛門督着座

也、先公卿着座、次僧衆着座常之儀也、依凶事如此之

由、權大納言所意也、御經供養如常、御願文管中納言

作進、無清書草其間々被持候、御布施如常、殿上人子、

長雅朝臣兩人取之、所役殿上人橋以緒也、取次之事實

也、出納取次之、御中陰中者洞中分候間、御承仕盛嚴

沙汰候也、○各一盞有之、各上洛、予迎に井上次郎五

郎、與二郎、澤路隼人佐代同衛門等來、人夫兩人來、一

人者高倉持分、馬之事者津田又三郎に申候、從五條返

候、高倉と兩人同道也、殘者與也、飛鳥井法勝寺迄同

道、佛光寺へ被行候、○中御門へ罷向、千秋將監來候

間、此方へ同道、昨晚相伴候了、兩人同道岡御所梅見

物候了、

廿日、辛亥、天晴、彼岸結願日、○久敷不參之間、九時分參内、大所に

て伊與局、極簡、末衆一盞有之、予相伴候了、○帥卿所

へ罷向、來廿八日雲芳院卅三回法事に音樂之事、女院

五旬之内可有之歟否之事尋候、樂所之儀無分別、法事

之儀候間、苦間敷歟之由被申候、猶樂所へ可尋之由有

之、○高倉三位晚飯に招請、相伴候、薄に汁同振舞候

了、○岡御所へ土器物二、あこや、つとくり暮々持參、梅

本にて一盞興行候了、○今夜御添番之間、薄に相轉候

了、

廿一日、壬子、天晴、八專入、○中御門へ罷向候了、○從禁裏朝飯

以後、常御所御掃除、云々、畏旨申入候了、○朝飯に四

條父子、猪熊三位呼候了、○四時分御掃除に參候、先

倚廬御所御前に參、御雜談申候了、來廿八日參候事尋

申候、無御分別之由有之、唐者葬禮之時にも柳亞相苑

吹候間苦間敷歟、但如何之由勅定也、○高倉三位、予、

季遠朝臣三人、常御所御三間、御樂學文所、議定所、

御湯殿上等掃除仕候了、○公物袍申出候、五辻にて半

臂爛借候了、○吉田へ大帷、下臺機、石帶、冠、襪之事申

候間遣候了、○吉田侍從當年禮とて來、見參候了、○

東坊城、宮主吉田神祇權、少副兼高、等裝束させ候了、○廣橋、町兩人

に薄所にて裝束させ候了、○藤宰相此方にて用意、指

貫四條にて借遣候了、予衣文之事申候、同道候て參内

候了、○四條所に預置候御服取寄持參候、諒闇御直衣

從長橋局内々進候了、

廿二日、天晴、癸丑、○今朝早々茶子にて、藤宰相に茶勸候了、五時分被歸候、可同道之由雖被申候、從今日來廿八日迄精進之間、不罷向候、從中御門も朝飯に被呼候、同不罷向候了、○公物袍、表袴返進、五辻へ半臂爛返遣候了、○從吉田冠、下襲襟、大帷、石帶等返候了、○從萬里小路石帶有文、被返候了、○暮々四辻番代參内候、相番頭辨、予也、兩人參御前、四過時分迄御雜談申候了、

廿三日、天晴、甲寅、○慈善來、無量壽經書寫談候、予も書寫候了、次今日當番之間、七時分參内、相番權大納言、予兩人也、先之香西與四郎、就藤宰相知行分泉州向井村代官之儀、申子細有之間、若王寺藤宰相所へ罷向、廳而罷歸候、粟津修理可來之由申候了、

廿四日、天晴、乙卯、○今日早天佛陀寺へ罷向、來廿八日に壽算、祐閑可來之由申候、良胤者今日和泉堺へ下向、云云、次慈善來、寫經候、世尊寺入道被來候了、

廿五日、丙辰、天晴、○世尊寺入道來、寫經候了、次若王寺へ竹千代遣候、明日香西内喜多村若狹守可來之由申候間、粟津修理進來て可對談之由申處、途中伊香立不思議之喧嘩出來之間、各罷下、云々、此高屋彌助召寄申遣候了、次慈善來寫經、予同寫經、次今日より禁中に三日、元應寺長老梵網經十重禁之法談被申候間、四時分參内、帥卿、四辻前大納言、權大納言、新大納言、三條宰相中將、右大辨宰相、高倉三位、兼秀朝臣、予、諸仲朝臣、橘以緒等參、

廿六日、天晴、丁巳、○世尊寺入道盛圓、慈善等來、終日寫經、行事官時久茶ひかせ候、朝飯相伴候了、今日法談不得隙之間不參、次今日寫經出來候間卷候了、表書予書之、統全、壽算、正舜等來、佛前供具等用意也、諷經候了、次香西與四郎鯉三、送候、喜多村使也、見參、孟勸候了、

廿七日、天晴、戊午、○今日西專庵に時有之、罷向、僧衆五六人、治部河内守、經師越前、賢秀、田口掃部助等也、世

尊寺入道此方にて時申付候了、次御談義に參候了、今日にて終候了、各被參候了、次統全、壽算、慶存、正舜來、諷經候了、次大澤長門守、同彦兵衛尉、澤路隼人佐、井上二郎五郎、宗俊各來、明日時之用意也、次中御門、東坊城より一荷兩種被送候了、統全、壽算茶持來、廿八日、己未、以下天晴、缺文

天文五丙申曆

○正月大

一日、丁巳、天晴、○四方拜候了、次佳例祝有之、次吉晝始、次樂始、音取、五常樂急、太平樂急等也、次武家に出仕候了、同御臺、一臺、御今、左京大夫、宮内卿殿へ御禮申候、次藤宰相、大館伊與守、同左衛門佐、同兵庫頭、同治部大輔、同彌三郎、上野與三郎、千秋將監、彦部又四郎、朝日孫右衛門尉、荒川治部少輔、本郷常陸介、同三郎、小笠原民部少輔、一條式部少輔、海老名備中守、同二郎、細川伊豆守、同刑部少輔、飯川彦九郎所へ禮に

罷向候了、四條、中御門へ禮に罷向、一盞有之、柳原へ罷候了、次暮々參内、先御局々へ御禮申候、次宮方へ參候、御こは供御參候了、高倉三位、新宰相中將、予、諸仲朝臣、橘以緒等參候、御酌にて御通候了、予計別御坏申出候、佳例也、次宮御方御參内候、各供奉也、御劔予、御沓諸仲朝臣、御蠟燭橘以緒等也、次御祝有之、御こは供御參候、天酌如例、被參候輩按察大納言、公條四辻前大納言、公音、萬里小路中納言、秀房、新中納言、實世左大辨宰相、伊豐、右大辨宰相、兼秀、高倉三位、範久、新宰相中將、公敏、朝臣、予、治部卿諸仲朝臣、權辨惟房、重保、極薦橘以緒等也、次宮御方還御、御供如前、次日野中納言資定卿、御禮被申候、申次右大辨宰相、次長橋局にて按察、予、極薦等、い物にて酒候了、次大所にて極薦、予一盞候了、今夜當番按察大納言、萬里小路中納言、宿者惟房參候、極薦等也、
二日、戊午、天晴、時々雪散、○中御門來臨、一盞勸候了、次鳥丸、治部又四郎、山井式部丞、馬場與三郎、主殿助職行、甲

向、入麴にて一盞有之、不具之由候間、大帷、石帶予取寄被着候了、今日御即位日時定、擬侍從定等有之、仍日野右中辨參陣辨被參候、先辨官拜賀、云々、次清大外記枝賢、今日局務之拜賀、云々、衣文之事申候間罷向、石帶事申候間遣候了、一盞候了、次陰陽頭來、於此方着束帶、日時勘文持參候了、衣文予、次勸一盞、次予同道參内、今夜上卿按察大納言、參議左大辨宰相尹豐、三日、己丑、

四日、庚寅、

五日、辛卯、

六日、壬辰、

七日、癸巳、

八日、甲午、
天晴、

九日、乙未、
天晴、

○早旦東山藤宰相亭へ罷向、御即位之儀以下申子細共有之、九時分歸宅、次飛鳥井へ罷向一盞有之、暫雜談、次徳大寺へ罷向、一盞有之、物加波藏人御即位に老懸及闕如之由、先夜申候間、藤宰相に申候、

可遣之由候間、其分申候了、祝着之由申候、次柳原へ罷向、御即位御服御單、御禮服に可有御事候由申候、其分明日合披露可然之由被申候了、次景通、來四品之事、來廿一日に可有勅許旨申候、祝着之由申候了、次賀州白山之大貳來、造營料所之事申候了、次極簡表袴す計板引之事申來、

丙申、雨降、七時分より晴、

○藏人權亮來、暫雜談、本之用として矢

一筋取歸候了、御即位之用也、次參内、宮御方御服御潤色事、北役所之事、昨日被仰出候、御返事申入候、御役所者參問敷之由候、廿五日より宜陽殿土庇に可候之由申候了、次從東坊城補歷借用之間遣候了、次甘露寺路次にて參會、明朝汁に可來之由被申候、可罷之由申候了、次又可參内之由御使有之、則祇候、參御前、景衡一級之事、此度者可御免、向後者不立朝用者候間、御停止之由被仰候、再御即位之日、御禮服之下に御單着御之事、藤宰相に可尋申旨候、又御前裝束に左兵衛佐必可參之由、可申聞之由、被仰出候了、一時餘祇

候御前、大所にて薄、予兩人一盞候了、七時分退出、次坊城被來、云々、他行之間不對顔、左兵衛佐袍之事、公物袍俄御新調之間、可被出之由候了、次坊城へ罷向、彼位に一級申請候如何、一人者後日可申入之由申候了、次薄所より裾裏色付之事申來、暮々亞相暫來談候了、次中御門へ罷向、坊城、予、平野預等也、一盞、音曲、夜半時分歸宅、

十一日、丁酉、
晴、

○從二條殿御書有之、長泊寺及大破之間、爲造營一七ヶ日有護摩、禁裏御奉加事可申沙汰之由有之、宮内少輔俊定朝臣御使也、長泊寺當家依由緒被仰下候歟、次甘露寺汁有之、朝飯持て罷向候、柳原と同道、三條中納言、東坊城等也、從飛鳥井昨日矢之事、本之用として被申候間遣候、則被返候了、中御門へ罷向、平野預と雙六四五盤候了、一興々々、次持明院被來候、御即位之儀以下談合、次澤路隼人佐從山科上洛、就御即位種々馳走之事申下候、五百疋計一兩日中可相調之由申候、大澤長門守召寄、肩宛以下加修理候

了、次善大史英名來、袍事共申候了、暮々當番之間參内、從二條殿被申候長泊寺御奉加之事合披露候、相番萬里小路權辨予兩人、參御前、夜半時分迄御雜談申候了、按察大納言、入道内府依所勞不參、

十二日、戊戌、
天晴、

○長泊寺御奉加事、重而可有御返事由被仰出候、次薰物一貝拜領、過分至也、次早旦常樂寺正舜不可來之由申遣、時之代遣了、今日雖爲瀧雲院殿忌日、御服依有之如此也、次中御門へ罷向、甘露寺被來候、暫雜談、次善大史來、却^カ却之夏袍持來、十二之由申候間、代八ならばの由申候、則同心候て持來、代明日可遣之由申候了、次織手井上方より錦之代取に來、先三十疋遣候、殘十疋明日可遣之由申候、次宮内卿^{在宮}太刀爲本借用、則返遣候了、予野劔大澤長門守召寄直候了、次予表袴裏、昨今に板引に仕候了、次極簡、吉田侍從、同神祇權少副、清四郎來、一盞勸候了、極簡息女^{新内侍}、明日參内侍、仍名字之事被申候間、數五切付遣候、韻鏡本借用藏人、次藏人來之間、一冊返

遣了、次從廣橋本之用太刀被借用候間遣候、使速水右近也、次從柳原明日朝飯に可來之由候、可罷之由申候了、次治部又四郎、大貳等來、暫雜談、清水三郎、陣官人大島六郎等來候了、次爲奉幣、大帷、石帶吉田侍從借用候間遣了、

十三日、己亥、雨降、○柳原朝飯有之罷向、甘露寺、飛鳥井、松木、廣橋、烏丸、予、五辻、東坊城、中山、町、中御門、薄等也、終日及大飲、音曲等有之、後高倉被來候、予鼓大小取寄候了、次九時分從二條殿御使俊定朝臣來、長泊寺之儀御返事申入候了、次六位外記通昭、英名、康雄等、明日一社奉幣之用、裝束披衣之事申候、させ候了、爲各樽代十疋、持來、一盞勸候了、次少用之事有之、坊城、予初夜時分東山吉田迄罷候了、夜半時分罷歸候了、

十四日、庚子、晴、○早旦從禁裏可參之由御折紙有之、着直衣候、御掃除之事、藤宰相人數百計廿日比可進之由、可申付之由有之、次御禮服檢知事、於禁中可仕之由蒙

仰候、前々私へ被出之間、不可然之由申入候了、次英名、通昭、康雄來、裝束させ候了、次廣橋罷向、町左少辨衣文之事被申候、今日一社奉幣奉行也、一盞有之、次吉田侍從來、權少副衣文之事申候間させ候了、下總守業賢朝臣來、今日次第寫させ候了、烏帽子直垂借用之間遣候、官務于恆同來候了、次爲見物參内、今日辰一點、云々、雖然遲々、未一點初了、上卿權大納言被參候了、先上卿着與座、次職事仰々詞、可被發遣伊勢太神宮於上卿微唯、次上卿移着端座、召官人令敷軾、次上卿以官人召辨、辨參軾、上卿仰日時事、次辨進日時勘文、不入次上卿以官人召外記筥、其詞外記に當持參り、則次上卿起座、就弓場奏聞、外記康雄職事奏聞、次返給、仰云、勘申依に、次上卿歸着陣、外記置筥退、次上卿以官人召辨、下日時勘文、辨結申、上卿仰云、勘申依に、次上卿以官人召外記返給筥、次職事就軾仰々詞、可被發遣伊勢太神宮、次上卿以官人召内記、少内記英名、參軾、上卿仰仰詞、如職事此間に職事就軾、覽内藏寮請奏、上卿披見畢則返給、

不及、次權少外記康雄、參小庭申云、つひのまうら使王御馬を申す、奏聞、上卿目許、次英名持參宣命草、入氣、上卿披見畢給少内記、則起座進弓場内記相從、奏聞、此次使王申御馬事奏之、職事取筥次職事、奏聞返給、仰云、令清書、使王申御馬開食、次上卿歸着陣、内記置宣命筥、上卿則給内記、仰云、令清書、次内記持參清書之宣命、披見畢給内記、則起座奏聞如前、次職事就軾、仰云、一、次上卿以官人召外記、仰云、使王申御馬開食、次上卿召官人令撤軾、即揖起座、次上卿以下直向神祇官、禁中御祝に指合之間、北廳之儀不見物、次於新大典侍殿局頭辨光康朝臣、着束帶、予に衣文被申候、七時分御拜有之、御籬參頭辨、御劔なし、是者兼而畫御座に可被置事也、常御引直衣御巾子紙有之、御失念歟如何、次三獻參、於男末盃酌有之、次御祝天酌、被參候輩按察大納言、日野中納言、實定三條中納言、右大辨宰相、光康朝臣、予、長淳朝臣、惟房、橘以緒等也、日野中納言今度就御即位傳奏、別而如内々今日被召加也、面目之至也、光康

朝臣者前々如此、暮々退出候了、次北廳之儀申事有之、及物恣、云々、不可然事、京之衛士、伊勢衛士御幣相論、云々、京衛士以人數取之、緩息至極曲事也、雖然儀式如形有之、云々、乍去少内記宣命を不渡、云々、次上卿以下禁中に歸參、云々、種々申事ありて後、宣命於弓場代渡之、云々、新儀珍事也、次佛陀寺壽算被尋候由候間罷向、何候哉難談、四時分歸宅、十五日、辛丑、晴、○英名昨日衣文之事禮に來候了、次飛鳥井野太刀被借候間遣候、次飛鳥井へ罷向、建仁寺之涅槃像見物、云々、藏人權亮同道、云々、則權亮所へ同道、同少將、安居院同道、於藏人亭餅にて一盞候了、次予二條迄同道、予者二條殿へ祇候、伯卿被參候、一盞有之、宮内少輔へ罷候て、茶所望、矢一筋與候、祝着祝着、次伯卿同道、長泊寺護摩并大覺寺靈寶、嵯峨天皇勅筆心經頂戴、大勝院見參にて一盞有之、次花山院罷向、他行、云々、次東坊城へ罷候、則罷歸候、次四條へ罷候、乍父子他行、云々、次中御門へ罷候、及深夜罷

歸候、平野預被來候了、

十六日、壬寅、從曉天雨降○中御西向被來候了、次四條中將被來候、今度歡樂以後初而來儀也、暫雜談、次中御門朝飯に呼候了、千秋將監來、次四條へ罷、歸候、大勝院權僧正孝我、此間於長泊寺護摩卷數二折公私へ被持來候、一盞勸候了、次藤宰相へ昨日從長橋へ被出候五位袍裏袖單等遣了、次東坊城被來候了、次從飛鳥井新調五位袍出來之由候、則たけ取仕候て遣候了、練て可給之由申候了、次從廣橋太刀被返候、并内外番文可調與之由被申候、則調遣候了、次長生軒に昨日理中圓所望、他所之由候、今日相送候了、祝着之由申候了、藥兩種到來、次四條へ罷向、佛陀寺之壽算同道、中御門被來候、此兩三日中御門、坊城に被居候、父子不和之事有之、今朝種々加意見、又四條父子、予、壽算教訓候て歸宅させ候了、一盞有之、坊城同道候了、次當番之間、暮過て祇候、按察大納言祇候、宿者退出也、予一身也、十七日、癸卯、雨降、九過時分より晴○御禮服玉冠等損候處有之間、

申出可直之由被仰出候了、次景範來、從備前狀共持來、熙秋勸檻之間、津山藥師寺長老、浦上宗太郎狀有之、次東坊城へ罷向、四條中將、五條少納言被居候、次於中御門來廿一日敍位習禮有之、東坊、大内記業賢朝臣、英名、通昭、康雄等也、予上卿代仕候了、次一盞有之、次袖單出來之間、藤宰相方へ遣候、同五位袍裏絹口疋有之、次少用之儀有之間、藤宰相所へ罷向、今夜逗留候了、口夜一盞有之、次夕方英名來、先日夏袍代殘四十疋遣候了、

十八日、甲辰、天晴○藤宰相所に朝飯有之、四時分罷歸候、次高倉三位亭へ罷向、藤宰相言傳申候了、次薄所へ罷向、平緒闕如之由申候間、藤宰相所持候、可遣候由申候、并新内侍局御即位之時、藤宰相官女被履候返事申候了、一盞有之、次四條中將所へ罷向、老懸遣候、藤宰相所持之被借用、同石帶遣候、不入之間被返候了、次參内、熙秋御詫言之儀申入候、御前に可參之由有之間、參御三間申入候、重而可被仰出之由候、次大澤長

門守綱家四品之事申入候、一昨日廣橋候人東堂參河守勸許之間、同日申候了、則勸許候了、同内藏寮目代事申入候、同勸許也、自^{目力}愛々々、次御禮服唐櫃申出候、御仕了兩人持候了、次持明院へ罷向、松木に御即位次將務可用歟否之事相尋候、不用之由被申候、一盞有之、次西殿より青地錦事被申候間、則罷向候、按察に對談、石帶等事尋候、略之由被申候了、次高倉へ罷候、御即位に冬袍用候者、藤宰相可遣之由申候間、其由申候、一盞有之、次薄所へ罷向、絲所望、弓絃卷用也、又一盞有之、次長橋にて宮御方御服、明日可被出之由申候、次從持明院裾裏板引之事被申送候了、

十九日、乙巳、天晴○勸修寺中納言、飛鳥井少將番歸に被來、御禮服被見了、次櫛田來、玉冠可直申候、雖然損所無之、次平野預來、御服見候、次景範一桶兩種持來、四品申沙汰之祝着之禮也、一盞勸候了、賀州白山大貳に御即位合力之事申候所、百疋持來、祝着々々、一盞勸候了、次西專庵雇候布七端取候、隨身具用也、次大

澤長門守に申付、隨身之用老懸に馬之尾にて用意、次持明院宰相被來候、次藤宰相父子御禮服檢知のため來候、廣橋、坊城等被來、一盞勸候了、次北尾新二郎來、一盞勸候了、次英名來、矢鱈尾、一筋與之、祝着祝着、次飛鳥井父子、同安居院、柳原被來、皆々御禮服みせ候了、次自持明院板引付事二十疋來候、次中御門大澤四品之口宣案被調持來、則長門守に與之、自愛自愛、
上卿新大納言
天文五年二月十七日 宣旨
正五位下藤原綱家
宜敍從四位下

廿日、丙午、天晴○越前青木又三郎母^{老母}上洛之間、坂本迄迎に藤宰相馬借て遣候了、八過時分京着、被來候了、次下笠又二郎來、造工させ候了、次從坊城可來之由候間罷向、明日之用裝束折重之事被申候間調候、一盞候了、次物加波藏人來、約束之老懸遣了、隨身之壺太刀

本之用借用候間遣候了、次持明院宰相被來了、次下京沼津入道其外五六人來、御禮服拜見候了、次淨土寺殿坊官與坊、松波越前入道、高屋二位來、同御服拜見、次粟津修理來、妹其外女房衆五六人御服拜見望之由申候間、みせ候了、次四條中將、同北向、越前後室御服拜見候、次院廳來、治部又四郎同道、こくり持來、一盞勸候了、次四條中將初夜時分迄雜談、一盞勸候了、次西專庵雇布取寄候了、次澤路隼人佐今日調法候て、代二百疋持來、次自二條殿拙者夏袍、明日御拜賀爲前驅御借用、進入候了、次五條少納言予次候夏袍借用之間遣候了、次自鳥丸御即位催一通有之、則請文調遣了、

追申可爲辰一點候也

來廿六日可被行御即位、可令候陣給、者依天氣執達如件、

二月十三日

左中辨光康

謹上山科中將殿

來廿六日可被行御即位、可令候陣之由、謹所請如件、

二月十三日

右中將言繼

廿一日、天明、○柳原鯉汁有之、朝飯持て罷候、中御門、藏人權亮等也、次以下、
廿二日、天明、○被位畢、九時分退出候了、今日禁中内外御普請、伊勢兵庫自身參、五百人計にて仕候了、次下總守業賢朝臣昨日枝賢衣文禮申候、并斷十喉壺送候了、次東坊城來暫雜談、次廬山寺之金光院照傳、來、一盞勸候了、雙紙三結事申候、次越前之後室於四條亭晚飯振舞也、予罷候、人數中御門西向、老母、葉室母、坊城女中、四條四條父子、甘露寺、予、坊城、中御門、葉室等也、後に音曲有之、

廿三日、天明、○越前之後室、東坊城等にふなの汁振舞候了、次從伏見殿可參之由有之間、則參候、今晚相國拜賀、殿上人一人可被出候、不具之間、袍、袴、大帷之事被仰候間、可進之由申候、中書王御自身御酌にて一

盞被下候、忝儀也、○州名物練拔酒之由被仰了、次自長橋可參之由候間則參候、山科七郷之輩、御即位御警固注所之事御談合、按察大納言祇候間、於小御所談合、可候唐門之由候了、次柳原へ罷向、聊談合事有之、次相國拜賀爲衣文藤宰相出京、於此方用意也、西洞院藤宰相に御即位之日禮服衣文事に被來候了、次從伏見殿被仰候三種進候了、以下

天文六丁酉年

○正月大

一日、辛巳、○寅一點四方拜有之、先自去夜予參内、左少辨、宣治、權右中辨資將、裝束着之、次予着束帶、衣文高倉三位、次御服着御、御前裝束予、奉行職事、左少辨、催之、東庭御座以下如例年、次出御、兩頭依不參、御簾御裾等權辨資將、祇候之、御劔予、脂燭殿上人長淳朝臣、基孝、橘以緒、藤原氏直等也、還御以後、於男末盃酌有之、如例年、爲見物廣橋中納言祇候、五時分各退出候了、次

予於私宅四方拜、次吉書始、次祝如例年有之、次予出仕武家、公家衆廣橋中納言、藤宰相、鳥丸、予、日野、左兵衛衛方佐等也、大名細川右京兆、外様細川播州、同奥州、同二郎四郎、攝津守、二階堂左衛門尉等也、御供衆大館伊與入道、同左衛門佐、同兵庫頭、畠山民部大輔、上野與三郎、大館治部大輔、朽木民部少輔、伊勢兵庫助等也、此外御部屋衆、節朝衆、醫者等參候了、大樹若公御兩所御對面有之、申次荒川治部少輔也、上様御禮各以申次申之、次岡殿、鷹司殿に參候、御對面、次入江殿、近衛殿に參、御對面、御酒候了、次四條、柳原、中御門、西專庵へ禮に罷候了、予共大澤彦兵衛尉、澤路隼人佐、同虎菊、井上二郎五郎、與二郎、澤路小者兩人等也、次樂始、平調、音取、五常樂急、太平樂急、慶德吹之、本尊懸之、佛供酒等供之、次今夜之節會之儀に、持明院少將某連、被來候、扇一本被與候、次官務予恒來、予次候袍大帷借用之間遣候了、爲樽代十疋、持來候了、次甘露寺へ兩種荒卷一、白一樽遣之、今夜衣文之事

申候了、暮々中御門、左少辨日野中納言に裝束させ候了、次甘露寺へ罷向、先基連朝臣に裝束させ候、次予着束帶、關腹、帶、劍、半臂、鯛、魚、蓑衣文甘露寺、飛鳥井少將雅教、同所被着候了、次盃酌二獻有之、次參内、夜半時分各參集、先於男末盃酌有之、如常、次八時分小朝拜、參仕之輩三條大納言、公類卿日野中納言、實世卿持明院宰相、規卿中院宰相中將、通爲孝親朝臣、中山頭中將、予、次將、長雅朝臣、高辻少基連朝臣、持明院少資將、權右宣治、中御門雅教、飛鳥井少基孝、持明院新少橋以緒、薄極藤原氏直、藏人亮、同懷世物加波、等也、先弓場代に列立、申次頭中將、御簾、同之、御靴權辨、後に加列、次東庭に列立、孝親朝臣公卿末に立加、六位三人殿上人後也、一人之時者殿上人末に立加、云々、次舞蹈、次自下臈次第退候了、次陣儀有之、如常、次内辨宜陽殿着几子、次外辨以下着座、次々將引陣、左雅教、基孝、右予、基連朝臣、次内辨のねり萩蟲、云々、次内辨堂上開門以下召之、次少納言着服、次公卿引列、次予早出候了、内辨も早出、云

云、日野中納言繼之、云々、及天明五過時分各退出、云云、○中院宰相中將隨身具、賜袴、弓、劍、露、太刀等被借用候間遣候了、○澤路隼人佐御倉町地子錢百疋持來候了、次日野禮に被來候、云々、速水右近、三上泰五郎禮に來、二日、壬午、天晴、地動○祝如常、老母、阿子、中御門へ被行候、阿子宮等兩種一樽遣候了、次今日當番之間八過時分參内、長橋局へ兩種一樽遣候了、勸修寺中納言同被參候、兩人參御三間御雜談候了、暮々予罷出候了、今日大館治部大輔、畠山民部大輔、千秋將監、一色式部少輔、木村左衛門尉等禮に被來候了、次自柳原靴、飛鳥井下襲るり、自中院隨身具、官務袍大帷等被返了、次鏡之祝如例年、次宮御方わ御禮に參候、御對面、御坏頂戴候了、次參内、御祝有之、被參候輩按察大納言、新大納言、三條中納言、勸修寺中納言、伯二位、高倉三位、予、惟房朝臣、橋以緒等也、予今日當番故障之事候間、宿計伯二位に相轉候了、則退出、○長橋官女茶々、あか、播磨局、あや、末のあか、たご等に墨一

丁つ、遣候了、

三日、癸未、雨降○祝如常、按察へ禮に罷候、如佳例兩種一荷遣候了、見參、盃酌候了、大澤彦兵衛尉、澤路隼人佐召出候了、青蓮院殿、大祥寺殿參候、御對面、御盃被下候、轉法輪、庭田、五辻等禮に罷候了、次廣橋禮に被來候、宮筥に絲、二れち、了戒狩俣、被與候、沈醉之間不能見參、湯自烏丸被呼候、同醉候間不能向、御祝にも不參内、中御門禮に被來、云々、高橋民部大輔禮に來、四日、甲中、雨降○早朝廣橋被來候、大内左京大夫束帶具夏冬可新調之由申間、談合候了、次自大宅郷佳例餅花ひ數百、大豆、蔓草二つこ、御供二膳、如例年到來、目出目出、次中御門へ兩種一樽遣候、同罷向、盃酌有之、次中山禮に被來候、次高屋彌助兵衛尉禮に來、云々、宮筥に茶坑持來、云々、同名孫二郎同來、云々、次四辻前亞相笏被返候了、次自竹内殿夕方可參、云々、鼓大小、可持參、云々、參内候間鼓計遣候了、次景範朝臣、景雄禮に來、一荷兩種持來、一盞勸候了、次烏丸同道にて廣

橋へ罷向、すい物にて一盞候了、太刀共刀以下被見候了、暮々伯卿番代參内、飛鳥井中納言禮被申候、御對面、御盃被頂戴候了、申次予、次於長橋局盃酌有之、甘露寺大納言、予、極薦三人也、今夜番衆甘露寺、予兩人也、菊亭大納言御禮被申候、云々、烏丸へ禮に罷候、一荷兩種遣、盃酌有之、五日、乙酉、天晴○早旦退出候、宮内卿在宮今日參内之由申、予袍借用、遣之、則夕方返候了、次藏人、山井筑前守、奉行田豐前守、治部又四郎、高橋左京亮、速水掃部大夫、三上判官、田口掃部助等禮に來、云々、次方々禮に罷向、藏人、持明院、宮内卿、大炊御門殿、二位局、正親町、中院、三位御局、高倉、四辻、中山、白川等へ禮に罷候了、竹内殿御見參、梶井宮御座候、御酒候了、伏見殿へ參、御兩御所御對面、菊亭見參候了、攝取院、同福生庵へ罷向、何も一盞候了、次中井入道藤浪禮に來、六日、丙戌、天晴○澤路筑後入道今日始而禮に來、とくり持來、對面、盃勸候了、當年九十一歳也、目出度物也、彦三

郎子今日始而召具來候了、次自大宅郷若菜三荷、柴一荷到來、如例年、次自鳥丸被呼候間罷候、柳原、日野、藏人、一盞有之、暫雜談候了、次七時分中御門へ罷向、則歸宅候了、今日細川播磨守、朽木民部少輔、松田丹後守、同平五郎、下津屋越前守、祐乘、同三位、舞人忠宗禮に來候了、大隅守同來、

七日、丁亥、○祝如例年、次鳥丸與同道武家へ出仕、被參候輩飛鳥井、三條西、勸修寺、廣橋、藤宰相、鳥丸、予等也、細川京兆被參候、其外御共衆以下悉出仕候了、次飛鳥井、勸修寺、藤宰相、大館彌三郎、主殿助、清水式部、清水三郎、松波九郎兵衛尉、山形右衛門大夫、蜷川三郎、淵田三郎左衛門尉禮に被來、云々、七過時分藏人所へ罷候、鳥丸壺隨身、一盞候了、次當番之間參内、暮々宮御方へ參候、御こは供御御祝候了、被參候輩甘露寺大納言、新大納言、廣橋中納言、右宰相中將、高倉三位、予、惟房朝臣、重保、橘以緒等也、御祝以後御參内、各供奉、御劔予、御沓重保、次御祝、御こ

は供御參、被參候輩按察大納言、四辻前大納言、甘露寺大納言、新大納言、廣橋中納言、伯二位、右宰相中將、高倉三位、予、惟房朝臣、重保、橘以緒等也、次於大所一盞候了、今日番衆予一身也、○三條中納言禮に被來、云々、

八日、戊子、天晴、○九時分中御門罷向、一盞候了、今日細川伊豆守、同刑部少輔、伊勢肥前守、本郷常陸介、同三郎、清少納言、神恩院、神光院、長生軒、西川對馬入道、祐閑、松波越前入道、賢秀、壽林、嚴阿彌禮に來、高辻被來、云々、
九日、己丑、天晴、○日野町へ罷向暫雜談、盃酌有之、次花山院へ罷向、若后元服當月中之由被申候、其様談合候了、次萬里小路へ罷向、則罷歸候、次柳原、日野等禁裏御禮之事候、衣文之事被申候間罷向、於柳原亭着用、日野、予指貫被借用候間遣候了、今日常光院禮に被來、云々、清三位入道、上池院民部卿、西光寺、茨木伊勢守禮に來、云々、

十日、庚寅、○宮御方へ諸家參賀、申次可參之由候間、九時分祇候、先於萬里小路一盞有之、次宮御方御膳頂候て一盞候了、次理性院僧正被參候、御對面、御加持被申候了、次權大納言被來候、御對面、御盃頂戴候了、次殿下御參、御對面、次久我中納言、次聖護院御加持被申候、御衣裳、次大覺寺各御對面也、以上御兄弟四人御同道也、次内大臣被參、御對面、次持明院少將基孝、參候、皆申次予仕候、暮過退出候了、今日老母鞍馬寺へ參詣、云々、次從日野指貫被返候、自竹内殿鼓大小、被返下候、正親町宮内卿禮に來、云々、十一日、辛卯、天晴、○自鳥丸一荷兩種被送候了、今日伏見殿佳例申沙汰也、土器物二具、一荷進上候了、次中御門、同女房衆、老母、七時分自鞍馬下向也、四條亞相、坊城、予、猪熊、千秋將監等酒迎有之、夜半時分迄及大飲、云々、予伏見殿に暮々に參、被參候輩三條大納言、菊亭大納言、持明院宰相、新宰相、高倉三位、予、諸仲朝臣、長雅朝臣、基孝、重保等也、七獻有之、及大

飲、各以外沈醉也、夜半退出候了、上御人數御兩御所、若宮、安禪寺殿、總持寺殿、梶井殿、西御方、若上膳等也、今日禮に來衆細川陸奥守、上野與三郎、彦部又四郎、松田對馬守、杉原七郎等也、治部大輔被來、十二日、壬辰、天晴、○八時分中御門へ罷向、暫雜談候了、次福一檢校禮に來、扇一本遣了、先今朝瀧雲院殿忌日之間、本誓寺統全時に來、予相伴、扇一本遣候了、今日禮者海老名備中守、飯尾彦左衛門尉、五辻、猪熊内藏權頭等也、當番之間七時分參内、勸修寺、予兩人也、大慈院殿、安禪寺殿御參、於常御所御盃參候、御兩所御酌、召出有之、兩人參候、其後小御所へ行幸、勸修寺、予御前へ參了、太元帥如例年理性院僧正被行候了、
十三日、癸巳、○爲御使伏見殿に參候、來十九日武家之御參内、無人之間、可有御參之由被申候、御返事重而可被申之由候了、次長講堂に御陪膳に參候、伴大澤彦兵衛尉、同松千代、與二郎其外小者兩人也、於長講堂

盃酌有之、次通玄寺殿に參候、御盃被下候了、次二條殿に參候、于恆宿禰興行にて御會始有之、先はう飯有之、次講願有之、若公御出座、予俄懷紙調之、不能吟味、題梅多春友、

世々の風吹つたへてや色も香も

ともにみきりの春の梅か枝

御人數、隨心院殿御懷紙被出候、大勝院僧正、予、于恆宿禰、俊定朝臣、氏久、其以下僧衆四五人也、讀師予、講師俊定朝臣、發聲大勝院權僧正也、次御盃參候、及大飲、半予退出候了、次安禪寺殿に祇候、御對面、御盃被下候了、次暮々中御門に西向禮に被來候、兩種一樽持來、云々、今日禮に被來候輩四條亞相、甘露寺亞相、舞人久泰、六位外記康雄、清四郎、上池院法印等也、十四日、甲午、雨降、○如例年三毬打竹自大宅郷五十本分本也、到來、根本者北殿分、又二本分上候也、藪者坂田出候、今退轉之間此方用意候、如例年禁裏へ十本進上候、以文進上、如此散書、

三きつちやう十本しん上いたし候、御心之候て御ひろうにあつかり候へく候、もも、

と き 繼

勾當内侍との、御局へ

今日禮衆高越後守、次自甘露寺、烏丸、中御門藏人令同道可難談之由候間、令同道罷向候、小漬にて一盞有之、治部又四郎同被來候、柳原雖被申候、所勞之間不被來、山井式部丞景雅自備前昨日上洛之由申來、今橋大和守熙秋書狀并包丁刀一枚持來候了、次四條、勸修寺、中御門三毬打竹所望之由候、三本分何も遣候了、十五日、乙未、雨降、四、○自竹内殿可參之由候間、九時分參候、梶井殿に飯川彦九郎御禮申候間、御盃被下候、及大飲候了、次今日禮者四辻前亞相、高倉三位、徳大寺院少將、日野町、庭田侍從、新藏人、西川七郎左衛門尉等也、今日祝如常、暮々參宮御方、先於萬里小路一盞有之、次宮御方御祝有之、被參候輩按察大納言、四

辻前大納言、新大納言、三條中納言、廣橋中納言、伯二位、右宰相中將、高倉三位、予、諸仲朝臣、惟房朝臣、季遠朝臣、公古、重保、橘以緒等也、次御參内、御劔予、御沓諸仲朝臣、其外各被參候、今夜御こは供御參候、御祝被參候輩宮御方同前也、次御三毬打有之、如例年十三本有之、十本予進上、三本勸修寺進上也、次宮御方還御如前、次退出候了、

十六日、丙申、○藤左兵衛佐永綱、組懸、飛鳥井へ以予懸望之事昨日申遣候、今朝以速水兵部丞被免之事有之、次山井將監景永來、對面、周防に罷下候間、御暇之事可申沙汰之由申候、次同名安藝守景範朝臣來、近日可在國之間、同御暇之事申候、何も難而可披露之由申候了、今朝自伏見殿可參之由被仰候間參候、先日御參内に御參之事被申候御返事被申候、可有御參、云云、則參内、此由申入候、御心得候由候、次東山藤宰相亭へ禮罷向候、次組懸之事申候、自愛々々、晚飯以後罷歸候了、次坊城老母方へ一樽持來、一盞候了、今日

禮者西洞院、薄、廬山寺之僧金光院等也、十八日之三毬打竹持來、

十七日、丁酉、○佛陀寺之僧壽算時に來、相伴、扇子一本遣候了、次當番之間七時分參内、則參御前、景範朝臣、景長等御暇之事、熙秋申上候筆以下事披露、何も勅許候了、勸修寺同被參候、暫御難談也、日野町御禮被申候、申次予、天盃頂戴候了、次小御所へ行幸、勸修寺、予兩人御先へ祇候、自昨日理性院僧正六觀音法被行、云々、今日御參内催有之、廻文如此、
刻限可爲午一點之由其沙汰候也、
來十九日室町殿可有御參内、御參會事可得御意候也、

正月十七日

尹 豊

三條殿、正親町殿、甘露寺殿、萬里小路殿、飛鳥井殿、白川殿、烏丸殿、中山殿、山科殿、坊城殿、日野殿、滋野井殿、庭田殿、
今日禮者典藥頭、頼直、武家御末物、朝臣、二宮彦右衛門等也、
十八日、戊戌、雨降、○今日三毬打明後日に御延引也、爲

御掃除九過時分參内、予、諸仲朝臣、長淳朝臣、橘以緒四人、常御所、御湯殿之上、御三間、御學文所掃除仕候了、次於長橋局一盞候了、次藤宰相七過時分御禮に參内、予申次、於御三間御對面、於御所口天盃頂戴候了、次於新内侍局三獻有之、予、極蔭等相伴、暮々藤宰相令同道歸宅、於此方用意也、

十九日、己亥、旗雲、天晴、暮々より雨降、○今朝中御門に鴈汁有之、坊

城、予罷候了、次飛鳥井父子、鳥丸、日野、中御門、坊城等裝束させ候了、飛鳥父子、鳥丸、日野、予令同道、八過時分參内、次薄所に左兵衛佐侍候間罷向、裝束させ候、一盞有之、麴而御物參候、御童朋祐阿み也、左兵衛佐と祐阿み御勅諭かき候、乍兩人無案内候間、予加意見了、次御參内參會、被參之輩按察大納言、甘露寺大納言、新大納言、左衛門督、三條中納言、勸修寺中納言、廣橋中納言、伯二位、藤宰相、右宰相中將、光康朝臣、孝親朝臣、予、長淳朝臣、晴光朝臣、資將、宣治、永綱、雅教、重保等也、大樹御伴細川彌九郎、今日始而上洛御禮被申、云

云、御共之始也、大館兵庫頭等也、御とうほう春阿彌、御共本郷治部少輔、曾我、、、海老名次郎、長能登守、宇治大内、、、御厨子、、、奉行松田丹後守等也、次若公御參、唐門下迄御乘輿、御乳人隨身、參會同前、御直路大典侍殿御局也、自車寄御參同前、御伴衆大館左衛門佐、上野與三郎、大館治部大輔、朽木民部少輔、伊勢守等也、御童朋孝阿彌、御走飯川彦九郎、安藤平次郎、沼田、、、進士長門守、飯川能登守、進士新二郎、奉行諏訪神左衛門等也、大御所御伴衆南方、若公御伴衆北方車寄より唐門下迄有之、御直路へ參候輩左衛門督、勸修寺中納言、廣橋中納言、伯二位、藤宰相、光康朝臣、予、長淳朝臣、晴光朝臣、永綱、雅教等也、御衣文藤宰相、御前裝束永綱也、傳奏勸修寺中納言、御劔長綱、則御參常御所、各御伴、次若公御參、傳奏廣橋中納言、御護刀雅教、若公者一臺隨身にて御庇に被參候、次三獻、武家御酌に被參候輩左衛門督、勸修寺中納言、廣橋中納言、藤宰相、光康朝臣、晴光朝臣、永綱、雅

教等也、四獻新内侍御酌、參會之衆各參、五獻天酌各參、諸仲朝臣、橘以緒等參、六獻按察大納言酌、七獻伏見殿御酌、八獻勸修寺中納言酌也、五獻之後長橋をほ口次にて伊勢守一盞被下候、佳例也、藤宰相、予、長淳朝臣罷向、五獻之後御伴衆、御走、御童朋等に被下候折三合出候、長淳朝臣、予、諸仲朝臣、橘以緒等罷向、各召出、於車寄勸候了、五獻之後公卿各御庇に被參候了、天酌より後者、參會之外衆參、云々、四獻之後藤宰相、予、永綱、橘以緒等、於新内侍局湯漬有之、宮御方、伏見殿御兩所、三獻之後御出座候了、大樹より御太刀御兩所へ被進候、若公より同御太刀被遣候、折廿合柳卅荷同被遣候、八獻之後御退出、次於大典侍局二獻有之、め、典侍參、二獻之時召出有之、御勅諭衆各參候、次於長橋局三獻有之、御陪膳之衆光康朝臣、晴光朝臣、永綱、雅教等也、根本者女中之御陪膳也、今日如此、三獻之時各大樹御酌にて召出、御勅諭衆計也、次還御也、御勅諭衆者次之そは口より參、餘之衆者如前

自殿上各被參候、次若公還御、參會同前也、次於長橋局一盞有之、佳例也、新典侍殿、長橋、播磨局等、伯卿、予、長淳朝臣等也、次退出、今日予伴大澤彦兵衛尉、澤路隼人佐、同彦三郎、各鳥帽子、同虎菊、井上次郎五郎、雜色三人、小者三人等也、於長橋局乍三獻召出之、雖然及中夜之間、三獻計召出有之、大典侍局御座之時、大樹若公へ御太刀被遣候了、今朝坂本執當法印佳例一樽兩種送、祝着々々、
廿日、庚子、天晴、○昨日御三毬打今日在之、如例年申付、予見舞調之進上、自賀茂者不進上、以上十六本有之、竹のはやしはかり也、御三毬打御祝於男末有之、高倉三位、予、惟房朝臣、季遠朝臣、重保、橘以緒等也、此外爲見物三條中納言、右宰相中將被參候了、次長橋へ罷向一盞候了、今日治部河内守禮に來、云々、
廿一日、辛丑、天晴、○八時分藏人權亮兵直、呼候間罷向、人數甘露寺大納言、飛鳥井左金吾、柳原黃門、鳥丸頭辨、予、坊城李部、中御門辨、極蔭、亭主、速水兵部丞、福一

檢校等晚飯有之、中酒以後及大飲、音曲有之、予鼓大、取寄也、夜四時分各罷歸候了、今日禮者中院相公、羽林、吉田侍從等也、

廿二日、壬寅、天晴、○當番之間七時分參内、勸修寺、予、季遠朝臣等也、參御前暫御雜談候了、來廿六日御會始催有之、鶯是萬春友、

右來廿六日可有和歌御會始、可令豫參給之由被仰下候也、

正月廿一日

秀房

按察大納言殿、四辻前大納言殿、三條大納言殿、甘露寺大納言殿、菅中納言殿、左衛門督殿、日野中納言殿、三條中納言殿、勸修寺中納言殿、廣橋中納言殿、伯二位殿、持明院宰相殿、右宰相中將殿、新宰相殿、中院宰相中將殿、高倉三位殿、頭中將殿、内藏頭殿、治部卿殿、式部大輔殿、四辻中將殿、藏人式部丞殿、

廿三日、癸卯、天晴、夜入雨降、○今朝予、季遠朝臣兩人參御前、御暫

雜談候了、五過時分退出、次八時分自長橋可參之由候間、則參候、近日可有申沙汰、音曲者可申付之由被仰出候、可相尋之由申入候了、次伏見殿に參候、伏見之般舟院西堂、孝純、純智等參、御對面、予申次、御盃兩人に被下候、御陪膳酌等仕候了、次同宮御方にて予に御盃被下候、勸修寺門跡御座候、一盞被下候了、七時分退出候了、次速水兵部丞召寄、うたゐ物事申候、伊勢守内淵田三郎左衛門尉、澁谷孫二郎尉に可尋之由申付候了、

廿四日、甲辰、天晴、○萬里小路右中辨被申候補歷直改事、出來之間持罷向、近日周防國へ下向、云々、持明院宰相昨日下向也、右中辨他行、云々、亞相見參暫雜談、次暮々外様番藤原相代、參、予一身也、仍内々祇候、内々番衆五辻諸卿朝臣、一身也、伯卿代、云々、薄所にて茶飲に兩人罷、暫雜談候了、次澤路隼人佐田舍酒にてとくり進候了、

廿五日、乙巳、天晴、○烏丸、坊城、中御門呼候て、田舍酒一盞

勸候了、

廿六日、丙午、天晴、○今日禁裏和歌御會始、八時分參内、次宮御方御迎に予、長淳朝臣、惟房朝臣、橘以緒等參候、右宰相中將も被參候、予御服に參候、御劔予、御沓長淳朝臣、次伏見殿より御服可參之由候間參候、予、諸仲朝臣御共參候了、次御會始、被參之輩御兩御所、按察大納言、四辻前大納言、三條大納言、甘露寺大納言、新大納言、左衛門督、日野中納言、三條中納言、伯二位、右宰相中將、新宰相、中院宰相中將、高倉三位、予、諸仲朝臣、長淳朝臣、惟房朝臣、季遠朝臣、橘以緒等也、講頌有之、讀師三條大納言、講師長淳朝臣、發聲左衛門督等也、左衛門督歌者四辻前大納言發聲也、次宮御方、伏見殿還御、殿上人皆參候了、次於御三間二獻折にて候了、次七過時分各退出、予、季遠朝臣兩人參御前、暫御雜談、戌刻計退出候了、予歌題鶯是萬里カ春友、千尋ある臺の竹は世々の春

ちきりをきてや鶯のなく

今日大宮官務伊治禮に來、云々、今朝爲御參内御禮各

武家に被參、云々、節朔計、云々、御太刀參候、予不參、故障之趣以雜掌申次本郷常陸介に申候了、飛鳥井父子、伯卿計參、云々、自藤宰相笠袋借用、遣候了、

廿七日、丁未、天晴、星乾方出現、○今朝四條に朝飯有之罷向、人數甘露寺、予、中御門、薄、藏人等也、亭主父子相伴、次萬里小路へ罷向、甘露寺被來、一盞有之、次右中辨補歷に不存輩多端之由被申候間、予申て被書付候、次菅中納言宮御方に御禮被申候、御盃頂戴候了、予召出參候了、同季遠朝臣祇候也、次當番之間七時分參内、相番伯卿、伊豐朝代、予、季遠朝臣等也、暮々各參御前、夜半計迄御雜談候了、自藤宰相昨日笠袋到來候了、

廿八日、戊申、天晴、○今日若公始而御參内、爲御禮武家に參候、御兩所へ御太刀金進上、申次一色式部少輔、御所勞にて無御對面、次諸家に御禮罷向、次第不同、奉行松田豐前守、奉公畠山民部大輔、同小笠原民部少輔、同千秋大夫將監、奉行松田對馬守、平野猪熊權頭、奉公上野與三郎、大館彌三郎、

彦部又四郎、大館伊與入道、同兵庫頭、同左衛門佐、相國寺普廣院藏珠清軒西堂他行にて、仰侍者見參、茶勸候了、進士美作守、同九郎、伊勢守、杉原十郎、左京大夫局、御さこの局見參一盞候了、清三位入道、一條殿、持明院少將、物加波藏人、德大寺、一盞、勸修寺、見參、飛鳥井、見參、一荷兩種遣了、大澤彦兵衛尉、井上次郎五郎被召出、細川右京大夫、同彌九郎、總持寺殿、官務伊治、見參、南御所御對面、御盃被下候、寶鏡寺殿、三淵彌二郎祇候にて入麵有之、一盞有之、細川播磨守、海老名備中、飯尾彦左衛門、細川伊豆守、同刑部少輔、伊勢肥前守、安東平次郎、朽木民部少輔、一色式部少輔、比呂尼、瑤林庵、祐乘三位、本郷常陸介、同三郎、攝津守等へ罷候了、今日細川彌九郎禮に被來、云々、予共大澤彦兵衛、澤路隼人佐、井上次郎五郎、小物四五人等也、馬小者三人、吉田侍從に借候了、

來月二日如例年可有申沙汰、内々其沙汰候也、正月廿六日 雅業
 三條殿、四辻殿、正親町殿、甘露寺殿、萬里小路殿、五條殿、勸修寺殿、廣橋殿、高倉殿、山科殿、五辻殿、坊城殿、滋野井殿、庭田殿、薄殿、
 次日野町へ罷向暫雜談、次德大寺に罷向、貝一番有之、晚飯被用意相伴、夜に入歸宅候了、
 晦日、庚戌、故葉室、○爲寶樹院佛陀寺壽算時に來、相伴、次中御門へ罷向、廣橋、中御門家中朝飯振舞也、予又相伴、坊城、治部又四郎等被來候了、次今日近衛殿和歌御會始、俄可參之由廣橋被申候間、八過時分參候、廣橋に罷向、廣、鳥、坊、中御等同道候了、兼題梅久齋、季字同字書候、姓者同姓之間不書、他姓書之、
 さ、れ石のいはほとなれる春をへて
 枝もさしそふ宿の梅か香
 御人數禪閣、准后、聖護院殿、大覺寺、廣橋、鳥丸、西洞院、予、坊城、町、中御門、周桂、宗牧、等祝、慶宗、正俊、

侍衆等、近藤筑後前司、齋藤太郎左衛門、鳴光頼、諸大夫越前守等也、其外懷紙被出候輩久我入道右府、内府、久我中納言、竹屋大藏卿、上池院法印、同民部卿、不斷光院僧衆兩人等也、法中懷紙別に重なる、御當座有之、予題春月、

いつよりか契りそめけん空の月

おほろなる影を春の光に

講頭有之、講師廣橋中納言、講師下官、發聲長淳朝臣等也、懷紙計御當座後に讀上、同予仕候了、次二獻有之、及黄昏罷出候了、

○二月小

一日、辛亥、○鳥丸此方之家中朝飯被振舞候、予罷向相伴、次八時分鳥丸同道、入江殿御禮參候、若御寮に御申、云々、御蒙氣也、雖然御出候、被參候輩寺中各、飛鳥井、鳥丸、予、坊城、細川播州、祐乘治部卿、周桂等也、五獻以後還御、鳥丸同罷歸候了、
 二日、壬子、曇、時、○今日内々申沙汰也、御土器物二、柳

一荷進上候、次飛鳥井祇候之事、内々致祇候申入候間、被參之由文被出候間、其分申遣候、依兩種一折、貝二荷進上也、予令披露候、祇候之事前々於度々如此也、今日被參候外様衆飛鳥井、中山兩人也、七時分參内、先宮御方に參候、御參内之御伴申候、次御盃始候、被參之輩宮御方、伏見殿、梶井宮、女中、上臈、大典侍、新大典侍、め、典侍、新典侍、勾當内侍、新内侍、御伊茶、御、播磨等、男衆按察大納言、四辻前大納言、權大納言、甘露寺大納言、新大納言、左衛門督、勸修寺大納言、伯二位、高倉三位、孝親朝臣、予、諸仲朝臣、長淳朝臣、季遠朝臣、重保、橘以緒等也、初獻御酌橘以緒、二獻予、三獻宮御方、四獻勾當内侍、五獻伏見殿、六獻按察大納言、七獻天酌、八獻重保等也、夜半時分各退出、勸修寺中納言、予兩人當番之間祇候、季遠朝臣退出、今日麵之時、公卿陪膳殿上人各仕候、孝親朝臣相伴也、自然貫首御相伴之時陪膳六位也、雖然近來所存申候間、邂逅之儀也、今日孝親朝臣陪膳諸仲朝臣沙

汰之、云々、四位雲客如此之儀太無謂、依縁者之儀歟、尙不可然、

三日、癸丑、天晴、○今朝中御門へ罷向、鴈汁有之、仍飯召寄候、夕方甘露寺被參候、

四日、甲寅、天晴、○今朝廣橋に朝飯有之罷向、人數甘露寺、飛鳥井、柳原、亭主、烏丸、予、五辻、日野、中御門、陰陽頭、有春、朝臣、大宮官務、宿禰、伊治、平野預、兼隆、朝臣、等也、後に町、御方等被出候、うとんすい物等にて及大飲、音曲有之、各七時分歸宅候了、次禁裏議定所御庭被直候、予杉なりの檜木御所望之間、致進上候了、

五日、乙卯、天晴、○自禁裏昨日見事木進上、一段喜被思食由女房文有之、御懇之儀忝し、又松一本被被仰候間進上、則致祇候見申候、青蓮院宮、梶井宮、曼殊院宮、同善法寺宮等御參、新大納言、高倉三位、予、長淳朝臣、橘以緒等祇候、御所口にて一盞有之、暮々退出、大澤彦兵衛尉左衛門少尉申、昨日勅許、云々、自中御門口宣案到來、

上卿三條大納言
天文六年二月四日 宣旨

左兵衛少尉藤原綱守
宣任左衛門少尉

藏人左少辨藤原宣治奉

六日、丙辰、小雨、○今朝巡汁予頭役也、於柳原亭張行、被來衆亭主、勸修寺、烏丸、予、坊城、中御門、陰陽頭等也、廣橋、町、典藥頭、長生軒者故障、云々、次御庭見舞に參内、昨日被參候輩各被參候、各於長橋局一盞有之、予七時分退出、次自柳原被呼候間罷向、勸、鳥、陰陽頭等今朝より雜談、烏丸振舞粥候了、暮々歸宅、今朝庭前梅枝方々進候、禁、宮御方、大典侍殿、長橋、新内侍殿、播磨殿、通立寺殿、四條、柳原、烏丸、中御門、藏人、仰侍者、西專庵等也、奉行松田豊前守にも遣候處如此、

梅花手おれる枝はそれながら

君かなさけのほとそかはれる 頼康

予返歌、

一枝の手折し梅も色そへて

君か言葉の花そかはれる

言繼

七日、丁巳、雨降、○今日爲御參内御禮諸家參賀、申次に辰一點可參之由、昨日從傳奏廣橋、使者有之間、五已前出仕候、被參之輩法中三寶院、水本、報恩院、若王寺、公家正親町、東衆、同甘露寺、萬里小路、中院、五辻等也、御不參之衆太刀金、予に被付候間申次、以細川刑部少輔披露、伏見殿、常磐井殿、梶井殿、勸修寺殿、御室門跡、竹内殿、花山院、菊亭、毘沙門堂等也、以目六進之、御兩御所被參候、先披露之、參仕之衆無人之間、御對面遅々八時分也、餘遅々間御對面之儀予申入候、申次候様先致祇候伺御氣色、次太刀予持參、三寶院と申次被參候、次法中と申、水本、若王寺、御禮被申候、三人之太刀予取て立候、次公家と申候、正親町、中院、五辻等也、次太刀取て立、入御申入候了、先東衆甘露寺、萬里小路御禮被申候、申次刑部少輔也、次退出候了、次柳原へ罷向、一盞候了、今朝參會有之、各雜談有之、次當番之

間七時分參内、季遠朝臣兩人參御前、暫御雜談有之、廣橋一級之儀被申候處、兩度不許、云々、御取合申入候處、勅許也、今夜外様番町一身之間、季遠朝臣外様に被遣候、仍内々予一身也、

八日、戊午、天晴、○今日飛鳥井會始、甘露寺同道にて八時分罷向、人數甘露寺、亭主、予、少將、細川奥州、大館兵庫頭、朽木民部少輔、細川刑部少輔、三淵彌二郎、荒川治部少輔、本郷三郎、安東平次郎等也、主殿助職行當座計讀候、細川播州、大館左衛門佐、同治部大輔、周桂等懷紙計被出之候、講願有之、懷紙計、短冊者讀上、讀師甘露寺、講師主殿助、發聲亭主也、次うとん以下三獻有之、及大飲音曲有之、予夜半計歸宅候了、予歌懷紙、題寄神祝、

君かへむいく萬代も三笠山

春のひかりや猶あふかまし

當座題浦霞、眺望、
かすみけり浦つたひつ、漕舟の

ちかきも遠き春の明ほの
なかもゆる雲も霞も山のはは

おなし梢の花の色かな

九日、己未、○自岡殿夕方可參之由候間、七過時分參候、自武家五荷五合被進候間、各々被下候由候、武家之御阿茶之局、左京大夫局祇候也、奉公衆攝津守、大館左衛門佐、朽木民部少輔、一色式部少輔、本郷三郎、海老名次郎等參候、上臈無之間、予方丈御所之御陪膳仕候了、及大飲音曲有之、八時分各退出也、薄昨日敘爵也、仍今朝御禮申候間、予指貫借候、則遣候了、十日、庚申、○勸修寺に朝飯有之、餘醉之間遲罷向、柳原、烏丸、坊城、中御門、有春等也、次廣橋の罷向、終日難談、暮々罷歸、次徳大寺へ罷向、福一平家有之、其間臥候了、大典侍殿御局の來十九日御申有之、仍猿樂之事可相尋之由承候間、早瀬新二郎申付候、江州へ申下候、昨晚可能上由申來、此由勸修寺へ申候了、次薄所より指貫返送了、

十一日、辛酉、○今日薄所に敘爵之禮に罷向、一盞有之次、東山藤宰相の罷向、種々難談、夜音曲候了、十二日、壬戌、○早旦歸宅、瀧雲院日忌之間、統全時に相伴候了、次柳原、廣橋、烏丸、予、日野町、中御門、藏人權亮等同道、北野并維教經聽聞候了、先於廣橋一盞有之、歸路に又一盞候了、次當番之間七過時分參内、可參御前之由候間參候、難筆往來拜領候了、畏候了、大乘院宮御筆敷、云々、相當^{○番}勸修寺、高倉三位、^{四辻}子等也、十三日、癸亥、○來十九日能之書たて大典侍殿御局へ持參候、一盞候了、次烏丸へ罷向、武家御末物高橋新三郎來、及黄昏難談、一盞候了、十四日、甲子、○九時分中御門へ罷向、坊城被來候、一盞有之、次晚景烏丸汁被振舞候間、飯持罷向、柳原、藏人同來候了、十五日、乙丑、○從大典侍局來十九日可參之由有之、夕方飯持中御門へ罷向、坊城、猪熊、治部又四郎、同茶會

候了、

十六日、丙寅、○今朝陰陽頭^{有春}朝飯有之罷向、人數甘露寺、柳原、勸修寺、廣橋、烏丸、予、坊城、日野、中御門、亭主、賴直朝臣等也、其後うごんにて及大飲、音曲候了、八過時分各歸宅、次^{○以下}十七日、丁卯、○今日當番之間七時分參内、大典侍殿御局庭に舞臺被敷候、樂屋以下惡候間其分申候、暮々參御前、暫御難談、舞臺直事可申付之由候間、井上五郎に申付了、今夜予一身也、

十八日、戊辰、○明日之大夫八時分上洛之由、早瀬新二郎申來、仍早瀬召具樂屋見舞候、狭小候間直候了、次予笛大つ、みの革、早瀬借候間遣候了、次^{細川内}第十加賀守來、自采地内々被申候、來廿五日の千句に可來、云々、種々斟酌之由申之、適被申候間、斟酌不可然之由種々申候間、可罷之由申候了、十九日、己巳、○今日大典侍殿へ御申、四時分行幸、兩種一荷大典侍局進候了、祝着之由候了、次伏見殿へ

參、御參内之御供申候了、次四過時分猿樂始候了、御參之衆宮御方、伏見殿、青蓮院宮、梶井宮等也、其外女中各、參仕之衆按察大納言、四辻前大納言、甘露寺大納言、新大納言、三條中納言、勸修寺中納言、廣橋中納言、伯二位、右宰相中將、高倉三位、予、諸仲朝臣、長淳朝臣、季遠朝臣、國光、晴秀、重保、以緒、藤原氏直等也、^{○以下}缺文

天文七年

○正月

一日、丙子、○今日四方拜、御服高倉三位、^{經久}御前裝束之事兼而被仰下候間予祇候、其外藏人右中辨資將、同權辨定^{○宣}治兩人衣文被申候間、曉天罷向候了、出御卯一點、御簾資將、御劔頭中將孝親朝臣、御草鞋宣治、脂燭殿上人藏人右少辨晴秀、右兵衛權佐以緒、藏人將監懷世等也、庭上御座以下如例年、頭辨晴光遲參也、仍還御之時御簾晴光朝臣、御草鞋資將也、宣治乘脂

燭、云々、於男末盃酌如例年、次退出候了、次今日武家
 白參賀、被參之輩藤宰相、左大辨宰相、予、頭辨等也、
 細川右京大夫御伴衆以下參候了、次今夜節會内辨左
 府拜賀、八過時分也、御扈從息新中納言、先新中納言拜賀、云々右宰相中
 將、公敘新宰相中將、朝臣、殿上前駐基孝、隆久等也、云
 云、次關白御拜賀、七時分御出門、白廣橋亭先於廣橋祝着、
 三獻有之、次被着御裝束、御衣文藤宰相、御前裝束予、
 次久我中納言被着裝束、衣文以下同前、次藤宰相於愚
 亭着東帶、次三獻有之、御相伴日野中納言、廣橋中納
 言、久我中納言、伯二位、藤宰相、大藏卿、右兵衛督、式
 部大輔、長雅朝臣等也、予裝束先右宰相中將左府爲扈
 從被借渡之間、於彼亭着之參候間遲々也、次御出門、
 御籠大藏卿、御杵基孝也、於中門外扈從公卿列立、日
 野中納言、廣橋中納言、久我中納言、藤宰相、予、式部
 大輔等六人也、第一公卿に揖有之、次各答揖、次御家
 禮衆廣橋、予、式部大輔躡居、次御出門、前駐俊直、殿
 上前駐長雅朝臣、資將、宣治、基孝、藤原懷世等也、下

請先行如常、隨身兩人濟々行莊也、申次頭辨、御舞踏之
 間、西傍各扈從公卿列立、家禮之輩躡居、舞踏畢令着
 殿上給、次久我中納言留四足外更拜賀、無扈從、前駐
 宣衡朝臣、秀治朝臣、正光等也、次各着陣、云々、新大
 納言、次藤宰相、次久我中納言、次左府、云々、此間及
 天明候了、
 二日、晴、卯一點小朝拜始、於弓場代各列立、關白、
 種家、實宣左大臣、實宣新大納言、秀房日野中納言、實定廣橋中
 納言、兼秀久我中納言、晴通藤宰相、永家右宰相中將、公敘
 予、孝親朝臣、晴光朝臣、長雅朝臣、資將、宣治、晴秀、
 基孝、藤原懷世等也、次出御、御籠孝親朝臣、御靴資
 將、次申次孝親朝臣、其間々無名門不入、直於傍着靴
 加列、資將同加列、内々經議定所御湯殿實子歎、次於
 東庭列立、舞踏等如常、次自下請退、大中納言輩留關
 白に相從、廣橋中納言躡居、云々、次入御、御籠御杵等
 如前、次關白御退出、五時分也、次節會儀始、内辨左大
 臣、外辨新大納言、日野中納言、廣橋中納言、久我中納

言、藤宰相、右宰相中將、辨資將、少納言長雅朝臣、次
 將左基孝一人也、右闕、無念至也、陣儀以下如常、未練
 之間不能巨細、宣命使雜事催等右宰相中將、御酒勅使
 藤宰相、八時分各退出候了、
 ◎以下缺文

天文八年 亥年

○正月大

一日、庚午、天晴、○自去夜參内之間、於禁中、中御門左中辨資將、飛鳥井右中
 辨宣治、左少雅教等裝束着了、今朝四方拜、奉行職
 事、四方拜事右中辨、昨日雪降之間雨儀也、其儀、出御、階間南
 行、經長橋紫宸殿南庇於軒廊御拜有之、如常、御籠
 頭右大辨惟房朝臣、御劔雅教、御杵資將、御脂燭殿上
 人以緒、藤氏直、藤懷世、源爲仲等也、次於男末盃酌
 有之、如例年、甘露寺大納言、高倉三位、五辻三位祇候
 候了、○予内侍所參詣、神盃頂戴候了、○吉書始候了、
 看經候了、○祝以下如例年、大澤下野權守、綱守、澤路
 筑前守、重清、同彦九郎盃のませ候了、北尾新兵衛尉禮

に來、一盞勸了、○内藏寮御樽一荷、鯛、昆布五、進
 上、大所へ持候了、○局務、枝賢、清少納言來、披衣文之事
 申候間着候了、○壬生官務宿願來、今夜之用冠袍借候
 間遣候了、○暮々藤宰相永家來臨、予衣文之事申、予束
 帶、飾太刀、紺地平緒、有文巡魚袋金、等也、先藤宰相、一
 獻、同一盞勸候了、次左中辨被來急之間、藤宰相予爲
 兩人衣文着候、飛鳥井少將雅教被來、是藤宰相着候、
 扇子一本、持來、祝着々々、即參内、先御祝御、は供御
 の天酌に參候、被參候輩按察大納言、公條甘露寺大納
 言、伊長萬里小路大納言、秀房三條中納言、實世權中納
 言、公敘伯二位、雅業予、新宰相、東坊城高倉三位、藤久新
 三位、諸仲卿四辻宰相中將、朝臣頭右大辨、惟房朝臣左
 少辨、國光廣橋、五辻左衛門佐、以緒新藏人、源爲等也、次關白御勅
 諭、傳事御之間、參御禮申候了、次高遣戸の沓脱より下
 殿着陣、入宣仁門、添南先右足、左廻向北揖、先懸右足、次立
 左足北行、着中納言座、右廻東西、揖引寄裾、三息計之
 間思告事、次直右膝揖立、右廻南行、至座端跪着沓、

殿上事
先左、左廻揖出宣仁門左廻、添南堂上、次着殿上、入上戸西行、經臺盤與盈○疊之間右廻、橫敷之中間に着、揖引寄襪、次今出川大納言公彦、同自上戸着殿上端座、次關白種家、自高遣戸下殿、入無名門上小板敷、合着奥座給、次主上清涼殿出御、御簾申次惟房朝臣、御靴資將、云々、次予爲三息計揖、右廻下殿上戸廻揖、於西傍着靴、次今出川大納言揖下殿、入神仙門出無名門、於西傍着靴、朝拜之事次關白出無名門、聊於西傍合着靴給、次列立、關白直家以下弓場代、今出川大納言公彦、日野中納言實定、三條中納言實世、廣橋中納言兼秀、新中納言光康、持明院宰相基規、申次以後立加、五條少納言出御以後立加、町中御門、飛鳥井少將持明院少將、惟房朝臣爲康朝臣、資將、宣治、雅教、基孝、藤原氏直、藤原懷世、源爲仲等也、次惟房朝臣關白關白出向揖、答揖、次入無名門、出神仙門着靴、不及奏聞、爲早速也、云々、尋常者奏聞也、次出無名門、申次以後於西傍着靴也、靴之事兩說、云々、出無名門揖、次關白答揖、次惟房朝臣直加列、次自上首

揖、離列立東庭關白自長橋練步、云々、練、各次第揖立、公卿一列、殿上人一列、六位一列也、六位者淺履也、立畢舞踏如常、次自下躡次第至新中納言退出、次自關白節會陣儀事、以下四人次第退候了、次節會始、奉行職事左中辨資將、內辨今出川大納言也、次着陣今出川大納言、日野中納言、廣橋中納言、予、參議座上一人之分、殘て着く、先入宣仁門添南、先、左廻、橫敷之中程揖着座、揖居裾を聊見、陣官直之間不及直、三條中納言、新中納言、持明院宰相不着陣、次左中辨入宣仁門添西壁、諸左、廻、進今出川大納言座下、仰內辨之事、其詞、内、左廻退出、次內辨直右膝揖立、右廻上、人ある時、南行諸卿後、至座末跪着沓、左廻向座方揖、右廻小庭東行、柱之内北行、移着端座、先揖懸左膝、直右膝揖、南に居向直裾、聊土に就、次自懷中檜扇取出直沓、次召官人令敷靴、次召官人召外記、其詞、外、大外記枝賢、參軾、內辨仰云、諸司は候哉、候之由申、又仰云、諸司の奏は候哉、同上、又酒正酒正候哉、毎同申候之由、外記稱唯して退、次召官人召

外記、外記參軾、外任奏は候哉、候之、候、持て參れ、稱唯して退、次外記持參外任奏、入宮有禮紙、無裏紙、內辨置笏、右方、引寄筥披禮紙於筥中、二倍、取文披見了、如本卷之入筥目外記、外記退去、次內辨取笏、召官人召職事、其詞、左中辨職事參軾、内辨置笏、右方、以左右手押遣筥、此方に、職事方、或作持笏於右手、以左手遣之、常用之、今度被置笏也、職事取筥、內辨取笏奏云、諸司奏内侍所爾、職事退去、入無名門自小板敷上、出上戸臺盤所自妻戸付内侍奏聞、奏聞了如本參軾、返給外任奏、內辨置笏引寄筥、披禮紙於筥内、二重、取文向右方披之、當前披見、右方へ押合て、職事合眼、職事仰云、令候列、內辨其由、文を如本卷之、加禮紙入筥、職事重仰云、諸司奏事聞食了、次職事退去、次召官人召外記、賜外任奏、乍持笏於右手押出筥、文下方爲外記方、內辨仰云、列に候はせ、外記稱唯、重仰云、諸司奏内侍所爾、外記稱唯して退去、次內辨居向西方、日野中納言に催外辨事、其由氣色計也、次日野中納言、廣橋中納言、予自上首次第下座方直膝揖起、於板敷端着沓、揖出宣仁門、揖床子座前、座に、宣治、子

極宿禰、枝賢、日野中納言向辨一揖、各一同答揖、右廻南行、廣橋中納言、予隨上首行不揖也、於立部南邊着靴、三條中納言、新中納言、持明院宰相不着陣、仍經立部辨事、外南行、同着靴入幔門、至我座兀子前、左廻て立直、揖間左右近引陣、着兀子、北、上、第一の座を殘て着、日野中納言、次三條中納言、廣橋中納言、新中納言、持明院宰相、予各着次第、參議兩人着長床子、外記、史、次少納言爲康朝臣着長床子、東上、辨不着、次少納言後に英名、盛躬着長床子、北、上、次官掌召使者外記史後に、東上北面、次日野中納言召使、二音、召使參、上卿仰云、式の筥下せ、第一の兀子の前にある式の筥案共に寄上卿前退去、次召召使、如初、召使參、仰云、外記召せ、稱唯して退、次六位外記英名、來上卿前、仰云、大舍人候哉、侍從列候哉、造、上卿仰云、候はせ、次自召使至少納言、自下躡揖立座出幔門、次日野中納言以下次第に揖起座、出幔門月華門下に鷹列、此間に內辨起座、陣座之後於軒下着靴、召六位外記令押笏紙を、入宣仁門東行、宜陽殿壇上を南行、立兀子前揖而